合計三日間以上作業ニ出頭セサル場合（一九二七、八、二二全露中央執行委員會議決定）

(ト)被雇傭者カ一時的ニ勞働不能トナリ其ノ時ヨリ二ケ月ヲ經過スルモ尙缺勤スル場合竝ニ姙娠中及分娩後ノ者ハ第九十二條ニ規定シタル四ケ月ノ期間ノ外更ニ二ケ月間復業シ得サル場合

備考一　(ハ)及(ニ)ニ規定シタル場合ノ契約取消ハ評價爭議委員會ノ決定ニ依ラザレハ之ヲ行フコトヲ得ス

備考二　契約取消ノ際被雇傭者カ製造工場委員會若ハ此ノ種機關ノ一員タル場合ニハ本法第百六十條ノ規則ニ從フモノトス

備考三　(イ)(ロ)及(ハ)ノ場合ニ契約ヲ取消シタル時ハ雇傭主ハ被雇傭者ニ對シ二週間ノ解雇豫告ヲ與フヘシ此ノ場合ニハ一般ノ規定（第八十八條）ニ依リ賠償金ヲ支拂フモノトス

第四十八條　被雇傭者ハ左記ノ場合ニハ期限ヲ附シタル勞働契約ヲ其ノ期限經過前取消スコトヲ得

(イ)期限ニ際シ約束ノ賃銀ヲ支拂ハレサル場合

(ロ)雇傭主カ契約ノ義務ヲ履行セス若ハ勞働法規ニ違反スル場合

(ハ)雇傭主、管理部代表者若ハ其ノ家族カ被雇傭者ヲ虐待シタル場合

(ニ)仕事ノ衞生狀態カ變化シテ不良トナリタル場合

(ホ)一般的ニ法律ニ依リ規定シタル其他ノ場合

備考　(イ)(ロ)及(ハ)ニ規定スル場合ノ實否ハ雇傭主ノ抗議ヲ俟テ其地ノ評價爭議委員會ニ於テ之ヲ決定ス若シ同委員會ノ設置ナキ場合ニハ爭議決定ノ手續ニ依リ解決ス

第四十九條　總テノ勞働契約ハ職業組合ノ請求ニ依リ之ヲ取消スコトヲ得、企業家カ職業組合ノ請求ヲ承諾セサル場合ニハ爭議決定ノ手續ニ依リ解決ス

第六章　內部管理規則

第五十條　內部管理規則ハ五人以上ヲ雇傭スル總テノ企業、營造物及經濟團體ニ於ケル勞働條件ヲ調節スル爲之ヲ制定スルモノトス右規則ハ所定ノ手續（第五十二條乃至第五十五條）ニ基キ制定シ日總テノ勞働者ニ通達セラレタル場合ニ於テノミ總テノ被雇傭者ニ對シテ拘束力ヲ有ス

第五十一條　內部管理規則ハ勞務者ト管理部トノ一般的及特殊ノ義務竝ニ是等義務的違反ニ對スル責任ノ範圍及手續ヲ明確詳細且出來得ル限リ全般ニ亙リ規定スルヲ要ス

第五十二條　內部管理規則ニハ勞働ニ關スル法令ニ違反スル規定ヲ設クルコトヲ得ス

第五十三條　勞働部ハ職業組合全露中央「ソヴイエト」及高國民經濟會議ト協議シ模範的內部管理規則ヲ制定ス

備考　平均賃銀決定ノ方法ハ勞働部ニ於テ之ヲ定ム

第五十四條　個々ノ國家、公共及私人ノ營造物及企業ノ內部管理規則ハ企業管理部ト當該職業組合ノ地方支部トノ協議ニ依リ起草シ且ツ勞働監督官ノ認可ヲ要ス勞働監督官ノ決定ニ對シテハ地方勞働部ニ訴願スルコトヲ得但地方勞働部ノ決定ヲ以テ最終トナス

第五十五條　產業及國民經濟ノ各部門、中央營造物若ハ企業、直接聯合シタル企業ノ團體竝ニ特ニ國家ニ重要ナル企業及營造物ノ爲適用スル內部管理規則ハ當該職業組合ノ中央委員會ト管理部トノ協議ニ依リ直接中央ニ於テ起草シ勞働部ノ認可ヲ可クルコトヲ得又是等團體ニ加入セル個々ノ營造物及企業ノ爲本法第五十三條同備考及第五十四條ノ規定ニ準據シテ內部管理規則ノ追加規則ヲ制定スルコトヲ得

第七章　生產高ノ標準

第五十六條　生產高ノ標準ハ企業若ハ營造物ノ管理部ト職業組合若ハ當該職業組合機關トノ協議ニ依リ（第百五十一條及第百五十六條）之ヲ定ムルモノトス

第五十七條　被雇傭者ノ過失ニ依リ普通ノ勞働條件ノ下ニ於テ生產高ノ標準ニ達シ得ザル場合ニハ被雇傭者ハソノ爲シタル仕事ノ量ニ應シテ賃金ヲ受クルモノトス但始何ナル場合ニ於テモ賃銀率ノ三分ノ二以下トスルコトヲ得ス生產高カ規則正シク標準ニ達セサル場合ニハ雇傭主ハ第

四十七條及同備考ニ依リ該被雇傭者ヲ解雇スルコトヲ得

備考一　本條ニ於テ普通ノ勞働條件トハ左記ノ諸項トス

(イ)機械、旋盤及備品ハ整正シタル狀態ニアルコト

(ロ)作業遂行ニ心要ナル材料及器具ヲ適時ニ供給スルコト

(ハ)材料及器具ハ適當ナル數量ヲ有スルコト

(ニ)作業場ニ適當ノ衞生設備（必要ナル採光、暖房其ノ他）ヲナスコト

備考二　全日極ニアラスシテ時間極ニテ勞働スル未成年者ニ對シテハ成年者ノ生產高標準ニ應シ未成年者ノ爲定メラレタル勞働時間ニ比例シテ未成年者ノ生產高標準ヲ定ムルモノトス

第八章　勞働ニ對スル報酬

第五十八條　勞働ニ對シ被雇傭者カ報酬トシテ受クル額ハ團體契約及勞働契約ニ依リ之ヲ定ム

第五十九條　報酬額ハ適當ナル關係機關カ當該各時期ニ付當該種類ノ勞働ニ對シ定メタル强制的最低賃銀ヨリモ小額ナルコトヲ許サス

第六十條　報酬額ハ或ハ普通ノ勞働時間（第九十四條）以下ニ據リ時間拂トシ或ハ仕事ノ出來高拂トシテ契約ニ於テ之ヲ定ムルモノトス規定ノ時間外ノ勞働ニ對スル報酬ハ特ニ契約ニ之ヲ指定スヘシ但最初ノ二時間ニ對シテハ普通ノ報酬ノ一倍半又其以後每一時間竝ニ休日若ハ祭日

(第百九條以下)ノ就業ニ對シテハ二倍以下タルコトヲ得ス

第六十一條　未成年者ノ勞働賃銀ハ短縮シタル勞働時間ヲ以テ相當等級ノ全日ノ勞働ト見做シ支拂フモノトス勞働部ニ對シ產業ノ當該部內ノ性質及條件ニ應シ未成年者ノ勞働賃銀ノ計算及標準制定ノ手續ヲ定ムルノ權利ヲ附與ス

第六十二條　被雇傭者カ數種ノ等級ニ屬スル仕事ヲナス場合ニハ其ノ內最高ノ等級ニ依リ（第三十六條）報酬ヲ受クルモノトス

第六十三條　被雇傭者カ特殊ノ知識若ハ特別ノ準備ヲ要スル仕事ニ從事スルトキハ特別ノ技能修得ニ關スル學位（卒業證書）若ハ證明書ヲ所持セサル場合ニ於テモ當該種類ノ仕事ノ爲定メラレタル範圍ノ賃銀ヲ支拂ハルヘキモノトス

第六十四條　被雇傭者ヲ賃銀ノ低率ナル仕事ニ移シタル場合ニハ其ノ移動ノ日ヨリ二週間ハ從前ノ賃銀ヲ支拂フモノトス

第六十五條　仕事カ恒久的性質ヲ有スル場合ニハ二週間ニ一回以上ノ割ヲ以テ定期的ニ賃銀ヲ支拂フヘシ二週間以內ノ一時的若ハ偶然的ノ仕事ニ對スル賃銀ハ仕事ノ完了シタル後直ニ支拂フヘシ

第六十六條　賃銀ハ通貨竝ニ勞働契約若ハ團體契約ニ規定アル限リ現品（食料、個人的必要品ノ供給ニヨリ）ヲ以テ支拂フモノトス現品ニ依ル賃銀支拂ノ條件及其ノ計算方法ハ契約ニ依リ之ヲ定ム

第六十七條　賃銀ハ勞働時間中且勞働ニ從事スル場所ニ於テ之ヲ支拂フモノトス

第六十八條　被雇傭者カ自己ニ無關係ナル理由ニ依リ仕事ヲ完了セサル場合ニハ其ノ平均日給額ニ依リ賃銀ヲ支拂フモノトス

備考　平均賃銀決定ノ方法ハ勞働部ニ於テ之ヲ定ム

第六十九條　定期休暇中ニ在ル勞働者及從業員ハ休暇期間ニ對シ其ノ平均賃銀ノ前渡ヲ受クルモノトス

第七十條　出來高拂若ハ個數拂ノ支拂ハ當該等級ノ所定ノ日給額ヲ生產高標準（第五十六條）ニ割リ當ツル方法ニ依リ之ヲ定ム契約ニ規定シタル場合ニハ他ノ出來高計算法ニ依ルコトヲ得

第七十一條　出來高拂ノ仕事ノ準備ニ要スル時間ニ對スル支拂ハ團體契約ニ依リ之ヲ定ム

第七十二條　出來高拂ニ依リ特種ノ仕事ノ交附アリタル場合ニハ被雇傭者ハ其ノ仕事ノ完了前ニ所定ノ計算期日ニ（第六十五條）自己ノ等級ノ賃銀率ノ範圍內ニ於テ前拂ヲ受クルモノトス

第七十三條　出來高拂ニ依ル仕事カ所定賃銀ニ達セサル場合ニハ出來高ニ應シテ支拂フモノトス但シ被雇傭者ノ賃銀率ノ三分ノ二以下タルヲ得ス（第五十七條）

第七十四條　被雇傭者カ自己ニ關係ナキ理由ノ爲出來高拂ノ仕事ヲ未完了ノ儘中止スル場合ニハ爲シタル仕事ノ部分ニ對シテハ前拂金（第七十二條）ヲ控除シ其他ノ評價爭議委員會ノ爲シタル評價ニ依リ又同委員會ノ設置ナク且當事者間ニ於テ協定ノ成立セサル場合ニハ爭議手續ニ基キ支拂ヲ爲スモノトス

第七十五條　出來高拂ノ仕事ヲ引受タル未成年者

ハ其ノ仕事ノ遂行ノ際成年者ト同一ノ出來高計算ニヨリ且ツ其ノ普通賃銀率ニ依ル二時間分ノ割增ヲ附シテ支拂ハルルモノトス

第七十六條　時間拂ノ賃銀率ノ變更アリタル場合ニハ出來高拂ノ仕事ニ對スル計算モ之ニ應シ變更セラルルモノトス

備考　出來高拂ノ仕事ニ依ル賃銀率變更前終了シタル仕事ニ對シテハ評價爭議委員會ノ定ムル賃率ニ依リ支拂フヘシ若シ同委員會ノ設置ナキ場合ニハ當該職業組合トノ協議ニ依ルコトシ尙協定成立セサル場合ニハ爭議手續ニ依リ解決ス

第九章　保障及賠償

第七十七條　當該國家機關ニ依リ勞働時間中ニ選擧權ノ行使ヲ許可セラレ居ル場合ニハ選擧權行使ノ爲ニ要スル時間中ハ勞働者及從業員ニ對シ平均賃銀（第六十八條）ヲ支拂フモノトス

第七十八條　證人、鑑定人及立會人トシテ出廷ヲ命セラレタル勞働者及從業員ハ司法官憲ニ依リ命セラレタル義務ヲ履行スル全期間中平均賃銀ノ支拂ヲ受クルモノトス

第七十九條　國家、職業組合及消費組合等ノ諸機關ニ依リ招集セラレタル代表者ノ大會協議會及集會ニ委員トシテ參加スル爲選擧セラレタル勞働者及從業員ニ對シテハ自己ノ義務ヲ履行スル爲要スル勞働時間中平均賃銀ヲ支拂フモノトス

第八十條　赤軍ニ召集セラレタル勞働者及從業員ハ召集ノ爲退職ノ際向フ二週間分ノ平均賃銀ヲ受クルモノトス

第八十一條　勞働者及從業員カ雇傭主ノ用務ノ爲メ出張スル場合ニハ其ノ出張ノ全期間中地位ヲ維持シ且平均賃銀ノ外一日ニ付一ケ月ノ賃銀額ノ三十分ノ一ヨリ少カラサル率ニ依リ日當ヲ支拂ハルルモノトス右ノ外務勞働ニ於テ定メタル手續ト範圍ニ依リ出張ニ關スル實費ノ補償ヲ受クルモノトス

註　政府企業及之ト同資格ノ企業營造物ノ勞働者從業員ノ出張ニ關聯セル日當及雜費ハ特別ノ法律ヲ以テ之ヲ定ム（一九二七、五、九制定）

第八十二條　勞働者及從業員カ雇傭者ノ命ニ依リ或ル地方ヨリ他ノ地方ニ移轉シ住所ノ變更ヲ要スル場合ニハ移轉ニ依ル出費ヲ支辨セラレ且實際賃銀ヲ保有シ途中ニ滯在期間並ニ爾餘ノ六日間一日ニ付一ケ月ノ賃銀ノ三十分ノ一ノ計算ニ依リ日當ノ支拂ヲ受クルモノトス右ノ外尙從來ノ職務ニ依リ受ケ居タル一ケ月ノ賃銀ニ均シキ率ニ依リ臨時手當ヲ受クルモノトス又勞働者及從業員カ其ノ家族ヲ同伴スル場合ニハ一人ニ付本人ノ手當ノ四分ノ一ノ額ノ追加臨時手當ヲ受クルモノトス手當及移轉ニ要スル支出ノ支拂條件及手續並ニ一般規則ノ例外ハ特別規定ヲ以テ之ヲ定ム

第八十三條　被雇傭者カ不注意若ハ內部管理規則ノ不履行ノ爲備品及材料ヲ毀損シタル場合ニハ評價爭議委員會ノ決定ニ依リ其ノ損害額ヲ賃銀ヨリ差引クコトヲ得但其ノ一ケ月ノ賃銀ノ三分ノ一以上ナルコトヲ許サス

第八十四條　雇傭主ハ仕事ニ必要ナル器具及備品ヲ無料ニテ被雇傭者ニ提供スヘシ

第八十五條　被雇傭者カ企業上必要ナル爲自己ノ器具ヲ使スル場合ニハ雇傭主ハ器具ノ損料トシテ相當ノ補償ヲ支拂フヘキ義務ヲ有ス但其額ハ團體契約ニ依リ定ムルモノニシテ團體契約ナキ場合ニハ勞働部ノ決定ニ依リ之ヲ定ムルモノトス

第八十六條　作業ノ條件カ被服及履物ノ毀損ヲ早ムルカ如キ企業ニ於テハ雇傭主ハ勞働部カ特ニ定メタル職業表及標準ニ依リ其ノ被雇傭者ニ對シ無料ニテ被服及履物ヲ支給スヘキ義務ヲ有ス勞働部ノ地方機關ノ決定ニ依リ右現品ノ支給カ不可能ナリト認メラレタル場合ニハ雇傭主ハ實費ニ相當スル金額ヲ以テ之ヲ補償スヘシ

第八十七條　一ケ月未滿ノ間作業ヲ休止シタル企業及營造物ニ於ケル勞働者及從業員ニ對シテハ其ノ賃銀率ニ依リ賃銀ヲ支拂フモノトス

備考　企業若ハ營造物ニ於テ三日以內ノ間作業ヲ休止シタル場合ニハ被雇傭者ニ對シ其ノ休業期間中平均賃銀ニ依リ（第六十八條備考）支拂フモノトス

第八十八條　第四十七條ノ(イ)(ロ)及(ハ)ニ規定シタル理由ニ依リ期限附若ハ期限ヲ附セサル勞働契約カ取消サレタル場合ニハ雇傭主ハ被雇傭者ニ對シ二週間分ノ賃銀ニ相當スル解雇手當ヲ支拂フカ又ハ二週間前ニ解雇ノ豫告ヲ與フヘシ

第八十九條　第三十六條（第二項）、第三十七條、第四十八條及第八十條ニ規定シアル理由ニ依リ勞働契約ノ取消サレタル場合ニハ被雇傭者ニ二

週間分ノ賃銀ニ相當スル解雇手當ヲ與フルモノトス

第九十條　第四十七條ノ(ニ)(ホ)(ヘ)(ト)及第四十九條ニ規定シタル理由ニ依リ勞働契約ノ取消サレタル場合竝ニ被雇傭者自身ノ希望ニ依リ勞働契約ノ取消サレタル場合ニハ被雇傭者ハ解雇手當ヲ受クルヲ得ス

第九十一條　企業若ハ營造物カ評價爭議委員會ノ認可ニ依リ又同委員會ノ設置ナキトキハ當該職業組合ノ認可ニ依リ基本的休暇（第百十四條）ヲ與ヘサル場合及必要ニ際シ追加ノ休暇（第百十六條　ヲ與ヘサル場合ニハ勞働者及從業員ハ金錢ニ依ル補償ヲ受クル權利ヲ有ス但其ノ補償率ハ補償交附ノトキニ於ケル其ノ平均賃銀ニ依リ之ヲ定ム

第九十二條　臨時的勞働不能トナリタル勞働者及從業員ハ病氣ノ場合ハ三ケ月ヨリ少ラサル期間又姙娠及分娩ノ場合ハ四ケ月ヨリ少ラサル期間（第四十七條及第百三十二條）營造物若ハ企業ニ於テ其ノ現職ヲ保留ス

第九十三條　雇傭主ノ破產ノ場合ニハ團體契約又ハ勞働契約ニ基ク勞働者及從業員ニ對スル一切ノ支拂ハ民法第百一條及民事訴訟法第二百六十六條ニ準據シ第一順位ニ於テ行ハルヘキモノトス

第十章　勞働時間

第九十四條　生產竝ニ生產ノ爲必要ナル補助的仕事ニ於テ標準的勞働時間ハ八時間ヲ超過スルヲ得ス

露國の勞働

備考　勞働ニ對シ職業組合全露中央「ソヴイエト」トノ協議ニ依リ本條ノ規定ニ依ル時間ノ制限ヲ受ケサル責任アル政治上、職業上及「ソヴイエト」ノ勞務者ノ種目ヲ定ムル權利ヲ附與ス

第九十五條　左ニ揭クル者ノ勞働時間ヲ短縮ス

(イ)十六歲以上十八歲以下ノ者

(ロ)生產ニ直接關係ヲ有スル仕事ヲ爲ス者

(ハ)勞働部ノ作成シタル職業表ニ依ル地下勞働ニ從事スル者

(ニ)從事スル者

特別ニ困難ニシテ且健康上有害ナル生產事業ニ從事スル者ノ爲勞働部ニ於テ定メタル職業表及標準ニ從ヒ勞働時間ヲ短縮ス

第九十六條　第九十四條及第九十五條ニ規定シタル勞働時間ハ夜間作業ノ場合ニハ一時間ヲ短縮ス

備考　特種ノ性質ヲ有スル企業ニ於テハ雇傭主ハ勞働者ニ對シ勞働時間中食事ノ時間ヲ與フヘシ但シ內部管理規則ニハ食事ノ場所ヲ規定スヘシ此ノ種仕事ノ一覽表ハ勞働部ニ於テ作成ス

第九十七條　家庭勞働、修繕作業、農業勞働其ノ他ニ從事スル勞働者ニシテ月拂ニテ常傭セラレ居ル者ハ其ノ勞働時間ヲ適當ニ分割スルコトヲ得但勞働中ノ休憩時間ハ一日二回ヲ超過セサルコト又一ケ月ノ全勞働時間ハ一ケ月ノ標準勞働時間ヲ超過セサルコト（第九十四條）ヲ要ス

第九十八條　雇傭主ハ勞務者ニ對シ普通ノ勞働時間中ニ休憩及食事時間ヲ與フヘシ但シ休憩及食事時間ハ勞働時間ニ算入セス

備考　中斷ヲ許ササル仕事ニアリテハ雇傭主ハ勞働者ニ對シ勞働時間中食事ノ時間ヲ與フヘシ但シ內部管理規則ニハ食事ノ場所ヲ規定スヘシ此ノ種仕事ノ一覽表ハ勞働部ニ於テ作成ス

第九十九條　被雇傭者ハ自由ニ休憩時間ヲ處理スルコトヲ得且休憩時間中被雇傭者ハ勤務ノ場所ヲ離ルル權利ヲ有ス

備考　特種ノ性質ヲ有スル企業ニ於ケル本條規定ノ例外ハ當該職業組合ノ同意及勞働部機關ノ認可シタル場合ノミ許可セラルヘシ

第百條　規則正シク間隔ヲ置ク仕事ニアツテハ始業後每四時間以內ニ休憩ヲ與フヘシ但シ其ノ休憩時間ハ三十分以上二時間以內トス休憩時間ノ長短ハ前記ノ範圍內ニ於テ內部管理規則ニ依リ之ヲ定ム

備考　授乳ノ母親ニ對スル特別ノ休憩時間ニ關スル規則ハ第百三十四條ニ規定ス

第百一條　始業、終業竝ニ勤務中ノ休憩時間ハ內部管理規則ニ依リ之ヲ定ム

第百二條　交替ニ依ル仕事ニアリテハ作業ヲナスヘキ各組ハ標準勞働時間中勞働ニ從事スヘシ交替ノ爲作業ノ順當ナル進行ヲ妨クルコトナク內部管理規則ニ基キ定メタル時間ニ依リ交替ヲ行フヘシ

第百三條　標準勞働時間ヲ超過スル勞働（殘業）ハ原則トシテ之ヲ禁止ス

第百四條　左ニ揭クル除外的場合ニ限リ殘業ヲ許ス

（イ）共和國ノ國防上必要ナル仕事及社會的災禍ト危害ヲ避クルニ必要ナル仕事ヲ行フ場合

（ロ）水道、點燈、下水、運輸、郵便、電信及電話ノ聯絡ニ關スル社會的ニ必要ナル事業ニシテ其ノ正確ナル運行ニ對スル偶發的若ハ豫期セサル障害ヲ除去スヘキ仕事ヲ行フ場合

（ハ）既ニ着手シタル仕事ニシテ技術上ノ條件ニ基キ豫期ゼサル若ハ偶發的ノ障害ニ依リ標準的勞働時間中ニ完了セサル場合且既ニ着手セル仕事ノ中止カ材料若ハ機械ヲ毀損セシムル場合之ヲ完了スル爲

（ニ）機械若ハ設備ノ毀損ヲ放棄セハ多數ノ勞働者カ仕事ヲ中止スルニ至ル場合ニ於テ右機械若ハ設備ノ修繕及調節ニ關スル臨時的仕事ヲ行フ場合

備考　本條ニ規定スル殘業ノ適用ハ地方評價爭議委員會ノ決定ニ依リ又同委員會ノ設置ナキトキハ當該職業組合ノ同意ニ依リ且勞働監督官ノ認可シタル場合ニ限リ又至急ヲ要スル際ハ事後勞働監督官ニ通報スル條件ノ下ニ許可セラルルコトヲ禁ス

各被雇傭者ニ對シ一ケ年ヲ通シ殘業ノ總計百二十時間ヲ超過スルコトヲ許サス又二日間ニ亙ル殘業ノ總計ハ四時間ヲ超過スルコトヲ許サス

備考　季節的性質ヲ有スル產業ノ各分派ニ於テハ勞働部ハ職業組合全露中央「ソヴイエト」ノ同意ニ依リ殘業ノ時間數ヲ規定シタル限度ノ標準以上ニ增加スルコトヲ得

第百六條　遲刻ニ依リ失ヒタル時間ヲ補フ爲メ殘業ヲ課スルコトヲ許サス

第百七條　各殘業ニ付テハ被雇傭者ノ賃銀手帳竝ニ殘業ノ開始及終了ノ時竝ニ殘業ニ對シ被雇傭者ノ受ケタル手當ヲ示シテ之ヲ記入スヘシ

第十一章　休暇

第百八條　總テノ勞務者ハ每週四十二時間ヨリ少カラサル繼續的休暇ヲ受クルモノトス每週ノ定休日ハ地方勞働課ニ於テ職業組合「ソヴイエト」トノ協議ノ上之ヲ定ム而シテ右定休日ハ其ノ地方ニ於ケル勞働者及從業員ノ民族及宗教的構成ヲ考慮シ日曜日又ハ其ノ他ノ週日ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第百九條　仕事ノ性質ニ依リ一般的ニ規定シタル週定休日ヲ得ルコト能ハサル企業營造物及經濟團體ニ於ケル勞務者ニ對シテハ彼等ノ爲都合ヨキ他ノ週日ニ休暇ヲ與フヘシ本規定ハ仕事ノ性質上間斷ナキ作業ヲ要スル企業ニ於テ勞働スル者ニモ適用ス後ノ場合ノ企業ニアリテハ勞務者ノ各組ニ對シ一般的ニ規定シタル定休日ノ代リニ特別ノ休日ヲ定ム

第百十條　左ニ揭クル祭日ニハ勞働ニ從事スルコトヲ禁ス

（イ）一月　一日　元旦

（ロ）一月二十二日　即チ舊露曆千九百五年一月九日記念日

（ハ）三月十二日　獨裁政治顚覆記念日

（ニ）三月十八日　巴里「コムミユン」記念日

（ホ）五月　一日　「インターナショナル」記念日

（ヘ）十一月七日　無產階級革命記念日（一九二七年以降ハ、十一月七日八日ノ二日間休日ノコト一九二七・一〇、二六中央執行幹部會規定）

第百十一條　地方ノ勞働課ハ縣職業組合「ソヴイエト」トノ協議ニ依リ第百十一條ニ規定シタル祭日以外ニ地方ノ狀況、住民ノ構成及民族的祭日ヲ考慮シ一ケ年ニ付十日間以內ノ特別ノ休日ヲ定ムルコトヲ得（一九二八年以降特別休養日ハ聯邦共和國勞働法ニテ定メラルル手續ニヨリ一ケ年七日トス一九二七、一〇、二六全露中央執行委員會規定）

備考　勞働部ハ職業組合全露中央「ソヴイエト」トノ協議ニ依リ其ノ仕事ノ性質上前揭ノ條項ニ於テ規定シタル休日及祭日中仕事ノ中絕ヲ許ササル企業及營造

物ノ一覽表ヲ作成スヘシ

第百十三條　休日及祭日（第百九條乃至第百十一條）ノ前日ニ於ケル勞働時間ハ六時間ヲ超過スルコトヲ許サス此ノ場合ニハ全日ノ賃銀ヲ支拂フヘシ又出來高拂ノ仕事ニアリテハ本條ノ規定ニ基キ就業セサル時間ニ對シテハ相當等級ノ賃銀率ニ依リ割增手當ヲ支拂フヘシ

備考　月拂ニ依リ賃銀ヲ受クル者ハ祭日及祭日ノ前日ノ爲メ其ノ賃銀ヲ差引カルルコトナシ

第百十四條　五ケ月半ヨリ短カラサル期間繼續シテ勤務シタル總テノ者ニ對シ一年ニ一回二週間ヲ下ラサル定期休暇ヲ與フルモノトス又十八歲未滿ノ者ニ對スル定期休暇ハ一個月ヲ下ルコトヲ得ス

備考　第百十四條ニ依リ定期休暇ノ權利ヲ與フル仕事ノ繼續ハ管理部ノ命令ニ依リ勞務者カ或企業若ハ營造物ヨリ他ノ企業若ハ營造物ニ轉シ又ハ勞務者カ仕事ヲ中絕スルコトナク或國家ノ營造物若ハ企業ヨリ他ノ營造物若ハ企業ニ轉シタル場合ニ於テ中斷セラルルコトナシ

第百十五條　特ニ健康上有害ニシテ危險ナル企業ニ於テ作業スル者ヘ第百十四條ニ規定シタル休暇以外ニ二週間ヲ下ラサル期間追加ノ休暇ヲ受クルモノトス追加ノ休暇ヲ與フヘキ生產業及職業ノ一覽表ハ勞働部ニ於テ之ヲ作成ス

第百十六條　第百十五條ニ規定シタル追加ノ休暇竝ニ未成年者ノ定期休暇（第百十四條）ハ勞働部ノ特別ノ決定ニ依ル場合以外ハ之ヲ廢止シ又ハ金錢ニ依ル補償ヲ（第九十一條）以テ之ニ代ユルコトヲ禁ス

第百十七條　休暇ハ一年ヲ通シテ適時之ヲ受クルモノトス但シ企業、營造物及經濟團體ニ於ケル作業ノ順當ナル進行ヲ妨クルヲ許サス

第百十八條　休暇ヲ受クヘキ時期、手續及順序ハ評價爭議委員會ニ於テ之ヲ決定ス若シ同委員會ノ設置ナキ場合ニハ企業、營造物若ハ經濟團體ノ管理部ト勞働者ノ代表機關（第百五十六條）トノ協議ニ依リ之ヲ決定ス

本問題ニ關シ雙方ノ意見一致セサル場合ニハ爭議手續ニ依リ疾病若ハ分娩ノ爲勞務者カ或企業若ハ營造物ヨリ他ノ企業若ハ營造物ニ轉シ又ハ勞務者カ仕事ヲ中絕スルコトナク或國家ノ營造物若ハ企業ヨリ他ノ營造物若ハ企業ニ轉シタル場合ニ於テ中斷セラルルコトナシ

第百十四條ニ依リ定期休暇ノ權利ヲ與フル仕事ノ繼續ハ管理部ノ命令ニ依リ勞務者カ或企業若ハ營造物ヨリ他ノ企業若ハ營造物ニ轉シ又ハ勞務者カ仕事ヲ中絕スルコトナク或國家ノ營造物若ハ企業ヨリ他ノ營造物若ハ企業ニ轉シタル場合ニ於テ中斷セラルルコトナシ

第百十五條　特ニ健康上有害ニシテ危險ナル企業ニ於テ作業スル者ヘ第百十四條ニ規定シタル休暇以外ニ二週間ヲ下ラサル期間追加ノ休暇ヲ受クルモノトス追加ノ休暇ヲ與フヘキ生產業及職業ノ一覽表ハ勞働部ニ於テ之ヲ作成ス

第百十六條　第百十五條ニ規定シタル追加ノ休暇竝ニ未成年者ノ定期休暇（第百十四條）ハ勞働部ノ特別ノ決定ニ依ル場合以外ハ之ヲ廢止シ又ハ金錢ニ依ル補償ヲ（第九十一條）以テ之ニ代ユルコトヲ禁ス

第百十七條　休暇ハ一年ヲ通シテ適時之ヲ受クルモノトス但シ企業、營造物及經濟團體ニ於ケル作業ノ順當ナル進行ヲ妨クルヲ許サス

第百十八條　休暇ヲ受クヘキ時期、手續及順序ハ評價爭議委員會ニ於テ之ヲ決定ス若シ同委員會ノ設置ナキ場合ニハ企業、營造物若ハ經濟團體ノ管理部ト勞働者ノ代表機關（第百五十六條）トノ協議ニ依リ之ヲ決定ス

本問題ニ關シ雙方ノ意見一致セサル場合ニハ爭議手續ニ依リ疾病若ハ分娩ノ爲勞務者カ或企業若ハ營造物ヨリ他ノ企業若ハ營造物ニ轉シ又ハ勞務者カ仕事ヲ中絕スルコトナク或國家ノ營造物若ハ企業ヨリ他ノ營造物若ハ企業ニ轉シタル場合ニ於テ中斷セラルルコトナシ

第百十五條　特ニ健康上有害ニシテ危險ナル企業ニ於テ作業スル者ヘ第百十四條ニ規定シタル休暇以外ニ二週間ヲ下ラサル期間追加ノ休暇ヲ受クルモノトス追加ノ休暇ヲ與フヘキ生產業及職業ノ一覽表ハ勞働部ニ於テ之ヲ作成ス

第百十六條　第百十五條ニ規定シタル追加ノ休暇竝ニ未成年者ノ定期休暇（第百十四條）ハ勞働部ノ特別ノ決定ニ依ル場合以外ハ之ヲ廢止シ又ハ金錢ニ依ル補償ヲ（第九十一條）以テ之ニ代ユルコトヲ禁ス

第百十七條　休暇ハ一年ヲ通シテ適時之ヲ受クルモノトス但シ企業、營造物及經濟團體ニ於ケル作業ノ順當ナル進行ヲ妨クルヲ許サス

第百十八條　休暇ヲ受クヘキ時期、手續及順序ハ評價爭議委員會ニ於テ之ヲ決定ス若シ同委員會ノ設置ナキ場合ニハ企業、營造物若ハ經濟團體ノ管理部ト勞働者ノ代表機關（第百五十六條）トノ協議ニ依リ之ヲ決定ス

本問題ニ關シ雙方ノ意見一致セサル場合ニハ爭議手續ニ依リ疾病若ハ分娩ノ爲勞務者カ或企業若ハ營造物ヨリ他ノ企業若ハ營造物ニ轉シ又ハ勞務者カ仕事ヲ中絕スルコトナク或國家ノ營造物若ハ企業ヨリ他ノ營造物若ハ企業ニ轉シタル場合ニ於テ中斷セラルルコトナシ

第百十五條　特ニ健康上有害ニシテ危險ナル企業ニ於テ作業スル者ヘ第百十四條ニ規定シタル休暇以外ニ二週間ヲ下ラサル期間追加ノ休暇ヲ受クルモノトス追加ノ休暇ヲ與フヘキ生產業及職業ノ一覽表ハ勞働部ニ於テ之ヲ作成ス

第百十六條　第百十五條ニ規定シタル追加ノ休暇竝ニ未成年者ノ定期休暇（第百十四條）ハ勞働部ノ特別ノ決定ニ依ル場合以外ハ之ヲ廢止シ又ハ金錢ニ依ル補償ヲ（第九十一條）以テ之ニ代ユルコトヲ禁ス

第百十七條　休暇ハ一年ヲ通シテ適時之ヲ受クルモノトス但シ企業、營造物及經濟團體ニ於ケル作業ノ順當ナル進行ヲ妨クルヲ許サス

第百十八條　休暇ヲ受クヘキ時期、手續及順序ハ評價爭議委員會ニ於テ之ヲ決定ス若シ同委員會ノ設置ナキ場合ニハ企業、營造物若ハ經濟團體ノ管理部ト勞働者ノ代表機關（第百五十六條）トノ協議ニ依リ之ヲ決定ス

本問題ニ關シ雙方ノ意見一致セサル場合ニハ爭議手續ニ依リ各職業ニ付之ヲ決定ス但シ最モ熟練ヲ要スル勞働ニ對シテモ四ケ年ヲ超過スルコトヲ許サス

第百二十三條　團體契約締結ノ際取極ムル徒弟ノ數ハ勞働部カ職業組合全露中央「ソヴイエト」及中央經濟機關トノ協議ニ依リ當該產業部門ノ爲メ定ムル標準ヲ下ルコトヲ許サス團體契約ノ締結ナキ場合亦同シ

第百二十四條　徒弟ニ對シテハ其ノ專門ノ研究ニ關係ナキ始何ナル仕事ヲモ爲サシムルコトヲ得ス

第百二十五條　總テノ企業ハ勞働部、教育部及最高國民經濟會議竝ニ必要ノ場合ニハ相當經濟機關カ共同シテ發布スル決定ニ從ヒ未成年者ヲ正確ニ教育スル爲メ必要ノ手段ヲ講スルノ義務ヲ有ス

第百二十六條　規定ノ期間ニ或特殊技能ノ教育ヲ終了シタル徒弟ニ對シ試驗ヲ行フ尤モ徒弟ハ規定ノ徒弟期間終了前ニ於テモ試驗ヲ受クル權利ヲ有ス

第百二十七條　勞働部ハ徒弟制度ノ標準及規則ニ關スル義務的決定ヲ發布スルノ權利ヲ有ス

第百二十八條　勞働部ノ諸機關ハ徒弟制度ノ正シキ設定ニ付監督及監視ヲ爲ス義務ヲ有ス

第十三章　婦人及未成年者ノ勞働

第百二十九條　特ニ困難ニシテ健康上有害ナル作業及地下ノ仕事ニ婦人及十八歲以下ノ者ヲ雇傭スルコトヲ禁止ス

婦人及未成年者ノ爲特ニ困難ニシテ不健康ナル

仕事ノ一覽表竝ニ婦人及未成年者ノ運搬スル重量ノ限度標準ハ勞働部ニ於テ職業組合全露中央「ソヴイエト」ト協議ノ上之ヲ定ム

第百三十條　婦人及十八歳以下ノ者ヲ夜業ニ從事セシムルコトヲ禁止ス

備考　特ニ夜業ヲ必要トスル或種ノ生産業ニ於ケル成年婦人ニ對シテハ勞働部ニ於テ職業組合全露中央「ソヴイエト」ト協議ノ上之ヲ許可スルコトヲ得

第百三十一條　妊娠中又ハ授乳中ノ者ニ對シテハ絕對ニ夜業ニ從事セシムルコトヲ禁ス

第百三十二條　筋肉勞働ニ從事スル婦人ニ對シテハ產前及產後各八週間又事務及智識勞働ニ從事スル婦人ニ對シテハ產前產後各六週間勞働ヲ免除ス（第百八十一條）

備考　特種ノ狀況ノ爲產前產後ノ休養ヲ各八週間ト定ムヘキ事務及智識勞働ノ職業一覽表ハ勞働部ニ於テ之ヲ作成ス

第百三十三條　婦人ハ妊娠五ケ月目ヨリ起算シ其ノ以降ハ本人ノ承諾ナクシテ普通作業ノ場合以外ニ派遣スルコトヲ得ス

第百三十四條　授乳ヲ要スル母親ニ一般休憩以外ニ（第百條）授乳ノ爲メ餘分ノ休暇ヲ與フルコトヲ要ス休憩時間ノ詳細ハ內部管理規則ニ依リ之ヲ定ム而シテ授乳ノ休憩ハ每三時間半以內ノ間隔タルヘク且三十分以上繼續スヘキモノトス

右授乳ノ休憩時間ハ勞働時間ニ算入ス

第百三十五條　十六歳未滿ノ者ノ雇傭ヲ禁止ス

備考　例外的ノ場合ニハ勞働監督官ニ對シ勞働部ニ於テ職業組合全露中央「ソヴイエト」ト協議ノ上發布スル特別ノ訓令ニ基キ十四歳以上ノ未成年者ヲ雇傭スルコトヲ許可スルノ權限ヲ附與ス

第百三十六條　十六歳未滿ノ者ニシテ既ニ或企業ニ於テ勞働スル者、若ハ第百三十五條ノ備考ニ基キ雇傭セラルル者ハ一日ニ付四時間勞働トス

第百三十七條　產業ノ各種部門ニ雇傭セラルヘキ最少人員數ハ勞働部ニ於テ職業組合全露中央「ソヴイエト」ト協議ノ上發スル特別ノ決定ニ依リ之ヲ定ム

第十四章　勞働ノ保護

第百三十八條　如何ナル企業モ勞働監督官竝ニ產業衛生機關及技術監督機關ノ承諾ナクシテ開設、作業開始若ハ他ノ建築物ヘノ移轉ヲ爲スコトヲ得ス

第百三十九條　總テノ企業及營造物ハ勞働部ニ於テ發スル各種生產業ノ各種部門ニ關スル一般的及特別的義務的決定ニ從ヒ勞働ノ有害ナル條件ヲ除去若ハ減少シ不幸ノ事故ヲ警戒シ作業場ノ適當ナル衛生及健康狀態ヲ保持スルニ必要ナル方法ヲ講スヘシ

第百四十條　技術上ノ條件ニ依リ機械、調革、旋盤ノ停止不可能ナル場合若ハ之等ヲ通風、給水、點燈其ノ他ノ用ニ供スル場合ヲ除キ休憩時間中ハ機械、調革、族盤ノ運轉ヲ停止スルコトヲ要ス

第百四十一條　特ニ健康上有害ナル作業若ハ異常ノ溫度、濕氣アル場所ニ在ルコト若ハ身體ヲ不潔ナラシムルコトニ關聯スル作業竝ニ一般衛生上必要トスル場合ニハ企業者ハ自己ノ負擔ニ於テ勞働部ノ定ムル勞働一覽表及其ノ標準ニ依リ勞働者ニ對シ特別ノ被服ト護裝用具（眼鏡、覆面具、呼吸用「マスク」石鹼其ノ他）ヲ交附スヘシ

第百四十二條　職業上中毒ノ危險アル生產ニ在リテハ勞働部ノ定ムル表及範圍ニ於テ勞働者ニ對シ消毒ノ爲メ脂肪分若ハ其他消毒品ヲ交附スヘシ

備考　特別ノ被服護裝用具若ハ消毒品（第百四十一條及第百四十二條）ヲ交附セラレサル場合ニ於テ勞働者カ自身ニ買入レタルトキハ勞働者ニ對シ其ノ實費ヲ支拂フヘシ

第百四十三條　勞働部及勞働部ノ地方機關ハ特ニ健康上有害ナル生產若ハ企業ニ於ケル勞働ニ從事セントスル總テノ者若ハ勞働者ノ各團（婦人及未成年者）ニ對シ豫メ强制的檢查ヲ行ヒ竝ニ定期的ニ再檢查ヲ行フ權利ヲ有ス

第百四十四條　勞働部ハ職業組合全露中央「ソヴイエト」ト協議ノ上夜業ヲナスコトヲ特ニ必要トセス且ツ勞働者ノ健康上特ニ有害ナル影響ヲ及ホスヘキ企業ニ於ケル夜業ヲ禁止スルノ權限ヲ有ス

第百四十五條　企業、營造物及經濟團體ハ勞働者及從業員ノ勞働保護ニ關スル總テノ現行法規ヲ見易キ場所ニ揭示シ且ツ勞働部ノ決定ノ要求スル帳簿ヲ備ヘ付クルコトヲ要ス

第百四十六條　勞働部ノ管下ニアル勞働監督、技術監督及衛生監督ハ總テノ營造物、企業、經濟團體及私人ニ於テ勞働條件及勞働者ノ健康及生命ノ保護ニ關スル本法、命令、訓令、指令及團體契約中ニアル條項ノ實行ヲ監督スル責任ヲ有ス

第百四十七條　勞働監督官ハ一定ノ任期ヲ以テ職業組合「ソヴイエト」ニ於テ之ヲ選擧シ勞働部ノ認可ヲ受クヘキモノトス

第百四十八條　第百四十六條所載ノ目的ヲ達成スル爲勞働監督機關ハ左記任務ヲ行フ

（イ）自己ノ管轄地ニ於ケル總テノ企業、營造物及經濟團體及作業ノ行ハレ居ル總テノ場所竝ニ之ニ附屬スル勞働者ノ爲ニ存在スル總テノ設備（住宅、病院、托兒所、浴場其他）ヲ晝夜隨時ニ臨檢スルコト

（ロ）企業、營造物及經濟團體ノ所有者若ハ管理人ヨリ必要ナル說明竝ニ總テノ必要ナル帳簿、書類及報告ノ提出ヲ要求スルコト

（ハ）企業ノ全部若ハ其ノ一部分ノ始業許可ニ關シ決定ヲ與フルコト

（ニ）國家的公共的及個人的營造物、企業、經濟團體及個人ニ對シ其ノ發見シタル勞働保護ノ範圍內ニ於ケル違反其ノ他不備ノ點ヲ除外セシムル爲メ拘束力ヲ有スル訓令ヲ發スルコト

（ホ）勞務者ノ生命及健康ノ保護ヲ目的トスル本令、命令、訓令、指令及「ソヴイエト」官憲ノ命令書ノ規定ノ違犯ニ付行政處分又ハ裁判手續ニ依リ責任ヲ問フコト

第百四十九條　前諸條ニ揭ケタル手段ノ外勞働監督機關ハ特別ノ法律訓令若ハ勞働部及其ノ地方機關ノ決定及指令ニ依リ規定セラレ居ラサル場合ト雖直接勞働者ノ生命及健康ヲ危クスル條件ヲ除去スル爲メ非常手段ヲ講スル權限ヲ有ス

第百五十條　勞働部ノ衛生及技術監督官ハ職業上ノ衛生、工場ノ衛生及技術上ノ安全ニ關スル指令、規則及決定ノ正確ナル適用ト實行トヲ監督スル責任ヲ有ス

第十五章　企業、營造物及經濟團體內ニ於ケル勞働者及從業員ノ職業（生產的）組合及其ノ機關

第百五十一條　國家的公共的及個人的企業、營造物及經濟團體ニ於テ雇傭關係ニ依リ勞働ニ從事スル人民ノ聯合タル職業（生產的）組合ハ團體契約ヲ締結セル當事者ノ一方トシテ雇傭ニ依ル勞働者ノ名ニ於テ各種ノ機關ニ對シ行動シ竝ニ其ノ勞働及生活ニ關スル總テノ問題ニ付勞働者ヲ代表スル權限ヲ有ス

第百五十二條　此等團體ノ當該大會ニ於テ定ムル原則ニ基キ組織セラルル職業（生產的）組合ハ會社及組合ノ爲メ定メタル登錄ヲ國家機關ニ於テ爲スヲ要セス而シテ此等職業組合全露大會ニ於テ定ムル手續ニ依リ同組合ヲ統一スル聯合機關ニ登錄スルモノトス

第百五十二條ニ從ヒ聯合機關ニ登錄セラレ且當該職業（生產的）組合ニ於テ承認セラレタルモノ

第百五十四條　職業生產的組合ハ左ノ權利ヲ有ス

（イ）財產ヲ取得シ及之ヲ所有スルコト

（ロ）現行法律ノ規定ニ基キ總テノ種類ノ契約取引其ノ他ヲ取極ルコト

備考　職業（生產的）組合ノ有スル總テノ權利ハ同組合ノ聯合團體ニモ之ヲ附與ス

第百五十五條　露西亞社會主義聯邦「ソヴイエト」共和國憲法第十六條ノ規定ニ依リ總テノ國家的機關ハ職業（生產的）組合及其ノ聯合團體ニ對シ勞働會館職業組合用家屋建設ノ爲備附アル建物ヲ提供シ、郵便、電信、電話、鐵道及水路ニ依ル交通機關等ヲ利用スル特權ヲ提供シ以テ凡ユル援助ヲ與フル義務ヲ有ス

第百五十六條　企業、營造物若ハ經濟團體ニ於ケル職業組合ノ基礎機關ハ勞働者及從業員ノ委員會（製造工場、鑛山、建築、地方其ノ他ノ諸委員會）若ハ委員會ニ代ル組合ノ代表議員ナリトス

備考一　當該企業、營造物、若ハ經濟團體ノ勞働者カ委員會ヲ選擧スル方法ハ當該職業（生產的）組合ニ於テ之ヲ定ム

備考二　陸軍及海軍部ニ於テハ勞働者及從業員委員會ハ勞働部カ軍事革命委員會及職業組合全露中央「ソヴイエト」ト協議ニ依リ定ムル特別ノ決定ニ基キ之ヲ組織シ且行動ス

第百五十七條　本法第五十六條ニ規定セラレ且當該職業（生產的）組合ニ於テ承認セラレタルモノ

以外ハ企業、營造物、若ハ經濟團體ニ於ケル如何ナル他ノ委員會ト雖第百五十八條乃至第百六十條ニ依リ附與セラレタル權利ヲ行使スルコトヲ得ス

第百五十八條　委員會（第百五十六條）ハ左ノ權限ヲ有ス

（イ）勞働者ノ勞働及生計ノ諸條件問題ニ關シ其ノ企業、營造物及經濟團體ノ管理部ニ對シ委員會ニ依リ統一セラルタル勞働者及從業員ノ利益ヲ代表シ且擁護スルコト

（ロ）政府及公共機關ニ對スル關係ニ於テ代表者タルコト

（ハ）企業、營造物若ハ經濟團體管理部ニ於ケル勞働保護、社會保險及賃銀支拂ニ關スル決定ノ標準、衞生及技術上ノ安全規則其ノ他ノ正確ナル實行ヲ監視シ竝ニ勞働保護ニ關スル國家機關ト協力スルコト

（ニ）勞働者及從業員ノ文化的及物質的狀態ヲ改善スヘキ手段ヲ講スルコト

（ホ）國家企業ニ於ケル順當ナル生產力ヲ協助シ且當該從業（生產的）組合ヲ通シテ國民經濟ノ調節ト組織ニ參加スルコト

第百五十九條　委員會ノ選擧及其ノ事務ノ開始ニ關シテハ管理部ニ通告スルモノトス

委員會ノ事務ヲ行フ爲メ日常ノ作業ヲ免除セラルル勞働者及從業員委員會ノ委員數ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ定ム

企業、營造物若ハ經濟團體ニ於ケル勞働者ノ總數	全就業時間中仕事ヲ免除セラルル委員ノ數
三百名以下	一名以下
三百名乃至一千名	二名以下
一千名乃至五千名	三名以下
五千名以上	五名以下

委員會委員ノ就業免除ハ委員會ノ決定ニ基キ管理部ニ於テ之ヲ定ム

第百六十條　委員會ニ於ケル日常ノ事務ヲ行フ爲メ就業免除ノ委員會委員ニ對シテハ本人ノ該當豫定ニ關シテモ亦同シク通告スルヲ要ス

但シ此ノ場合ニハ當該賃銀率ヨリ少カルヘカラス就業ヲ免除セラレタル委員會委員ハ代表期終了後ニ於テ選擧前ニ存在シタル雇傭契約及委員在任中契約ニ加ヘラレタル變更ニ基キ當該企業營造物若ハ經濟團體ニ於ケル勞働者及從業員ノ賃銀總額ノ百分ノ二ヲ超過セサルモノトス

第百六十一條　企業、營造物及謀濟團體ノ管理部ハ該委員會及委員會ヲ選擧スル組合及代議員會）ノ行動ニ對シ何等ノ妨害ヲ爲スヘカラス即チ

（イ）總會及代議員會ハ通常勞働時間以外ニ於テ開催ス例外ノ場合ニ於テノミ委員會ノ總テノ委員ハ管理部トノ協定ニ依リ會合ノ爲メ勞働時間中就業ヲ免除セラルル

（ハ）勞働者及從業員ノ採用ニ關シテハ管理部ハ三日間內ニ委員會ニ通告スルヲ要ス其ノ解雇豫定ニ關シテモ亦同シク通告スルヲ要ス

第百六十二條　勞働者及從業員委員會維持費ハ當該職業組合ノ認可スル豫算ニヨリ企業、營造物若ハ經濟團體ノ管理部ニ於テ支辨ス其ノ率ハ該企業、營造物若ハ經濟團體ニ於ケル勞働者及從業員ノ賃銀總額ノ百分ノ二ヲ超過セサルモノトス

第百六十三條　第百六十二條ニ指示シタル維持費ノ支出ハ當該職業組合ニテ定メタル方法ニ依リ委員會ニ於テ之ヲ行フ而シテ直接指定シタル以外何等ノ目的ニ使用スルコトヲ得ス

第百六十四條　職業（生產的）組合ハ委員會ノ維持費トシテ企業、營造物若ハ經濟團體ノ管理部ニ對シ適時資金ノ拂込ヲ要求シ且其ノ收支ヲ適當ニ監督スル權限ヲ有ス

第百六十五條　企業、營造物及經濟團體ノ管理部ハ該委員會竝ニ委員會ニ依リ統一セラルル勞働者ノ總會及代議員會ノ集會用トシテ凡ユル設備暖房及燈火付ノ必要ナル建物ヲ無料ニテ提供シ且委員會ノ仕事ノ爲メハ同建物ニ自由ニ出入スルコトヲ許可スルコトヲ要ス

第百六十六條　職業組合ノ管理部員及特別委任ニ依ル代表者竝ニ委員會委員（第百五十一條及第百五十六條）ハ企業、營造物若ハ經濟團體ニ於

（ロ）委員會ノ會合モ亦一般規則トシテ勞働時間以外ニ於テ開催ス例外ノ場合ニ於テノミ委員會ノ總テノ委員ハ管理部トノ協定ニ依リ會合ノ爲メ勞働時間中就業ヲ免除セラル

（ハ）勞働者及從業員ノ採用ニ關シテハ管理部ハ三日間內ニ委員會ニ通告スルヲ要ス其ノ解雇豫定ニ關シテモ亦同シク通告スルヲ要ス

第百六十二條　勞働者及從業員委員會維持費ハ當該職業組合ノ認可スル豫算ニヨリ企業、營造物若ハ經濟團體ノ管理部ニ於テ支辨ス其ノ率ハ該企業、營造物若ハ經濟團體ニ於ケル勞働者及從業員ノ賃銀總額ノ百分ノ二ヲ超過セサルモノトス

第百六十三條　第百六十二條ニ指示シタル維持費ノ支出ハ當該職業組合ニテ定メタル方法ニ依リ委員會ニ於テ之ヲ行フ而シテ直接指定シタル以外何等ノ目的ニ使用スルコトヲ得ス

第百六十四條　職業（生產的）組合ハ委員會ノ維持費トシテ企業、營造物若ハ經濟團體ノ管理部ニ對シ適時資金ノ拂込ヲ要求シ且其ノ收支ヲ適當ニ監督スル權限ヲ有ス

第百六十五條　企業、營造物及經濟團體ノ管理部ハ該委員會竝ニ委員會ニ依リ統一セラルル勞働者ノ總會及代議員會ノ集會用トシテ凡ユル設備暖房及燈火付ノ必要ナル建物ヲ無料ニテ提供シ且委員會ノ仕事ノ爲メハ同建物ニ自由ニ出入スルコトヲ許可スルコトヲ要ス

第百六十六條　職業組合ノ管理部員及特別委任ニ依ル代表者竝ニ委員會委員（第百五十一條及第百五十六條）ハ企業、營造物若ハ經濟團體ニ於

ケル總テノ工作場、職工組合、支部、實驗室等ニ自由ニ出入スル權利ヲ有ス

第百六十七條　本法第十五章ニ規定スル企業、營造物及經濟團體內ニ於ケル勞働者及從業員ノ職業（生產的）組合及其ノ機關ニ關スル規則ニ違反スル者ハ露西亞社會主義聯邦「ソヴイエト」共和國刑法第百三十五條ニ依リ處罰ス

第十六章　爭議解決及勞働ニ關スル法規違反事件審理機關

第百六十八條　勞働ニ關スル法規違反事件竝ニ雇傭勞働適用ニ關シ發生スル總テノ爭議ハ人民裁判所ノ特別法廷ニ於ケル强制的手續又ハ評價爭議委員會、調停委員會及爭議當事者ノ同數代表者ニ依リ組織セラルル仲裁裁判所ニ於ケル仲裁手續ニヨリ解決ス前記ノ機關ハ凡テ各特別ノ規程ニ基キ行動スルモノトス

第百六十九條　勞働法、勞働ニ關スル其他ノ凡テノ法規竝ニ團體契約ノ違反ニシテ刑事手續ニ依リ追訴ヲ受クヘキモノハ凡テ人民裁判所ノ特別法廷ニ於テ審理ス同法廷ハ議長タル人民判事及委員二名ヲ以テ構成ス委員ノ一名ハ勞働部代表者トシ他ノ一名ハ職業組合團體ノ代表者トス

雇傭主ト勞働者及從業員間ノ總テノ單獨的及委員的ノ爭議ニシテ若シ之ヲ調停委員會ニ附セラルトキハ前記人民裁判所ノ特別法廷ニ於テ審理スルコトヲ得

第百七十條　調停委員會及仲裁裁判所ニ於テハ左ニ揭クル事件ヲ取扱フコトヲ得

（イ）團體契約若ハ賃銀取極ノ締結、實行、解釋及修正ニ關スル一切ノ爭議

（ロ）勞働契約ニ關シ兩當事者間ニ發生スル一切ノ爭議ニシテ當事者雙方カ此解決法ニ對シ同意スル場合但シ第百六十九條第一項ニ規定シタル爭議ヲ除ク

第百七十一條　事件ハ當事者雙方ノ同意ニヨリ調停委員會ニ附ス、團體契約ノ實施ニ關係アル事件ハ評價爭議委員會ニ於テ審理セラレタルモ解決ヲ得サリシ場合ニ限リ調停委員會ニ附ス調停委員會ニ於テハ事件ハ當事者雙方ノ合意ニヨリテ解決ス

事件カ調停委員會ニ於テ審理セラレタルト否トヲ問ハス當事者雙方ノ同意ニヨリ之ヲ仲裁裁判ニ附ス國家營造物及企業營造物若ハ經濟團體又ハ私人ノ下ニ雇傭勞働ノ場合ニハ勞働部ノ機關ハ職業組合ノ請求ニ依リ仲裁裁判所ヲ組織ス國家企業及營造物若ハ經濟團體ニハ國家ノ最高機關（全露中央執行委員會、人民委員會議）ノ決定ニ依リテノミ之ヲ許可スルモノトス

第百七十二條　評價爭議委員會ニ於テ審理セラレタル爭議竝ニ特ニ本法ニ規定シタル問題ニ限リ審議ス評價爭議委員會ニ於テハ事件ハ當事者雙方ノ合意ニ依リ之ヲ解決ス若シ當事者ノ合意ナキトキハ該事件ヲ上級機關ニ移スコトヲ得

備考　團體契約ノ本質ニ反スル爭議、團體契約ニ新ナル條件若ハ補足ノ條件ヲ挿入スル要求竝ニ團體契約ノ一部廢棄ノ要求竝ニ團體契約ニ新

求ハ評價爭議委員會ノ權限ニ屬セス

第百七十三條　評價爭議委員會ノ決定、契約ノ效力ヲ有スル調停委員會ノ協定竝ニ仲裁裁判所ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第百七十四條　調停委員會ノ協定ハ當事者自身ニ於テ之ヲ實行スルモノトス雇傭主カ仲裁裁判所ノ決定ヲ任意ニ履行スルコトヲ希望セサル場合ニハ同裁判所ノ決定ハ之ヲ勞働部ノ機關ヲ經テ人民裁判所ニ移ス人民裁判所ハ二十四時間以內ニ强制手續ニ依ル右決定ノ實行ニ關スル記入ヲ爲ス

勞働者ニ關シテハ仲裁裁判所ノ決定ハ職業組合ニ於テ之ヲ實行ス

第十七章　社會保險

第百七十五條　社會保險ハ國家、公共、「コオペラチーヴ」、利權、租借、合辨若ハ個人經營ノ企業營造物若ハ經濟團體又ハ私人ノ下ニ雇傭勞働ニ從事スル總テノ人々ニ對シ其ノ仕事ノ性質及繼續期間竝ニ賃銀支拂ノ方法ニ關係ナク之ヲ適用スルモノトス

第百七十六條　社會保險ハ左ニ揭クル事項ヲ包含ス

（イ）醫療上ノ援助ヲ與フルコト

（ロ）一時的勞働不能（疾病、不具、檢疫、妊娠、分娩、家族ノ病人看護）ニ際シ手當ヲ交附スルコト

（ハ）補足ノ手當ヲ交附スルコト（例ヘハ幼兒ノ養育、病人看護、埋葬ノ爲）

（ニ）失業ニ際シ手當ヲ交附スルコト

(ホ)不具癈疾ニ際シ手當ヲ交附スルコト
(ヘ)雇傭ニヨル勞務者ノ死亡若ハ扶養者失踪ノ場合ニ其ノ家族ニ對シ手當ヲ交附スルコト

第百七十七條　社會保險實施ノ爲、交附セラルル賃銀ノ一定率ノ保險料ヲ拂込ムモノトス保險料ノ率ハ其ノ企業ノ健康ニ有害ナルコト及危險ノ程度ニ依リ人民委員會議ノ特別ノ決定ヲ以テ之ヲ定ム

備考　保險基本金ハ嚴ニ勞働者及從業員ノ保障ノ爲ニノミ使用シ如何ナル他ノ必要ノ爲ニモ之ヲ支出スルコトヲ得ス

第百七十八條　保險料ハ雇傭勞働ヲ利用スル企業、營造物、經濟團體若ハ私人ニ於テ拂込ムモノニシテ之ヲ被保險者ヨリ取立又ハ賃銀ヨリ差引クコトヲ得ス

第百七十九條　總テノ被保險者ハ其ノ原因ニ關係ナク一時的勞働不能(第百七十六條ノ(ロ))トナリタル場合ニハ手當交附當時該企業若ハ營造物ニ於ケル相當等級ノ賃銀率ノ範圍ニ於テ手當ヲ受クルモノトス且如何ナル場合ニ於テモ右手當ハ勞働不能トナリタル當時本人カ實際受ケタル賃銀ヨリ少カルヘカラス

第百八十條　一時的勞働不能ニ依ル手當ハ勞働不能トナリタル日ヨリ其ノ回復ノ日若ハ不具癈疾ト確定シタル日迄交附スルモノトス

第百八十一條　姙娠及分娩ニ對スル手當ハ被保險者ニ對シ本法第百三十二條及同條備考ニ規定シタル休暇期間中之ヲ交附ス

第百八十二條　社會保險中央機關ハ資金ノ不足シタル場合ニハ一時的勞働不能者ニ交附スル手當(第百七十九條)ノ率ヲ臨時減額スルコトヲ得但シ當該種類ノ賃銀率ノ三分ノ二以下タルコトヲ得ス

第百八十三條　嬰兒出産ノ場合ニハ被保險者及其妻ニ對シ第百八十一條ニ規定シタル手當以外ニ出生シタル嬰兒世話料トシテ當該地方ニ於ケル平均一ケ月分ノ賃銀ノ範圍ニ於ケル一時的補足手當並ニ嬰兒ノ養育料トシテ當該地方ニ於ケル平均一ケ月分ノ賃銀ノ四分ノ一ノ範圍ニ於ケル手當ヲ交附ス養育手當ハ嬰兒出生ノ日ヨリ九ケ月間毎月之ヲ交附ス

第百八十四條　被保險者及被保險者ノ扶養ヲ受クル勞働不能ノ家族ノ埋葬ニ對スル手當ハ普通市民ノ葬儀ニ要スル平均費用ノ範圍ニ於テ之ヲ定ム但當該地方ニ於ケル平均一ケ月ノ賃銀ヨリ多額ナルヲ得ス

第百八十五條　失業手當ハ當該地方ニ於ケル平均賃銀ノ六分ノ一ヲ下ラサル範圍ニ於テ失業者ノ屬スル部類及失業ノ時迄ノ雇傭ニ依ル仕事ノ行程ニ應シ當該機關ニ於テ之ヲ定ム

備考　未成年者ノ失業手當ハ雇傭ニ依ル仕事ノ行程ニ關係ナク本人ノ屬スル種類ニ於テ之ヲ定ム

第百八十六條　失業手當交附ノ期間ハ勞働ノ種類ニ依リ之ヲ定ム

第百八十七條　不具癈疾ニ際シ社會保障ヲ受クルノ權利ハ雇傭勞働ニ從事シ居タルモノニシテ不具、疾病若ハ老衰ノ爲勞働能力ヲ失ヒタル總テノ者ニ於テ之ヲ有ス

養老手當ヲ受クル權利ヲ生セシムル勞働ノ繼續期間ハ人民委員會議ニ於テ之ヲ定ム

第百八十八條　不具癈疾者ニ對スル扶助料交附ノ標準及形式ハ不具癈疾ノ性質、程度及不具癈疾者ノ財産ノ狀態ニ應シ當該機關ニ於テ之ヲ定ム

第百八十九條　雇傭ニ依リ勞働ニ從事スル者カ死亡シ若ハ失踪シテ適當ナル方法ニヨリ之ヲ確證セラレタル場合ニハ充分ナル生計ノ資金ヲ有セス且被保險者ノ扶養ヲ受ケ居タル左ニ揭クル家族ハ社會保障ヲ受クル權利ヲ有ス

(イ)未成年ノ子、兄弟及姉妹ハ十六歲ニ達スル迄
(ロ)勞働不能ノ兩親及配偶者
(ハ)前記家族ニシテ勞働能力ヲ有スルモ八歲以下ノ小兒ヲ有スル者

第百九十條　被保險者死亡若ハ失踪シタル場合ニ被保險者ノ家族ヲ保障スル標準及形式ハ保障セラルヘキ者ノ年齡及財産狀態ニ應シ當該機關ニ於テ之ヲ定ム

第百九十一條　企業、營造物、經濟團體及個人ニシテ其ノ拂込ヲ要スル保險料(第百七十八條)ヲ支拂ハサル場合ニ於テモ雇傭ニ依リ其ノ下ニ勞働スル者ハ本法第百七十六條及其ノ以下ニ規定シタル一切ノ手當ヲ受クル權利ヲ失フコトナシ

第百九十二條　本法竝ニ其ノ他ノ法令ニ依リ定メタル社會保險ニ關スル規則ニ違反シタル者ハ刑法ノ當該條項ニ依リ刑事上ノ責任ヲ負フモノトス

千九百二十三年十月三十日莫斯科「クレムリン」

全露中央執行委員會議長
エム・カリーニン
勞働人民委員
ヴエ・シユミツド
全露中央執行委員會書記官
ア・エヌキツゼ

勞力雇傭手續ニ關スル規定(全露中央執行委員會及露西亞共和國人民委員會議決定)

千九百二十五年一月二日附「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦中央執行委員會及人民委員會議決定(一九二五年法令集第二號第十五項)ニ基キ且法典改訂手續ニ關スル第十回「ソヴイエト」大會ノ全露中央執行委員會第二回會議ノ決定(一九二三年法令集第五十四號第五百三十七項)第二條ノ規定ニ從ヒ全露中央執行委員會及露西亞社會主義聯邦「ソヴイエト」共和國人民委員會議ハ左ノ通リ決定ス

第一條　勞働法第五條乃至第十條ニ規定セル勞働人民委員部ノ機關即勞働取引所ヲ經テ爲ス勞力ノ義務的雇傭及提供ノ手續ハ之ヲ癈止ス

第二條　總テノ企業、營造物、經濟團體(國家、公共及個人的)及個々ノ雇傭者ニヨル勞力ノ雇傭竝ニ就職ハ勞働取引所ヲ經由シ又ハ之ヲ經由セスシテ行フコトヲ得

第三條　調査綜合ノ目的ノ爲メ雇傭者ニ對シ雇傭シタル勞力ニ關シ統計的報告ヲ義務的ニ提出セシム

前項ノ報告提出ノ手續及時期ハ露西亞社會主義聯邦「ソヴイエト」共和國勞働人民委員部之ヲ定ム

第四條　勞力ノ雇傭及求職ニ關スル仲介ハ專ラ露西亞社會主義聯邦「ソヴイエト」共和國勞働人民委員部ノ機關之ヲ行フモノトス

第五條　露西亞社會主義聯邦「ソヴイエト」共和國勞働人民委員部ニ對シ本決定ニヨリ定メタル勞働取引所ノ組織ヲ改ム

勞働取引所ノ組織及執務規定ハ露西亞社會主義聯邦「ソヴイエト」共和國勞働人民委員會議長之ヲ定メ又ハ之ヲ變更ス

備考　左記各項ハ評價爭議委員會ノ權限外トス

イ、團體契約ノ本質ニ反スル爭議、同契約ノ一部廢止ノ要求竝ニ團體契約又ハ賃銀率協定ニ新條件又ハ追加條件ヲ挿入スル要求

ロ、勞働法規及社會保險規則違反ノタメ生シタル事件

第四條　內部管理規則案ノ作成ハ評價委員會ノ職權ニ屬ス

第三章　評價爭議委員會ノ組織

第五條　評價爭議委員會ハ對等權ヲ原則トシ左記代表者ノ平等ナル數ヲ以テ組織セラルルモノトス

一、組合（工場委員會、地方委員會　代表者

二、企業又ハ營造物ノ管理部代表者

團體契約ニ特記シアラサルトキハ各企業ノ代表者ノ數ハ雙方ノ協定ニヨリテ定ム

備考一　各種工場及各分科ヲ多數ニ有スル大規模ノ企業ニアリテハ對等權ヲ原則トナシ各工場毎ニ評價爭議委員會ヲ組織シ勞働及職業ノ等級別分類及標準檢査請負仕事ノ評價等ノ審査ヲナスヲ得

右委員會ノ事務ハ一般工場評價爭議委員會ニヨリ審査セラレ且裁可セラルルモノトス

備考二　三十名以下ノ勞働者及從業員ヲ有スル企業及營造物ニアリテハ勞働者側ヲ代表スル評價爭議委員會ノ委員ノ任務ハ組合ニ於ケル勞働者代表者（全權委員）ニ於テ負フモノトス

イ、團體契約ノ本質ニ反スル爭議、同契約ノ一部廢止ノ要求竝ニ團體契約又ハ賃銀率協定ニ新條件又ハ追加條件ヲ挿入スル要求

ロ、勞働法規及社會保險規則違反ノタメ生シタル事件

第六條　雙方各自ノ議長一名、書記一名ヲ選出ス

評價爭議委員會ノ會議ニアリテハ議長及書記ノ任務ハ雙方ノ代表者カ順番ニ實行スルモノトス

但シ同一會議ニ於ケル議長及書記ノ任務ハ一方ノ代表者カ實行スルコトヲ得ス

第七條　評價爭議委員會ノ會議ハ公開ニテ行ハルルモノトス秘密會ノ開會ハ其都度委員會ノ決議ニヨリ行ハルルモノトス

備考　評價爭議委員會ノ雙方ハ當該企業ニ勞働セサル者ト雖モ鑑定人及專門家トシテ雙方ニ於テ實行ノ義務ヲ負ヒ且異議申出ヲ許ス受ケタル者ハ議決權ヲ有ス

第四章　評價爭議委員會ノ事務細則

第八條　評價爭議委員會ニ提出セラレタル問題ハ評價爭議委員會ニ於テ審議セラレ其決議ハ議長及書記ノ署名セル調書ニ作成シ二日以內ニ見易キ場所ニ揭ケテ一般ニ公示スル事ヲ要ス

第九條　評價爭議委員會ノ會議ハ一週間ニ一回以上開會セラレ爭議ノ性質ヲ有スル事件ハ其評價爭議委員會ニ提出セラレタル時ヨリ二十四時間以內ニ組合機關又ハ工場管理部ヨリ評價爭議委員會ノ再審議ニ附スルコトヲ得此場合ニハ多數決ニヨラス雙方ノ協定ニヨリ決定スルモノトス

第十一條　本條第三、第四條ニ記載シタル諸問題ハ雙方ノ協定ニヨリテノミ解決セラルヽモノトス

第十二條　評價爭議委員會ニテ決定セラレサリシ諸問題ハ爭議ノ狀態ノ儘爭議ニ關スル規定ノ規則ニヨリ解決ノタメ組合ヲ經テ廻付セラルルモノトス

第十三條　評價爭議委員會ノ決定ニシテ雙方ノ協定ニヨリ承諾サレタルモノハ決定的ノモノニシテ雙方ニ於テ實行ノ義務ヲ負ヒ且異議申出ヲ許サレサルモノトス

備考　評價爭議委員會ノ決定ニシテ法ニ違反スルモノハ無效トス勞働部ノ機關ハ書類ヲ以テ其理由ト法律違犯ノ點トヲ指示シテ評價爭議委員ニ通報シ決定ノ再審議ヲ勸告ス

第十四條　評價及爭議委員會ニテ爭議審査ノ際刑法ニ規定スル行爲ヲ發見セハ直ニ刑事々件ヲ分離シ人民裁判所ニ廻付スルモノトス

第十五條　評價爭議委員會委員ノ事務ハ勞働時間中ニ行ハレ企業又ハ營造物ハ自己ノ負擔ヲ以テ賃銀率ニヨル委員ノ平均賃銀ヲ下ラサル金額ヲ支拂フモノトス

勞働人民委員　ヴエ・シユミツド
同　爭議課長　ア・ストバニ

（一九二二年十一月二十二日、新聞勞働第二六三號ヲ以テ公布ス）

季節的勞働ノ勞働條件ニ關スル「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦中央執行委員會及人民委員會議ノ決定

「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦中央執行委員會及人民委員會議ハ左ノ通決定ス

第一條　季節的勞働トハ自然的又ハ氣候的條件ニ因リ週年行フヲ得ス且六ケ月ヲ超ヘサル一定ノ期間（季節）行ハルル勞働ヲ謂フ

備考　國民經濟ノ各部門別ニ依ル季節的勞働表ハ關係官廳之ヲ作成シ「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦勞働人民委員部ニ於テ聯邦職業同盟本部ト協議ノ上之ヲ認可ス

地方ノ事情ニ依リテハ關係國家機關カ作成シ當該共和國ノ勞働人民委員部カ當該共和國職業同盟本部ト協議シテ認可スル季節勞働追加表（鐵道、運輸、通信ニ關スルモノヲ除ク）ヲ定ムルコトアルヘシ

第二條　雇傭ニ依リ季節的勞働ニ從事スル者ニ對シテハ本決定ニ定ムルモノヲ除キ勞働ニ關スル一般法令ヲ適用ス

第三條　季節的勞働ニ於ケル勞働條件ハ當該企業機關又ハ經濟單位ニ於テ行ハレ居ル團體契約（「タリーフ」契約）ニ於テ之ヲ定メタル場合其ノ範圍內ニ於テ右契約ニ依リ調整セラルヘシ

季節的勞働ニ於ケル勞働條件ハ右ノ外各個ノ團體契約（「タリーフ」契約）ニ依リテ調整スルコトヲ得

第四條　季節的勞働ニ對スル雇傭ノ場合ニ於ケル勞働契約ハ（イ）全季節（ロ）特定ノ期間（ハ）何等カノ業務完成ニ要スル期間及（ニ）不定ノ期間ヲ以テ之ヲ締結スルコトヲ得

第五條　一時勞働ナキ場合ニ於テハ雇傭勞働者ヲ他ノ業務ニ就カシムルコトヲ得右ノ場合ニ於テ臨時勞働ニ對スル賃銀カ從前ノ賃銀ヨリ少ナキトキハ該勞働者ノ爲二週間從前ノ賃銀ヲ保留スヘシ

第六條　勞働契約ハ當事者ノ合意ニ依リ又ハ雇傭期間ノ滿了若ハ契約所定ノ業務完成ニ依リテ終了ス但シ如何ナル場合ニ於テモ季節終了ヨリ遲カラサルヲ要ス

第七條　勞働契約ハ被雇傭者ニ對シ三日ノ豫告ヲ以テ之ヲ解除スルコトヲ得

第八條　勞働契約ハ左記各號ノ場合ニ於テ雇傭者之ヲ解除スルコトヲ得

（イ）企業、機關又ハ經濟單位ノ全部的若ハ一部的淸算又ハ其ノ事業ノ縮少ノ場合

（ロ）生產的性質ノ理由ニ因リ二週間以上事業休止ノ場合

（ハ）被雇傭者ノ作業ニ適セサルコト發見セラレタル場合

（ニ）被雇傭者カ契約又ハ內部管理規則ニ依リ課セラレタル義務ヲ正當ナル事由ナク組織的ニ履行セサリシ場合

（ホ）被雇傭者カ其ノ業務ニ直接關聯シテ行ヒタル行爲ニ付刑事上ノ責任ニ問ハレタルカ又ハ被雇傭者カ二週間以上在監スル場合

（ヘ）被雇傭者カ正當ノ理由ナク一ケ月三日以上休業シタル場合

（ト）被雇傭者カ勞働能力ノ一時的喪失ニ因リ一ケ月以上休業シ又ハ其他ノ正當ノ理由ニ因リ二週間以上休業シタル場合

備考第一　季節的勞働ニ雇傭セラレタル者カ實際ニ一ケ月以下勞働スル場合ニ本條ニ列擧シタル事由アリタルトキハ豫メ、評價爭議委員會ノ決定ヲ受クルヲ要セス但被雇傭者ハ爭議手續ニ依リ解雇ニ付キ爭フ權利ヲ有ス

備考第二　不當解雇ニ關スル異議ハ解雇ノ日ヨリ一ケ月以內ニ之ヲ申立ツルヲ要ス

第九條　不當勘定ニ關スル請求ハ解雇後最終決算ノ行ハレタル日ヨリ三ケ月以內ニ之ヲ申立ツルヲ要ス

第十條　季節的勞働ニ於ケル成年勞働者ノ勞働時間ハ一日八時間ト定ム但シ地下又ハ不健康ナル勞働ニ從事スル勞働者ニ付テハ右ニ關スル現行規則ニ依リ勞働時間ヲ相當短縮スヘシ事務員及智的勞働者ニ付特ニ規定アル場合亦同シ

季節的勞働ニ於テ自然的又ハ技術的條件ニ因リ一定ノ期間特ニ强行勞働ヲ必要トスル場合ニ於テハ雇傭者ト當該職業同盟ト協議ノ上相當賃金ヲ增加シテ一定期間勞働時間ヲ延長スルコトヲ得延長シタル勞働時間及其ノ適用ノ期間竝ニ賃金ノ額及支拂手續ハ雇傭者職業同盟ト協議ノ上

之ヲ定ムヘシ勞働時間ヲ延長シ得ヘキ勞働ノ表ハ「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦勞働人民委員部、聯邦職業同盟本部ト協議ノ上之ヲ定ム

第十一條　十六歳以上十八歳未滿ノ未成年者ノ勞働時間ハ六時間ヲ又勞働從事ヲ許可サレタル十四歳以上十六歳未滿ノ未成年者ノ勞働時間ハ四時間ヲ超ユルヲ得ス

勞働時間ノ延長ヲ實施シ居ル季節的勞働（第十條）ニ於ケル未成年勞働者ノ勞働時間ニ付テハ成年勞働者ノ勞働時間ノ延長ニ相當シタル時間ヲ增加スルモノトス

第十二條　超過勞働ハ「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦勞働人民委員部及聯邦各共和國勞働人民委員部ノ定ムル範圍竝ニ規則ニ從ヒテ之ヲ行フコトヲ得

第十三條　女子ハ姙婦及乳兒ヲ有スルモノヲ除キ季節的勞働ノ夜業ニ之ヲ使用スルコトヲ得

第十四條　未成年者ノ短縮勞働時間（四—六時間）ニ對スル賃銀ハ普通勞働時間ニ對スル同額トス未成年勞働者ノ勞働時間ノ延長ノ場合ニ於テハ賃銀ニ對シ相當ノ增額ヲ爲スヘシ

第十五條　被雇傭者カ雇傭者ノ指圖ニ依リ勞働ヲ行ハサリシ場合ニ於テ二週間ヲ超エサル空費時間ニ對スル賃銀ハ賃銀率表ノ定額ニ依リテ支拂フヘシ其他被雇傭者カ自己ニ由因セサル理由ニ因リ勞働ヲ行ハサリシカ又ハ被雇傭者カ雇傭者ノ指圖ニ依リ二週間以上勞働ヲ行ハサリシ場合ニ於テハ空費時間ニ對スル賃銀額ハ當事者ノ協定ニ依ル

第十六條　義務的兵役ニ徵集セラルル者ニ付當該法令ヲ以テ定メタル特典ハ其ノ定ムルトコロニ從ヒ季節的勞働ニ從事スル者ニ之ヲ適用ス但シ左ノ事項ニ付テハ此ノ限ニアラス

（イ）職及所定額ノ賃銀ハ一ケ月以內之ヲ維持スヘク其ノ期間ハ如何ナル場合ニ於テモ第六條ニ揭クル期間ヲ超ヘサルモノトス

第十七條　雇傭者ハ被雇傭者カ職業同盟又ハ「コーペラチーヴ」機關ノ召集ニ係ル大會、地方會代表評議會ニ代表者ノ資格ヲ以テ參加ノ爲メ勞働ヲ離ルル期間ニ對シ賃銀ヲ支拂フヲ要セス

第十八條　雇傭者ノ指圖ニ依リ被雇傭者カ一定ノ勞働場所ニ移轉スルトキハ移轉費ハ被雇傭者ニ對シ之ヲ支給スヘシ移轉期間ノ賃銀亦同シ但シ其ノ金額ハ當事者ノ合意ニ依ルヘシ其ノ他種類ノ報償金ハ當事者ノ合意ニ依ル

第十九條　被雇傭者ニ屬スル器具ノ損傷ニ對スル代償ハ當事者ノ合意ニ依リ賃金中ニ包含セシムルコトヲ得

第二十條　機關、企業又ハ經濟ノ清算操業短縮若ハ二週間以上ニ亙ル休業（第八條イ號及ロ號）ニ因リ解雇セラルル者ニシテ一ケ月以上勞働シタルトキハ解雇ノ一週間前之カ豫告ヲ受クルモノトス豫告ナクシテ解雇セラレタル場合ニ於テハ平均賃銀ノ一週間分ニ相當スル解雇手當ヲ受クルモノトス其他ノ解雇ノ場合（季節終了ノ場合ヲ含ム）ニ於テハ解雇ノ豫告及解雇手當ノ支給ハ之ヲ爲スヲ要セス

雇傭者カ共負擔ニ屬スル義務ニ違反セル爲メ被雇傭者ニ於テ契約ヲ解除シタル場合ニ於テハ被雇傭者ハ平均賃銀ノ一週間分ニ相當スル解雇手當ノ支給ヲ求ムルコトヲ得

第二十一條　季節勞働ニ從事スル者ハ休暇又ハ其ノ代償ヲ求ムルヲ得ス

第二十二條　季節勞働ニ從事スル者ノ社會保險ニ付テハ勞働及國防會議ノ特別決定ニ依ル

第二十三條　本決定ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス聯邦ノ共和國中央執行委員會ハ本決定全部ヲ其ノ勞働法典ニ含マシムヘシ

千九百二十六年六月四日莫斯科「クレムリン」ニ於テ

「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦中央執行委員會議長　エム・カリーニン
同　人民委員會議長代理　ウェ・クイブイシエフ
同　中央執行委員會書記官　ア・エヌ・キツゼ

臨時勞働者竝ニ從業員ノ勞働條件

一九二七年一月十四日附ソヴイエト社會主義共和國聯邦中央執行委員會及人民委員會會議決定

「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦中央執行委員會及人民委員會會議ハ左ノ通リ決定ス

第一條　臨時勞働者並ニ從業員ト認ムルモノハ左ノ如シ

（イ）二箇月ノ範圍內ニ於テ一定期間ヲ定メ雇傭セラルルモノ又ハ二箇月ヲ超エサル期間內ニテ期間ヲ定メス雇傭セラルル勞働者並ニ從業員

（ロ）法律的根據ニヨリ自己ノ職責ノ保留サレアル一時休職中ノ勞務者ノ代理トシテ二箇月ヲ超ユルモ四箇月以內ノ範圍ニ於テ雇傭セラルル勞働者並ニ從業員

第二條　臨時勞働者並ニ從業員トシテ雇傭セラルルモノニ對シテハ勞働契約締結ノ當初ニ於テ其旨豫告スルコトヲ要ス

第三條　臨時勞働者並ニ從業員ニ對シテハ本決定ノ以下逐條項目ニ規定セラレタル例外ヲ除キ一般勞働法規ノ效力ヲ適用ス

第四條　當該企業、營造物或ハ經濟團體ニ於ケル現行團體契約（賃銀協定）ハ本協定ニ規定セル場合並ニ範圍內ニ於テノミ臨時勞働者並ニ從業員ニ適用サルルモノトス

第五條　臨時勞働者並ニ從業員ニ對シテハ雇傭期間ノ如何ニ拘ラス若シ二週間以上雇傭セラレタルカ又ハ實際二週間以上勞働セル場合ニハ賃銀帳ヲ交附セラル

第六條　被雇傭者ハ作業退去前一晝夜ノ間ニ雇傭者ニ豫告シテ勞働契約ヲ解除スルコトヲ得

第七條　臨時勞働者並ニ從業員ヲ一定期間雇傭スルニ當リ雇傭者ハ左記ノ場合勞働契約ヲ解除スルコトヲ得

（イ）企業、營造物或ハ經濟團體ノ全部若ハ一部整理又ハ企業、營造物或ハ經濟團體ニ於ケル事業縮少ノ場合

（ロ）生產的性質ヲ有スル原因ニ依リ企業或ハ經濟團體カ一週間以上事業ノ休止ヲ爲ス場合

（ハ）被雇傭者カ雇傭セラレタル作用ニ不適當ナルコト判明シタル場合

（ニ）被雇傭者カ勞働契約ニヨリ課セラレタル義務或ハ內部管理規則ヲ履行セサル場合

（ホ）被雇傭者カ直接自己ノ作業ニ關聯シテ行ヒタル行爲ニ對シ當該官憲機關ニヨリ刑事上ノ責ニ問ハレタル場合又ハ被雇傭者カ一週間以上拘禁セラレタル場合

（ヘ）被雇傭者カ正當ノ理由ナクシテ一箇月ニ三日以上休業シタル場合

（ト）被雇傭者カ一時的勞働能力喪失ノ爲メ一週間以上休業シタル場合或ハ其他ノ正當ナル理由ニヨリ三日以上連續休業シタル場合ニ於テハ解雇ニ際シ豫メ評價爭議委員會（PKK）ノ決定ヲ要セサルモ被雇傭者ハ爭議手續ニヨリ解雇ニ對シテ訴願ヲ爲スノ權利ヲ有ス但シ不當解雇ニ對スル訴願ハ解雇ノ日ヨリ二週間以內ニ提出スルヲ要ス

第八條　一定期間雇傭シタル臨時勞働者並ニ從業員ヲ企業、營造物、經濟團體ノ閉鎖、事業縮少或ハ一週間以上ニ亙ル事業休止（第七條（イ）（ロ）項）ニヨリ解雇スル場合ニハ雇傭者ハ解雇前三晝夜迄ニ豫告ヲ爲スヲ要ス、豫告ナカリシ場合ニハ平均賃銀ノ三日分ニ相當スル解雇手當ヲ支給スル可キモノトス

一定期間雇傭シタル臨時勞働者並ニ從業員ノ其他ノ解雇ノ場合（第七條（ハ）（ニ）（ホ）（ヘ）（ト）項）ニハ解雇ニ關スル豫告或ハ解雇手當ヲ支給スルヲ要セス

第九條　臨時勞働者並ニ從業員ヲ不定期間ニテ雇傭シタル場合ニハ雇傭者ハ解雇前一晝夜ノ豫告ヲ以テナスカ或ハ豫告セサル時ハ平均賃銀一日分ヲ支拂ヒ理由ヲ說明スルコトナク何時タリトモ契約ヲ解除スルノ權利ヲ有ス

第十條　雇傭者カ自己ニ引受ケタル義務違背ノ結果勞働契約ヲ解除シタル時ハ被雇傭者カ一ケ月以上ノ一定期間雇傭セラレタル場合平均賃銀三日分ニ相當スル解雇手當、其ノ他ノ場合ニ於テハ平均賃銀一日分ニ相當スル解雇手當ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第十一條　臨時勞働者並ニ從業員ノ作業カ一週間以上繼續シタル場合ニハ之カ賃銀ハ被雇傭者ノ要求ニヨリ一週間一回以上支拂フ可キモノトス

備考　本條規定ハ一時休職中ノ勞務者ノ代理トシテ雇傭セラレタルモノ（第一條（ロ）項）ニハ適用セサルモノトス

第十二條　賃銀精算ノ不當ニ關スル異議ハ最終決算ノ行ハレタル日ヨリ一ケ月以內ニ之ヲ申立ツルヲ要ス

第十三條　雇傭期間ノ六日以上ニ亙ラサル時ニハ此ノ六日ノ範圍內ニ於ケル每週ノ休日、祭日及特別休日ニ於ケル勞働ニ付テハ評價爭議委員會及勞働監督官ノ認可ヲ要セス、且ツ約束賃銀以上ノ高率賃銀ヲ支拂フヲ要セス

此ノ場合ニ於テ又每週ノ休日及祭日ノ前日ニ於ケル勞働時間ノ短縮モ同樣義務的ノモノナラス

第十四條　臨時勞働者並ニ從業員カ雇傭者ノ平均賃銀ノ一週間分ニ相當スル解雇手當ノ支給ヲ求ムルコトヲ得

第二十一條　季節勞働ニ從事スル者ハ休暇又ハ其ノ代償ヲ求ムルヲ得ス

第二十二條　季節勞働ニ從事スル者ノ社會保險ニ付テハ勞働及國防會議ノ特別決定ニ依ル

第二十三條　本決定ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス聯邦ノ共和國中央執行委員會ハ本決定全部ヲ其ノ勞働法典ニ含マシムヘシ

千九百二十六年六月四日莫斯科「クレムリン」ニ於テ

「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦中央執行委員會議長　エム・カリーニン
同　人民委員會議長代理　ウェ・クイブイシエフ
同　中央執行委員會書記官　ア・エヌ・キツゼ

臨時勞働者竝ニ從業員ノ勞働條件

一九二七年一月十四日附ソヴイエト社會主義共和國聯邦中央執行委員會及人民委員會會議決定

「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦中央執行委員會及人民委員會會議ハ左ノ通リ決定ス

第一條　臨時勞働者並ニ從業員ト認ムルモノハ左ノ如シ

中止ノ指圖ニヨリ作業ヲ遂行セサリシ場合一週間以内ノ空過時間ニ對シテハ規定ノ賃銀率ニヨル賃銀ヲ支拂フヘキモノトス

被雇傭者カ自己ニ因由セサル原因ニヨリ作業ヲ遂行セサリシ場合並ニ雇傭者ノ指圖ニヨリ一週間以上作業ヲ遂行セサリシ場合ニ於テハ空過時間ニ對スル賠償額ハ當事者ノ協定ニヨリ決定セラルルモノトス

第十五條　臨時勞働者並ニ從業員カ一九二五年九月一八日附義務兵役法律（「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦法令集一九二五年第六二號第四六三條）ニヨリ課セラレタル義務履行ノ爲メ召集セラレ其ノ結果作業ヲ中止スル場合ニハ其ノ職責及賃銀ハ保留セラレサルモノトス

當該場合ニ於ケル一時手當ハ一箇月以上勞働セル者ニ對シテハ平均賃銀一週間分又六日以上一箇月以内勞働セルモノニ對シテハ同三日間分ヲ支給スルモノトス六日以内勞働セルモノニ對シテハ手當ハ支給セサルモノトス

第十六條　雇傭者ハ被雇傭者カ代表者トシテ職業組合又ハ消費組合機關ノ召集ニ係ル大會、會議又ハ代表評議會ニ參加スル爲メ作業ヲ離レタル期間ニ對シテハ勞働賃銀ヲ支拂フノ義務ヲ有セス

第十七條　雇傭者ノ指圖ヲ以テ臨時勞働者並ニ從業員ヲ一ノ作業場ヨリ他ニ移シタル場合ニハ移轉費用ハ被雇傭者ニ賠償セラルルモノトス

其ノ他ノ種類ノ賠償並ニ移轉期間中ノ勞働賃銀ハ當事者間ノ協定ニ依リ決定セラルルモノトス

第十八條　被雇傭者ノ所屬ニ係ル器具ノ損料賠償ハ當事者ノ協定ニヨリ勞働賃銀率ニヨルトヲ得

第十九條　臨時勞働者並ニ從業員ハ休暇或ハ之カ代償ヲ受クルノ權利ヲ有セス

第二十條　臨時勞働者並ニ從業員ニ對シテハ「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦勞働人民委員會ノ特別訓令ニ基キ特別被服（手套、前掛ケ、其ノ他）及生産ノ有害危險豫防必要具（呼吸器眼鏡其ノ他）ヲ支給スルコトヲ要ス

第二十一條　臨時勞働者並ニ從業員ノ社會保險ハ勞働國防會議ノ特別決議ニヨリ之ヲ調整ス

第二十二條　本決定ハ次ノ場合ニ於テハ之ヲ適用セサルモノトス

（イ）臨時勞働者或ハ從業員カ勞働關係延期ノ爲メ第一條（イ）及（ロ）項ニ揭ケタル期間ヲ超エテ勞働シタル場合

（ロ）鮮雇サレタル臨時勞働者或ハ從業員カ一週間以内ノ間斷ヲ置キ再ヒ同一企業、營造物或ハ經濟團體ニ雇傭セラレ且ツ間斷ノ前後ニ於ケル勞働期間ノ通算カ二箇月或ハ四箇月ヲ超ユル場合

前記二項ノ場合ニ於テ、勞働者並ニ從業員ヲ常傭的作業ニ移シ傭者被雇傭者ノ間ニ勞働關係ノ生シタル當初ヨリ臨時的ト看做ササルモノトス

但シ臨時勞働者並ニ從業員ヲ常傭的作業ニ移シタル場合ニ於テハ移動迄ニ支拂ヒタル社會保險納附金ノ再算ハ爲ササルモノトス

第二十三條　季節的勞働ニ從事スル臨時勞働者並ニ從業員ハ本決定第一條ヨリ第二十二條ニ至ル各條ノ外ニ次ノ規定ヲ適用セラル

（イ）勞働時間、賃銀支拂手續並ニ其ノ額ハ當事者間ノ協定ニヨリ當該季節的勞働ニ從事セル當該種類ノ他ノ勞務者ト同一根據ニ基キ決定セラレ得ルモノトス

（ロ）時間外勞働ノ許可モ亦當該季節的勞働ニ從事セル當該種類ノ他ノ勞務者ニ對スルト同一ノ手續ヲ以テ與ヘラル

（ハ）季節的勞働終了ノ爲メ臨時勞働者並ニ從業員ヲ解雇スル場合ニハ解雇豫告或ハ解雇手當ヲ與フルヲ要セス

第二十四條　本決定ハ公布ノ時ヨリ效力ヲ發生ス

聯邦中央執行委員會ニ對シ本決定全部ヲ聯邦勞働法ニ包含スルコトヲ提議ス

「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦中央執行委員會議長
エム・カリーニン

同　人民委員會議長代理
ア・ツールツプ

同　中央執行委員會書記
ア・エヌキツゼ

一九二七年一月一四日於莫斯科「クレムリン」

勞働組合

勞働をもつて立國の大本とする現在のソヴイエト聯邦に於ては、勞働者の組織機關たる勞働組合の規模は極めて廣汎なものがあり、その勢力も亦絶大である。「勞働組合は社會主義の學校である」

といふマルクスやレーニンの信條はこのことを反映してゐる。そして現在のソヴイエト聯邦が有するやうな强大な勞働組合の組織は、十月革命前のロシヤは勿論のこと今日の世界のいづれの國にも存しない。

一九一八年一月　（第一回勞働組合大會）
一九一九年一月　（第二回同　大會）
一九二〇年三月　（第三回同　大會）
一九二一年五月　（第四回同　大會）
一九二二年九月　（第五回同　大會）
一九二四年十一月　（第六回同　大會）
一九二六年十二月　（第七回同　大會）
一九二七年

十月革命前一九一七年全露勞働組合第三回大會當時、九百六十七箇の產業別勞働組合に於ける組合員數一百四十七萬五千四百二十人を算したものが革命後には次の如き趨勢を辿つて增加してゐる。

一、農業及林業	一九二三年一月一日	一九二七年一月一日
二、製紙	一二五三・六	一、一〇八・七
三、鑛業	二〇・五	四三・二
四、大工	二三七・七	四二八・二
	九一・九	一七三・二
五、皮革	八二・七	一二二・二
六、金屬	四四四・四	八四三・九
七、印刷	六五・五	一一〇・四
八、食料	二〇六・四	四四二・二
九、製糖	三三・二	一〇六・二
一〇、紡織	四三五・五	八一三・九
一一、化學	一三七・四	二三六・六
一二、裁縫	四九・三	七三・二
一三、建築	一〇七・二	五九九・三
一四、水上	一二〇・四	一五七・三
一五、鐵道	四六〇・二	一、〇八七・二
一六、地方運輸	一一六・七	一七七・七
一七、郵電	一〇七・二	一一四・四
一八、藝術	六七・七	八八・五
一九、醫藥	二八三・〇	四八八・六
二〇、教育	三八一・六	七四六・八
二一、國營商業	五一二・八	一、一七三・七
二二、公共事業	一四〇・七	二四一・二
二三、國家保健	四一・八	二四八・二

勞働組合全聯邦中央委員會幹部會員

議長　エム・ペ・トムスキー
秘書　ア・イ・ドガドフ
會員　エム・ペ・ウラジミロフ
同　ア・ア・アンドレーフ
同　イ・イ・シウアルツ
同　エス・ア・ロゾフスキー
同　ヴエ・ヴエ・シミツト
同　エム・エム・ミハイロフ
同　ゼ・エム・ベレニキー
同　エヌ・エヌ・エヴイレーノフ
同　イ・イ・レブセ
同　グ・エス・メリニチヤンスキー
同　ア・エフ・ラドチエンコ
同　エフ・ヤ・ウガーロフ
同　エル・ア・チホミローウア

露國の軍備

露國の軍備は頗る嚴秘に附せられてゐる。而かも露國現在の第一假想敵國が波蘭であり、日本にとりては既に露國の軍備如何は、直接何等關係無き今日に於て、強いて之を云爲するのは寔に無意味千萬のやうではあるが、但し妖雲低迷せる東洋の和平を恒久ならしめんがためには、必ずや先づ日露の提携を必須條件なりとすれば、吾人には朧氣ながらも之に關する概念の必要がある。之れ玆に敢て略述する所以である。

一九二八―二九年度の軍事費は八億四千萬留に達し逐年一億留内外の增加を示してゐるけれども大觀するに露國の勢力は第一に產業復興に傾注されてゐる。而已ならず其不侵略の根本精神に則つて、其軍備の如きも大體方針は防勢本位に樹立さるゝと同時に、一方にありては有ゆる方法を講じて經費の節約に努めてゐる。彼の平時交通運輸に利便し得べき空軍養成に努力を拂ひ。或は兵馬を減じて戰鬪力を技術方面によりて充實し、更に軍務當局より軍隊艦艇内に至るまで政治機關の脈絡を一貫し、斷えず將卒に思想戰術を涵養訓練して一朝事あらば敵國内を擾亂し以て其勢力を減殺せんと準備しつゝあるが如き、一面から之を見れば悉く經費節約方針に源泉を發してゐる。

乍去。大陸國である關係上、國境防備將又た對内戰準備のみにても勢ひ大陸軍國たらざるを得ず依然たる陸主海從主義であり、陸方面空軍勢力に於ては我が空軍勢力を凌駕せんとするの勢を示してゐる。

陸軍の現勢

一、ソヴイエト軍隊の特徴

赤軍編成の目的は、他國と異なり憲法の規定に明かなる通り、勞働者及農民の××を擁護するに在る即ち資本國の攻撃に對し防禦する外併せて世界に起る可き社會××を援助するの目的を有すること亦明かである。而して前段の目的は世界と共通なるも後段の目的に至つてはソ聯邦特有のものにして、之をソ聯邦より見れば資本主義を倒し、世界に勞働者及農民とを××し若し或國實現の爲世界の勞働者と農民とを××を建設する理想に×起らば、武力を以つても之を援助せしむとする趣旨に適合するものである。從つて之を資本主義國の立場より見ればソ聯邦は其軍隊に國防以外に政策的侵略の任務を課せるものと解し得るであらう。素より前段の目的が主であつて其の國の存在をも危くして迄主義の爲兵を用ゆるが如きことなきも國力恢復に伴ひ否既に現在に於ても小弱國に對しては乘ず可き機會だにあらば、政策的に侵略せむとしつゝあるは革命以來の歷史に徵して明かである。

二、赤衛軍の兵役

ソヴイエト聯邦軍隊は眞の國民皆兵の主義に依り建設せられてゐる。兵役は歩、騎、砲技兵は二年空軍三年、海軍四年の服役にして常備兵役以外民兵に召集せらるゝ期間は八ケ月乃至十一ケ月、常備兵、民兵に洩れたるものは隊外現役勤務として六ケ月の教育を受ける。此の外一般に召集前の軍事教育を二ケ月行ひ居る故に不具者以外の者は其の何れかに服役しなければならぬ。即ち事實に於て國民皆兵の主義より成り立つてゐる。

三、戰時及平時の兵力

ソヴイエト聯邦は、平時歩兵六十二ケ師團騎兵三十五旅團を主とする赤衛軍五十六萬人を有する此の外國家政治局軍隊十三萬人あり戰時に於ては歩騎兵團は一倍半乃至二倍に擴張せられる。戰時兵力約二百萬、總兵力六百萬を動員し得る。右五十六萬の兵員は民兵交替部隊を除外せるものにして、夏季三ケ月間召集せらるゝ民兵の交替部隊を加ふれば、平時兵力は百萬（民兵は基幹部隊と交替部隊とより成り交替部隊は夏季三ケ月召集せられ基幹部隊は交替部隊の教育訓練にあたるべき部隊にして總兵力の約一割を占む）である。歩兵六十二師團中民兵師團は三十二にして、狙撃師團三十であるが、民兵師團は國民皆兵又經濟的軍備の目的にて制定せられ、全國軍を民兵制度に改編する企圖ありしも、内外の情勢に鑑み常設師團即ち狙撃師團を必要と認め、之を現在數より減ずる旨聲明せられた。前記兵數は帝制時代に比すれば勿論減少せられ居るも、世界第一の常備軍にして××擁護の爲必要なる兵團である。過般軍縮會議にて軍備の全廢を主張し居るも右は軍縮會議の不成立を豫想し資本主義國勞働者に理想を宣傳し以て資本主義國の勞働者をして各自國の軍備を制限せしめんとの魂膽に出でたるものと解せられる。

四、共產主義に基く軍政史

ソヴイエト軍隊は軍の行動を純然たる作戰と政治とに區分し、各專門の機關を設けて居る。軍政治の目的は兵卒に對する政治教育換言すれば共產主義に立脚せる精神教育を主とし、併せて軍隊と國民の親和聯絡並に戰時にありては戰線附近の住民及敵に向つてする宣傳占領地の行政等を行ふものであり之の政治教育は露軍の最も重要視するところにして軍事革命委員會を始め軍、師、旅團及聯隊に各執行機關を有し統一的に組織せられてゐる。其の編成は甚だ大規模にして悉く共產黨員を以て之に充て（軍隊にある一割は黨員）此の政治事業は士氣の作興、軍規の振肅等精神的戰鬪力を向上し又作戰を容易ならしむべき宣傳を行ひ軍に利するところ極めて大なるも、反面に於ては作戰と政策とが一指揮官に依り統一せられず、兩者の任務權限に關し意見を異にする等延て暗鬪軋轢を生じ、軍事智識乏しきものにより統帥權を容喙せらるゝ危險なしとしない。

五、軍隊内反革命取締手續

軍隊内反革命取締機關の一は軍政治機關にして共產主義並に「ソヴイエト」の主義政策を宣傳し積極的に「ソヴイエト」に對し忠誠を保持せしめる。他の一は國家政治局（ゲ、ペ、ウ）にして消極的に反革命を防止する。後者は反革命運動、反對宣傳、間諜の取締、國境密輸入の取締等の重大なる警察機關と十三萬の軍隊を有し其の編成は常備軍と異ならずして歩兵の外騎兵砲兵を有し素質常備軍より良好である。又軍隊内に軍事監察員なる機關ありて隊内の「コミサール」政治機關と協力して反革命の取締に任じてゐる。此の二個の機關が整備せられ居るが故に、平時軍隊内にありては革命運動は容易ならず勿論軍隊内にも不平分子あるも其の宣傳と取締の爲に敢然反抗する氣勢認められず但戰時又は事變に際し此等の機關に弛緩を生ずればこそ軍隊内に於ても反抗的運動起り得る可能性あるものと思考される。

海軍の現勢力

一、概觀

革命後既に十二年になるが、露國の海軍は漸く整理時代の第一期を了つたに過ぎぬ。前節にも述べた如く、露國は先づ第一に陸軍と空軍に力を注いだ結果、海軍に對しては彌が上にも消極的方針に出でざるを得ず、艦艇の如き苟も修繕の出來る限り之を利用し、愈々望みなきものは廢艦處分を行つて、その缺陷は新兵器を以て補填する方策に出た。一九二九年五月露國陸海軍部長は公會の席上に於て、赤色海軍は過去二年間に着々整理を進め六隻廢艦處分を行ひ十隻新造せるを以て實勢力に於て一萬三千噸を增加したと聲明してゐるが、要するに其十隻は特種な小型軍艦であつた。

飜て從前の海軍工廠を見るに、勿論今日と雖ども艦艇の建造修繕は行ふが一齊に經濟的工業機關と化し、主として普通船舶の建造修理と農具製作に力を振つてゐる。即ち根本に於て工廠の性質が一變した。

上述の理由により露國軍艦には革命前既に老齡なりしもの多く、從て驅逐艦或は潛水艦中に若干新式のものある以外に、他は悉く老朽艦である。但し一九二九年から小規模ながらも外海の演習を行ひ或は獨逸訪問に出動せるが如き事實に徵しても、露國海軍は今や整理時代を了つて漸く充實期に入つたものと見るべきでめらう。

二、露國海軍軍港及要港

（軍　港）芬蘭方面‖「レーニングラード」「クロンシュタット」
　黑　海‖「セワストポール」
（要　港）歐　露‖「アルハンゲルス」
　黑　海‖「ニコラエフ」「オデツサ」
　海‖「バクー」
　裏　東‖「ハバロフスク」
　極　東‖「ハバロフスク」
（準要港）歐　露‖「ムールマンスク」
　黑　海‖「バツーム」
　極　東‖浦汐斯德

三　露國艦隊の大勢

A　バルチック艦隊——

△戰　艦　二六、〇〇〇噸型　四隻
△巡洋艦　一五、〇〇〇噸乃至七、〇〇〇噸　三隻
△大型驅逐艦　一、二〇〇噸乃至一、七〇〇噸九隻
△小型驅逐艦　六〇〇噸內外　三隻
△潛水艦　平均七〇〇噸　八隻
△砲　艦　一、三〇〇噸乃至二、〇〇〇噸四隻
△潛水母艦　三、〇〇〇噸內外　三隻
△練習艦　一〇〇噸乃至一〇、〇〇〇噸　五隻
△掃海艦　二、〇〇〇噸乃至五、〇〇〇噸三隻
△掃海艇　五〇〇噸未滿　二五隻
△其他雜役船　八隻

B　黑海艦隊——

△巡洋艦　六、八〇〇噸　二隻
△大型驅逐艦　一、二〇〇噸乃至一、三〇〇噸四隻
△小型驅逐艦　三五〇噸　三隻
△潛水艦　五〇〇噸內外　五隻
△砲　艦　一、五〇〇噸　一隻
△其他雜役船　一〇隻
C　裏海艦隊——　數隻
△驅逐艦　三五〇噸乃至五八〇噸　一三隻
△砲　艦　六〇〇噸　二隻
△其他雜役船　數隻
D　極東艦隊——
（ハバロフスク）
△河用砲艦　大型　一、〇〇〇噸　八隻
小型　二〇〇噸　一〇隻
△其他雜役船　數隻
（浦汐斯德）
△特務艦　二、〇〇〇噸未滿　五隻

露國の教育

教育機關

教育機關を大別して(一)社會的教育機關(二)職業的教育機關(三)政治啓發教育機關の三者とし是に(四)教育人民委員部所管外の特殊教育機關と(五)學術研究機關とを加へる。

一、社會的教育機關

社會的教育とは我國の所謂社會教育ではなく普通教育及政治教育を併せたもの丶意である。我國の社會教育は政治啓發教育と稱するものに屬する社會的教育の目的を一言にして盡せば年少國民をして社會主義建設者竝に共產主義の鬪士として必要な知能と習性とを養はしめるに在る。社會的教育機關は三歲乃至十七歲の者を收容し國民教育機關中重要なる部分を占めて居る。三歲乃至八歲の兒童は是を學齡前の教育機關に收容し八歲を以て學齡とし單一勞働學校第一科に入學せしめる。第一科は四年制を以て標準とし社會的教育は是を以て一段落を告げる。單一勞働學校第二科は五年であつて中等普通教育を施す。是を第一部及第二部に分ち第二部(後の二年間)に於ては職業教育の傾向を加へる。

單一勞働學校は其の存在する地方の產業の特徵により職業教育の傾向を帶びる事がある。農村に於ける年少農民學校、工業地方に於ける工場七年學校の如きは是である。

社會的教育機關の種類は右に止まらず總て是を列記すれば左の通りである。

(一)　學齡前の教育機關
(イ)　幼稚園(ロ)托兒所(ハ)子供の廣場
(二)　學　校
(イ)　單一勞働學校　(ロ)未成年者學校
(ハ)年少農民學校　(ニ)工場七年學校　(ホ)寄宿學校
(三)　年少者社會的保護教育機關
(イ)幼年館　(ロ)少年館　(ハ)未成年館
(ニ)是等に類するもの
(四)　特殊學校
(イ)　心身缺陷者教育機關　(ロ)實驗模範學校　(ハ)地方學校　(ニ)林間學校
右の外無學者教育所淺學者學校等其の教育の內容上は社會的教育の機關であり乍ら制度上政治啓發教育機關に屬するものがある。

二、職業教育機關

職業教育は初等中等及高等の三階段に分れ順次連絡して居る。

(一)　初等職業教育の目的は單一勞働學校修了程度の者に對して生產諸部門の下級資格ある勞働者又は勤務員たる素養を與へる事に在り左の教育機關がある。

(イ)　職業學校
(ロ)　工場學校
(ハ)　未成年勞働者學校
(ニ)　仕事場
(ホ)　個人的及團體的徒弟教育機關
(ヘ)　職業講習會

年少農民學校、工場七年學校及「ソヴェート」共產黨學校は此の程度の職業教育機關たる性質を有するが前二者は社會的教育機關に、後者は政治啓發教育機關に屬する。

(二)　中等職業教育の目的は初等職業教育機關修了者又は七年學校修了程度の者をして生產諸方面の技術、國家機關其他の事務教有事業等に關する中級の資格を取得せしめるに在り、其の教育機關には左の種類がある。

(イ)　中等專門學校　(ロ)講習會

單一勞働學校第二科第二部に於ては此の程度の職業教育を施すが是は社會的教育機關に屬し勞働大學及「ソヴェート」共產黨學校も一種の中等職業教育を施すが是等は政治啓發教育機關に屬する。

(三)　高等程度の教育は職業教育であつて高級の資格ある專門家、勤務員及技師の類を養成する事を目的とし其の教育機關には

(イ)　大學　(ロ)　專門學校

の二種あり其の程度は相同し。

勞働者講習所は高等教育機關入學の爲準備教育を勞働者及農民等に施すものであつて性質上は職業教育的色彩を有する中等社會的教育機關であるが通常高等教育機關に附隨するから其の部に附記する。

三、政治啓發教育機關

政治啓發教育とは民衆の無學なること、文化及教育の程度の低いことが政治的智識の普及、政治的自覺の增進及經濟發展の障礙であるが故に

(一) 國民中無學及淺學な成年未成年者を教育する事。

現代政治の機關たる「ソヴエート」及共產黨機關等の事務に從事する者を養成する爲

(二) 特に政治に關する智識を授ける事、及び

(三) 國民一般の教化の程度を高める方法を講ずる事の三者を含むものである

故に政治啓發教育は性質上社會的教育(一)及(三)と職業教育(二)とを含み(一)及(二)は學校教育機關により(三)は民衆教化機關によつて行はれる政治啓發教育機關には左の種類がある

(一) 無學者及淺學者教育機關竝に其の上級教育機關

(イ) 無學者教育所 (ロ)淺學者學校 (ハ)勞働者及農民夜間講習會 (ニ)上級成年者學校

(ホ)勞働大學

(二) 政治教育機關

(イ)政治學校 (ロ)「ソヴエート」共產黨學校

(ハ)共產大學

(三) 校外教育機關

(イ)村落讀書室 (ロ)「クラブ」 (ハ)人民館及農民館 (ニ)赤い室 (ホ)目習會 (ヘ)圖書館 (ト)博物館、活動寫眞館、劇場、運動機關 (チ)ラヂオ (リ)出版

四、教育人民委員部所管以外の教育機關

是は軍陸海軍人民委員部に屬する學校を主とする交通人民委員部に屬する教育機關は教育人民委員部所管のものに類する。

五、學術研究機關

學術研究機關には學士院、諸種の研究所(インスチツート)觀測所、實驗所及學術圖書館等がある。

教育の任務と普及

一、教育の新任務

第十五回黨大會は、教育の分野に對して左の如き重要なる任務を課した。

(1)全社會主義建設事業の一部として、文化事業と工業化事業とを結合すること。(2)廣汎なる勤勞大衆の文化的成長を保證すること。(3)工業及び農業教育の改善、專門技術家竝に世界的水準に立つて、社會主義建設に活潑に參加するに足る科學力を最も急速に準備すること—に全力を傾倒すること。(4)學術的活動を工業、農業及び凡ての社會主義建設事業に接近させること。

大衆的文化事業の活動は、學校(初等より高等に至る)一般的及び職業的、技術的文盲の廢除、政治教育的活動の各形態——範圍に亙つてゐる。

大衆的初等教育は、經濟及び文化の發達と共に强化し、成長しつゝある。この事實はソヴエート聯邦內に於ける、次のごとき就學者の數を示せる數字によつても明かである。(單位千)

年度	一九二五—二六年度	一九二六—二七年度	一九二七—二八年度
就學者數	六、〇六九、〇	九、四〇一、一	九、八三三、五

同上經費は次の如くに增加した(單位百萬留)

年度	一九二五—二六年度	一九二六—二七年度	一九二七—二八年度
經費	一、三三、五	二、八一、五	三、九九、五

かくの如く、就學者の數は一九二六・二七年より一九二八—二九年に至る三ケ年間に於て百四十五萬四千一百人、これが支出に於て一億八千六百萬留增加したのである。一九二八—二九年度ロシヤ共和國に於ける初等就學者の數は一九一三年度に比して百八十九萬七百人增加しこれが經費の支出額は約一九一三年度に於ける支出額にまで達したしかしながら一初等學校に於ける經費及び、一教員の俸給額に於てはなほ一九一三年度の額にまで達してはいないのである、從つて、ソヴエート聯邦の初等學校は、物質的方面に於てなほ戰前に比して劣つてゐる。

初等學校卒業者の數に至つては、村落は都市に比して甚だしく劣つてゐる。即ちそれは次の如き表に見るも明かである。

	一學年	二學年	三學年	四學年
都市	100%	九二、三%	八三、三%	六九、二%
村落	100%	六七、二%	三七、一%	二四、四%

かくの如く百パーセントの入學者中卒業者は一都市に於て、その六九、二%。村落に於て、一四、四%であり、それ等の中途退學者は主として貧民層に屬するものである。この事實は、部分的にはプロレタリヤ及び農民の特殊層に對する援助の不十分なるを說明するものであり。主として、兒童

	學校數	生徒數
初等、中等學校の數	一九二七、八年度	
第一級學校(四年制)	一〇九、七九二	八、四二三、一七七
七年制	五、四八四	一、五五八、一二二
九年制	八九一	五六五、七九三
第二級學校(中等學校)	九五五	三一四、四八七
農民青年學校	一、〇一五	八七、九四一

	學校數	生徒數
	一九二八、九年度	
	八、八一三、八五七	
	二、〇七一、四二〇	
	六五二、一二〇	
	三二八、七〇一	
	一二七、一四九	

右の表によつて明らかな如く、一年間に增加した學校は五四七一校(即ち四・五%)生徒數は六二六・七二七名(即ち五・五%)に及んでゐるたゞ第二級(中學)の學校數は減少を見せてゐるが、しかし生徒數は夥しい增加を示してゐる。第二級學校數が減少したのは、九年制學校がこれに代つたゝあである。

全ソヴエート聯邦の都市及農村における學校網發達の比較表を見ると、明かに農村教育の强化を物語つてゐる。都市學校網は前年に比して、僅かに〇・七%の發達を示してゐるのに、農村の學校數は五・二%といふ夥だしい發達を遂げてゐる。

の勞働力までも必要とされる農民の經濟狀態の特殊性を說明するものである。

二、一九二八・二九年度の社會教育實績

一九二七、八年度の社會教育と、一九二八、九年度のそれとを比較對照すれば左の通りである。

	施設	兒童數	施設	兒童數
	一九二七・八年度		一九二八・九年度	
幼稚園	二、一四一	一〇五、八〇〇	二、四七七	一一四、七三五
兒童遊戲場	三、六二一	二〇一、三〇〇	七、〇二〇	三六五、六三五

この數字は兒童教育の急速な發展を明白に物語つてゐる。殊に注目すべきことは、兒童遊戲場の數が僅々一年の間に殆んど二倍に增加したことである。

五、五ケ年計畫と教育

今度ソヴエート聯邦で初められた五ケ年計畫は教育問題に就ては、特に力を入れてゐる。それは先づ第一に、大衆の文化的水準を向上すること、及び適任の勞働者を一齊に訓練することを要求してゐる。

第二には、文化上の諸活動に於いて勞働階級の役割に歸せらるべき重要性が增大して來てゐる。例へば、勞働に於ける勞働階級兒童の割合の增加により、また教育事業の領域を特に勞働者、貧農及び中農の間に擴めることにより、また教育事業の再組織及びそれに一層決定的に社會主義的な中味を與へることによつて、かゝる役割は增して來てゐるのである。

つまり、五ケ年計畫は、村落に於ける教育のレベルを、都會の其れにまで向上させることの必要なることを力說し、文化程度のおくれてゐる諸民族の教育を、より進步した民族の其れにまで高めることに力を入れてゐる。尙其れは又た廣汎なる勞働大衆が、前よりも一層大なる程度にまで文化

的活動に導入されねばならない、と云ふことを宣言してゐる。

決定的な諸結果が探求されつゝある。

先づ第一に、文盲を徹底的に征服することが望まれてゐる。戰前は、百人の中僅かに二十三人のみが讀書することが出來た。一九二〇年には、此の數字は、三十三パーセントにまで昇つた。また一九二七―二八年には、五三、九パーセントにまで昇つた。而して一九三二―三三年までには、此のパーセンテージは、八十二にまで昇される筈である。

強制登校は一九二九―三〇年の間に實施されるであらう。そして一九三二―三三年には、學校組織は八歳から十二歳までの兒童の全部に對して、給食し得るやうになるであらう。小學校に就學せる兒童數の增加は、次の如き數字によつて示されてゐる。

一九一四年―一五年	七、二三六、〇〇〇
一九二七年―二八年	九、九四二、〇〇〇
一九三二年―三三年	一六、九〇〇、〇〇〇

同時に、小學校の過程を完全に終へた兒童の百分率は、驚くべき增加を示すであらう。そして學校の「工藝的」性質も强固にされるであらう。また小學教員の數も、二十六萬六千から四十二萬二千に高められるであらう。

教員の俸給も高められるであらう。都市の小學教員の俸給は、一九三二―三三年には百ルーブルに達するであらう。就學兒童の一人當りの費用は六ルーブル五十一カペックから、十六ルーブルに增加されるであらう。

村落讀書室の數は、二萬二千から三萬八千に增加されるであらう。即ち一村落地方に付き五箇の增加である。また圖書館の數は二萬三千から三萬四千に增加する。尙ほ此の外に、新たに四萬の移動圖書館が作られる。クラブ及び民衆館は、二十五パーセントの增加を見るだらう。

新聞や雜誌の刊行は、三倍に達し。書物の値段は却つて下げられるであらう。五億九千萬ルーブルが、紙の製造に獻げられるであらう。そしてソヴエート聯邦で作られた紙のみが、使用されるであらう。

シネマの數は、六倍に增へるだらう。即ち五萬に達するであらう。ところで此の內、一萬四千は農家でも三百萬を算するであらう。讀書室、クラブ集會所、學校、大工場、國營農場などは皆んな高聲器を備へつけるやうになる。

アグロノミスト(農業上の技師及び顧問)や補助的技術家や、指導技師などの數も亦た可なりに增加されるだらう。即ち五萬人が、次の五ヶ年間に養成せられるであらう。その內の四萬人は工科大學に於て、また一萬人はテクニクム(專門學校)に於て、それぞれ養成されることになつてゐる。

一九三三年までには、熟練勞働者の百分率は、四一、八なる現在の數字から、六〇にまで高められるであらう。

五百萬の貧農及び中農は、同じく一九三三年までに、農業上の訓練を受けてゐるであらう。

凡て此等の發達は、國民教育に於ける經費の恐るべき澎張を來すであらうと豫測されてゐる。戰前の一人平均二ルーブル十八カペックに比し、一九二八―二九には五ルーブル七一カペックに昇り一九三二、三三年には十三ルーブルに達するであらう。

かくの如き經費の增加は、大衆の敎養の增加、專門技師家及び熟練勞働者の數を、五ヶ年計畫に順應して、增加せしむるであらう。

尙ほ五ヶ年計畫に於ける最初の諸結果を表示すれば、次の如くである。

◇國民敎育費

一九二八―二九年	十二億七千九百萬留
一九二九―三〇年	十九億八千萬留

◇文盲退治

一九二八―二九年	三十萬留
一九二九―三〇年	六十萬留

◇文盲退治（人員數）

一九二八―二九年	二百五十萬人
一九二九―三〇年	七百萬人

◇フイルム數

一九二八―二九年	一萬二千本
一九二九―三〇年	二萬三千本

◇初等及び中等學校の經費

一九二八―二九年	四億二千八百萬留
一九二九―三〇年	六億五千五百萬留

◇ラヂオ敷設數

一九二八―二九年	七十五萬一千
一九二九―三〇年	二百六十萬

◇新聞發行部數

一九二八―二九年	二十八億五千萬
一九二九―三〇年	三十三億五千萬

◇雜誌及び書籍發行部數

一九二八―二九年	二十四億
一九二九―三〇年	三十三億七千萬

最近の敎育問題

一、義務敎育實施の必要

文部人民委員部長代理クルーブスカヤ（レーニン未亡人）女史は一九三〇年九月三日次の如く發表した。

緊急の任務は、讀書の出來る國とすることである。この任務は既に屢々言はれたことであるが、第十六回黨大會は特にこの必要を强調した。鬪爭を一層盛んにせねばならぬ、無智無學を强く打たねばならぬ、文盲撲滅運動をより廣く展開せねばならぬ、全聯邦に義務敎育を敷かねばならぬ。

聯邦の市民は誰でも、義務敎育のため、文盲撲滅のためにする自分の任務を定めねばならない。若し自分の總ての子供に讀書算術を敎へるのは、政府の仕事、敎師の仕事であつて、自分には何等關係がないと考へる者があつたら、彼は自覺のない人間である。

「プラヴダ」紙、九月一日號に初めて義務敎育に關する統計が發表された。同號に發表された一九三〇―三一年度のロシヤ共和國（自治共和國を除く）統制數字によつて、我々は一九三〇―三一年度に初めて學校敎育を受けねばならぬ兒童の數が、百五十萬より多いことを知つた、この數は十三州に不平均に分配されて居る、地方別に增加人數を示せば、左の通りである（單位千人）

中央黑土州	二三五、七
モスクワ州	一八九、五
ウラル州	一七三、一
シベリヤ	一六七、一
ニージニーノヴゴロド地方	一四七、八
西部州	一三六、四
北コーカサス	一三二、二
レニングラード州	一一一、四
ヲルガ中流地方	九〇、八
ヲルガ下流地方	八八、一
イワノヲ・ヲズネセンスク州	八〇、三
極東地方	七六、二
北部地方	六二、五

最大の任務は、最も貧しい中央黑土州の上に橫たはる。然しこの州は、他より進んで居て、既に昨年全般的義務敎育の實施を開始した。この州には出來るだけの援助を與へねばならない。新入生十五萬人を超ゆる他の三州中、モスクワ州は最も好狀況にある。この州は工業地方で、住民は一般に讀書力があり、少數民族が少い。若しモスクワ州が本年豫定通りの計畫を遂行しなかつたら、それは恥辱であらう。

それに續くは、ウラルとシベリヤとである。距離が遠くなつて、困難が加はるけれど、ウラルは工業の中心であり、シベリヤは資源に富んだ地方である。

新入生十萬を超ゆる州の中、最も良好な狀況にあるは、レニングラード州である。この州は殆んどモスクワ州同樣に好都合な狀態にある。たゞ殆んど全部が文盲であるカレール人の少女には特に注意するを要する。他の三州、ニージニーノヴゴロド地方、西部州、北コーカサスは何れも困難である。ニージニーノヴゴロド地方は、寂しい森林地帶で、手工業の發達した所である。從つて子供に極く幼い時から手工業を仕込む。加之、この地方は諸々の民族の錯綜したところである。從つて義務敎育の實施が仲々困難である。

新入生十萬以下の州の中で、最も好都合な狀態にあるのは、イワノヲ・ヲズネセンスク州である。この州は、工業地方で文化力を有する。ヲルガ下流地方は、古い文化の中心で、近年文盲撲滅、大人敎育等が盛んに行はれた地方である。最も困難な狀態にあるのは、ヲルガ中流地方である。この地方は貧困であり、民族が錯雜して居る。

不就學兒童は全住民に調べさせねばならない。即ち何處の誰は學校に行つて居ないといふ事を知つた者は、直ぐソヴエートにその事を通告するやうにするのである。ソヴエートは、どうしてその者が學校に行かないかを調査して、適當の方法を講ずる（若し兩親や保護者に罪があつたら、その責任を問ふ。若し學校が遠かつたら、兒童を乘物で通學させることを考案する。若し衣服がなかつたら貧農基金から出させるようにする。若し兒童が疾病であつたら治療してやる。）

それから約四十名を以て一學級とすることにし幾何學級を增さねばならぬかを計算せねばならぬそして校舍とする家屋を、富農から取上げ、足ら

ない分は新築しなければならない。最後に教師の補充について考へねばならない。

全般的義務教育を實現する爲めには、一生懸命に努力するを要する。

二、中等教育の改革問題

ソヴエート中等學校は、その發展途上に於て數個の段階を經過して來た。革命以後の數年間に於て、技術教育主義と勞働實習とを基礎とした學校建設の新原則は、各種の支障例へば物質的地盤の薄弱や新しい學校のために養成された教育者幹部の不足等に遭遇した。

その結果技術教育主義は殆んど紙上の計畫に止まり、中等學校は單なる「口授の」學校となつて、國内の進展しつゝある産業の需要や勞働大衆の文化的要求に少しも適應しないものとなつた。

中等教育の組織の上に確乎たる進展の現はれるやうになつたのは、工場徒弟學校や農村青年學校（今日では協同農場青年學校と改稱されてゐる）が組織され發展するやうになつてからである。生産根據地に成長したこの中等教育の階梯は、事實上全く生産から離れて了つた「單一勞働學校」に代つて進んで行つた。然し、工場徒弟學校や農村青年學校は單一勞働學校よりも優つてゐる點を十分に發展せしめることなく、長い間中等教育の有ゆる組織に聯絡を有せず孤立して存續して來た。だが改造期に入るに及び、生産に聯絡を有する中等教育問題が論議されるやうになつた結果、工場徒弟學校に特別な注意が拂はれるやうになつた。試みに一九二七年に於ける工場徒弟學校生徒數を擧ぐれば、僅か數萬人（教育人民委員部の統計に依れば三萬五千九百九十二人）に過ぎないが、一九三〇年の秋だけでも三十萬人の青年を工場徒弟學校に入學せしめることを聲明してゐる。

從來の經驗に依れば、工業及び全國民經濟の幹部問題の解決は、生産と直接關係を有する中等教育機關を通じて行はれなければならないことが明かである、所が中等技術學校なるものを如何に建設するべきかといふ論爭は長い間繼續された。當時の工場徒弟學校及び農村青年學校は目ざましくその發展を遂げたが、教育家や當事者等は技術教育主義を抽象的原理として主張し、技術學校なるものは、或る者には研究所や製作所を有する全く自治的な機關のやうに考へられた。

今日では、技術學校は如何なる方針で進むべきかといふ論爭は解決されてゐる。技術學校とは、具體的生産條件から出發し、具體的現象の研究を通じて抽象的學術的結論に學生を導き、之に所要なる一般的理論的智識を與へるものでなければならぬ。

斯る觀點から、工場地方に於ける有ゆる中等教育機關を製造工業七年制學校に改革するといふ教育人民委員部の決議は、大なる原則的意義を有してゐる。この決議は、工業の幹部等は主として製造工業七年制學校や工場徒弟學校や高等工業學校を通じて準備されることを意味するものであるが更に我が國の中等教育制度は「物知り」を準備するのでなく、國内に必要な資格勞働者を準備することを意味するのである。

製造工業七年制學校は、既存の第一階梯學校（尋常小學校）の土臺の上に組織されるが、大建設の行はれてゐる諸地方では大抵新規に造られる筈である、從つて大企業地例へば今日既にその生産の基礎の上に高等工業學校を有してゐるドネプロストロイの如きは、工業各種部門と聯絡を有する中等學校、即ち製造工業七年制學校を相當の數だけ創設する必要がある。

これと同時に、教育人民委員部は都市の學校網を公共企業に聯絡を有する公共事業七年制學校に改造する問題を提出してゐるのは、全く當を得たるものである。

斯の如くにして、中等教育の基本的なものは、工場地方に於ては製造工業七年制學校、都市に於ては公共事業七年制學校、農村に於ては協同農場青年學校となるのである。これが即ち、中等教育の全組織を眞正の技術教育主義的軌道に轉向せしめる改革の骨子である。

この改革はソヴエート聯邦の全勞役者大衆に大なる滿足を以つて迎へられるであらうことは疑ひを容れない、何んとなれば從來の中等學校は如何なる仕事にも役立たない人々を教育してゐるとの非難があつたし、勞働者達も自分の子弟を「單一勞働學校」から退校させて工場徒弟學校に入れたり直接生産に從事させてをつたからである。

製造工業七年制學校の組織に關する教育人民委員部の方針に依れば、一九三一——三二年までには勞働者の子弟に七年間の普通義務教育を課することになつてゐる。だが、他方に於て協同農場青年學校の建設も盛んに行つて、社會主義的農業のために數十萬人の活動家を供給せねばならぬ。

露國の文化

文學

一九一七年のプロレタリア革命によつて、舊ロシヤ文學は、他の一般社會的現象と同じく、根幹から搖り動かされるほどの大きな影響を受け、舊文學者の大半は反革命の陣營に下り、他の一部は國内に殘つて沈默し、セラフイモウイチ、ゴーリキイ、ブリューソフ等少數の文學者が進んで革命に結びついた。

然し一九一七年から二一年頃に至るいわゆる國内戰の時代には、文學は殆んど正當な形で存在してゐなかつた。軍事や政治上の他のより緊急な必要のために、傍に押しのけられ、著しく歪められた形においてのみ存在してゐた。この期間の文學に形式おいて比較的活躍したものは、詩でその代表者としてはマヤコフスキイ、パステルナク等のロシヤ未來派、ブロク、エセーニン等の民族主義的詩人、舊ブルジョア文學の殘餘部分である、アフマートワ、マンデリシュタム等のアクメイスト及びキリーロフ、ゲラシモフ、カーヂン等の勞働詩人の一群であつた。

ところが一九二一年國内戰の終熄と、新經濟政策の採用、國民經濟の或程度の恢復は、文學の上にも相當力强く反映して、革命の同伴者と呼ばれる若いインテリゲンツイヤの作家が現れた。それは「セラピオン兄弟」の名に最初結束して立つたビリニヤーク、イワーノフ、ニキーチン等であつた。

この革命の味方ではあるが、プロレタリアートとは階級性を異にする小ブルジョアジーの若い作家群は、一九二二、三年から四年頃のソウエート文壇において、獨自の見地から革命に取材した多數の優秀なる小說を出した。その中で特に一般の記憶に殘るものは、ピリニヤークの『裸の年』其他、フェヂンの『都市と年』レオノフの『バルスキの風』セイフーリナの「ウイリネーヤ」及び、エセーニン、チホーノフ、クリューエフ等の詩である。

ところで露國に於ける經濟建設の進展と、一九二四年第十三回共産黨大會によつて公然と切つて落された文化革命の開幕とは國内に於ける階級闘爭の深化をもたらし、過渡期的傾向を帶びたる革命の藝術的同伴者の上には分化作用が持ちあがつた。即ち或者は革命と共に進軍をつゞけ、プロレタリアートに益々接近し、或者は、足踏みし、取り殘され、右傾化し、反動化した。前者の代表的な作家としては、ラウレーネフ、セルヴインスキイ、チホーノフ、トレチヤコフ及び舊未來派、（現「ノーウイ、レフ」）並に構成主義者を數へることが出來、後者には、ピリニヤーク、フェジン、エレンブルグ、マラシキン、ロマノフ等を擧げることが出來る。

同伴者の分化と共に著しい傾向となつて來たものはプロレタリア文學の躍進的な發展である。新經濟政策後の三、四年間において、それはすでにリベヂンスキイの「一週間」、セラヒモーウイチの「鐵の流れ」、フルマーノフの「チャパエフ」及び「反亂」、グラトコフの「セメント」等の傑作を持ち、創作的技術の點を除けば、同伴者のそれに比してすら劣らない優秀な成績を收むるに至つた。即ち曾て宣言的創作か、勞働詩人の詩しか持たなかつた、プロレタリア文學は、質においても量においても發展し來つた。

一方、ソウエート共産黨は文學に對する指導的政策の樹立について、一九二五年六月歷史的な大討議を開き、ルナチャールスキイ、ブハーリン、トロツキイの政治家を始め、ボロンスキイ、ウオロンスキイ、ワルヂン、レレーウイチ等出席して討議した結果、非常に重要な意義を持つ黨の政策を確立した。それは同伴者に對するより愼重な利用並に誘導政策、農民作家に對するより親密なる友誼的關係の設定、プロレタリア作家の黨を笠に着た已惚の防止と共に、彼等の生長を極力助けることを以てその眼目としたものであつた。

この政策のコースに從つて一九二七年全ソウエート聯邦の主要作家團體が、「ソウエート作家聯盟」なる統一組織の下に結合され、そこでプロレ

クリア作家が指導的地位に立つた。現在ソウエート聯邦における文學團體を擧ぐれば左の如し。

1. 全聯邦作家聯盟。(上掲)

2. 全露作家組合。この組合には同伴者の重要な群が結成されてゐる。また組合には、沁透せる新プルジョア意識の携帶者と目されてゐる作家が加盟してゐる。

3. 『レフ』一團、同團體にはウエ・マヤコフスキイ、エス・トレチヤコフ、並にエヌ・アセエフ一派の同伴者の「無條件革命」作家と相並んで、エフ・シュクロフスキイ等の反動的評論家が加はり、「レフ」の代表者は藝術の役割を否定し、それを新聞の小品欄、スケツチ、ニュースに普及することを要求するまでに至つた。

4. 構成派主義者、僅かの人數であり、同伴者左翼が參加してゐる。

5. 「峠」(ペレワール)、この一團には同伴者の一部の者と、プロレタリヤ及び農民作家の僅かの人數が參加して「峠」の思想的構成は甚だ散漫である。

6. 「鍛冶屋」(クズニツア)、この一團は、特に初代プロレタリヤ作家(グラドコフ、リヤシュコ、ノウイコフ・ア・ボイ、ベレゾウスキイ、其他)によつて結成されてゐる。

7. 全露農民作家協會、これはボドヤチエフ、ザモイスキイ其他によつて組織され、主として農民青年作家によつて、活動が續けられてゐる。

8. 全プロレタリヤ作家組合同盟(ワップ)は一九二八年五月第一回全プロレタリヤ作家組合大會後、全プロレタリヤ作家組合統一同盟を確立した。

最後に如何なる組織體にも屬しない作家の數も相等に多い。

一九二七―二八年の文學季節は非常な活況の中に過ぎた。同伴者一派においては、演劇は、勞働者及び農民の政治的並に文化的水準を高め、現實上の問題を捕捉し、決定し、健全なる休息を與へ、以つて勞働者及び農民の廣汎なる大衆をそれに向つて誘引しつゝあるプロレタリヤ獨裁の約束下に於ては、演劇の内部的活動に對して、先づ第一に上演目錄の調節方面に關しソウエート社會性を接近せしむること。(藝術協議會、豫約者及び觀衆の會議等々)。

(4) 劇場と勞働觀客との組織的融合を高めること、(工場の文化的活動の上に劇的の指導を置くこと、勞働者居住地方に中央劇場の巡業等々)。

(5) 劇場内に於ける左翼派活動の强力化(ボリシヨイ、劇場の『主腦』を廢棄すること、モスクワ藝術座内部に於ける管理を根本的に變革すること)。

ソウエート演劇は十月劇によつて新たなる觀客に對して、ソウエート聯邦の世界觀に近き上演目錄を提供し得る能力あることを立證した。これ等多くの戯曲は長い間上演目錄の中に止り、大成功を以つて地方を巡業したのである。それ等は、プロレタリヤ社會の要求に對して、ソウエート演劇が重要なる政治的進出をなしたことを表示するものである。

ソウエートの戯曲中、ワフタンゴフ劇場に於て上演された、ベイ、ラフレネフの作『ラズロム』はその主位を占むるものである。作そのものが特に成功的であつた譯ではなく、ワフタンゴフ劇場が作中の主人公(巡洋艦ザーリヤ内に於て蜂起した)の全人格を鋭く演出し、艦長の家庭内に於ける悲劇を、副次的革命のテーマの中に反映することに成功したからである。

それと相並んで過去に於ける赤衛軍の偉大なる情景を勞働組合モスクワ縣評議會劇場に於て開演したる『反亂』もまた大成功を收めた。

モスクワ藝術座はイワーノフ原作の『裝甲列車』を上演することにより、その創立以來初めて勞働者觀客の雰圍氣に應じたのである。

プロレタリヤ劇場に於ける『壓力(クラースチ)』の上演は大事件であつた。プロレタリヤ劇作家ア・グレボフの、この戯曲は、工場と附近の村落によつて圍繞されたる、餘り大きくない縣都市に於けるソウエート政權獲得闘爭の複雜なる劇的紛爭によつて滿されてゐる。

大劇場(ボリシヤイ・テアトル)、最初に上映したのはムソールグスキイの作曲になる『ボリス、ゴドノフ』であつた。メイエルホリド劇場に於て戯曲『村への窓』を上演したことは注目に値する。

革命劇場(レヴォリューシヨンヌイ・テアトル)に上演されたチジエフスキイの作、『ゴルゴファ』、舊アレクサンドロフスキイ劇場に上演されたるトラフテンベルグ及びモシュキンの作『蹶壕奪取』レアリステイチエスキー劇場に上演されたグラドコフ作『セメント』はその達成の度合よりすれば前記のものに劣るが二年以前に於てはそれ等のいづれもが季節の呼び物であつた。

一九二七―二八年の演劇季節に於ける演劇目錄の一般的特質は以上の如くで其後の演劇季節に於ても、これ亦各種の優れた上演を見ることが出來る。こゝに於て第一位を占めるものとしてはキルションの「レールは響く」(モスクワ縣勞働組合評議會劇場に上演)ハイコ作「折かばんを持つた男」(革命劇場に上演)を上げることが出來る。それ等各々の戯曲は、プロレタリヤ革命に於けるインテリゲンチヤの役割に關する問題を各方面から解決せんと接近したものである。彼等の立證したことは、劇場はソウエート社會に動搖しつゝある問題に反響するばかりではなく、それ等の現象を豫見することさえ出來る、と云ふこと、是れである。

演劇

一九二七年五月、全ソウエート聯邦共産黨中央委員會は演劇政策の問題に關して特別協議會を召集した。この日を以つてソウエート演劇の運命の轉換日とすることが出來る。協議會は演劇の役割と意義の評價に關する對立意見を調定し、それに對する、統一された明確なる階級的政策を決定した。右會議によつて採用されたる決議には次の如く述べられてゐる。

『社會主義の建設を實現しつゝあるプロレタリヤ獨裁の約束下に於ては、演劇は、勞働者及び農民の政治的並に文化的水準を高め、現實上の問題を捕捉し、決定し、健全なる休息を與へ、以つて勞働者及び農民の廣汎なる大衆をそれに向つて誘引しつゝ、また、プロレタリヤの前に課せられる任務に適應して、インテリゲンチヤ及び小ブルジョアを誘引し、教育しつゝ、自からの特殊的手段によつて、社會主義建設に貢獻する重要なる槓杆の一つたる役割を遂行すべきである』

改革されたる演劇政策の特殊性は、次の如くである。

(1) 上演目錄の質を思想的及び藝術的に改善すること。(特に地方に於けるものにその必要あり)。

(2) 組織されたる觀察によつて劇場を占むること。(豫約者、勞働者集團、團體的購買等々)。

(3) 劇場の内部的活動に對して、先づ第一に上演目錄の調節方面に關しソウエート社會性を接近せしむること。(藝術協議會、豫約者及び觀衆の會議等々)。

も重要なものである」とした。寧ろ、キネマは觀客に對して働きかける偉大なる力を占有してをり、それは、最も安價にして且つ稀有の直觀的な藝術である。キネマは幾百萬の觀客を持つてゐる。それは直觀に訴へることにより、最も遲れた觀客の意識に働きかけるに適當なものである。

ソウエート映畫は極めておくれて發達したにも拘らず讀書小屋さえない草深い田舍にまで浸潤しつゝあり、無教育な、時代後れの觀客を教育し、啓蒙し得、一定のときに撮影されたフイルムは任意の時に上映出來るといふ有益な機能を持つてゐるのである。これ等の凡ての事實はキネマが文化的革命事業の中に於て一つの位置を與へられてゐることを表明する。

一九二四―二八年の四ケ年はソウエート、キネマにとつては材料の集積の時代であり、また勞働觀客の興味に接近した映畫を製作せんとする試驗時代であつた。こゝに於ては失策や挫折も少くはなかつた。それに對しては、政治的指導も十分ではなく、教育人民委員部側よりの思想的指導も十分ではなかつた。一九二七年の末から一九二八年の初めにかけて、ソウエート、キネマに關する大衆的論爭が展開されたが、それは一九二八年五月に於ける全國黨會議によつてけりが付いた。ソウエート聯邦のキネマにとつて該會議は大なる役割を演じたものであり、且つ、キネマそれ自身の無定形なる軌道より、確然たる階級的政策への轉換を、事實に於て標示するものである。ソウエート、キネマが既に、その發展の五ケ年間に於て、ある程度までの達成を得てゐるとは云へ、しかし

映畫

レーニンはキネマを定義して「藝術中に於て最

ながら、それの政治的教化事業、大衆の文化的向上、及び大衆の黨を中心とする組織事業に於ける役割は重要なものではなかつた。キネマは、その映畵の内容中に各方面に亘る勞働者の要求を餘り反映せず、農村生活を爲したものは殆んど無かつた。これに關連し、會議は『キネマをして原則的使命の方向、即ちキネマに課せられたる黨の使命遂行、並に廣汎なる勞働者—農民大衆に對する方向の決定に進める』ことの必要を認めたのである。

ソウエート聯邦に於ける（但しウクライナを除く）キネマ常設館は千八百五十五（一九二五年）より二千二百七十（一九二七年）に增加し、クラブ組織のものは千二十五（一九二五年）より二千二百三十九（一九二七年）に增加し、農村に於ける常設館の數は二百十五（一九二五年）より九百四十五（一九二七年）に增加した。キネマ網のこの急激なる增加は、廣汎なる勤勞大衆のキネマに對する注文の增加を物語る。

フイルムの數—ソウエート製のもの、及び輸入ものともーは著しく增加した。即ち一九二五年に五千九十九であつたフイルムは一九二七年には一萬四千八百五十五（ロシヤ共和國とウクライナ共和國とに於て）に增加したのである。（即ちロシヤ共和國に於ける二六・二%ウクライナ共和國に於ける二〇%から、五二・三%—ロシヤ共和國三九%—ウクライナ共和國…にまで增加したのである。

製作品の增加は左記數字が示すが如くである。即ち、一九二二—二三年に於ては、全ソウエート映畵機關の製作映畵は十二であり、一九二三—二四年に於ては四十一、一九二四—二五年に於ては七十、一九二五—二六年に於ては七十七、一九二六—二七年に於ては百二十二。

現存工場に於ける製作品の增加と同時に、新映畵製作場の設立問題が揭げられ、それに對しては最近年度に於て、一千五百萬留を限度として投資される豫定である。

ソウエート聯邦內に於て製作されつゝある映畵機械の數は「千一百七十二臺（一九二五—二六年）より二千四百七十三臺（一九二六—二七年）に增加した。

藝術勞働者組合中央委員會の豫算に據れば、キネマに關する總取引高は一億三千萬留に達してゐる（但しこれには農林市場を含んでゐない）

ロシヤ共和國內に於て最も有力なるキネマ會社は「ソウキノ」及び「メジユラブポムールーシ」である。（但し後者は一九二八年「メジユラブポムーヒルム」と改名された。

ラヂオ

ソウエート聯邦に於けるラヂオ放送局數は現在六十五を數へ、その使用電力總里は百九十三キロワツトであつて、他の諸國のそれに比し遲れて發達した割には、相當目覺ましい普及を示してゐるが、ソウエート當局としてはラヂオの持つ大なる宣傳力に深い興味と注意を向け、過般立案されたラヂオ發展五ケ年計畫においては、ソウエート聯邦の全住民に洩れなくラヂオを聽取せしむることが期待されてゐるが、五ケ年計畫の最後の年一九三二—三三年度には放送局數は百十八、利用電力總量一千三百四十八キロワツトで現在に比し前者において三倍、後者において七倍の增加を見る筈である。將來ソウエート聯邦ラヂオ文化の中心地方となるのは、モスクワ、レーニングラード、ハリコフ（南露）チフリス（高架索）バクウ（同上）タシケント（中央アジヤ）スウコルドロフスク（ウラル）ノウオシビルスク（西伯利）ハバロフスク（極東露領）で、國內電化計畫の發展と相俟つてこれら諸都市に强力なる電力を取つけ、廣範圍にわたつて放送を行ふことゝなつてゐる。

尙現存ラヂオ放送局の主なるもの（使用電力一キロワツト以下は略）を紹介すれば左の如し。

放送局名	電力	波長
共產黨インタナシヨナル放送局	四〇キロワット	一、四五〇
ハバロフスフ放送局	二〇	六、〇一二
ハリコフ放送局	一五	一、七〇〇
レニングラード放送局	一〇	一、〇〇〇
アシユハバツド（中央アジア）放送局	四	七八〇
ノウオシビリスク放送局	四	一、一一七
ロストフ（南露）放送局	四	一、〇七五
チフリス（高架索）放送局	四	八七〇
ウクライナ文部人民委員部放送局	四	四七七
ペトロザウオドスク放送局	二	七六五
サマルカンド（中央アジア）放送局	二	九三〇
中央アジア經濟會議放送局二		七一五

バシキール人民委員會放送局　二

宗教

信教の自由に付ては露西亞社會主義聯邦ソヴエト共和國憲法の保障するところである之れ社會主義に在りては民衆を社會的連帶以外の一切の羈絆より解放し個性の完全なる自由を保障せむことを理想となすに由るものと認む可きところ革命當時以來無神の宣傳及反宗教運動の行はれて來たのは元來超自然力の存在を前提とする宗教的信仰が唯物史觀に卽する科學的社會主義の理論に反するものであると共に在來の宗教を以て搾取階級の傀儡と墮し一般民衆の奴隷的服從を强制する一方便と化せるものなりとし社會主義化せられた社會の施設には民衆を經濟的に解放すると共にマルクスが宗教は人民に對する阿片であると說ける所に從ひ宗教的迷信を打破し以て民衆を精神的にも解放するを要すとの觀念に基礎を置くものと認む可く而して右に付ては共產黨綱領中に於て反宗教運動は科學的宣傳及啓蒙に依るの外暴力を用ひて妄に民衆の反感を買ふ可からざるを戒め、又黨の決議に於ても村落に於ける節度なき反宗教運動が、却て所期の目的に反するものであることを戒めて居る。然るに不拘最近年を逐つて反宗教運動が熾烈となり大規模の宣傳および多數の宗教的建物の閉鎖除去が行はれ又對人的壓迫例へば「セクタント」に對する峻烈なる壓迫を見るに至るのみでなく一九二九年四月開催せられたる第十四回全露ソヴエイト大會に於て露西亞共和國憲法第四條は改正せられて「勞働民衆ニ眞ノ良心ノ自由ヲ保障スル爲國家ト教會並學校ト教會トヲ分離シ又信教及宗教的宣傳ノ自由ヲ、人民ニ認ム」とせられ信教の自由は依然認められて宗教的宣傳と共に教團體に關する法律の發布を見た。

同法律は言ふ迄もなく一九一七年に發布せられた右根本法の附の國家及學校と教會分離に關する根本法に其の淵源を有するものであるが今般特に本法律を發布したのは一九一八年に發布せられたる右根本法の施行細則及其の後の法令が過渡期の規則であつて現時の要求に適せないのに鑑み之に代らしめやうとするものであつて本法律は右諸法令と甚しく其の內容を異にしておる今其の主なる點を擧ぐれば

先づ第一に本法律は一九一八年の根本法は凡ゆる名稱の祭祀聯合に適用せらるべきを定め（第一條）以て其施行法が其適用の範圍を詳細に定めたるも尙且適用を受けざるものあるべきを防ぎ人員の多少を問はず苟くも團體又は集團を組織する宗教的結合は凡て登記しなければ何等の活動を爲すを得ざることとし（第二條、第三條、第四條）且宗教團體團體及其の各種機關の構成人員を屆け出づるの義務を負はしめ（第八條）團體の執行機關の人員中個々の者を忌避する權利を留保し（第十四條）又許可を得て開かれた宗教大會に其の執行機關の名簿と共に大會の資料提出の義務を負はしめ（第二十條）各方面より團體を監督するの途を開きまた團體又は集團が其の財產の管理及使用に關聯する契約は之を締結するを得るも（第十一條第一項）同契約は商業的又は工業的目的を內容とするを得ざるものとするに至つた。

出版

ソヴエート出版事業は一九二七—二八年度に於て用紙類の不足に基く障碍に當面したのである併しながら、出版事業に於ける正確なる消費市場に於ける需要高の明示、國內製紙事業の活動及び外國品の輸入等による、あらゆる組織的方策の結果危機を全く脫し以つて書籍並に新聞の計畫的發行を確保し得たのである。

書籍

一九二七—二八年度に於ては、一二九二五—二六年度に於ける如く書籍の過剩を見なかつた。たゞに發行部數のみならず、原料品の制限からまた書籍のテーマそのものまで或る程度まで撰擇せざるを餘儀なくせしめられた。用紙管理局は、政治的に、文化的に、並に、國家の經濟的發達にとつて重要なる文獻方面への供給を先とし、讀者及び大衆の購買者は、如何なる書籍が彼等にとつて必要であるかを、編輯局及び發行所宛に通知し、また讀者會議及び販賣者に於てもそれ〴〵報告をなすことを一般に向つて通告したのである。

從つて一九二七—二八年度、ソ聯邦に於ける出版の數量的增加がさまで著しいものではなかつた（書籍類に於て一〇%、雜誌に於て二〇%までの增加）としても、書籍類は質的に改善され、而してこの方面に於ける事業も計畫に基いてある程度

の發展を示したのである。

書籍の質的改善は、種類別が更に多くなつたこと、編輯並に書籍の裝幀に對し細心なる注意が拂はれることによつて示されてゐる。最近數年間に、書籍の種類が益々多くなつて來たことは、書籍品目の增加を示す左記の數字によつても明かである。

（單位千種）

一九二四—二五年度	一九二五—二六年度	一九二六—二七年度	一九二七—二八年度
二三・三	二四・八	二六・二	二七・六

書籍類の技術的改善に就ては、勿論、先づ第一に、さし繪付の書籍が、それを示してゐる。即ち一九二四年度に於ては、出版された書籍中四千五百十九種が、さし繪付であつたが一九二五年には七千六百二十六種のものが、そして一九二六年度には八千種、一九二七—二八年度に於ては九千種以上のものがさし繪が付けられた。圖書館網の增加は、一面に於て裝幀された書籍類を要求してゐる。

發行單位部數——は近年來始んど安定した。一九二四年と一九二五年度に於ける發行單位部數は平均一萬五百部であつたが、實際的注文と接近するに及び、一九二六年には平均發行單位部數は七千二百部にまで低下し、一九二七年、及び一九二八年度に於て、依然としてそのまゝである。こゝに注意すべきは、西部ヨーロッパに於ては、書籍店がソ聯邦に比較して遙かに多いが、一萬以上を發行（單位部數）する發行所は僅かに、流行の小說乃至は永年紹介された教科書であること、是れである。ソウエート聯邦に於ける各種雜誌發行所の豫定によれば雜誌の單位發行部數は一九三二年に八千五百部に上る。

雜誌

一九二八年度に於て、ソウエート聯邦內には九百五十—一千種に亘る各種の雜誌が出版された。これは、恐らく、餘りに多きに過ぐるものであり、目下、同種の雜誌を合併せしめんとする輿論は全く當然である。

モスクワのみに於ても四百六十種、即ち全體の數量の約半分に亘る各種の雜誌が發刊されてをり、レーニングラードに於て九十四種、其他のロシヤ聯邦共和國に於て二百種、ウクライナ聯邦共和國に於て百五種、白ロシヤ聯邦共和國に於て三十種、ザ・カフカーズ聯邦共和國に於て十二種——が、發刊されてゐる。雜誌發行を地方分權的にすることは不便なるかの如くである。蓋し、雜誌は常に政治的—文化的中心に向つて索引されるからである。

モスクワ並にレーニングラードに於ては、公共機關にして、專屬の出版機關を持つてゐないものは極める稀である。これ等團體の計畫に因りまた有力な合理的雜誌網が作られつゝある。それによつて雜誌の基礎は强固づけられつゝあり、それ等の雜誌は地方の學術研究機關乃至は大なる社會層（勞働組合及び協同組合機關誌）に寄與すること頗る大である。

新聞

戰前に於ける發行部數の三倍を突破してゐる。この事實は新たなる勤勞階級の社會主義建設と文化への誘引を立證する。而して、假りに最近二、三年間に新聞機關の數が地方化、合理化、金融不十分——の影響を受けたとしても、新聞紙の大衆の中への浸潤數は以上の事情と浚交涉に增加を續けつゝある。即ち左記の表に示すが如くである。

ソウエート聯邦に於ける新聞機關網とその發行部數の增減

	新聞社數	發行部數（單位千）	
一九二四年四月	五一七	三、七七〇	
一九二五年一月	五七九	六、九五〇	第一期間
一九二五年七月	六一三	七、七三六	
一九二六年一月	五六七	八、〇〇一	
一九二六年七月	六一三	七、五一六	
一九二七年一月	五八二	七、五五〇	第二期間
一九二七年四月	五六九	七、五八〇	
一九二八年一月	五七六	八、八〇一	

一九二六年度に於ける發行部數の低下は、黨の宣言に基く、團體的な半强制購讀廢止による、購讀者の整理に起因する。而して若しも今日に於て、個人的な、かつ正規な、事實上の購讀者數が前年度のそれを超過してゐるとするなれば、それは國家の文化的發達と、讀者を引きつけた編輯上の手腕であることの證左である。一九二四年度に於て二十人（大人）に一部の新聞が配布されたのに對して、今日に於ては十一人に一部が配布されつゝある。この增加は、勿論、進步の限界を示すものではない。最近一ヶ年半（一九二七年一月より一九二八年七月一日）に於て、雜誌が二三%增加したに對して、新聞の增加は漸く七・三%の增加に過ぎない。この事實は、若しも、新聞購讀料の低廉、新聞用紙及び新聞配布機關等の狀態がよくなつたことを考慮に置くなれば、それは、新聞と大衆機關並に、增大しつゝある讀者の專門化との結合の不十分であることを示すものである。これ故に、例へば、前記一ヶ年半に於て「イズウェスチヤ」紙の發行部數は殆んど固定し、他の、多方面の社會層を相手とした『勞働新聞』の發行部數は九%の低下をした。黨員の一定層を相手とした「プラウダ」紙の發行部數は二十五%增加し、特別地方機關紙「ラボーチー、モスクワ」並に「コムソモール、プラウダ」紙はいづれも六〇%の增加である。

極東露領

極東露領の行政機關

昭和四年五月改選されたる極東露領ソウエート執行委員會の職員名左の如し。

一、執行委員會議長　ア・エス・アサトキン
二、執行委員會議長代理　グラードワ
三、執行委員會幹事會員（十七名）
リーデマン　ペレペチコ　ネズナヒン　スモロチン　ケンドリン　スウエートフ　リヤフツオフ　ロジヨノワ　ハハニヤン　コプイチン　シシリヤンニコフ　アナニヤン　ヤン・ボーリヤン　イズマイロフ　ウイノグラードワ　メドウエージ　ボーヤル　ウオドラツキイ　シチウキン　セミヨノフ
同候補委員（九名）
ロホフ　スリユサレンコ　グニリツキイ　トフツン　ソフローノフ
四、執行委員會各部々長
イ、計畫部長　ロ、組織部長　ハ、小民族部長　ニ、勞農監督部長　ホ、財務部長　ヘ、行政部長　ト、文教部長　チ、自治經濟部長　リ、保健部長　ヌ、農務部長　ル、商務部長　ヲ、國家保安部長　ワ、統計部長　カ、勞働部長　ヨ、社會保障部長　タ、司法部長　レ、國民經濟會議々長
國民經濟會議議員
ボロズニコフ　マスレンニコフ　ムシタコフ　キタイスキイ　ロクテフ　ソフローノフ　張　スモローデン　リーデマン　ロマンスキイ　ローホフ　フヨードロフ　ヤチン　ホヤル　スウエトフ　メドウエージ　コフイチン　グニリツキイ　ベレゾフスキイ　ウマンスキイ　ゲンドリン　レビン　ベールコーウキツチ　ブラクサ　シチウキン

極東露領の行政區劃

一九二六年一月四日露西亞共和國中央執行委員幹部會の決議をもつて極東地方行政區劃の改變を行ひ舊來の四縣を廢して九管區（オクルーグ）を設置されるに至つたが之は主として經濟的考慮の下に成されたのであつた。

管區名	面積
チタ	一五八、八〇〇平方露里
スレチエンスク	七八、五〇〇
ゼーア	三九五、四〇〇
アムール	二〇七、八〇〇
ハバロフスク	一八九、八〇〇
ウラヂヲストク	七一、七〇〇
ニコラエフスク	四九九、六〇〇
サハリン	三三、七〇〇
カムチヤツカ	八七〇、〇〇〇
計	二、四九五、三〇〇

前表の如く新管區の面積は最小サハリンの三萬四千平方露里から最大カムチヤツカの八十七萬平方露里迄である。各管區の中心から極東地方の中心たるハバロフスクに到る距離は七百十九露里乃至四千三百十四露里で、平均一千四百五十二露里となる。全極東地方に於ける人口密度は一平方露里に付〇・七人である。

此等の九管區は南北二部に大別することが出來る。北部管區にはニコラエフスク、ゼーヤ、アルダン、カムチヤツカ、サハリンの四で、南部管區は浦鹽、ハバロフスク、アムール、スレーチエンスク、チタの五である。

北部四管區の面積は百七十八萬九千平方露里人口は十萬四千世帶數は一萬三千五百、である。又耕地面積は二萬二千三百デシヤチン、牧草地は二萬一千五百デシヤチンにして、馬一萬八千四百頭牛二萬三千頭、羊、山羊七百頭、馴鹿六十七萬四千七百頭、橇犬三萬五千八百頭を有する。

南部五管區の面積は七十萬六千七百平方露里、人口は百五十二萬二千、世帶數は二十萬二千三百である。而して耕地面積は百二十四萬九十デシヤチン、牧草地は四十九萬デシヤチンにして、馬五十萬三千頭、牛八十一萬三百頭、羊、山羊五十九萬四千五百頭、馴鹿三千三百頭を有する。

極東露領の人口

一、都市と農村

一九二六年十二月十七日に行はれた人口調査を基準とせる極東地方の推定人口は百八十七萬八百三十九人である。此内四十七萬四千四百七十四人は（二五・二%）都市及之れに準ずる部落の住人で百三十九萬六千三百六十五人（七四・八%）は農村に住んでゐる人である。

之を地方別に示せば左の如くである。

管區	都市及び之に準ずる部落の人口	農村の人口	小計	全體に對する%
チタ	九四、二八〇	二九三、一六九	三八七、四四九	二〇・八
スレチエンスク	二二、二七八	一八一、三八八	二〇二、六六六	一〇・八
ゼーヤ	二一、五二二	二六、六三二	四八、一五四	二・五
アムール	一〇〇、六七一	三〇〇、九〇二	四〇一、五七三	二一・四
ハバロフスク	六一、四二三	一二六、三二一	一八七、七四四	一〇・二
ウラヂヲストーク	一六一、九一四	四〇三、六八二	五六五、五九六	三〇・二
ニコラエフスク	八、一九四	（二七、一七九）	三五、三七三	一・九
サハリン	二、五二二	（七、六七九）	一〇、二〇一	〇・五
カムチヤツカ	一、六七〇	（二九、四一三）	三一、〇八三	一・七
合計	四七四、四七四	一、三九六、三六五	一、八七〇、八三九	一〇〇・〇

備考　括弧内の數字は前回の調査人口表の示すが如く、各地方の人口分布は頗る不同である。第一位を占むるものは、ウラヂヲストーク管區にして、極東地方人口の三分の一を占めてゐる。之に次ぐものは、アムール、チタ、スレチエンスク及ハバロフスク等の管區であつて、四萬八千人（ゼーヤ）乃至一萬人（サハリン）の人口を有する管區もある。

次に人口數の順位に依つて都市及小都市を列擧せば左の如くである。

一、ウラヂヲストーク（近郊を含む）	一〇七、四〇五人
二、ブラゴヴエシチエンスク（近郊を含む）	六四、九九九
三、チタ（近郊を含む）	六二、〇九〇
四、ハバロフスク	四九、六八八
五、ニコリスクウスリースキー	三二、一二一
六、スパースタ	一〇、六〇四
七、スレチエンスク	一〇、二五一
八、スヲボードヌイ	一〇、二四一
九、ボチカレオ	七、八四七
一〇、ニコラエフスク（ザバイカル）	七、四五六
一一、ペトロフスク（ザバイカル）	七、三〇一

一二、ネルチンスク
一三、イマン
一四、ゼーヤ
一五、アレクサンドロフスク（サハリン）
一六、ペトロパウロフスク

都市に準ずる部落は三十五ケ所であつて、其人口は八四、八五三人である。一部落は平均二、四一五人當りであるが、中には小都市に近い人口を有するものも數ケ所ある。例へばスーチヤン 六、八六九人、ヒロクー 五、〇二四人、チェルノフスキー炭坑—四、七一〇人、ザヴイタヤー四、二九八人、モゴーチヤー二、九六九人、ルーフロヲ—二、三四三人等の如き之れである。而して、此種の部落にして人口の小なるものは、オリガ—八六八人、トイグダ—八五九人、ウシムーン—八二六人、アマザール—七四二人、オホーツスク—七三八人、ダームブキ四九三人等である。

二、性別上より見たる人口

極東地方の人口を性別上から見れば、其數男子は九九六、六〇一人であつて女子は八七四、二三八人である。故に、男子一、〇〇〇人に對し、女子八七七人の割合となる。女子の割合が斯くの如く低いのは支那人（男）が多く居住してゐるためである。

都市と農村に於ける男女の割合を示せば左の如くである。

	男子一、〇〇〇人に對する女子の割合
都市及小都市	一三〇、九三
都市に準ずる部落	四五、四一七　三九、四三六　八六九
農村	七三、一〇三　六六、一六三　九〇二

此の表に依れば、都會から農村に行くに從つて女子の割合が增加してゐるのが解る。

三、前回の人口調査との比較

前回の人口調査は、一九二三年に行はれたが、それから以後今回の調査に至るまでの人口動態を見るに、その間著しき人口の增加を認めざるを得ない。最近三年間に於ける極東地方の人口增加は二五六、一六七人であつて、前回の人口一五九%に當る。即ち一年に平均五%以上の增加である。之は移民が實施されたばかりの今日に於て、五%の增加は僅少とは言へない。

之れを管區別に示せば左の如くになる。

管區	三年間の增加人員	增加率（%）
四四、五六八	一三、〇	
チタ	一七、〇六五	九・一
スレチエンスク	一一、五五五	三一・六
ゼーヤ	四六、五五九	一三・一
ハバロフスク	四六、〇九二	三二・五
ウラヂヲストヅク	八二、二三二	一七・〇

比率上大なる增加をなしてゐるのは、ハバロフスク（三二・五%）とゼーヤ（三一・六%）の二管區である。前者は極東の行政的中心となれるため（ハバロフスク市だけで四五%も增加した）後者は該管區内にある金鑛が復興せるためである。實數上大なる增加をなしてゐるのは、ウラヂヲストータ管區の八二、二三二人之れに次ぐものはアムール及チタの管區である。最少はスレチエンスク管區の九・一%にして辛うじて自然增加率を追越してゐるに過ぎない。其他の管區（ニコラエフスク、サガレン及カムチヤツカ管區）に關しては未だ調査材料を入手せざるため玆に比較する譯には行かない。

一九二三年に對する一九二六年の人口增加を都市及農村別に示せば左の如くである。

	增加人員	增加率（%）
都市及小都市	三二、三五一	九・一
都市に準ずる部落	二三、一三八	三七・五
農村	一〇〇、六七八	一六・八

都市の人口增加は一般に少ない。若しハバロフスク市の增加率は僅か四・八%に過ぎない。ウラヂヲストーク、チタ、ブラゴヴエシチエンスク、ニコリスク等の大なる諸市は始んど不動である。夫れは區劃變更の結果、此等の諸市は行政的意義を幾分減殺されたからである。之れに反して行政上の中心になつたハバロフスク市は四五%、スレチエンスク市は三五四%の增加をなしてゐる。

最も大なる增加をなしたのは、都市に準ずる部落である。極東地方全體で二七・五%に達してゐる。其主なる原因は、地方行政區劃の變更や鐵道の便利等に依つて、中心化されたためであつて、チエルノフスキエ炭坑、モゴチヤ、エロフエイ・パウロウイチ、マグダガーチ等は之れである。

農村の增加率は、一六・八%であるから、極東地方全體の增加率（一五・九%）よりもやゝ多い譯である。

之を要するに最も多く人口の增加したのは、都市的部落にして、農村の增加は略々極東地方全體の增加率に近く、都會の增加は最少であつて、自然增加率よりもやゝ多いだけである。

註—因みに露國は近年多數の極東露領移民を歐露西伯利方面より送致しつゝあるので現在の住民數は其計數よりも遙かに增加せるものと見做される。

極東露領新五箇年計畫

第九回極東露領共產黨大會に於て、決定せる極東地方國民經濟建設五箇年計畫に關する廣汎に亘る決議文が最近當地極執機關紙に公表せられたる處、右は極東地方行政機關の今後の指針たるべきもので、且同地方に於ける通商經濟上の將來を窺知し得べき資料である。右決議文中の重要計畫案左の通り。

一、植民

極東露に於ける農村經濟を發達せしめ又工業、運輸、產業及其他の方面に於ける需要を充たすため、五箇年間に亘り同地方に對し八十萬五千人、（其中農村經濟方面に五十二萬人、產業方面に四萬五千人、工業方面に四萬五千人）の植民を行ふ筈である。管區別に依る右植民配屬狀態左の通り。

浦潮管區	二二二、〇〇〇人
アムール管區	三六〇、〇〇〇人
ハバロフスク管區	一四〇、〇〇〇人
ニコラエフスク管區	二〇、〇〇〇人
北樺太管區	二〇、〇〇〇人
勘察加管區	八、〇〇〇人
ゼーヤ管區	二〇、〇〇〇人
スレチエンスク管區	——
齊多管區	一五、〇〇〇人

二、運輸

（イ）後貝加爾鐵道及烏蘇里鐵道を振興せしむること。（ロ）延長五百八十七粁に亘る新鐵道の敷設を、又極東地方よりの輸出品の急速なる發達、殊に其輸出の進展に鑑み海上の運輸及商船隊を發達せしめ、五箇年の終頃にはソヴイエト商船隊を極東露諸港發全貨物の二〇乃至二二%以上を、其中でも殊に小沿岸貿易は完全に一〇〇%しむる爲十九萬噸の商船を建造すること。（ニ）浦潮港及尼港を擴張しアレクサンドロフスク、ソフガワニ及沿海地方南部に於ける諸港の建設を爲すこと。（ホ）本期間中に河川運輸の重要問題として、黒龍江より日本海への距離を短縮せしむべきキジ、デカストリ間の運河開設を實現すること。（ヘ）黒龍江航行の商船隊を擴張し又埠頭、碇泊地及修繕所等を建設して、其活動を容易ならしめ、且航江狀態をも改善し、殊に五箇年の終頃には黒龍江沿岸に河川運用造船所を建設すること。

三、工業

（イ）現存炭鑛企業を擴張し且ブカチヤチンスキー、バヅフスキー及北樺太の新石炭企業を勃興せしむること。（ロ）北樺太に於ける大石油企業を勃興せしむること。（ハ）沿海地方に中央發電所及ハバロフスク、齊多に發電所を建設すること。（ニ）ザバイカル冶金工場の建設及極東造船工藝トラスト工場の下に造船所を建設すること。（ホ）ザバイカルに於ける有色金屬金及鑛山化學工業に關する各企業を發達せしむること。（ヘ）ウスリスキー製材、製紙綜合工場及極東林業トラスト所屬並各地方の多數の新製材所を建設すること。（ト）硝子工場及多數の煉瓦工場を裝備しセメント工場を擴張すること。（チ）ザバイカルの木材化學綜合工場、ドロニンスキーの曹達企業を創設すること。（リ）羅紗、麻、木綿、製網等の機織工業建設。（ヌ）二新製革工場、一製革工場及一製靴工場の建設。（ル）多數の脂油製造企業、二ギドロゲニザチオンノエ企業及二製油企業等の建設。（ヲ）有力なる漁撈船隊の組織、多數の魚類罐詰工場及漁業根據地の建設。（ワ）各地に精米所及製粉所を建設すること。

四、農業其他

(イ)五千萬留の農具及四千五百臺のトラクターを供給すること。(ロ)米作用地七萬「ヘクタール」の改良、二萬七千「ヘクタール」の乾燥、一萬七千「ヘクタール」の水作業を行ふこと。(ハ)十八萬「ヘクタール」に亘り各地に穀物、米、甜菜栽培國營農業を組織すること。(ニ)各地に種子用種畜用農業を建設すること。

公共經濟　(イ)浦汐に於ける水道、下水の建設及同地の電車網の擴張。(ロ)哈府に於ける下水道建設。

商業　(イ)浦汐市に輸出用品冷藏庫、ハバロフスク市に中央冷藏庫及各地に冷藏庫を建設すること。(ロ)浦汐及武市竝各沿線に於て穀物專用保管倉庫を建設すること。

社會文化　極東露大學の建設。

東部西伯利地方の編成

聯邦共産黨及びソヴエート政府は、一九三〇年十月からシベリヤ地方を、西部シベリヤ地方と東部シベリヤ地方との二つの獨立した行政經濟單位に分割することに決定した。而して東部シベリヤ地方の中心地となるはイルクーツクである。東部シベリヤ地方に合流するものは、西部シベリヤ地方からはカンスク、キーレンスク兩管區及びクラスノヤールスク管區の一部、極東地方からはチタスレチエンスク兩管區とブリヤト・モンゴル共和國全體で、その總面積は百六十萬ヘクターに及ぶ。

東部シベリヤ地方の編成は、沿バイカル地方の産業及び文化のためのみならずソヴエート國全體のためにも巨大なる意義を有するものである。即ち東部シベリヤ地方の編成は、この地方に直面してゐる諸問題の解決を促進せしめ、國民經濟勞働の分割を迅速に實施せしめ、諸分管區の生産的傾向と經濟的分業化を決定せしめ、該地方の産業發展の速度を增大せしめるものである。

新地方に於ける生産力と産業發達の基本的傾向は、如何なるものであるか?

東部シベリヤ地方は、大なるエネルギイ源と無盡藏の天然資源を有してゐる——アンガラ河の水流利用、五百億噸の石炭埋藏量を有するチエレムホフ炭田、廣大な森林地面積、諸鑛物、毛皮、魚類等、數へれば限りがないほどである。東部シベリヤ地方は、ソ聯邦に於ける將來の有力なる工業中心である。チエレムホフ炭坑の大建設、採炭の機械化、金鑛業、雲母採取は、大いに發展してをり、林業は擴大してをり、更に諸工場の建設が計畫されてをる。

農工業の發展と隆盛の問題は、アンガラ河に强力な水力發電所の造設を解決するものである。アンガラ河は、世界に於ても有數なるエネルギイを藏有する河で、一年に約四百億キロワット時のエネルギイを得ることが出來る。これはドネプロ水力發電所の二十倍、アメリカに於て消費される電力の半ばに相當する。

林業は、十一億五千萬デシヤチンの森林根據地を有し、建築材料、木材加工、化學工業等の發展を約束してゐる。

農業の諸問題は、東部シベリヤ地方の工業建設に於て大なる地位を占めるであらう。イルクーツク、カンスク・前トヴルンスク諸管區及びブリヤト・モンゴル共和國の廣大なる土地と好適なる氣候的自然的條件は農業を發展せしめ有力なる穀物根據地を造る可能性を與へるものである、一九二九——三〇年度には、イルクーツク管區のみで百萬セントネル餘の商品穀物を生産した。農村に於ては深刻なる社會的改造が行はれてゐる。個人的に細分されてをつた農業が、大なる速度を以つて土地利用の集團的形式や集團的勞働に轉向してゐる。

新地方の全領域には二百萬餘の住民がゐる、そのうち都市住民は一八%を占めてゐる。當地方の移民問題は諸機關の仕事に於て大なる地位を占めなければならぬ。

將來の地方中心地たるイルクーツクの文化的意義は頗る大である。目下、同市には六の高等教育機關と十二の中等專門學校がある。シベリヤの大なる文化的中心地たるイルクーツクは當にその管區のみならず、シベリヤ及び極東の諸管區のためにも多くの幹部を養成した。

蒙古と境を接する將來の新地方は、蒙古及び支那との貿易に於て大なる輸出的意義を發揮するに至るであらう。又、シベリヤに於ける輸送問題解決にも大なる役割を演ずるであらう。

前駐露帝國大使館參事官
酒勾秀一氏新著
ロシヤはどうなる?
◇定價　壹部　壹圓三十錢　送料　市内　八錢　内地拾貳錢　領土拾八錢
(本文二百八十頁)
果然! 白熱的歡迎!
眞價定まり賣行漸增
ソヴイエト・ロシヤは如何なる國か? それは今何處へ行きつゝあるか? 社會主義へか、資本主義へか? 光明へか、暗黑へか? これは今日と明日の世界の運命を決定する眞劍な問題だ。他所事ではない。我々自身の生ける重大問題だ。此の疑問は今百パーセントに氷解された。俊敏篤學なる外交官として定評ある著者の滯露五箇年に亘る詳細なる實見と研究と調査の全成果はこゝに洩れなく此一書に輯錄された。素通り的、成心的、色眼鏡的ロシヤ觀に食傷した人々について本書を見よ、新ロシヤに關し貴下の求むる一切を本書から汲み取ることが出來るであらう。
東京市麹町區丸の内三丁目二番地三菱二十一號館
日露貿易通信社
電話丸の内(四六四四・四六四五番)
振替東京四三〇一五番

昭和五年十二月十五日印刷
昭和五年十二月廿二日發行
日露年鑑
〈定價金拾圓〉
不許複製
發行兼編纂者　東京市麹町區丸の内三丁目二番地　日露貿易通信社
右代表者　東京市麹町區丸の内三丁目二番地　上田森治
印刷者　東京市麹町區丸の内三丁目二番地　上田森治
東京市外淀橋町柏木九百六十四番地　露文整版　歐文堂印刷所
大賣捌所
東京市京橋區山下町　合資會社　東海堂
東京市日本橋區通三丁目　文原堂
東京市神田區錦町三丁目　株式會社　東京堂
東京市神田區神保町　株式會社　嚴松堂
東京市日本橋區通二丁目　株式會社　大東館
東京市日本橋區元數寄屋町　大阪屋書店
發行所　東京市丸の内二丁目二番地三菱二十一號館　日露貿易通信社
電話丸の内(四六四四・四六四五番)
振替東京四三〇一五番

ТАЙРО КЕЙЗАЙ ДАНВА КАЙ.*)

(Общество дружеских собеседований заинтересованных в экономической связи с СССР японских деятелей)

15-го сентября 1924 года, по инициативе г. г. Матано, Каватани, Ясака и др. в Японии было организовано общество „Ничиро Дзицугио Данва кай" (Японо-русское общество дружеских совещаний деловых людей), которое 10 октября 1927 года, изменив свое название на „Тайро Кейзай Данва кай" (Общество дружеских собеседований заинтересованных в экономической связи с СССР японских деятелей) с тех пор существует под этим именем. Важнейшие пункты устава этого общества в общих чертах сводятся к следующему:

Общество ставит своей целью улучшение и развитие экономических связей между обоими странами и увеличение благополучия обоих народов.

Для достижения вышеуказанной цели, общество занимается изучением и исследованием экономической жизни обоих стран и обменом мнениями между своими членами по этому поводу.

Главное правление общества помещается в городе Токио и отделения в других местах Японии.

Членами общества могут состоять лица, имеющие экономические связи с СССР.

Правление общества составляется из нескольких распорядителей, из среды которых выбирается один председатель правления.

Распорядители избираются на Общем Собрании членов общества. на срок 2 года.

Распорядители составляют президиум общества, распоряжаются всеми делами общества и разрешают все важные вопросы.

Главный распорядитель или председатель правления общества является представителем общества.

Очередное Общее Собрание общества созывается один раз в год ежегодно.

Совещания правления созываются председателем его или открываются по просьбе не менее 5 распорядителей.

Членский взнос для членов общества устанавливается в следующих размерах:

Для частных лиц ... ... 6 иен в год.

Для юридических лиц или группировок ... 20 иен в год.

В состав правления общества в настоящее время входят следующие лица:

Ивасаки Наото, Ясака Масадзи, Ирино Торазоо,
Яманоучи Киодзи, Сузуки Сигехару.

Число членов общества на 1 октября сего года исчислялось в 38 человек внутри Японии и 15 человек на иностранной территории.

Постановления общества могут быть изменены по согласию более двух третей присутствующих на Общем Собрании членов общества.

* **Примечание**: По характеру, который носит эта группировка ее можно было бы отнести к группировкам, имеющим своей целью установление экономических связей с СССР, но в виду того что эта группировка в действительности не производит никаких экономических сделок, а собирается лишь для собеседований и обмена мнениями, мы включили ее в число группировок преследующих культурное сближение между обоими народами.

Барон Такаси Масуда, Барон Тораносуке Фурукава, Барон Хейтаро Фузита,
Райта Тояма, Барон Сеиносуке Гоо, Тейдзио Егучи,
Барон Иосиро Сакатани, Сюнкичи Минобе, Сюнзи Мияо,
Такеси Сирани, Виконт Ейичи Сибусава, Симакичи Сузуки.

Директора.

Томитаро Хара, Синтаро Оохаси, Канзи Като,
Тосихихо Каваками, Райзо Тацуй,
Масатаке Накасима, Тацукичи Курачи Садатоси Ясуги,
Киохей Магоси, Гентаро Симура, Мичинари Суэнобу.

Управляющий канцелярией общества:

Сейичи Секине.

ЯПОНО-СОВЕТСКОЕ ЛИТЕРАТУРНО-ХУДОЖЕСТВЕННОЕ ОБЩЕСТВО.

В марте 1923 года друзьями СССР, с целью изучения выдающихся произведений советской литературы и искусства и рекомендации их японской публике, обмена произведениями искусств и другими культурными ценностями между СССР и Японией и культурного сближения обоих стран было организовано Японо-Советское литературно-художественное общество, при котором были учреждены следующие отделы:

1. Издательский отдел. Отдел этот в настоящее время издает ежемесячный журнал-орган общества „Японо-советское исскуство“, в котором рекомендует японским читателям произведения советских выдающихся писателей и в незначительной степени произведения японских пролетарских или других писателей)
2. Отдел изучения советской литературы, искусства и культуры.
3. Лекционный отдел. На обязанности этого отдела лежит организация лекций по вопросам японо-советской литературы, искусства и культуры. За небольшой промежуток времени своего существования общество организовало уже достаточно много лекций докладов, большая часть которых имела целью рекомендацию советской литературы и искусства.
4. Финансовый отдел.

Для выполнения функций каждого отдела из среды членов общества избирается несколько комиссий, которые из своей среды избирают распорядителей, из которых и организуется президиум общества.

Правление общества находится в Токио Канда-ку Омоте-Саругакучо № 8

В настоящее время президиум общества состоит из следующих лиц: Акита Удзяку, Ида Кохей, Ионекава Масао, Сигемори Тадаси, Канеда Цунесабуро, Авая Кесадзи, Сава Сейчо, Такахаси Бансей и Накане Хироси.

За истекший период времени с учреждения общества до сих пор общество проявило значительную активность в ознакомлении японской читающей публики с произведениями советских литераторов, а также творениями советского мира искусства вообще. Не имея достаточных средств для осуществления своих желаний, общество все же хотя и не в значительной степени с'умело дать несколько образцов произведений японских писателей для ознакамления с ними советских читателей. Общество всегда шло охотно

туда где в нем была нужда и было в первых рядах по устройству в Японии различных группировок, прибывавших в Японию и преследовавших культурные цели. Так было тогда, когда Японию весной 1926 года посетил известный советский писатель Борис Пильняк и когда весной 1927 года в Токио и Осака была открыта выставка произведений советского изобразительного искусства. В последней организации общество не мало потрудилось вместе с другими организациями для ее осуществления. Летом 1928 года по случаю гастроли японских артистов японского классического театра „кабуки“ общество выпустило специальную брошюру на русском языке с целью ознакомления русской публики с японским театром „кабуки“ вообще и гастролями японских артистов в СССР в частности.

Несмотря на то что обществу в исполнении намеченных им заданий зачастую приходится ходить по мукам, из за недостатка средств и встречаться с различными затруднениями, оно в истекшем 1929 году, вступив в 4-ую годовщину своего существования несколько расширило круг своей деятельности и теперь издает прекрасный, как по внутреннему содержанию, так и по внешнему виду журнал „Советское искусство“, распространяющийся в большем числе экземпляров среди японской читающей публики.

ОБЩЕСТВО „МОСКВА КАЙ“.

В октябре 1928 года в Токио создалось весьма оригинальное общество под именем „Москва кай“. Членами общества могут состоять лишь те японцы, которые побывали в Москве после восстановления дипломатических сношений между Японией и СССР и создано с целью об'единения и обмена мыслями и воспоминаниями между членами общества на собраниях устраиваемых обществом „Москва кай“. Общество это было создано по инициативе следующих лиц: Фурусава Какухон, Иокои Хансабуро, Ямаоучи Киодзи и Хасигучи Цукума.

Членами общества в настоящее время состоят следующие лица:

Мацумура Синичиро, Охама Кин'ичиро, Хасимото Дзиппи,
Косида Токузиро, Иде Масатака, Иосида Сакае,
Ниси Харухико, Симада Масакиио, Оката Сейшуку,
Сасаки Сейго, Уэда Сентаро, Иокой Хансабуро,
Умеура Кенкичи, Нарита Кадамаса, Такигучи Кичиносуке,
Сенума Какусабуро, Исигами Риндзиро, Каваками Тосихико,
Окумура Масао, Тасака Ичироо, Икеда Кензоо,
Ямаоучи Киодзи, Сато Жюничи, Накамура Масааки,
Катоо Исозои, Наказато Сигедзи, Ямада Бундзи,
Кониси Масутаро, Фурусава Какухон, Накатани Садамори,
Сасаки Хейдзиро, Хирацука Цунедзиро, Хасигучи Цукума,
Мори Коозо, Маеда Тамон, Танака Сейдзиро,
Ясуги Садатоси, Секине Сейичи, Сагаки Кан,
Акита Ужяку, Ионекава Масао, Ямаоучи Хосуке,
Гундзи Гороо, Осе Кеиси, Цукахара Кайичиро,
Ябе Томое, Такаку Дзинносуке, Нагахара Сигеки,
Ватанабе Нин. Кухара Фусаносуке, Ито Бункичи,

VI. Культурная связь.

ГРУППИРОВКИ, СТАВЯЩИЕ СВОЕЙ ЦЕЛЬЮ КУЛЬТУРНОЕ СБЛИЖЕНИЕ ОБОИХ СТРАН.

ЯПОНО-СОВЕТСКОЕ ОБЩЕСТВО „НИЧИРО КИОКАЙ“,

Японо-советское общество „Ничиро Киокай“ организовалось под именем „японо русского общества“ в 1906 году с целью поощрения научных исследований России и установления дружеских связей между обоими странами.

В 1911 году председателем этого общества был избран граф М. Тераучи и его товарищем барон С. Гото. В 1912 году Его Императорское Высочество принц Кан-ин-номия выразил свое согласие занять пост президента общества и с тех пор общество стало под руководство Принца Кан-ин-номия.

С развитем деятельности общества после его организации, оно в 1911 году имело основной капитал, собранный от членов общества в сумме 142.200 иен, который впоследствии в 1917 году, по распоряжению председателя временной комиссии общества, был пополнен собранным вторично в сумме 370.000 иен.

В 1917 году общество, принимая во внимание то обстоятельство, что в Японии очень мало молодых людей знают и интересуются русским языком и Россией решило организовать вечерние курсы русского языка с ускоренным выпуском. Однако курсы эти не смогли продолжить долго своего существования и выпустив в конце этого же года экстренный выпуск окончивших курсы в числе 60 человек, вслед затем закрылось. Вместо этих краткосрочных курсов русского языка в Токио, в сентябре 1920 года было организовано училище обшества „Ничиро Киокай“ в Харбине, в котором в числе прочих предметов в качестве обязательного предмета было введено преподование русского языка для японской молодежи, имеющей намерение выступить со своими знаниями на общественном или другом поприще или в различных отраслях торговли, в России или в Китае.

Ранее в 1918 году японо-русское общество, по поручению Министерства торговли и земледелия организовало в Харбине Коммерческий Музей со всевозможными образцами японских товаров. Этот Музей существует до сих пор и в течение вот уже 10 лет играет роль посредника в торговых сделках между японскими, русскими и китайскими коммерсантами и издает детальные обзоры торговых отношений между Японией, СССР и Китаем в целях развития и укрепления коммерческих связей между ними.

После смерти председателя общества графа Тераучи в ноябре месяце 1919 года председателем общества был избран барон Гото Симпей, а его заместителем барон Мегата, занимавший пост заведующего отделом исследований торговых отношений между странами до своей кончины в сентябре 1926 года.

В истекшем году обществу пришлось перенести тяжелую утрату. В апреле умер председатель общества граф Гото Симпей энергичный руководитель и вдохновитель

общества Ничиро Киокай, несменно проведший на своем посту почти 10 полных лет. После долгих поисков преемника в председатели общества и ряда совещаний совета и директоров, общество наконец остановило свой выбор на адмирале Сайто Макото, который и занял пост председателя общества Ничиро Киокай.

Господин Сайто Макото родился в губернии Ивата, в уезде Узава в уездном городке Мизусава в части его называемой Сиогама в квартале № 23, 27 октября 1858 года. 27 октября 1873 года он вступил в Военно-Морской Институт по окончании которого был произведен в мичманы 8 сентября 1882 года.

Сделав быстро свою служебную карьеру г. Сайто 7 января 1906 года занимает пост Морского Министра при кабинета Кацура, будучи уже в чине адмирала.

21 сентября 1907 г. он был пожалован титулом барона, а в декабре 1911 года он был произведен в вице адмиралы.

После того как 1 мая 1913 года г. Сайто вышел в запас, 12 августа 1918 года он был снова призван из запаса для занятия поста губернатора Кореи. 9 апреля 1924 года ему был пожалован титул виконта.

15 апреля 1927 года ему поручается полномочное представительство от Японии на Женевской конференции по морским разоружениям, 10 декабря этого же года он освобождается от поста Корейского генерал-губернатора и уполномоченного представителя Японии на конференции и в этот же день по распоряжению Е.И.В. Императора Японии ему жалуется прием министра (все наиболее заслуженные перед страной лица в Японии по Высочайшему Указу Императора пользуются почетом наравне с таковым же установленным для министров) 11 декабря т.е. на другой день он снова выходит в запас и 17 этого же месяца назначается членом Верховного Тайного Совета.

В отставку от военно-морской службы г. Сайто вышел 25 ноября 1928 года. После сформирования кабинета партии Минсейто г. Хамагучи в 1929 г. г. Сайто снова назначается генерал-губернатором Кореи, выезжая куда он решает не оставлять поста председателя советско-японского общества.

В настоящее время общество насчитывает 453 человека членов.

Ниже мы приводим состав президиума общества, его Совета и директората общества.

Президент общества — Его Императорское Высочество Принц Кан-ин-номия

Председатель общества — Виконт Сайто Макото

Почетный председатель общества — Полномочный Представитель СССР в Японии А. А. Трояновский

Члены Совета:

Ионезиро Ито,	Зюнносуке Ито,	Виконт Кикузиро Исии,
Еизо Исизука	Кинтаро Хаттори,	Зиро Харада,
Кеизиро Хори,	Кахеи Оотани,	Кацусабуро Ватанабе,
Кейсабуро Като,	Такези Кавамура,	Чокуон Катаока
Корекио Такахаси,	Тоиокичи Такамацу,	Такума Дан,
Зюичи Соеда,	Токугоро Накахаси,	Кейзи Наката,
Барон Юзиро Накамура,	Киоси Нонака,	Куметаро Ямамото,
Мотохачи Яги,	Ханичиро Ясухиро,	Барон Иоу Мацуока,

которого времени, включительно до 1 марта 1925 года, когда в связи с заключением конвенции об основных принципах взаимоотношений между СССР и Японией оно было снова восстановлено.

Кроме перечисленных линий в царское время в России телеграфная связь с 1915 года обслуживалась также по радиотелеграфу между японской радиотелеграфной станцией на Очииши и русской станцией в Петропавловске на Камчатке. Между прочим установление радиотелеграфной связи с Петропавловском на Камчатке для Японии явилось первым опытом передачи радиотелеграмм вообще

ТЕЛЕГРАФНАЯ СВЯЗЬ МЕЖДУ ЯПОНИЕЙ И СССР.

После восстановления дипломатических сношений между СССР и Японией и по настоящее время функционируют следующие телеграфные линии обслуживающие телеграфную связь между СССР и Японией:

Телеграфная линия Сеул—Владивосток.
„ „ Тоиохара (на Южном Сахалине)—г. Александровск.
„ „ Нагасаки—Владивосток.
„ „ Нагасаки—Шанхай.
Радиотелеграф между Очииши и Петропавловском на Камчатке.
„ „ станциями Оотомари и Александровском.

Кроме перечисленных телеграфных и радиотелеграфных линий телеграфное сообщение между СССР и Японией поддерживается через телеграфную линию Индо-Европейского телеграфного общества через Персию и Велико-северного телеграфного общества через Лондон. Однако в виду того, что телеграфный тариф установленный на этих линиях чрезвычайно высок, к ним прибегают только в том случае, когда означенные 6 телеграфных линий почему либо не смогут принять телеграммы или когда в их работе наблюдается тормаз.

Кроме того есть еще несколько линий, по которым можно передать телеграммы между Японией и СССР, но обычно ими пользуются очень редко, также по причине дорогого тарифа.

ТЕЛЕГРАФНЫЙ ТАРИФ ДЛЯ ТЕЛЕГРАММ МЕЖДУ ЯПОНИЕЙ И СССР.

Тариф для телеграмм и телеграфной корреспонденции для прессы на всех телеграфных линиях существуют различный. Ниже мы приводим таблицу о телеграфном тарифе между Японией и СССР, отдельно между азиатской частью Союза ССР и Японией и европейской частью СССР и Японией:

Линия	Азиатская часть СССР		Европейская часть СССР	
	Обыкновенные телеграммы	Для прессы	Обыкновенные телеграммы	Для прессы
Сеул—Владивосток	22 сены за слово	.....	28 сен за слово	12 сен за слово
Нагасаки—Владивосток	42 „	21 „	48 „	22 „
Нагасаки-Шанхай-Кяхта				
Другие	1.83 „	.....	1.67 „	.....

Примечание: Тариф для правительственных телеграмм для обоих стран установлен особый: за одно слово по телеграфной линии через Корею—16 сен и через Нагасаки—26 сен.

Общее число передаваемых телеграмм за один месяц в последнее время достигло 4.800 телеграмм.

Б) Почтовые линии.

Почтовыми линиями, связывающими СССР и Японию являются три следующие линии: (СССР всю свою почтовую корреспонденцию посылает преимущественно по линии Владивосток—Цуруга):

а) Линия через Маньчжурию и Корею:

По этой линии почтовая корреспонденция идет через Симоносеки, Фузан, Харбин и Маньчжурию и через Читу по Сибирской железной дороге 3 раза в неделю.

б) Линия через Владивосток. По этой линии почтовая корреспонденция отправляется следующим образом:

Регулярные рейсы судов, связывающие порт Владивосток с японским портом Цуруга (один раз в неделю), Владивосток—Отару (порт на острове Хоккайдо)—(3 раза в месяц) и Владивосток—Нанао—в месяц 2 раза. Это линия обслуживает почтовые отправления между Японией и Приморской и Амурской областями.

в) Линия в направлении Сахалина и Камчатки.

Почтовые отправления по этой линии отправляются на пароходах, совершающих летние рейсы из портов Хакодате и Отару. В зимнее время почтовое сообщение, по соглашению между почтово-телеграфными конторами Союза ССР на Сахалине и японским Управлением на Южном Сахалине, поддерживается санным путем.

2. Воздушное почтовое сообщение.

Между Японией и СССР до сих пор еще не установлено воздушного почтового сообщения, благодаря чему простая корресцонденция идущая в Смоленск, Харьков, Ростов, Армавир, Минеральные воды, Владикавказ, Грозный, Махач-кала и Баку до Москвы идет по железной дороге, а дальше переотправляется на аэропланах. Впрочем воздушное почтовое сообщение, кроме направления на Смоленск поддерживается всего лишь полгода и в течении времени с 16 октября по 30 апреля операции воздушного почтового сообщения прекращаются.

3. Почтовые посылки.

Обмен почтовыми посылками между Японией и СССР был прекращен в августа 1923 года и вслед затем вопрос об обмене почтовыми посылками остается открытым по сие время. В настоящее время почтовые посылки СССР и Японией отправляются через Англию и Латвию или Францию и Польшу. Японское Правительство начало переговоры об обмене почтовыми посылками между обоими странами вслед за заключением основного японо-советского договора в Пекине в январе 1925 года, не по различным причинам соглашение по этому поводу пока не состоялось. СССР прнимает участие в Стокгольмском почтовом договоре, в соглашении же об обмене почтовых посылок с об'явленной ценностью он не участвует, благодаря чему непосредственный обмен посылок им производится лишь с Эстонией, Латвией, Финляндией и Польшей.

4. Почтовые переводы.

До 1913 года почтовые переводы между Японией и Россией производились при содействии английских почтовых контор. В 1913 году между странами было заключено соглашение, на основании которого был установлен непосредственный обмен почтовыми переводами. В виду того, что в 1914 году вспыхнула мировая война, вызвавшая понижение курса русской валюты, Российское Правительство в сентябре 1914 года прекратила операции по почтовым пореводам в Японию. Почтовые же переводы из Японии в Россию продолжались беспрепятственно до сентября 1918 года. С этого времени возможность операций по почтовым переводам сохранилась лишь для некоторых пунктов Азиатской России, в сентябре же 1922 года операции по почтовым переводам в СССР совсем прекратились. В январе 1925 года Японское Правительство предложило СССР восстановить операции по обмену почтовыми переводами, на что последний ответил что принципиально он согласен с предложением и что в настоящее время он занят разработкой деталей этого проэкта. Таким образом можно надеятся что осуществление операций по почтовым переводам между обоими странами состоится рано или поздно и весь вопрос лишь во времени.

ТЕЛЕГРАФНАЯ СВЯЗЬ МЕЖДУ ЯПОНИЕЙ И СССР.

КРАТКИЕ ДАННЫЕ О ТЕЛЕГРАФНОЙ СВЯЗИ МЕЖДУ ЦАРСКОЙ РОССИЕЙ И ЯПОНИЕЙ.

Находясь в близком соседстве с Россией и сталкиваясь с ней различными интересами, Япония, с тем чтобы поддержать с ней добрососедские отношения с давних пор должна была установить нормальную телеграфную связь. Благодаря этому обстоятельству история телеграфной связи России с Японией имеет довольно старую историю, начало которой относится к 3-ему году Мейдзи (1867 год), когда Великое Северное Телеграфное общество, с разрешения Японского Правительства, провело один подводный телегрфный кабель между японским портом Нагасаки и русским портом Владивостоком. В дальнейшем, по инициативе Японского Правительства был проведен на этой же дистанции еще один подводный кабель. Установленное таким образом телеграфное сообщение давало возможность странам установить между собой непосредственную телеграфную связь.

В виду того что по этой линии телеграфной связи принималась также телеграфная корреспонденция и в другие страны, Кроме Японии и России, телеграфные агентства, обслуживающие ее, оказались перегруженными работой, вследствие чего по истечении тридцати лет остро почуствовалась необходимость установления другого более удобного телеграфного сообщения. Таковое было установлено путем проведения прямого провода на суше между Кореей и Владивостоком и между Северным и Южным Сахалином. Установление этого телеграфного сообщения открыло новую эпоху в телеграфной связи стран, так как кроме выявившихся в результате установления нового телеграфного сообщения удобств в передаче телеграмм, представилась возможность значительно удешевить телеграфный тариф. В дальнейшем эти две телеграфные линии обслуживали непосредственную телеграфную связь между Японией и царской Россией до времени пока в России не вспыхнули революционные и вслед за ними контр-революционные события, нарушившие нормальные отношения между странами. Благодаря последним телеграфное сообщение по этим линиям не поддерживалось в течение не-

ДРУГИЕ ПАРОХОДНЫЕ ОБЩЕСТВА, ИМЕЮЩИЕ СВЯЗИ С СССР

ПАРОХОДНОЕ ОБЩЕСТВО КИТА НИХОН КИСЕН КАЙША.

Сквозное транспортное сообщение между Владивостоком и Цуругой обслуживалось пароходным обществом „Осака Сиосен кайша“ до 1 апреля 1929 года. С 1 же апреля 1929 года обслуживание этой линии перешло к пароходному обществу „Кита Нихон Кисен кайша“, при чем последним на эту линии был послан пароход „Амакуса мару“ (2.345 тон), который установил рейсы один раз в неделю.

В дальнейшем, в связи с тем, что вследствие разрыва дипломатических отношений между СССР и Китаем и перерыва сообщения между Китайско-Восточной и Уссурийской железными дорогами, из-за конфликта вокруг Китайско-Восточной железной дороги, прямое связное сообщение между Европой и Азией приняло новое направление по Уссурийской и Амурской железным дорогам, при чем поезда этого сообщения стали ходить два раза в неделю, общество Нихон Кита Кисен кайша решило увеличить обслуживание линии Цуруга-Владивосток еще одним пароходом и с 10 сентября оно поставило на эту линию пароход „ Каги мару“ (2,346 тон). С этого числа пароходы на этой линии стали ходить два раза в неделю.

Путь через Цуругу и Владивосток по Уссурийской железной дороге, по сравнению с таковым же по Южно-Манчжурской и Китайско-Восточной железной дороге отнимает два лишних дня, но вместо этого сокращает расход на 25 долларов и избавляет пассажиров от пересадки и лишних хлопот по соблюдению таможенных формальностей.

АКЦИОНЕРНОЕ ПАРОХОДНОЕ ОБЩЕСТВО „КУРИБАЯСИ СИОСЕН КАЙША“.

Пароходное общество Курибаяси Сиосен кайша по распоряжению Министерства почт и тилеграфов Японского Правительства обслуживает рейсы между японским портом Хакодате и советским портом Петропавловском на Камчатке. Сообщение между этими портами поддерживается только в летний сезон, с апреля по сентябрь месяц, 7 раз за все время навигации, пароходом „Дайго Мурорап-мару“ (2.128 тонн), при чем пароход этот перевозит как грузы и пассажиров, так и почту. Японский консул в Петропавловске на Камчатке выезжает на пароходе этого общества в начале мая и возвращается в Японию в сентябре. Первый приказ об обслуживании этой линии общество получило в 1922 году, заключив договор с Правительством на три года. С тех пор это сообщение поддерживается беспрерывно. Рейсы из Хакодате в Петропавловск совершаются с заходом по пути в порт Отару и из Петропавловска на Камчатке по западному или восточному побережью полуострова Камчатки.

ПАРОХОДНОЕ ОБЩЕСТВО „КИНКАЙ ЮУСЕН КАЙША“.

Пароходное общество „Кинкай Юусен кайша“, по приказу Министерства почт и телеграфов, на основании договора заключенного между этим обществом и Правительством 1 апреля 1926 года, сроком на три года, продолженным вслед затем по новому соглашению еще на три года то есть до 1 апреля 1933 года, обслуживает рейсы между японским портом Хакодате и советским портом Александровском на Сахалине. Для обслуживания этой линии, согласно договора, общество должно ставить два парохода водоизмещением не менее 1300 тонн каждый и со скоростью не менее 12 миль в час.

На основании договора пароходное общество „Кинкай Юусен“, по особому приказу Министерства почт и телеграфов, в 1926 году установило, пользуясь ежегодной субсидией Правительства в размере 1.000 иен в год, новые рейсы между Хакодате и Александровском на Северном Сахалине, один раз в месяц, в течении времени с июня по август для перевозки пассажиров, груза и почтовых отправлений. За истекший период времени после заключения договора пароходы общества совершали рейсы по следующему росписанию:

1926 год.

Пароход „Хиросаки-мару“ 1.348 тонн водоизмещения, со скоростью 13,68 мили в час, совершал рейсы с заходом в следующие пункты по пути к месту назначения (Хакодате и Александровск): Маока, Томарии, Эстори, Ясубецум.

1927 год.

Тот же пароход с одинаковым росписанием маршрута.

1928 год.

Пароход „Эйко-мару“ 1.843 тоны водоизмещением, со скоростью 12,88 миль в час, совершал рейсы по следующему росписанию: Хакодате, Аомори, Отару, Оотомари, Маока и Александровск на Северном Сахалине.

1929 год.

Пароход „Хиросаки-мару“ по росписанию: Хакодате, Аомори, Отару, Оотомари, Маока и Александровск на Северном Сахалине.

ПОЧТОВАЯ СВЯЗЬ МЕЖДУ ЯПОНИЕЙ И СССР

1. Обыкновенная корреспонденция.

А) Общие правила.

Вся обыкновенная почтовая корреспонденция, обмениваемая между СССР и Японией в настоящее время, должна приниматься на основании международного почтового договора, заключенного в Стокгольме, в Швеции в августе 1921 года и вступившего в силу с 1 октября 1925 года, а также соглашения о почтовых посылках с об'явленной ценностью, заключенного там же и в то же самое время.

Так например, им уже не нужно было заботиться о фракте судна для своих товаров, и перегрузки их с судов, а кроме того представилась возможность на месте получения товара уплачивать плату за железнодорожную перевозку, плату за перегрузку товаров на пристани Владивостока и за перевозку товаров по морю. Такой порядок значительно сокращает расходы по перевозке товаров, представляя в то же время гарантию аккуратности в сроке доставки грузов.

В последствии в виду прекращения деятельности пароходного общества „Курибаяси" соглашение это, вместе со всеми делами и правами общества „Курибаяси" было унаследовано пароходным обществом „Кавасаки Кисен кайша" которое приобретя от пароходного общества „Курибаяси" как дела Владивостокской конторы, так и Харбинского отделения, оставило почти все без изменений, включительно до личного состава служащих.

Договор о наследовании соглашения японского пароходного общества „Курибаяси" с Уссурийской железной дорогой японским пароходным обществом „Кавасаки кисен кайша" был подписан 16 мая 1925 года представителем пароходного общества „Кавасаки Кисен кайша" г. Таро Тоцука и Дальневосточным представителем Наркомпути и Управляющим Уссурийской железной дороги.

Вновь подписаное соглашение состоит из 42 статей, с почти одинаковым содержанием с прежними статьями договора. Действие договора определено в три года, при чем оно может быть продолжено, по обоюдному согласию сторон и с разрешения Наркомпути еще на 6 лет. При подписании договора район перевозок грузов через порт Владивосток был расширен включением Индии и Европы, при чем были подробно перечислены порты захода судов. Перечень этих портов представляется в следующем виде:

ЯПОНИЯ: Кобе, Осака, Иокохама, гавань Исе, Шимицу, Аомори, Фушики, Ниигата, Цуруга, Нанао. Отару, Хакодате, Ушина, Модзи, Вакамацу, Нагасаки, Кагошима, Мисуми, Нава, Килун, Такао, Сакай, Ионаго, Майзуру, Садо, Фунакава, Ишихама, Ооюмари, Тенсан, Сейшин, Юки, Фусан, Зинсен и Чиннанпо.

КИТАИ: Шанхай, Дайрен, Циндао, Тяньзин, Ханькоу, Хонконг, Кантон и Инкао.

Из новых положений установлениых договором следует отметить следующие:

В случае доставки грузов по дубликату прямого транспортного сообщения на пристань Эгершельд, Уссурийская железная дорога обязуется уведомлять общество „Кавасаки кисен кайша" об этом, с указанием количества товара, его сортов и адреса их дальнейшегв следования. По получении этого уведомления общество „Кавасаки кисен„ обязуется представить на рейд пароход для погрузки этих грузов, с условием, что в том случае если товары направляются в Японию и Китай пароходы для погрузки будут представлены обществом „Кавасаки кисен" в такой срок, чтобы вся погрузка отняла не больше двух недель времени после получения уведомления и не больше четырех недель, если товары отправляются в другие места, указанные в договоре.

Требование о предоставлении парохода для нагрузки товаров из железнодорожных складов, может быть сделано лишь в том случае если для погрузки на суда будет в наличии ие менее 2.000 тонн товара для товаров отправляющихся в направлении Японии и Китая и не менее 5.000 тонн для товаров отправляющихся в других направлениях. В случаях когда количество товаров не будет достигать указанных выше норм, наряд исполняется по соглашению сторон.

Различные формальности, связанные с санитарным осмотром, таможенными обрядностями, акцизом и официальные сношения с полицией и др. производятся коммерческим отделением Уссурийской железной дороги. Вмешательство частных транспортеров в данном случае абсолютно не допускается.

Все производимые на территории СССР расчеты по высылке, приему грузов и в других случаях производятся в золотых рублях.

Выдача товаров на месте в порту или железнодорожной станции производится по предъявляемому адресатом дубликату, полученному им заранее от железно-дорожной станции или порта отправления.

С выпуском дубликата право распоряжения товарами принадлежит во первых по именному дубликату товаровладельцу, его доверенному или просто адресату, имеющему дубликат, а вовторых подателю дубликата на пред'явителя (безименного дубликата).

Все эти лица, имеющие право распоряжения товарами, имеют возможность возвратить выданные товары назад на железнодорожную станцию или в порт, задержать их в пути, перегрузить и передать их другому лицу.

Адресат после получения уведомления о прибытии товара в его адрес должен принять его немедленно. В случае замедления товары поступают на склады, где им будет предоставлен 30-тидневный срок хранения. Если по истечении этого срока товары не будут получены адресатом, через два месяца после окончания льготного срока хранения на складах, эти товары продаются с аукционного торга.

Договор этот был подписан в период времени, кода еще не закончились переговоры о заключении основного японо-советского договора, происходившие в Пекине между японским посланником Иошизава и советским уполномоченным Караханом, и когда отношения между Японией и СССР были далеко не благоприятными. О том, что договор этот принес большую пользу сторонам говорит хотя бы то обстоятельство, что в первом году после подписания договора пароходное общество „Кавасаки кисен" транспортировало в общей сложности 180.000 тонн различных товаров, в следующем году число это увеличилось до 400.000 тонн, а за период времени после заключения договора количество транспортированных обществом „Кавасаки кисен" грузов выражалось в 1.400.000 тонн.

Отношения дорог в последнее время.

В дальнейшей деятельности Южно-Маньчжурской железной дороги и Китайско-Восточной и Уссурийской выявилась определенная тенденция к увеличению перевозок грузов в направлении на Владивосток, благодаря чему СССР уже неоднократно поднимал вопрос о пересмотре заключенного соглашения, считая что подобное движение грузов в направлении на Владивосток об'ясняется естественными причинами, вытекающими из того обстоятельства, что для грузовладельцев более выгодным представляется направлять свои грузы на Владивосток, а не на Дайрен. Однако, Южно-Маньчжурская железная дорога не согласилась с этим мнением и считала что настоящее положение перевозок есть явление временного характера. Это обстоятельство послужило поводом для ряда переговоров между заинтересованными сторонами, в результате чего 4 февраля 1929 года была созвана специальная конференция для окончательного разрешения этого вопроса, которая в конце концов привела к соглашению между заинтересованными сторонами, закончившемуся подписанием официального соглашения о распределении перевозок грузов по линии восточного направления и южного направления по ровну.

После состоявшегося соглашения между Южно-Манчжурской и Китайско-Восточной железными дорогами положение перевозок грузов по обоим направлениям выровнялось, но некоторая тенденция к превышению перевозок в восточном направлении все же сохранилась. Общее же положение перевозок грузов по обоим направлениям за период времени с октября 1928 года по март 1929 года (полугодие советского хозяйственного года) выражалось следующими показателями:

В восточном направлении	860.440 тон	или 47,74%
В южном направлении	941.670 „	или 52.26%

Превышение перевозок южного направления за этот период времени объяснялось сезонными причинами и с наступлением апреля 1929 года это положение изменилось снова и перевозки в восточном направлении стали превышать таковые же в южном направлении.

В дальнейшем, в связи с разрывом дипломатических отношений между СССР и Китаем из-за конфликта вокруг Китайско-Восточной железной дороги, и перерывом сообщения между Уссурийской и Китайско-Восточной железными дорогами, вся перевозка грузов, главным образом, особых продуктов Северной Манчжурии, перешла единственно в руки Южно-Манчжурской дороги. Принимая во внимание что согласно соглашения с Китайско-Восточной и Уссурийской железными дорогами половина платы за перевозку грузов должна быть передана правлению Уссурийской железной дороги, правление Южно-Манчжурской железной дороги, видя затяжной характер конфликта на Китайско-Восточной железной дороге, в августе 1929 года предложило правлению Уссурийской железной дороги временно до разрешения конфликта вокруг Китайско-Восточной железной дороги было дано немедленное согласие. Таким образом в настоящее время между дорогами, благодаря возникшему конфликту между СССР и Китаем на Китайско-Восточной железной дороге и перерыву сообщения между КВжд и Уссурийской железной дорогой, почти не существует никаких отношений. Они снова возобновятся, конечно, когда будет разрешен вопрос о КВжд.

СОГЛАШЕНИЕ МЕЖДУ ЯПОНСКИМ ПАРОХОДНЫМ ОБЩЕСТВОМ КАВАСАКИ КИСЕН И УССУРИЙСКОЙ ЖЕЛЕЗНОЙ ДОРОГОЙ

После того момента когда между Японией и СССР начались неофициальные сношения, долгое время между обоими странами не существовало нормальных путей сообщения, что конечно создавало значительные препятствия в установлении крепких экономических связей между ними. Последнее впрочем, отчасти объяснялось с одной стороны небывалой депрессией в экономической жизни Японии, начавшейся с 1919 года, а с другой стороны тем, что издаваемые вновь Советским Правительством декреты и распоряжания были зачастую весьма сложны и плохо уяснялись японцами.

В целях устранения затруднений в установления более крепких экономических связей между СССР и Японией, японское пароходное общество „Курибаяси“ вошло в переговоры с советскими властями, в результате которых заключило общее соглашение о прямом транспортном сообщении с Уссурийской железной дорогой, а также с Амурским Государственным Пароходством, которое было подписано в июне 1924 года.

На основании заключенного соглашения были установлены следующие линии прямого транспортного сообщения:

1. Транспортное сообщение между районами прилегающим к Китайско-Восточной железной дороге (Северная Манчжурия) и к Уссурийской железной дороге (губернии Амурская и Приморская до Ушумун) связываются транспортным сообщением с Японией и Китаем через порт Владивосток и японские порты на берегах Тихого океана, Японского моря и острове Хоккайдо и порты Китая.

2. Транспортное сообщение между японскими портами на берегах Тихого океана, Японского моря, на южной части острова Сахалина и портами Китая через порт Николаевск на Амуре от озера Байкала до Стретенска.

В заключенном соглашении, при установлении этих двух линий прямого транспортного сообщения перечислено 16 японских портов и 4 китайских, в которые по соглашению грузоотправителям представляется возможность направлять свои грузы из разных мест СССР и Манчжурии.

После заключения соглашения японское пароходное общество „Курибаяси“ открыло совместную с Уссурийской железной дорогой контору, с отделением в Харбине, при отделении управления Уссурийской железной дороги.

На Владивостокую главную контору были возложены следующие обязанности: предоставление судов, перегрузка товаров из вагонов на железной дороге на суда и наоборот, регулирование подвоза и вывоза товаров, на отделение же в Харбине: выдача дубликатов о прямой перевозке грузов, распределение товарных вагонов Китайско-Восточной железной дороги, сбор и погрузка товаров. Во избежание затруднений в денежных операциях было получено согласие Корейского банка (Чосен гинко) и других кредитных органов об упрощении этих операций. Таким образом, благодаря заключенному соглашению между пароходным обществом „Курибаяси“ и Уссурийской железной дорогой, для грузовладельцев представились большие удобства в перевозке их грузов.

восток в 31%.

В 1920 году процент перевозок грузов в направлении на Дайрен возрос до 88% и в направлении на Владивосток снизился до 12%. Столь неожиданное изменение направления грузов в большей части должно быть отнесено за счет искусственного давления со стороны иностранных держав, державших в то время свои интервентные войска в Приморье и Восточной Сибири, а также беспокойного положения на линии Уссурийской железной дороги и в районе Владивостока, а также того обстоятельства, что провозная плата за перевозку грузов в направлении на Владивосток, благодаря тому что между Харбином и Чанчунем была установлена чрезмерно высокая провозная плата, была значительно выше чем таковая же в направлении на Дайрен.

Первые соглашения дорог.

Без сомнения, что такое неестественное положение не могло не чувствоваться на деятельности как Южно-Маньчжурской, так и Китайско-Восточной и Уссурийской железных дорог и они не раз поднимали вопрос о необходимости соглашения между ними для согласования и урегулирования всех вопросов, мешающих нормальной деятельности дорог. В сентябре 1921 года дорогам удалось найти общий язык и договорится по некоторым вопросам. однако это далеко не могло удовлетворить обе стороны. В связи с эвакуацией японских войск из Восточной Сибири и Приморья в январе 1922 года был снова поднят вопрос о необходимости заключения соглашения между дорогами, вследствие чего в июне 1922 года была созвана новая конференция в Чанчуне, в результате работ которой, наконец, удалось установить прямое связное транспортное сообщение между дорогами, согласно договора заключенного между ними 26 июня 1922 года.

Соглашение 1922 года и его результаты.

В общих чертах заключенное соглашение сводилось к следующему: после 1 июля 1922 года Южно-Маньчжурская железная дорога обязуется не устанавливать удешевленного тарифа на линиях между Южно-Маньжурской железной дорогой и Китайско-Восточной железной дорогой и между Южно-Маньчжурской железной дорогой и Чанчунской железной дорогой. Советская же железная дорога после этого же дня данного года обязуется пересмотреть тариф, в соответствии с целями регулирования тарифа перевозок.

Благодаря заключенного соглашения экспортерам представилась возможность свободно избирать себе направление грузов, вследствие чего уже в 1922 году процент перевозок грузов значительно выравнялся выразившись в следующем виде:

Перевозки в направлении на Владивосток 44% или 36.992.000 пудов
Перевозок в направлении на Дайрен — 55% или 47.045.000 пудов

В следующем 1923 году процент перевозок грузов уже достиг почти уровня выразившись:

Для перевозок в направлении на Владивосток 49,4% или 43.634.000 пудов
и для перевозок в направлении на Дайрен 50,6% или 56.882.000 пудов.

Соглашение СССР с Китаем и его влияние на отношения дорог.

1924 год ознаменовался на Китайско-Восточной железной дороге установлением совместного управления дорогой СССР и Китая, в связи с заключением договора между СССР и Пекинским Правительством 31 мая 1924 года восстанавливавшего дипломатические отношения и подписанного с советской стороны уполномоченным представителем Караханом и со стороны Китая Пекинским Правительством (Велингтоном Ку) и соглашением СССР с Мукденом, заключенным 20 сентября 1924 года с маршалом Чжан Цзо Лином. В октябре 1924 года был арестован прежний председатель правления Китайско-Восточной железной дороги господин Остроумов и на его место был назначен из СССР господин Иванов со вступлением которого на пост председателя Китайско-Восточной железной дороги снова началась конкуренция между Китайско-Восточной и Уссурийской и Южно-Маньчжурской железными дорогами. Положение перевозок грузов по обоим направлениям в этом году представляется в следующем виде:

Перевозки в направлении на Владивосток 46.463.000 пудов или 40,5%.
Перевозки в направлении на Дайрен — 68.436.000 пудов или 59,5%.

Заключение нового соглашения.

Вследствие начавшейся конкуренции, вслед за установлением совместного русско-китайского управления Китайско-Восточной железной дорогой, дороги снова вступили на путь ненормальной деятельности, в результате чего для дорог создавалось весьма невыгодное положение, так как из конкуренции дорог между собой извлекали выгоды лишь грузовладельцы. Это последнее обстоятельство снова выдвинуло на очередь вопрос о согласованности действий обоих дорог и 16 сентября 1925 года ими снова было заключено соглашение, которое в общих чертах сводится к следующему:

Южно-Маньчжурская и Уссурийская железные дороги заключают соглашение о распределении особых товаров, произведенных в Северной Маньчжурии, как то бобов, бобовых жмыхов, бобового масла, пшеницы, пшеничной муки и отрубей, сдаваемых со станции Китайско-Восточной железной дороги для дальнейшего следования их по по линиям Уссурийской и Южно-Маньчжурской железных дорог, с тем чтобы процент перевозок в направлении Уссурийской железной дороги выражался в 45% и процент перевозок в направлении Южно-Манчжурской железной дороги в 55%. Та железная дорога, перевозки которой за годовой промежуток времени доставки этих грузов составят больше вышеустановленной нормы, обязуется уплачивать другой компенсацию, соответствующую сумме, на которую уменьшилась плата за перевозку. После заключения этого соглашения положение перевозок несколько изменилось и за два года, т.е. за 1925 и 1926 год они выразились в следующем виде:

1925 год. Перевозки в направлении на Владивосток 49.331.000 пудов или 36,1%
Перевозки в направлении на Дайрен — 87.377.000 пудов или 63,9%
1926 год. Перевозки в направлении на Владивосток 70.312 000 пудов или 48,8%
Перевозки в направлении на Дайрен — 73.941.000 пудов или 51,2%

вления восточного направления.

В 1927 году в Токио, после 11-летнего перерыва, была открыта 6-я Конференция по Маньчжурско-Японскому сообщению, переработавшая все сообщение на новых основаниях, в соответствии с Европейско-Азиатским сообщением.

26 апреля 1928 г. в Харбине открылась 7-ая конференция о транспортном сообщении между Японией и Маньчжурией, на которую собрались представители Японских Правительственных и Корейских жел. дорог, ЮМжд, УССжд и пароходств Осака Шосен Кайша и Совторгфлота, которые собрались для выработки дальнейших дополнений и усовершенствований Маньчжурско-Японского сообщения.

В числе постановлений 7-й Конференции, непосредственно касающихся пассажиров, следует отметить :

Установление продажи на станциях отправления дополнительных заездных билетов от Майбара до Нагоя, Иокогамы и Токио, или от Моджи до Нагасаки и обратно, к круговым билетам, благодаря чему путешествующий по Японии турист может посетить все главнейшие центры ее, обеспечив себя заранее билетом и получая на эти заезды ту же скидку, что и на основной билет.

Установление продажи к групповым билетам особых заездных билетов в сторону от маршрута, с теми же льготами, что и для основного билета.

Отмена обязательного объявления ценности багажа на протяжении УССжд.

Уравнение ставок в Европейско-Азиатском и Маньчжурско-Японском сообщениях.

Издание нового тарифа, со включением необходимых сведений по условиям перевозки.

Одновременно с Конференцией обсуждался с представителями японских перевозочных предприятий и вопрос о взаимной продаже плацкарт и резервировании мест.

Благодаря выработанным соглашениям, пассажиры в Японии могут заранее приобретать все проездные документы, в том числе и плацкарты, на проезд по КВжд и железным дорогам СССР.

С 15 мая 1929 года в Сеуле была открыта 8-мая конференция прямого связного сообщения между Японией и Манчжурией, на которой присутствовали представители Японии, СССР и Китая. Важнейшими решениями этой конференции явились следующие :

---

1. Постановление о продаже билетов прямого связного сообщения для поездов различных направлений и классов (на один конец, обратных и круговых)

---

2. Постановление о исправлении провозной платы за ручной багаж пассажиров два раза в год 1 апреля и 1 октября с предупреждением за 2 месяца мини-

мально.

---

3. Постановление об ответственности транспортной организации в том случае когда пассажир из-за препятствий вынужден будет прекратить свое путешествие. (Проездная плата должна быть возвращена пассажиру в этом случае надлежащей транспортной организацией).

---

4. Постановление об установлении срока представления требования о возвращении провозной платы в течение 6 месяцев.

ОТНОШЕНИЯ МЕЖДУ ЮЖНО-МАНЬЧЖУРСКО,Й КИТАЙСКО-ВОСТОЧНОЙ И УССУРИЙСКОЙ ЖЕЛЕЗНЫМИ ДОРОГАМИ.

Отношения дорог в довоенное время.

Вследствие того что русско-японская война окончилась победой Японии, железная дорога на юг от станции Куан-чен-цзы отошла в аренду Японии, под именем Южно-Маньчжурской железной дороги. С занятием Южно-Маньчжурской железной дороги Японией, экономические интересы России и Японии встретились в Маньчжурии и Монголии и с тех пор между ними началась экономическая борьба на этих рынках. Ранее этого империалистическая Россия, имея намерение занять преимущественное, привилигированное положение на дальневосточном рынке, приняла курс покровительственной политики по отношению к Китайско-Восточной железной дороге, имея в ввиду развитие и процветание порта Дальнего (нынешний Дайрен). Благодаря последнему обстоятельству жизнь порта Дальнего забила ключем и значительно отличалась от сравнительно спокойной жизни тогдашнего Владивостока. С занятием же Японией Южно-Маньчжурской железной дороги, Россия перенесла центр своего внимания на Владивосток и приняла ряд мер покровительственного порядка в отношении этого порта, благодаря чему уже в мае 1912 года в порте Дайрене началось депрессивное положение, несмотря на то что между Китайско-Восточной и Южно-Маньчжурской железными дорогами существовало нормальное транспортное сообщение. В этот период времени процент перевозок грузов в восточном направлении (на Владивосток) выражался в 92%, в южном же направлении (на Дайрен) всего в 8%.

Искусственное давление на положение перевозок грузов.

Переходный период в борьбе этих двух портов начался со времени возникновения мировой войны 1914 года. В начале войны процент перевозок грузов в направлении на Владивосток выражался в 79%, в направлении же на Дайрен в 21%. Вспыхнувшая вслед затем в России революция 1917 года окончательно изменила это положение и уже в 1918 году процент перевозок грузов на Дайрен выражался в 69% и на Влади-

в Швейцарии: Женева.

На Дальнем Востоке международное прямое связное сообщение между Европой и Азией связывается следующим образом:

Через Фузан—Харбин—Маньчжурия.....
Через Дайрен—Харбин—Маньчжурия.....
Через Цуруга—Владивосток—Харбин—Маньчжурия.....
Через Цуруга—Владивосток—Хабаровск—Чита.....

На европейской границе СССР международное прямое связное сообщение между Европой и Азией связывается следующим образом:

.....через Москву-Варшаву.....
.....через Москву-Ригу.....

Проездные билеты: Проездные билеты прямого связного сообщения между Европой и Азией 1, II и III класса выпускаются только в один конец.

Срок действительности билета: Проездной билет прямого связного сообщения между Европой и Азией действителен в течении 60 дней.

О ручном багаже: Ручной багаж разрешается провозить бесплатно (в этом пункте впрочем есть некоторые ограничения)

Вопрос о перевозе почтовых посылок на этой третьей конференции остался снова открытым.

С установлением прямого связного сообщения между Европой и Азией значительно упростился порядок поездок из одного государства в другое, увеличилась скорость переезда и представилось много других удобств для пассажиров, совершающих поездки Европа-Азия. Скорость переезда между Токио и перечисляемыми ниже городами Европы доведена до максимальной скорости, так например:

От Токио до Москвы поезда прямого связного сообщения между Европой и Азией идут всего 11 дней 18 часов 55 минут,
от Токио до Берлина-13 дней, 20 часов и 5 минут,
от Токио до Парижа-14 дней, 18 часов и 31 минуту,
от Токио до Лондона-15 дней, 4 часа и 15 минут,
от Токио до Вены-13 дней, 17 часов и 40 минут и
от Токио до Рима-15 дней, 18 часов.

Провозная плата исчисляется в золотом долларе, при чем при изменении вексельного курса, она естественно изменяется.

Но основании постановления 3 конференции об установлении международного прямого связного сообщения между Европой и Азией о созыве ежегодных периодических конференций, 13 ноября 1928 года в Праге, столице Чехославакии, открылась 4-ая конференция по установлению прямого связного сообщения, заседания которой закончились 29 того же месяца.

В этой последней конференции, кроме участвовавших в предыдущей 3-ей конференции представителей Японии, Китая, СССР, Эстонии, Латвии, Литвы, Германии, Польши, Чехословакии, Австрии, Италии, Бельгии и Франции, приняли участие представители железных дорог Англии, Голландии, Швеции и Финляндии.

Из 15 резолюций принятых на этой последней конференции наиболее важнейшей является резолюция об установлении прямого, связного транспорта багажа по линии прямого сообщения между Европой и Азией.

Согласно постановления об установлении прямого, связного транспорта багажа для перевозки будут приниматься следующие грузы:

1. Обыкновенный багаж—товары и ручной багаж и
2. Особый багаж—высокоценные кожи и кино-фильмы.

Вес—до 50 килогр.
Длина—до 3 метр.
Об'ем—до 1 куб. метра

К перевозке не будут приниматься: взрывчатые вещества, предметы опасные в обращении, животные, легко-портящиеся товары, контрабанда и пр.

В числе нерешенных вопросов, к сожалению, следует отметить неразрешение вопроса о движении экспресса, состоящего из вагонов общества „Международных спальных вагонов" по линии Сибирской магистрали.

СОГЛАШЕНИЕ О ТРАНСПОРТНОМ СООБЩЕНИИ МЕЖДУ ЯПОНИЕЙ И МАНЧЖУРИЕЙ.

Возникновение прямого Маньчжурско-Японского сообщения относится к 1909 году, когда впервые была заключена конвенция о перевозке пассажиров и багажа.

С тех пор до 1916 года было 5 конференций, вносивших различные дополнения и улучшения в это прямое сообщение.

Как известно, из Северной Маньчжурии в Японию существуют три маршрута: через Владивосток—Цуругу, через Мукдэнь—Фузан и через Дайрен.

После войны восточное направление перестало функционировать, сообщение же через Корею и Дайрен хотя и не прерывалось, однако, самый тариф и условия перевозки пассажиров и багажа значительно отстали от жизни, и требовали переработки на новых основаниях.

Вследствие этого, тотчас же после вступления КВжд в Европейско—Азиатское сообщение, открывающее путь из Западной Европы в страны Дальнего Востока, в том числе и Японию по всем направлениям, появилась мысль о необходимости восстано-

V. Транспорт, транзит и почтово-телеграфная связь.

СОГЛАШЕНИЕ О ТРАНСПОРТНОМ СООБЩЕНИИ МЕЖДУ ЕВРОПОЙ И АЗИЕЙ.

(общий очерк)

Толчком для восстановления прямого связного сообщения между Европой и Азией послужило восстановление дипломатических отношений между СССР и Японией. После заключения конвенции об основных принципах взаимоотношений между СССР и Японией в октябре 1925 года в Москве была созвана конференция по восстановлению прямого сообщения между Японией, Китаем и СССР. В этой конференции приняли участие: министерство железных дорог Японского Правительства, железнодорожное управление при Корейском генерал-губернаторстве, правление Южно-Маньчжурской железной дороги, пароходное общество Осака Сиосен Кайша, представители железных дорог СССР, Китайско-Восточная железная дорога и Китайская казенная железная дорога. Конференция однако не увенчалась успехом, из-за разногласий, возникших между Японией и СССР по вопросу об установлении беспересадочных поездов, и прервалась 24 ноября 1925 года.

Вслед за перерывом работ конференции о прямом связном сообщении между Японией, Китаем и СССР, 7 декабря того же года в Москве открылась первая конференция о прямом связном собщении между Европой и Азией, в которой приняли участие: Япония, СССР, Латвия, Эстония, Литва, Германия, Франция и Польша. Эта первая конференция все вопросы об установлении международного прямого связного сообщения разрешила лишь в принципиальном смысле, отложив окончательное их разрешение на следующую конференцию, которая была назначена в Берлине.

Вторая конференция об установлении международного прямого связного сообщения между Европой и Азией была созвана в октябре 1926 года в Берлине. В этой конференции кроме 8 представителей государств, участвовавших в первой конференции приняли участие Китайско-Восточная железная дорога, Китай, Бельгия, Италия, Австрия и Чехословакия. Значительнаа часть постановлений, вынесенных на первой конференции была на этой конференции упрощена и в результате работ конференции было решено установить прямое связное сообщение между Европой и Азией с 15 мая 1927 года.

В виду громоздкости составленной программы и сложности установления проездной платы и по другим причинам, проведение в жизнь постановления об установлении прямого связного сообщения между Европой и Азией оттягивалось и только 1 августа 1927 года было частично осуществлено в отношении следующих 11 станций на территории Союза ССР, Эстонии и Латвии:

Хабаровск, Благовещенск, Чита, Иркутск, Омск, Свердловск, Москва, Ленинград, Харьков, Талин и Рига.

В октябре и ноябре 1927 года в Риге имели место заседания третьей конференции по установлению прямого связного международного сообщения между Европой и Азией. На этой конференции постановления, вынесенные на прошлой второй конференции, были подвергнуты значительным изменениям и дополнениям и было вынесено постановление осуществить прямое связное сообщение между Европой и Азией 15 мая 1928 года. В конференции этой приняли участие следующие представители:

Представитель министерства железных дорог Японского Правительства (Токио),
Представитель железно-дорожного управления при Корейском генерал-губернаторстве (Сеул),
Представитель акционерного общества Южно-Маньчжурской железной дороги (Дайрен)
Представитель акционерного общества Осака Сиосен (Осака),
Представитель транспортного отдела Китайского Правительства (Пекин),
Представитель правления Китайско-Восточной железной дороги (Харбин),
Представитель народного комиссариата путей сообщения СССР (Москва),
Представитель государственного торгового флота (Москва),
Представитель управления правительственных железных дорог Эстонии (Талин),
Представитель управления правительственных железных дорог в Латвии (Рига),
Представитель управления правительственных железных дорог в Литве (Каунас),
Представитель правительственного железнодорожного общества в Германии (Франфурт),
Представитель министерства путей сообщения Польского Правительства (Варшава),
Представитель министерства путей сообщения Чехословацкого Правительства (Прага),
Представитель управления правительственных дорот в Австрии (Вена),
Представитель управления правительственных дорог в Италии (Рим),
Представитель северного железно-дорожного общества в Бельгии (Льеж),
Представитель правительственного железнодорожного общества в Бельгии (Брюссель),
Представитель северного железнодорожного общества во Франции (Париж).

Согласно постановлений третьей конференции по установлению прямого связного сообщения между Европой и Азией, таковое было решено установить между следующими станциями государств, принявших участие в конференции:

В Японии: Токио, Иокогама, Нагоя, Киото, Осака, Санномия, Кобе, Симоносеки, Модзи и Нагасаки,
в СССР: Хабаровск, Благовещенск, Чита, Иркутск, Омск, Свердловск, Москва, Ленинград и Харьков,
в Эстонии: Талин,
в Латвии: Рига,
в Литве: Каунас,
в Польше: Варшава, Лодзь, Столице, Хойнице, Чех и Данциг,
в Германии: Берлин, Гамбург, Алстна, Кельн,
в Бельгии: Брюссель, Льеж и Останд,
во Франции: Париж и Калле,
в Чехословакии: Прага, Карлсбад и Мариенбад,
в Австрии: Вена,
в Италии: Рим, Милан и Венеция,

на 1-ое	Января 1926 г.	507,745.71
„ „	Июля „	1,450,426.15
„ „	Января 1927 г.	2,859,172.73
„ „	Июля „	4,944,550.79
„ „	Января 1928 г.	5.866,535.99
„ „	Июля „	8,818,134.45
„ „	Января 1929 г.	16,503,388.08
„ „	Июля „	18,948,737.90

Таким образом, баланс Отделения Банка в г. Кобе за 3 года и 6 месяцев увеличился с Иен 507,745.71 до Иен 18,948,737.90, т е. в 37 раз или на 3737,2%, что указывает на общее успешное развитие дел Отделения Банка.

Сумма учтенных Отделением Банка векселей была:

С 1-го	Декабря 1925 г.	по 1-ое	Октября 1926 г.		838,246.64
„ „	Октября 1926 г.	„ „	„	1927 г.	4,887,638.56
„ „	„ 1927 г.	„ „	„	1928 г.	13,081,410.70
„ „	„ 1928 г.	„ „	„	1929 г.	15,339,556.19
	Итого				34,146,852.09

Таким образом, за указанные годы Банком была вложена на финансирование русско-японской торговли громадная сумма в 34 миллиона иен.

Отделение Банка в г. Кобе в своей работе в Японии наиболее тесно связано с двумя японскими Банками—Дай-Ичи Гинко и Чосен Банком.

Дай-Ичи Гинко является корреспондентом Дальбанка, который исполняет поручения Дальбанка в целом ряде городов Японии: в Токио, Осака, Иокогама, Хакодате, Отару.

Отделение Дальбанка в г. Кобе имеет непосредственные корреспондентские отношения с банками Англии, Америки, Германии, Франции и Монголии, вследствие чего принимает банковские поручения и совершает операции со всеми указанными странами.

В частности корреспондентами Отделения Банка являются:

в Англии:

Вестминистер Банк, Лтд., Лондон.
Эквитебл Траст Компани, Лондон.
Банк для Русской Торговли, Лондон.

в Америке:

Эквитебл Траст Компани, Нью-Иорк.
Эквитебл Истерн Бенкинг Корпорейшен, Нью-Иорк.
Чейз Нешионел Сити Банк, Нью-Иорк.

в Германии:

Дейтше Банк, Берлин.

во Франции:

Московский Народный Банк, Париж.

в Монголии:

Торгово-Промышленный Банк Монголии, Урга.

Штат Отделения Банка в г. Кобе состоит из 17 человек: 13 русских сотрудников и 6 японцев.

Доверенными Отделения Банка являются:

Управляющий — Б. Бейлин.
Помощник Управляющего— М. Котлов.

Заведующий Операциями — З. Лизаревич
Главный Бухгалтер — Н. Скопин.
Бухгалтером Отделения является Фудзио Курихара
Отделение Банка помещается в г. Кобе, № 66, Нака-мачи.

В настоящее время Отделение Банка возбудило ходатайство перед Министерством Финансов Японского Правительства о разрешении на перевод Отделения Банка из г. Кобе в г. Токио, ввиду того, что г. Токио является, как показал опыт, центром русско-японской торговли, в котором совершаются большинство торговых сделок и в котором находятся Главная Контора Торгового Представительства СССР и правления наиболее крупных фирм и Банков, с которыми работает Отделение Дальне-Восточного Акционерного Банка.

Сорок крупнейших фирм г. Токио во главе с Мицубиши Шодзи Кайша и Мицуй Буссан Кайша подали Министру Финансов прошение с просьбой удовлетворить ходатайство Отделения Банка о переводе в г. Токио.

Указанное ходатайство Банка поддерживается так-же Правлениями Дай-Ичи Гинко и Чосен Банка.

Со своей стороны Правление Дальне-Восточного Акционерного Банка принимает меры к значительному увеличению оборотных средств Отделения Банка ввиду перевода его в г. Токио.

Поэтому, можно ожидать, что с переводом Отделения Банка в г. Токио, оно будет иметь возможность оказать еще большую помощь и содействие развитию русско-японской торговли.

КОРЕЙСКИЙ БАНК (ЧОСЕН ГИНКО).

Корейский банк, известный повсеместно под его японским названием Чосен Гинко, является единственным японским банком в СССР и финансовым органом, обслуживающим японо-советскую торговлю. На советской территории отделение банка находится в городе Владивостоке, где банк совершает различные банковские операции между Японией и СССР и совершает различные сделки с Дальгосторгом, Центральными Кооперативами, Дальбанком, Государственным банком и другими организациями. Связь с советскими коммерческими и финансовыми организациями СССР через Чосен Банк поддерживается также через его отделение в Харбине и по всей Японии.

С апреля 1928 года правление Чосен банка вступило в тесные деловые отношения с отделением Дальбанка в Кобе по учету советских векселей. Постановление это было принято после ряда совещаний между правлением Дальбанка в Кобе и Торговым Представительством Союза ССР с одной стороны и правлением банка Чосен гинко с другой стороны.

Вмарте 1928 года банк Чосен гинко решил произвести посредственный учет векселей, выпускаемых Торговым Представительством Союза ССР в Японии и учтенных отделением Дальбанка в Кобе на следующих условиях:

1. Срок действия посредственного учета не устанавливается особо.
2. Кредитоспособность товаровладельцев, погружающих товары и срок учитываемого векселя должны приниматься во внимание при посредственном учете векселей.
3. Долгосрочные векселя переписываются приблизительно через каждые три месяца

В последствии к этим условиям было прибавлено еще одно условие, заключавшееся в том, что общая сумма средств выделяемых банком Чосен гинко для кредитования японо-советской торговли не может превышать 2 миллиона иен.

Эта новая позиция банка Чосен гинко в кредитовании японо-советской торговли на факте сгладила не мало затруднений в учете советских векселей и в других операциях, хотя конечно не в достаточной степени.

4. О роде векселей, запрещенных к покупке банками от векселедателя, как гарантийного векселя.
5. О необходимых сведениях, которые должен представить векселедатель в случае продажи им векселя на гарантию банку.
6. О сроке требования гарантии (на какой срок можно требовать гарантию).
7. Какие меры можно предпринять, при допущении банком сознательно ошибки в выдаче суммы гарантии.

Во втором пункте первого отдела предусмотрены вопросы, касающиеся контрактов на получение гарантии первого рода из контрактов на гарантию в отношении наложенного платежа.

Важнейшие статьи второго пункта нижеследующие:

1. О значении контракта на гарантию первого рода.
2. О сумме платы за гарантию и способах исчисления.
3. Должна-ли и в каких именно случаях последовательно уплачиваться, при вторичных платежах, сумма платы за гарантию.
4. О порядке требования суммы гарантии.
5. О мерах по взысканию суммы гарантии с банков, после получения ими суммы гарантии от правительства и суммы вознаграждения или компенсации от векселедателей и экспортеров.

В третьем пункте первого отдела предусмотрены вопросы, касающиеся контрактов на получение гарантии второго рода и заключения контрактов на получение гарантий при операциях с наложенным платежем.

Важнейшие статьи третьего пункта представляются в нижеследующем виде:

1. О значении контрактов на гарантию второго рода.
2. Каким условиям должны отвечать векселедатели или плательщики по векселю.
3. О сумме платы за гарантию.
4. О случаях, при которых нельзя получить суммы по векселю, при допущении векселедателем сознательной ошибки.
5. Какие меры можно предприять при допущении векселедателем сознательной ошибки для получения условленной суммы по векселю.

Во втором отделе предусмотрены специальные пункты в контрактах в отношении простого векселя, кроме не специальных пунктов при применении устава о наложенном платеже.

Важнейшие пункты второго отдела, представляются в нижеследующем виде:

1. Разные ограничения для признания действительности простого векселя.
2. Ограничение условий векселеполучателя.
3. Правила, которые необходимо придерживаться в случае переписки векселя.
4. О сумме платы за гарантию.

СОДЕРЖАНИЕ ОБ'ЯВЛЕНИЯ МИНИСТЕРСТВА ТОРГОВЛИ И ПРОМЫШЛЕННОСТИ.

1. Об'явление Министерства Торговли и Промышленности, опубликованное в связи с проведением в жизнь закона правительственной гарантии на экспорт для применения в отношении экспортных рынков, указанных правительством стран: Центральной и Южной Америки, Африки, Центральной и Малой Азии, Балкан и СССР.

2. Об'явление Министерства Торговли и Промышленности, касающееся срока представления заявления на предоставление гарантии банком и Правительством, именно в отношении банков, желающих заключить контракт на гарантию с правительством.

Заявления должны быть представлены за время с 1 до 14 августа 1930 года.

БАНКИ, СОВЕРШАЮЩИЕ ОПЕРАЦИИ МЕЖДУ СССР И ЯПОНИЕЙ.

ДАЛЬНЕ-ВОСТОЧНЫЙ АКЦИОНЕРНЫЙ БАНК ОТДЕЛЕНИЕ В Г. КОБЕ.

Дальне-Восточный Акционерный Банк учрежден в 1922 году.

Правление Банка находится в г. Хабаровске.

Задачами Банка являются кредитование торговли и промышленности Дальнего Востока и внешней торговли России и Японии.

Первоначальный капитал Банка был равен 1,000.000 (одному миллиону) золотых рублей.

Успешное развитие дел Банка вызвало и увеличение его основного капитала, который в настоящее время равен 10,000,000 (десяти миллионам) золотых рублей. Запасные капиталы 3.603.539 (три миллиона шестьсот три тысячи пятьсот тридцать девять) золотых рублей.

Банк имеет Отделения в Хабаровске, Благовещенске, Владивостоке, Чите и в Японии в г. Кобе. В Москве Банк имеет Представительство.

Правление Банка в настоящее время состоит из следующих лиц: Председатель Правления А. Р. Ливитас.

Члены Правления Банка: Г. И. Козлов и Н. И. Горихин, К. Н. Алексеев, М. Г. Калужский и И. П. Калманович.

Отделение Дальне-Восточного Банка в Японии в г. Кобе было открыто в октябре 1925-го года, согласно разрешения Министра Финансов.

Основной задачей Отделения Банка в г. Кобе является кредитование Русско-Японской торговли, поэтому Отделение оказывает всевозможное содействие русским учреждениям и японским коммерсантам, принимающим участие в русско-японской торговле.

Кроме того, Отделение Банка в г. Кобе совершает и все другие банковские операции; открывает аккредитивы, учитывает векселя, совершает переводные операции и пр., принимает деньги на текущие счета и вклады и пр.

Участие Отделения Банка в г. Кобе в кредитовании Русско-Японской торговли увеличивается из года в год по мере роста торговых оборотов между Россией и Японией.

Учетно-ссудные операции Банка по русско-японской торговле были:

на 1-ое Января 1926 г.	300,259.20
„ „ Июля „	330,185.77
„ „ Января 1927 г.	728,752.07
„ „ Июля „	1,072,494.10
„ „ Января 1928 г.	2,208,097.62
„ „ Июля „	3,774,788.95
„ „ Января 1929 г.	8,853,913.38
„ „ Июля „	9,518,476.43

Приведенные цифры показывают, что кредитные операции Банка увеличились с 1-го Января 1926 года по 1-ое Июля 1929 года, т. е. за 3 года и 6 месяцев с Иен 300,259.— до Иен 9,518,476.—, т. е. в 31 раз или на 3172,6%.

За этот же период времени общий баланс Отделения Банка в г. Кобе имел следующее движение:

ДОГОВОР МЕЖДУ СЕВЕРО-САХАЛИНСКИМ НЕФТЕПРОМЫШЛЕННЫМ ОБЩЕСТВОМ „КИТА КАБАФУТО СЕКИЮ КАЙША“ И ВСЕСОЮЗНЫМ НЕФТЕСИНДИКАТОМ СССР.

5 сентября 1929 г. в Токио состоялось подписание договора между представителем японского концессионного нефтепромышленного общества Кита Кабафуто Секию кайша господином Наказато и представителем Нефтесиндиката СССР, заместителем Торгового Представителя СССР в Японии господином Третьяковым о продаже Нефтесиндикатом СССР с советских нефтяных промыслов на Северном Сахалине обществу Кита Кабафуто Секию 65.000 тонн сырой нефти. Подписанию этого договора предшествовали следующие обстоятельства:

В начале 1928 года Высший Совет Народного Хозяйства СССР разрешил в положительном смысле вопрос о распространении деятельности треста „Эмба-нефти“ на Северный Сахалин, и организации там нефтяных промыслов с каковой целью было организовано новое нефтяное предприятие „Сахалин Нефть,“ которое вошло в состав треста „Эмба-нефть“ на основании самостоятельного баланса. В конце марта в Японию прибыл главный директор „Сахалин нефти“, член Правления треста „Эмба-нефть“ г. Миллер, с целью ознакомления с японской промышленностью и выяснения возможности выполнения некоторых заказов для Сахалинских промыслов японскими предприятиями, который после недолгого пребывания в Японии начал переговоры с концессионным обществом Кита Кабафуто Секию кайша о продаже сырой нефти с организующихся советских промыслов на Северном Сахалине, окончившиеся, в конце, канцов подписанием договора, содержание важнейших пунктов которого в общих чертах мы помещаем ниже:

Всесюзный Нефтесиндикат обязуется продать 65.000 тонн сырой нефти обществу Кита Кабафуто Секию Кайша в течении трех лет.

Передача этой нефти будет осуществлена следующим образом: в 1929 году—10.000 тонн, в 1930 году—20.000 тонн, в 1931 году 35.000 тонн.

Северо Сахалинское Нефтепромышленное Общество Кита Кабафуто Секию Кайша обязуется выдать, в качестве аванса за продаваемую Нефтесиндикатом нефть, 1.000.000 иен, которые должны быть переданы при подписании договора.

Стоимость продаваемой сырой нефти должна быть определена при выдаче ее на месте производства. Аванс, о котором сказано выше, погашается из суммы следуемой за продаваемую нефть в последний срок.

После того когда будет передана нефть обществу Кита Кабафуто Секию кайша Госбанк СССР даст гарантии уплаты выданного обществом Кита Кабафуто Секию кайша аванса.

Кроме перечисленных пунктов договора есть еще несколько, из которых процент на выданный обществом Кита Кабафуто Секию кайша Всесоюзному Нефтесиндикату аванс за запроданную нефть и ориентировочная стоимость сырой нефти не подлежат опубликованию.

Согласно договора нефтяные промысла на Северном Сахалине треста „Сахалинефть“ до конца сентября 1929 года передали обществу Кита Кабафуто Секию Кайша 12.000 тонн нефти, т. е. передача нефти превысила обусловленное договором количество нефти на 2.000 тонн.

ДЕТАЛЬНЫЙ УСТАВ НОВОГО ЗАКОНА ПРАВИТЕЛЬСТВЕННОЙ ГАРАНТИИ НА ЭКСПОРТ.

На основании Высочайшего Указа от 31 июля 1930 года, новый закон введен 1 августа 1930 года.

Закон правительственной гарантии на экспорт был введен по предложению и одобрению и на основании резолюции всех членов 58-й Чрезвычайной сессии японского парламента, о чем и было об'явлено на страницах правительственных ведомостей 16 мая 1930 года. Срок проведения в жизнь нового закона назначен с 1 августа 1930 года с санкции ЕГО ВЕЛИЧЕСТВА Императора Японии.

На основании ВЫСОЧАЙШЕГО Указа, последовавшего 31 июля 1930 года об установлении нового закона правительственной гарантии на экспорт, новый закон вводится с 1 августа 1930 года и текст детального устава данного закона, опубликован на страницах правительственных ведомостей 31 июля 1930 года.

Что касается вопроса об оформлении введения нового закона, данный закон входит в силу по распоряжению Министерства Торговли и Промышленности, при этом вместе с установлением настоящего детального устава закона правительственной гарантии на экспорт, одновременно опубликованы и два об'явления Министерства Торговли и Промышленности, которые служат основами детального устава закона правительственной гарантии на экспорт.

I. СОДЕРЖАНИЕ УСТАВА.

Настоящий детальный устав закона правительственной гарантии на экспорт, составлен главным образом на основании резолюции и под руководством Комитета по обсуждению международного баланса Японии при кабинете министров Японии.

Закон правительственной гарантии на экспорт состоит из 52 статей и делится на два отдела: первый отдел касается вопросов, связанных с контрактами на получение гарантии при операциях с наложенным платежем, а второй отдел—вопросов, связанных с контрактами на гарантию при операциях с простым векселем.

Первый отдел детального устава закона правительственной гарантии на экспорт состоит из трех пунктов: в первом пункте содержится „общий устав“, во втором пункте содержатся условия заключения контракта на получение гарантии первого рода и в третьем пункте—условия заключения контракта на получение гарантии второго рода.

Первый пункт первого отдела детального устава закона правительственной гарантии на экспорт предусматривает вопросы, касающиеся общих дел по контрактам на получение гарантии при операциях с наложенным платежем и состоит из нижеследующих статей:

1. О роде контрактов на получение гарантии.
2. Какой банк может заключить контракты на гарантию с правительством.
3. О порядке представления заявления о желании заключить контракт с банком на получение гарантии.

Хакодате.

Отделение Хоккай Такусиоку гинко в Хакодате	Различные банковские операции
Отделение Дай-ичи гинко в Хакодате	„ „ „

Кобе.

Отделение Чосен банка в Кобе	Различные банковские операции
Отделение Дай-Ичи гинко в Кобе	„ „ „

КРУПНЫЕ ТОРГОВЫЕ СДЕЛКИ МЕЖДУ СССР И ЯПОНИЕЙ.

ДОГОВОР МЕЖДУ ЯПОНО-РУССКИМ ЛЕСНЫМ ОБЩЕСТВОМ „НИЧИРО МОКУЗАЙ КАЙША“ И ДАЛЬЛЕСОМ.

Самым важным предметом советского ввоза в Японию в японо-советской торговле является советский лес, который наравне с рыбопродуктами, ввозится в Японию на миллионы иен в год.

Операции по реализации советских лесоматериалов в Японии производятся главным образом на основании договоров, заключаемых между советским государственным акц. о-вом „Экспорт-лес“ и японо-русским лесоимпортным обществом „Ничиро Мокузай кайша“. Перед ознакомлением наших чататей с этим договором, мы считаем не лишним сказать несколько слов об обществе „Ничиро Мокузай кайша“.

Акционерное общество „Ничиро Мокузай кайша“ организовалось при следующих обстоятельствах: В 1926 году японская фирма Сузуки Сиотен в Кобе. с целью систематического импорта советского леса из Приморья в Японию и вслед затем реализации его, на японском рынке, через акционерное общество „Тайрику Мокузай кайша“ заключило договор с советским государственным лесопромышленным трестом „Дальлес“ и начала импорт советских лесоматериалов в Японию. Однако в мае 1927 года то есть во втором полугодии операционного года общество „Тайрику Мокузай кайша“ оказалось неожиданно в затруднительном положении, благодаря финансовых затруднений фирмы Сузуки, и вынуждено было найти выход из создавшегося положения, с тем чтобы не прекратить окончательно начатого им дела перевозок в Японию советских лесоматериалов. Вследствие хлопот общества, в июне 1927 года ему, в конце концов, удалось привлечь к участию акционерное бумажнопромышленное общество „Оози Сейси кабусики кайша“ которое вложив свой капитал вместе с обществом „Тайрику Мокузай кайша“ организовало новое общество под именем „Ничиро Мокузай кайша“ с реализованным капиталом в 1.500.000 иен. Это новое общество наследовало договор заключенный между Дальлесом и фирмой Сузуки и в декабре 1927 года заключило новый договор на третий год.

В далынейшем общесто Ничиро Мокузай кайша ежегодно заключало новые договора и в настоящее время ведет переговоры о заключении договора на пятый операционный год.

С 1928 года форма торговли советскими ес эматериалами изменилась на торговлю лесоматериалами на комиссию, и с 1929 года с советской стороны договор стал подписываться государственным акционерным обществом „Экспорт лес“.

На очередном собрании 27 сего июня 1929 года акционерами общества была вынесена резолюция об увеличении основного капитала общества до 5.000.000 иен и общество в настоящее время занято подготовительными работами к этому.

В работе общества за последние годы не наблюдалось особенных перемен и она протекала весьма успешно.

Общие положения договора на пятый операционный год:

(А) Род и количество закупаемых лесоматериалов:
бревна крупных размеров кедра, сосны и осины
бревна средних размеров сосны, лиственницы и кедра
телеграфные столбы, длинные бревна и колья из лиственницы
в общем количестве в 2.000.000 коку.

(Б) Пределы торговых операций с лесоматериалами:
Вся Япония. Корея и Квантунская область.

(В) Обществу „Ничиро Мокузай“ предоставляется монопольное право реализации вышеуказанных лесоматериалов на вышеперечисленных рынках.

(Г) Для перевозки лесоматериалов из предприятий „Дальлеса“ в Японию „Экспорт-лес“ обязуется заранее выяснить потребное число судов для перевозки лесоматериалов и заключить фрахтовые договора с японскими пароходными компаниями заблаговременно.

(Д) Общество „Ничиро Мокузай“ берет на себя обязательства по финансированию „Экспорт леса“

(Е) До ввоза леса в Японию гарантию за выдаваемые обществом „Ничиро Мокузай кайша“ „Экспорт лесу“ средства берет на себя Госбанк СССР после же поступления лесоматериалов на вышеуказанные рынки залогом под эти средства являются эти лесоматериалы.

(Ж) Ссуды возвращаются из средств полученных от реализации лесоматериалов договор возобновляется по истечении каждого операционного года и должен быть подписан к 31 декабря каждого года. Срок договора оканчивается с окончанием реализации леса.

Таковы в общих чертах общие положения договора на пятый операционный год.

Ниже мы считаем не лишним познакомить наших читателей с данными о им порте советских лесоматериалов обществом Ничиро Мокузай за два последние года. Данныые эти представляются в следующем виде:

Название лесоматериалов	Первое полугодие 1929 г.	За весь 1928 год
Кедр из Владивостока	250.497 коку	687.433 коку
Кедр из Приморья	——	285.459 „
Кедр из Николаевска н/А	——	176.137 „
Итого	250.497 коку	1.149.029 коку
Бревна средних размеров	16.576 „	159.850 „
Сосна	1.567 „	144.706 „
Осина	80.550 „	169.320 „
Телеграфные столбы	——	15.006 „
Колья	491 „	6.900 „
Прочие лесоматериалы	491 „	16.533 „
Общий итог	349.681 коку	1,661.344 коку

Акционерное общество Тоио Хатабако	Импорт табачных продуктов
Товарищество Ничибей Шодзи	Экспорт машин и промыслового оборудования
Акционерное общество Дай Нихон Энгио	Торговля солью
Симидзу Боеки	Экспорт машин и промыслового оборудования
Акционерное общество Асано	Судостроительные предприятия
Акционерное общество Сиоа Соко	Торговля тарой, складское и транспортное дело
Акционерное общество Нозава Гуми	Экспорт и импорт

Осака.

Акционерное общество Тойо Сейкан	Экспорт тары, консервных жестянок и деревянных ящиков
Дайдо Иоситен	Экспорт бумаги
Такеда Чообей Сиотен	Экспорт различных медикаментов
Сионоги Сиотен	Экспорт и импорт медикаментов
Акционерное общество Сима Трединг	Экспорт танинов, экстрактов и прочих химикалий и медикаментов
Марузен Якутен	Импорт химикалий
Иваи и Компания	Экспорт и импорт

Кобе.

Акционерное общество Танака Иоситен	Экспорт бумаги
Акционерное общество Киосин Иоко	Импорт хлебопродуктов
Акционерное общество Хонда Сиотен	Экспорт моторов
Торговая фирма Такасе Сабуро Сиотен	Экспорт и импорт

Иокохама.

Караев и Компания	Экспорт судовых оборудований
Корнау и Компания	Экспорт и импорт

Хакодате.

Акционерное общество Нихон Сейкан	Экспорт тары, консервных жестянок и деревяных ящиков
Акционерное общество Нихон Сейкан Сенгу	Экспорт рыболовных сетей и рыболовного оборудования
Акционерное общество Нихон Гиомо Сенгу	Экспорт рыболовных сетей и рыболовного оборудования

Отару.

Акционерное общество Хоккай Сейкан Сооко	Экспорт тары, консервных жестянок и деревянных ящиков
Акционерное общество Симидзу Сиодзи	Экспорт судового и рыболовного оборудования и металлических изделий

Саппоро.

Торговая фирма Ичиянаги	Экспорт судового оборудования

Губерния Сизуока.

Акционерное общество Фудзи Сейча	Экспорт зеленого чая
В. Геллер и К-о	Экспорт зеленого чая
Акционерное общество Ирвин Гаррисон	Экспорт зеленого чая
Тайро Канкицу Кумиай	Экспорт апельсин

Нагоя.

Акционерное общество Хаттори Сиотен	Экспорт бумажных тканей

Симоносеки.

Акционерное общество Хаяси Кане Сиотен	Импорт рыбы

Мие.

Торговая фирма Тоио Гиомоо	Экспорт рыболовных сетей и рыболовного оборудования
Торговая фирма Ямамото Дзюдзиро	Тоже
Торговая фирма Оно Сакузаемон Сиотен	Тоже

Тояма.

Исихара Сиотаро Сиотен	Импорт лекарственного сырья
Аяционерное общество Тояма Сейяку	Импорт медикаментов

Сакай.

Акционерное общество Дай-Нихон Серуроидо	Экспорт целлулоида

Цуруга.

Хакасе Сиотен	Экспорт, импорт и транспортное дело.
Саката Сиотен	Тоже

КОНЦЕССИОННЫЕ ОБЩЕСТВА И ФИРМЫ.

Название общества	Род концессии
Токио.	
Акционерное общество Кита Кабафуто Секию Кайша	Нефтяные концессии
Акционерное общество Кита Кабафуто Когио кайша	Каменноугольные концессии
Сакай Кумиай	Каменноугольные концессии
Акционерное общество Рорио Рингио кайша	Лесная концессия
Цукахара Кумиай	Каменноугольные концессии
Осака.	
Акционерное общество Сиоа Кинко	Золотопромышленная концессия

БАНКИ.

Токио.

Чосен Гинко (Корейский банк)	Различные банковские операции
Дай-Ичи Гинко (Первый банк)	„ „ „
Кавасаки Дай-Хяку Гинко (Сотый банк)	„ „ „

Финансово-счетный отдел:

Заведующий отделом - Абрам Яковлевич Беленький.
Бухгалтер - Ефим Маркович Годин.
Кассир - Иосиф Исаевич Мериин.

Лесной отдел (При главной конторе Торгпредства):

Заведующий отделом - Владимир Александрович Харик.
Заместитель заведующ.- Григорий Евсеевич Кац.
Коммерческие агенты - Федор Петрович Анкудинов.
- Иван Елисеевич Козыро.

Транспортный отдел:

Заведующий отделом - Василий Степанович Кочетков.
Заместитель заведующ.- Евгений Сергеевич Гернет.

Представительство Союзнефти (при главной конторе).

Заведующий Представительством - Павел Васильевич Суходольский.

Отделение Торгпредства в Осака:

Заведующий отделением- Афанасий Акинфиевич Локтин.
Заместитель заведующ. - Каменецкий.
Секретарь и ком. агент - Питаде.

Отделение Торгпредства в Хакодате:

Заведующий отделением- Ф. А. Черников.
Секретарь отделения - Д. Ангора.
Старший бухгалтер - Р. М. Лапицкий.

Агентство Торгпредства в Дайрене:

Заведующий Агентством - Эппорт.

СПИСОК ЯПОНСКИХ ФИРМ И ОБЩЕСТВ, ИМЕЮШИХ СВЯЗИ С СССР.

(Японские рыбопромышленные общества и фирмы, имеющие свои предприятия на территории советского Дальнего Востока в настоящий список не включены за исключением тех из них, которые имеют непосредственные торговые связи с СССР).

ТОРГОВЫЕ ОБЩЕСТВА И ФИРМЫ.

Название общества или фирмы	Род предприятия
Токио.	
Акционерное общество Ничиро Гиогио	Экспорт и импорт разных рыбопродуктов
Союз Тайро Юсюцу Кумиай	Экспорт и импорт разных товаров
Акционерное общество Ничиро Дзицугио	Экспорт и импорт
Акционерное общество Нихон Гиомо Сенгу	Экспорт рыболовных сетей и рыболовного оборудования
Нисикава Сиотен	Экспорт рыболовных снастей и дели
Акционерное общество Токио Сейко	Экспорт разных веревок и проволоки
Акционерное общество Ясака Сиодзи	Экспорт разных веревок и проволоки и импорт рыбы, масла и спорыньи
Акционерное общество Омура Гозаемон Шотен	Экспорт парусины и брезентов
Акционерное общество Ничиро Мокузай	Импорт лесоматериалов
Симада Мототаро	Импорт лесоматериалов и рыбы
Акционернсе общество Тейкоку Сейма	Импорт льна
Акционерное общество Танака Сиотен	Импорт платины
Акционерное общество Икегай Теккодзио	Экспорт машин
Акционерное общество Фурукава Денки Когио	Экспорт медной проволоки и кабелей
Акционерное общество Ниигата Теккодзио	Экспорт различных моторов и железных труб
Торговая фирма Тоио Бабкок	Экспорт машин
Акционерное общество Мицубиси Сиодзи	Экспорт и импорт бумаги, машин, различных металлов и хлебопродуктов
Акционерное общество Нихон Иодо	Экспорт иода и различных медикаментов
Товарищество Томода	Экспорт и импорт различных медикаментов
Акционерное общество Танабе Мотосабуро Сиотен	Импорт различных медикаментов
Торговая фирма Тории Сиотен	Экспорт и импорт медикаментов
Акционерное общество Кониси Синбей Сиотен	Экспорт и импорт медикаментов
Акционерное общество Танабе Гохей Сиотен	Экспорт и импорт медикаментов
Акционерное общество Нихон Траскон	Электрическое оборудование
Акционерное общество Мицуй Буссан	Экспорт и импорт
Акционерное общество Сима Трединг	Экспорт таннинов, экстрактов и прочих химикалий и медикаментов

РЕЗУЛЬТАТЫ ТОРГОВЫХ ОТНОШЕНИЙ С СССР В 1929/30 ГОДУ С АКТИВНЫМ БАЛАНСОМ В ПОЛЬЗУ ЯПОНИИ.

Согласно данных, опубликованных Торгпредством СССР в Японии 24 октября 1930 г. результаты японо-советской торговли в текущем году (с 1 октября 1929 по 30 сентября 1930 года), представляются в нижеследующем виде:

	1930 г.		1929 г.	
Экспорт Японии в СССР	22.250.000	иен.	15.123.000	иен.
Увеличение на	7.127.000	иен.		
Импорт Японии из СССР	20.863.000	иен.	21.764.000	иен.
Уменьшение на	901.000	иен.		
Общий оборот	43.113.000	иен.	36.887.000	иен.
Увеличение на	6.226.000	иен.		

Японо-советская торговля со времени восстановления дипломатических сношений продолжала в результате превышать импорт в Японию, а в текущем году в первый раз закончилась дала превышение экспорта Японии в СССР и закончилась с активным балансом в пользу Японии.

Финансовые расчеты между обоими странами в текущем году, включая и расчеты вне торговых отношений представляются в нижеследующем виде:

(А) Активное сальдо:

Расчеты по внешней торговле	1.414.000	иен.
„ „ фрахтам и провозной плате	4.700.000	„
„ „ заработн. плате на рыбных промыслах в водах Сев. морей	2.400.000	„
Итого	8.514.000	иен.

(Б) Пассивное сальдо:

Расчеты по рыбным промыслам:		
Арендная плата за рыбоучастки	6.207.000	иен.
Паушальная сумма	1.708.000	„
Особые вознаграждения и др.	1.100.000	„
Итого	9.045.000	„
Расчеты по концессионным предприятиям:		
Плата за эксплоатацию нефтепромыслов Северн. Сахалина	257.000	иен.
Плата за концессию на добычу каменного угля на Сев. Сахалине	65.000	иен.
Итого	322.000	иен.

При производстве расчетов и исчислении совруб ля по японской валюте в 30 сен за 1 руб., общая сумма пассивного сальдо исчисляется в 2.713.500 иен-составляя в общей сумме 3.035.000 иен. В результате чего составляется превышение активного сальдо над пассивным в сумме 5.479.000 иен.

ТОРГОВОЕ ПРЕДСТАВИТЕЛЬСТВО СССР В ЯПОНИИ.

(сокращенно: Торгпредство СССР в Японии.)

Торговое Представительство СССР в Японии учреждено 1-го января 1926 года. Торговое Представительство является единственным органом осуществляющим все торговые операции между Японией и Советским Союзом. Все сделки по импорту и экспорту товаров производятся Главной Конторой Торгпредства в Токио, его отделениями в Осака и Хакодате или агентством в Дайрене.

Деятельность Торгпредства сводится в основном к организации и осуществлению закупочных операций для нужд хозяйственных организаций Советского Союза и реализации продукции этих организаций на японском рынке.

Главная Контора Представительства в Токио:
Азабу-ку, Когаи-чио № 4. Телефоны: Аояма 5020, 5021, 5022, 5023, 5024.
Отделение в Осака: Тосабори-дори, Дайдо бильдинг.
Отделение в Хакодатэ: Суэхиро-чио № 16.
Агентство в Дайрене: Ямагата-дори № 18.

Состав Главной Конторы Торгпредства в Токио.

Торговый Представитель СССР в Японии и Коммерческий Советник Полномочного Представительства СССР — Павел Васильевич Аникеев.
Помощник Торгового Представителя и Заведующий Экспортным Отделом Торгпредства — Александр Матвеевич Шумилов.
Юрисконсульт Торгпредства — Аркадий Михайлович Бекман.
Секретарь-референт Торгпредства — Дмитрий Петрович Жуков.

Экспортный отдел: Заведующий группой Общего Экспорта: Петр Федорович Журавский.
Заведующий группой экспорта химических товаров Израиль Абрамович Резников.
Коммерческие агенты: Владимир Николаевич Шпиндлер. Фридрих Николаевич Вардуль.

Рыбный отдел: Заведующий отделом - Алексей Яковлевич Бабенко.
Коммерческий агент - Фрол Ефимович Чужеземцев.

Импортный отдел: Заведующий отделом - Юлий Густавович Грюнберг.
Коммерческие агенты: Сергей Сергеевич Королев. Ходзуми Нагаиори.

Экономическая часть: Заведующий - Алексей Ильич Редников.

Машины, аппараты и части к ним	на сумму	1.189.000	иен
Сталь	„ „	171.000	иен
Разные инструменты на сумму и так далее		260.000	иен

В группу дель, пряжа, нитки и сети включаются:

Дель и сети непосредственно	на сумму	3.648.000	иен
Тросс	„ „	87.000	иен
Ткани бумажные	„ „	153.000	иен
Предметы одеяния	„ „	316.000	иен
Пряжа бумажная	„ „	94.000	иен

В группу химических товаров входит:

Иод	на сумму	163.000	иен
Красители	„ „	48.000	иен
Разные химические товары и так далее	„ „	68.000	иен

Анализируя состав советского импорта из Японии необходимо отметить, что основными его статьями являются, как и ранее, предметы идущие и предназначенные для нужд и потребностей Д/Восточной рыбной промышленности и что с развитием этой последней неизменно увеличивается и вывоз в СССР из Японии предметов, потребных для нужд этой промышленности.

Эта группа товаров занимала и занимает свыше 50% всего советского импорта. В 1927/28 году эта группа товаров оценивалась общей сложностью округленно в 6 миллионов иен-в истекшем же году ее оценка превысила уже 8 миллионов иен.

Развитие других отраслей промышленности Д/Востока также является одним из мощных стимулов для увеличения японского ввоза в СССР особенно по линии технического оборудования.

Нельзя не обратить внимания и на факт увеличения ввоза японских зеленых чаев в СССР; количественно и ценностно этот импорт представляется следующими данными:

Годы	Количество		Сумма	
1926 год	400.000	паундов	260.000	иен
1927 „	1.000.000	„	578.000	„
1928 „	1.400.000	„	805.000	„
1929 „	2.500.000	„	1.487.000	„

В японо-советском обороте интересно отметить то обстоятельство, что номенклатура этого оборота значительно из года в год расширяется, при чем в этой номенклатуре появляются уже не только товары местного, так сказать Д/Восточного происхождения и назначения, но и товары происходящие из центральных частей СССР и наоборот-идущие в эти части. Такова например, в советском экспорте в Японию, не говоря уже с платине и сантонине-каустическая сода, впервые реализованная на японском рынке в истекшем году пока сравнительно еще на небольшую сумму в 71 тысячу иен.

В импортных же из Японии в СССР товарах, таковыми явились в истекшем году те же сети для рыбалок Каспийского моря, далее следует иод и некоторые еще другие товары.

Большим препятствием к увеличению оборота являются обоюдное незнание рынков. Этот дефект однако, постепенно из года в год восполняется. И японский рынок постепенно ознакомляется с совпродукцией и привыкает к ней и в свою очередь советские организации при помощи Торгпредства изучают и ознакомляются с японским рынком и его продукцией.

Другим препятствием в области увеличения японского импорте в СССР являются непосредственно условия самих сделок как то качественность продукции, конкурентность цен и условия расчета. По мере того как условия эти будут становиться более выгодными, чем условия, предлагаемые в других странах-японский импорт в СССР сулит по всем данным дать дальнейшее свое увеличение.

Подводя итоги японо-советского торгового оборота истекшего года, нельзя умолчать и несказать несколько слов и о других областях экономического общения этих двух соседних стран.

Нефтяная Концессия и Угольная закончили истекший год также вполне удовлетворительно. Продукция нефтяной концессии выразилась в 171.000 тонн против 106 тысяч тонн прошлого года.

Добыча Угольной Концессии определилась в 115. тысяч тонн.

Следующей областью наиболее тесного соприкосновения экономических интересов СССР и Японии является область конвенционных вод.

Рыболовная конвенция, заключенная в 1927/28 году, но примененная впервые в 28/29 году отнюдь не явилась помехой или каким либо препятствием к дальнейшему развитию японского рыболовства в советских водах, вопреки тем опасениям, которые высказывались одно время на этот счет некоторыми японскими рыбопромышленниками.

Вывоз японской продукции из конвенционных вод не только не уменьшился, а напротив, увеличился, чему доказательством являются данные, публикуемые японской печатью об увеличении рыбопродукции в истекшем году. Как известно, общая стоимость японской рыбопродукции конвенционных вод округленно в предыдущие 2-3 года определялась в 50-55 миллионов иен. Уже продукцию 1928 года японские данные определяли в пределах около 60 миллионов иен.

Если трудно точно определить еще стоимость продукции истекшего года, то во всяком случае ориентировочно за истекший год ее можно определить в тех же примерно пределах.

Что касается взаимоотношений Японии и Союза ССР в области применения и использования японского труда, то и тут истекший год дал значительный сдвиг.

Развитие все той же рыбопромышленности советских хозяйственных органов содействовало тому, что число японских рабочих, занятых на советских рыбалках и заводах дошло до 8 тысяч с лишним человек против 4.338 человек в 1927/28 году, что в отношении общего числа японских рабочих, занятых на японских Камчатско-Охотских промыслах, равного 20 и 25 тысяч человек составляет уже 30-35%.

Таким образом экономические связи Союза ССР и Японии оказываются много глубже и сложнее, чем они кажутся на первый взгляд, при чем они крепнут и увеличиваются из года в год, как в области непосредственно товарооборота, так и по линии других соприкосновений.

Истекший год лишний раз только подчеркнул это обстоятельство.

вольствия и первой необходимости на угольные и нефтяные концессии.

Растет также вывоз нефти и каменного угля.

Таким образом у нас есть все основания предположить что в настоящее время, когда СССР стал на прочные позиции интенсивного строительства своей страны и когда пришло время действительно деловых отношений между Японией и СССР, японо-советская торговля станет день от дня развиваться, расширять размеры своих оборотов и увеличивать номенклатуру предметов торговых операций.

СОВЕТСКО-ЯПОНСКИЙ ТОРГОВЫЙ ОБОРОТ ЗА 1928-29 СОВ. ХОЗ. ГОДА И ОБЩИЙ ОЧЕРК ЗА 1929-30 ГОД.

Истекший 1928-29 год в советско-японской торговле отмечается новым увеличением товарооборота-именно на 24,4% против предыдущего года, в абсолютных цифрах на 7.049 тысяч иен.

Конкретно советско-японский оборот в целом и в его элементах экспорта и импорта за ряд лет выразился следующими показателями: (в тысячах иен)

	25/26	26/27	27/28	28/29
Экспорт из СССР в Японию	10.278	12.681	19.595	21.764
Импорт в СССР из Японии	2.883	5.899	10.173	15.123
Общий оборот	13.161	18.551	29.738	36.887

Рост оборотов за предыдущие года выразился—26/27 год против 25/26 года на 41%, 27/28 против 26/27 на 60% и наконец, 28/29 против 27/28 года на 24,4%.

Наиболее характерным явлением за ряд лет в советско-японском обороте явился рост японского экспорта или импорта СССР. В 4 года экспорт Японии-импорт СССР увеличился более чем в 5 раз (5,25 раза), в то время как советский экспорт или импорт Японии из СССР увеличился всего в 2 раза.

Увеличение японского импорта особенно отметилось за последние 2 года-27/28 год дал против 26/27 года увеличение на 4.294 тысячи иен и 28/29 год дал против 27/28 года увеличение на 4.950 тысяч иен.

Рост экспорта СССР в Японию в истекшем году несколько замедлился против роста предыдущих лет.

Об'яснятся это крайне неблагоприятной коньюнктурой японского рынка-общим снижением цен на такие продукты, как лес, частично же и на рыбу, которые в советском экспорте в Японию являются основными статьями: - лес дает от 50 до 60% и рыба от 20 до 30%.

В конечном результате в истекшем году экспорт советского леса в Японию в своем физическом об'еме отнюдь не уменьшился, дав рост на 24%, в то время как ценностное выражение этого экспорта не дало такого же эффекта, как количественное-дав увеличение всего на 7%.

Наряду с некоторым замедлением роста ценностного выражения экспорта лесоматериалов другие статьи советского экспорта, такие как сантонин, дали напротив значительное превышение против предыдущего года.

Экспорт сантонина увеличился против предыдущего года более чем в два раза, именно на сумму 1.719, тысяч иен против 815 тысяч иен.

Рыбоэкспорт несмотря на падение цен на рыбопродукцию и прочие неблагоприятные условия рынка все же дал большое увеличение именно на 1.701 тысячу иен или на 40% (5.926 тысяч иен против 4.225. тысяч иен).

В конечном результате соответственно с отмеченными явлениями значительно видоизменился и удельный вес в экспорте отмеченных статей; конкретно-удельный вес лесоматериалов снизился с 62% до 54%, рыбопродуктов напротив повысился с 21% до 27%, сантонина с 4% до 7,5%; подвергся некоторому снижению и удельный вес платины с 6,8% до 6% и „прочих" с 6,7% до 5,5%.

Детально советский экспорт в Японию и советский импорт из этой страны представляются следующими данными: (в тысячах иен)

Экспорт из СССР в Японию.

	Сумма	% к итогу
Лесоматериалы	11.840	54%
Рыбопродукты	5.926	27%
Платина	1.225	6%
Сантонин	1.719	7,5%
Прочие	1.054	5,5%
ИТОГО:	21.764	100%

Импорт в СССР из Японии.

	Сумма	% к итогу
Металлы и изделия из них	4.352	29%
Пряжа, дель, нитки, сети	4.298	28%
Пищепродукты	2.972	20%
Лесные товары и деревянные изделия	1.126	7%
Химические товары	317	2%
Бумага и печатные изделия	244	1,5%
Прочие	1.813	12,5%
ИТОГО:	15.122	100%

В экспорте в группу прочих товаров включаются:

Сахалинская нефть	на сумму	243.000	иен
Железный лом	„	164.000	„
Жмыхи бобовые	„	150.000	„
и разные другие товары	„	497.000	„

В импорте в группу пищевых продуктов включаются японский зеленый чай на сумму-1.487.000 иен и мука пшеничная на сумму 1.237.000 иен.

В группу же металлы и металлоизделия включаются:

Железо всех сортов	на сумму	516.000	иен
Жесть для консервных банок	„ „	682.000	иен

Японо-русская торговля до мировой войны.

Тем не менее не только в отдаленном прошлом, но и в недавнее время торговые обороты русских с Японией были весьма невелики и выражались всего в размере, в среднем, в довоенное время 1903-1913 г. г. вывоз из России в Японию от 1.000.000 до 2.000.000. иен и вывоз из Японию в Россию в размере 5-6.000.000 иен.

Следующая таблица показывает положение японо-русской торговли за период времени с 1910 по 1914 год:

Годы	Экспорт в Россию	Импорт в Японию	Итого
1910	4.314.759 иен	970.625 иен	5.285.384 иены
1911	5.666.209 иен	1.043.576 иен	6.709.785 иен
1912	6.082.913 иен	742.717 иен	6.825.603 нен
1913	9.168.833 иены	791.429 иен	9.960.262 иены
1914	3.380.940 иен	1.065.604 иены	13.446.553 иены

Расцвет японо-русской торговли.

С момента мировой войны японо-русская торговля сразу сделала гигантский скачек вперед и в 1915 году вывоз товаров из Японии в Россию достиг 89 с лишним миллионов иен, в 1916 же году он вырос до небывалых размеров, выразившись в 150 с лишним миллионов иен. В таблице этот период торговли представляется в следующем виде:

Годы	Экспорт в Россию	Импорт в Японию	Итого
1915	89.583.402 иены	4.171.737 иен	93.710.139 иен
1916	151.177.270 иен	2.877.784 иены	154.055.054 иены

ПОСЛЕДНЕЕ ПОЛОЖЕНИЕ ЯПОНО-РУССКОЙ ТОРГОВЛИ.

Японо-русская торговля после русской революции и до восстановления дипломатических отношений между СССР и Японией.

Европейская война 1914-1919 г. г. разрушила прочные торговые взаимоотношения существовавшие между Россией и Германией и создала для русских возможность начать непосредственные торговые отношения с Японией. Однако, последовавшие вслед за войной события в России революционного порядка осложнили перспективы дальнейшего роста японо-русской торговли и она опять сошла до скромной цифры. Положение японо-русской торговли со времени возникновения русской революции то есть с 1917 года до восстановления на основании заключенного в Пекине 20 января 1925 года основного договора между Японией и СССР дипломатических отношений представляется в следующем виде:

Годы	Экспорт в Россию	Импорт в Японию	Итого
1917	86.748.692 иены	5.068.319 иены	92.817.011 иен
1918	40.204.975 иены	4.913.333 иены	45.118.308 иен
1919	70.962.792 иены	4.700.103 иены	75.662.895 иен
1920	22.266.936 иен	3.528.866 иен	29.795.805 иен
1921	13.749.931 иен	7.065.173 иены	20.815.104 иены
1922	10.599.628 иен	1.057.358 иен	11.656.986 иен
1923	4.524.000 иен	16.813.000 иен	21.337.000 иен
1924	3.563.576 иен	15.666.165 иен	19.229.741 иен

В приведенных выше цифрах японо-русской торговли включены также и суммы транзитных операций, вследствие чего суммы чистых торговых операций Японии и СССР будут несколько меньше вышеприведенных.

Торговля Японии и СССР с восстановлением дипломатических сношений.

С восстановлением дипломатических отношений между Японией и СССР и восстановлением нормальных торговых связей между странами, в связи с основанием в Японии Торгового Представительства СССР, японо-русская торговля значительно увеличила свои обороты. Чистые торговые операции между странами за период существованиия Торгового Представительства Союза ССР в Японии с 1925-26 хозяйственного года СССР по 1927-28 год представляются в следующем виде:

Хозяйственный год	Экспорт в СССР	Импорт в Японию	Итого
1925-26	2.883.000 иен	10.278.000 иен	13.161.000 иен
1926-27	5.899.000 иен	12.681.000 иен	18.581.000 иен
1927-28	10.185.000 иен	19.595.000 иен	29.780.000 иен

Общий оборот японо-советской торговли в 1929 году, по предположению Торгового Представительства СССР в Японии, выразится в 35.000.000 иен округленно.

В приведенной таблице не учтены суммы ввоза и вывоза различных концессионных предприятий и японских рыбных промыслов на территории советского Дальнего Востока, вследствие чего как суммы экспорта, так и суммы импорта значительно преуменьшены.

Если учесть ввоз и вывоз концессионных предприятий на территории Союза ССР и рыбных промыслов в советских Дальневосточных водах, то общий оборот японо-советской торговли приблизится к ста миллионам иен. Одной только рыбы японскими рыбопромышленниками вывозится на сумму около 35-40 мил. иен. Причем 50% рыбы превращается в консервы и из Японии реэкспортируется в другие страны. Нам неизвестно точно, сколько ввозится из Японии всякого рода снабжения на арендуемые японцами рыбалки, но судя по рыбной добыче, очевидно, в пределах не менее 10-15 мил. рублей.

На значительные суммы ввозится всякого рода оборудования и предметов продо-

Третье предложение русских об открытии торговли с Россией.

Клан Мацумаэ отнесся к русскому послу очень сердечно и дал рекомендательное письмо в Нагасаки к правителю области. С этим письмом 4 августа 1804 года в Нагасаки прибыл Рязанов, который привез бакуфу дорогие дары (в числе подарков были: фигура с вделанными в нее часами, большое зеркало, меха выдры, изделия из слоновой кости, ружья и пистолеты, а вместе с тем и третье предложение от русского правительства открыть переговоры о торговле с Россией.

По поводу предложения Рязанова об открытии торговли, управление бакуфу имело много совещаний, но окончательно отклонило это предложение. Хотя среди круга высшего чиновничества были поддерживающие проэкт открытия торговли с Россией, но в этом случае много повлияли на отрицательное отношение к проэкту бакуфу проживавшие тогда в Японии голландцы, которые совсем не сочувствовали названному проэкту. Трудно установить истинные причины, вызывавшие такое несочувствие со стороны голландцев, но можно думать, что в данном случае ими руководило стремление лишить страны обоюдных выгод. Тем не менее, вместо договора об открытии торговли бакуфу предложило дружественное соглашение оказывать помощь заносимым и прибываемым в страну судам и экипажам. Но Рязанов этим не удовлетворился и, потеряв всякие надежды на достижение цели, оставил в следующем году в марте месяце Нагасаки.

Осуществление русских желаний и присоединение Японии к мировым рынкам.

Итак, Россия три раза получала отказ на предложения об открытии торговли с Японией. Тем не менее, время для осуществления русских желаний пришло постепенно. В 1809 году английское военное судно, плававшее в то время у берегов Японии, успело несколько изменить образ мыслей бакуфу, на которое на этот раз повлияли в таком же направлении и голландцы.

В 1842 году в Урага, близ Иокохама, прибыл из Соединенных Штатов Северной Америки с экспедицией командор Перри, который своим предложением открытия торговли произвел сильную перемену в отношениях Японии к заграница. В следующем году для американских судов был открыть вход в порты Симода и Хакодате, с разрешением приобретать на берегу пищевые продукты, уголь и воду. Для Англии были открыты порты: Нагасаки и Хакодате. В 1846 году по настойчивым просьбам посла Соединенных Штатов Северной Америки, были открыты пять портов: Нагасаки, Хакодате, Канагава (близ Иокохама) Хиого (близ Кобе) и Ниигата. Кроме того по тому же договору, в Эдо устанавливались резиденции уполномоченных посланников. Такие же договоры были заключены после с Россией, Англией, Францией и Голландией и Япония, таким образом, впервые присоединилась к мировым рынкам. Очевидно, что заключенные договоры были очень односторонни и Япония должна была выдержать тяжесть около сорока лет, пока не добилась изменений в них.

ФОРМАЛЬНЫЕ, ТОРГОВЫЕ СНОШЕНИЯ МЕЖДУ ЯПОНИЕЙ И РОССИЕЙ.

Трактат Путятина

Согласно исторических данных, как деловые, так и формальные торговые сношения между Японией и Россией встали на более прочную почву со времени заключения 29 января 1855 года в буддийском храме Чоракудзи в городе Симода первого японо-русского договора, ратификация которого была обменена 25 ноября 1856 года. Договор этот известен под именем трактата Путятина. Договором этим были установлены границы между Японией и Россией. Через семьдесят с лишним лет, считая от первого предложения управлению клана Мацумаэ, Россия достигла наконец своей цели,—торговля с Японией началась. Но хотя сибирским купечеством возлагались на эту торговлю большие надежды, она развивалась слабо. Помимо взаимного непонимания и незнания потребностей и рынков друг друга торговля России с Японией в то время была связана для русских с чрезвычайными неудобствами. Русские товары, идя в Японию, должны были до Стретенска дойти сухопутным путем и оттуда сплавом до Николаевска. Подобные условия транспорта, поглощая много времени, поднимали сильно цену товаров и затрудняли их сбыт в Японии. Еще в более неблагоприятных условиях для развития торговли с Японией в 60-х годах находилась Европейская Россия, откуда товары сначала направлялись на Гамбург, а затем в Шанхай и Хакодате. Все эти вместе взятые условия лишали русскую торговлю желательных результатов в течение долгого времени и только с прорытием Суэцкого канала, а затем, спустя несколько десятков лет, с проложением Великого Сибирского пути, стала заметно расти торговля русских с японцами. Из всего этого видно, что торговля России и Японии налаживалась весьма слабо и не оправдала тех широких надежд, которые возлагались на нее русскими и в особенности Русско-Американской компанией.

Оживление русско-японской торговли.

Оживление русско-японской торговли относится к самому недалекому времени, когда японская производительная промышленность, несмотря на односторонность и неопределенность договоров, сразу делает большой шаг вперед, а ежегодные итоги торговли с иностранными государствами становятся все выше. После того как была уничтожена односторонность договоров 1898 года, несмотря даже на резкий перерыв торговли в 1904 году, когда между Россией и Японией вспыхнула война, с 1906 года, благодаря 12-му пункту мирного договора Японии и России о торговле и мореплавании, благодаря открывшимся удобствам связного Маньчжурского сообщения и улучшения Сибирской магистрали японо-русская торговля вступает в фазу нормальных взаимоотношений. За время, по десятилетиям, с 1878 года по 1898 год цифры русского товарообмена с Японией выражаются в следующих величинах в золотых рублях:

Годы:	Экспорт		Импорт	
	Аз.-Росс.	Евр.-Росс.	Аз.-Росс.	Евр.-Росс.
1878	90.000	„	9.288	„
1888	202.000	„	362.525	„
1898	2.181.971	460.604	1.664.170	115 291

был заключен 23 февраля 1926 года.

По договору концессионеру предоставлялась площадь в 6 квадратных верст для производства разведок и разработки месторождений каменного угля на восточном берегу острова Сахалина в верховьях реки Костина. Срок концессий по договору определен в 32 года.

По докладу составленному инженером Преображенским залегание каменного угля на копях предоставленных в концессию японскому промышленнику г. Цукахара определяется в 6 пластов, из которых уже обнаружено 3 пласта. Кроме того на концессии имеется строевой лес весьма хорошего качества, на порубку которого концессионеру предоставлено преимущественное право.

Несмотря на то что со времени заключения концессионного договора прошло уже три с лишним года, пока что концессионерам не удалось организовать их предприятие должным образом и до сего времени ими почти что ничего не сделано.

ЛИКВИДИРОВАННЫЕ КОНЦЕССИИ:

Концессия на разработку и разведку золотых приисков в Охотске (Лидинский прийск).

В 1929 году была ликвидирована концессия на разведку золота на Лидинском прийске в Охотске. Эта концессия была первой концессией предоставленной Советским Правительством японским промышленникам. Договор был заключен между Советским Правительством и японским концессионером господином Танака Иотаро 22 сентября 1925 года. Несмотря на то что концессионер неоднократно приступал к разработке приисков и созданию акционерного общества, которое обуславливалось одним из пунктов договора старания концессионера не увенчались успехом. Привлеченные им к участию в деле разработок золотых приисков лица, после некоторого периода совместных работ на предприятии, вслед затем разошлись с ним во мнениях и отказались от дальнейшего своего участия в его предприятии. В дальнейшем разведка и разработка прийсков не могла долго продолжиться и дать положительных результатов из за недостатка средств, что в свою очередь оказывало влияние на неуспех переговоров о привлечении капитала и создании крупного акционерного общества. Благодаря этому в конце концов, в связи с тем что истек вторично установленный срок организации акционерного общества, концессия была ликвидирована.

Концессия на производство работ по поднятию золота с затонувшего английского корабля „Черный Принц".

Из других ликвидированных японских концессий в СССР была ликвидирована концессия на производство работ по поднятию золота с затонувшего во время Крымской войны близ Балаклава в 1854 году английского корабля „Черный Принц", предоставленная акционерному обществу Синкай Когио кайша по договору заключенному последним с Советским Правительством 28 июня 1927 года. Концессия была ликвидирована в конце прошлого 1928 года, в виду окончания работ, для которых она была организована.

IV. Японо-советские торговые отношения.

ИСТОРИЧЕСКОЕ РАЗВИТИЕ ЯПОНО-РУССКОЙ ТОРГОВЛИ.

ПЕРВЫЕ ТОРГОВЫЕ СНОШЕНИЯ РУССКИХ С ЯПОНИЕЙ.

Первая попытка русских начать переговоры о торговле.

9 июня 1778 года в японские воды прибыло руское судно, которое имело определенные задания от русского правительства и привезло с собой в поселение Цукамацу клана Мацумаэ письма с просьбой и предложениями завязать торговые сношения с Россией. Это была первая попытка русских начать переговоры о торговле. Клан Мацумаэ затруднялся дать согласие, но предложил отправиться для переговоров в Нагасаки. Однако, русские отклонили это предложение и попытка эта успехом не увенчалась. В 1786 году один из чиновников клана Мацумаэ делал инспекторский об'езд острова Эторофу (самый большой остров из группы Курильских островов, лежащий вторым от Хоккайдо). Находящиеся в то время на этом острове русские стали настойчиво требовать разрешения торговли, на что чиновник дал согласие. По географическим преимуществам русским было удобнее всего получать рис из Японии. Поэтому рис, сукно, льняное полотно, бархат и пр. составили предметы первого обмена. Хотя на берегах реки Амура тогда уже было достаточно много рассеяно японцев, занимавшихся рыболовством, а некоторые из них через Сибирь появлялись даже в русской столице и их в России принимали очень дружелюбно, особенно в период царствования Петра Великого, тем не менее общений, между народами было в то время совсем мало и условия стран мало понимались друг другом.

Вторая попытка русских начать переговоры о нормальных торговых сношениях.

В 1792 году 3-го августа оставшихся в столице нескольких японцев отправили вместе с русским послом Адамом Лаксиманом его помощником Василием Ловцовым и драгоманом Егором (к сожалению не имеется в распоряжении точной справки о фамилии драгомана) в Японию для ведения переговоров об открытии нормальных торговых сношений. Посол со всей сопровождавшей его группой прибыл в Немуро и уведомил управление Мацумаэ о цели приезда и просил довести об этом до сведения бакуфу. Бакуфу, ссылаясь на законы страны того времени, отказало в просьбе посла начать переговоры о торговле, после чего Лаксман отправил бакуфу письмо, которое было написано японскими иероглифами рукой драгомана Егора и в некоторых местах было очень оригинально, с сообщением о том, что письмо бакуфу с раз'яснениями законов страны им получено, вполне понято и что, он, как ему предложено сделать, возвращается на родину. Письмо было помечено датой „Кансэи 5-ый год, июнь" и подписано „Россия Адам Лаксман" Миссия Адама Лаксмана, таким образом, цели своей не достигла и он должен был вернуться на родину ни с чем.

промышленниками Кавасаки Сукетаро и Морита Кинзо в 1927 году.

Договор составлен из 39 статей. Заслуживающими особенного внимания из них являются следующие:

Площадь приисков, предоставляемых в концессию, находящихся в Камчатской области, за городом Охотском, под названием Владимирский, Правый и Левый, равняется 200 гектарам (2,000 квадратных километров).

Срок для производства разведок определен в два года с открытия навигации 1927 года по 1 сентября 1929 года. Срок эксплоатации приисков определяется в 20 лет.

В качестве арендной платы концессионеры обязуются уплачивать 5% вырабатки предприятий. Единый налог уплачивается также в размере 5% выработки.

Советское правительство оставляет за собой преимущественнное право покупки золота добываемого на концессиях, при чем цена его будет определяться по оффициальному курсу в Лондоне. В случае, если СССР откажется от покупки золота, концессионерам предоставляется право вывозить его за границу беспошлинно.

Концессионерам также представляется право ввозить беспошлинно на свои предприятия машины и прочее оборудовоние и товары, необходимые для предприятия. Кроме того разрешается установка и использование телеграфа и телефона.

Согласно рабочего кодекса СССР на предприятия концессионеров могут быть допущены к работам иностранные рабочие, при условии если они не будут превышать 50% всех рабочих предприятий.

ПОЛОЖЕНИЕ ПРЕДПРИЯТИЙ ОБЩЕСТВА „СИОА КИНКО КАЙША."

На основании концессионного договора о представлении японским промышленникам права разработки золотых прийсков в Охотске, заключенного между Советским Правительством и японскими промышленниками г. г. Кавасаки Сукетаро и Морита Кинзо, 15 мая 1927 года было организовано акционерное золотопромышленное общество Сиоа Кинко Кабусики Кайша, с основным капиталом в 1.000.000 иен, которое согласно договора приобрело 3 прийска близ Охотска: Владимирский, Правый и Левый, в бассейне реки Куты в 12 милях к северу от Охотска. Площадь занимаемая приисками определяется в 800.000 цубо.

Приступив к работам на своих предприятиях в Охотске в августе 1927 года общество произвело разведки и буровые работы на всех трех приисках в 46 местах предоставленной в эксплоатацию площади и приступило к разработке шурфа № 4 по диогонали, проведенной на протяжении около 40 футов. Однако обществу не удалось найти достаточно крупных золотых россыпей чтобы развить интенсивно работу на своей концессии, вследствие чего оно будучи поставлено в положение невозможности развить в достаточной степени свои предприятия там, благодаря неудовлетворительным результатам разведок, обратилось в Главный Концессионный Комитет СССР в

Москве с просьбой предоставить ему новые золотоносные участки. В ответ на это заявление общества Сиоа Кинко кайша Тогда прибывший из отпуска в Москву секретарь Токийской Концессионной Комиссии господин Бекман неофициально сообщил обществу, что Главный Концессионный Комитет согласился удовлетворить просьбу общества Сиоа Кинко Кабусики кайша предоставив ему в концессию золотопромышленный участок Лидинский в Охотске сроком на 10 лет.

Срок работы на вновь представляемой концессии в 10 лет несколько не удовлетворяет концессионное общество Сиоа Кинко, вследствие чего оно вступило в переговоры с Главным Концессионным Комитетом о продлении его до 15 или 20 лет, в связи с тем что при предоставлении первой концессии на разработку золотых прийсков срок работ определялся в 20 лет.

Лидинский прийск ранее был предоставлен в концессию г. Танака Иотаро но благодаря тому что последний не мог выполнить некоторых условий договора, ему было отказано в праве эксплоатации этого участка и его концессия была ликвидирована.

ДРУГИЕ КОНЦЕССИИ ЯПОНСКИХ ПРОМЫШЛЕННИКОВ В СССР.

КОНЦЕССИЯ НА РАЗРАБОТКУ КАМЕННОУГОЛЬНЫХ МЕСТОРОЖДЕНИЙ НА БЕРЕГУ Р. АГНЕВО НА СЕВЕРНОМ САХАЛИНЕ.

Концессия на разработку каменноугольных месторождений на западном берегу реки Агнево на Северном Сахалине, была предоставлена на основании конвенции об основных принципах взаимоотношений между СССР и Японией обществу Сакай Кумиай. Договор вступил в силу с 14 декабря 1925 года, однако, несмотря на то что прошло не мало времени, общество Сакай Кумиай до сих пор не может развить достаточно успешной деятельности на своей концессии и предприятия его до сих пор остаются бездействующими, несмотря на все старания акционеров выполнить поставленные перед ними задания.

КОНЦЕССИЯ НА РАЗРАБОТКУ КАМЕННОГО УГЛЯ НА БЕРЕГУ Р. КОСТИНА НА СЕВЕРНОМ САХАЛИНЕ.

На основании японо-советского, основного договора, заключенного в Пекине 20 января 1925 года, в Москве в 1925 году был открыт ряд конференций по заключению концессионных договоров Советского Правительства с японскими промышленниками. На одной из таких конференций о каменноугольных концессиях в Москве присутствовал частный японский предприниматель господин Цукахара Каичиро, имевший рекомендации от Японского Правительства. В результате переговоров с Советским Правительством г. Цукахара в феврале 1926 года, в качестве частного лица, приобрел право на разработку каменноугольных копей в верховьях реки Костина на Северном Сахалине и на производство там же разведок каменноугольных месторождений. Договор

Затраты на исследование лесов берет на себя Рорио Рингио Кумиай, причем вся сумма затрат, определяемая в 650.000 руб., должна быть уплачена втечении трех лет и вноситься ежегодно в два срока по 108.333 рубля в каждый год. Кроме того, концессионерами уплачивается по одному рублю за каждый отведенный гектар.

Начало порубки леса — с 1-го октября 1927 года.

Максимальное количество леса, разрешаемого к порубке,—7.500.000 кубо-футов в год.

При расценке леса устанавливается три размера: большой, средний и малый. Кедровый лес большого размера оценивается в 15 коп., среднего—11 коп. и малого—6 коп. Лес еловый, пихтовый и лиственничный—большого размера—9 коп., среднего—5,5 к., малого—3,5 коп., осиновый лес—10 коп., За дрова назначается плата в 3 рубля 50 коп. за 1 куб. сажень.

Разрешается бесплатная порубка леса для следующих нужд предприятия: заготовка дров, потребляемых рабочими, лесоматериалы, необходимые для целей перевозки сплава, и т. п., для возведения зданий лесным чиновникам и рабочим предприятия.

Плата за экспорт устанавливается ежегодно по курсу, который устанавливается в Кобе на импортируемые материалы втечении трех месяцев: июня, августа и сентября, в пределах от 30 до 36 копеек за лиственный, еловый или пихтовый лес.

Налог с дохода от продажи леса—2% стоимости леса, уравнительный налог—2% стоимости фоб лесоматериалов, за сплав по реке—18 копеек за каждый кубо-метр, жилищный налог—1/4 % стоимости зданий, налог за езду на лошади: в городе—25 руб. и за городом—6 руб., гербовый сбор—1% с общей суммы запроданного леса, или 1% с общей суммы торговой сделки, или 1/4 % с общей суммы векселя, квитанции и счета—от 6 до 15 к., прошения—от 1 до 2 руб., подоходный налог—10% чистой прибыли, портовый сбор—10 коп. с 1 тонны и попудный сбор в размере 1/2 коп. с кубо-фута.

За концессионные лесные участки ежегодно должно быть внесено 412.500 рублей в два срока: 1-го октября и 15-го апреля каждого года. В случае неуплаты в срок, через два месяца, кроме подлежащей к уплате суммы, должны быть уплачены проценты в размере 1/10% с общей суммы.

Все суммы должны пересылаться в иностранной валюте через отделения Госбанка или отделение Чосен Банка во Владивовтоке. Минимальная плата за лес 21 к. за 1 кубо-фут.

Концессионер имеет право ввозить на свои предприятия машины и их части, причем последние не освобождаются от налога.

Концессионеру предоставляется право проведения железных дорог, шоссейных дорог и водных путей сообщения, а также использование силы воды. Приход и уход судов, перевозящих лесоматериалы,—на общих установленных для всех судов вообще основаниях. Установление радиостанций на судах—с разрешения начальника портового управления. Пользование секретными шифрами и кодом воспрещается. На предприятии разрешается установить радио и проволочный телефон с разрешения Народного Комиссара Почт и Телеграфов.

Согласно кодексу о труде, рабочие и служащие должны быть принимаемы на работу путем заключения коллективных договоров с профессиональными союзами. На предприятиях, как и в предприятиях госпромышленности, должно быть проведено социальное страхование. Вне коллективного договора разрешается принять до 6 человек; % иностранцев служащих определяется в 35% и иностранных рабочих—в 25%.

Концессионер берет на себя обязательство по возведению зданий для лесных чиновников и 20 отдельных постов для лесных кондукторов. Затраты на постройку определены в 50 тысяч рублей, земельная площадь для возводимых зданий предоставляется бесплатно.

В случае неисполнения договора должна быть уплачена неустойка в размере от 100 до 5000 рублей.

Для разрешения спорных вопросов должен быть учрежден специальный орган.

В случае ликвидации предприятия срок передачи концессий определен в три месяца. Собственное имущество концессионера остается в их руках, причем вывоз его будет разрешен без налога втечении одного года со дня окончания срока договора.

Общество, однако, принуждено было прекратить свои операции подвергшись громадным убыткам, в результате невыгодности концессионного и коллективного договоров, заключенных между указанным обществом и СССР, а также и вследствие резкого падения цен на лесоматериалы на рынках собственно Японии. И общество ликвидировано 7 ноября 1930 г.

АКЦИОНЕРНОЕ ЗОЛОТОПРОМЫШЛЕННОЕ ОБЩЕСТВО „СИОА КИНКО КАБУСИКИ КАЙША“.

Договор о предоставлении японским промышленникам права разработки золотых прийсков в Охотске.

Договор о предоставлении японским промышленникам права разработки золотых прийсков в Охотске был заключен между Советским Правительством и японскими

Крупными акционерами общества являются следующие солидные предприятия Японии:

Мицубиси Госи	31.143	акции.
Мицуй Коозан	17.925	„
Окура Гуми	15.425	„
Окура Кисичиро	7.500	„
Кимура Кусуята	7.500	„
Макита Тамаки	7.500	„
Асано Соичиро	3.000	„
Кадоно Дзюкуро	3.000	„
Югава Канкичи	3.000	„

Правление общества состоит из президента общества, директоров распорядителей и членов ревизионной комиссии. Президентом общества в настоящее время состоит господин Каваками Тосицуне, бывший японский посланник в Польше, директорами же распорядителями следующие лица: Фунада Казуо, Суенобу Мичинари, Хасимото Кейсабуро, Като Исозо, Ивасе Токузо и Фудзиока Жоокичи и членами ревизионной комиссии: г. г. Маекава Масуи и Язима Томизоо.

Отчетный год заканчивается в конце марта, а Общие Собрания акционеров созываются в мае.

Предприятия общества в течение истекщего периода времени показали значительный прогресс и теперь дают некоторую уверенность в успехе будущей деятельности общества. В течение этого периода времени общество положило не мало средств и усилий для переоборудования предприятий, в центре с каменноугольными копями в Дуэ. Главное внимание общества было обращено на строительные работы для улучшения добычи угля, подачи его на пристани и некоторые другие предприятия. Вследствие приложенных стараний, предприятия общества в настоящее время представляют собой вполне законченные и прекрасно оборудованные каменноугольные копи.

В сентябре 1928 года на предприятиях общества были установлены „белт-конвееры" для механической подачи угля с предприятий на суда, что дало возможность увеличить погрузку угля на 20.000 в год.

Отчеты деятельности общества за 4 операционных года, начиная с начала работы концессионных предприятий по истекщий 1929-30 операционный год включительно представляются в следующем виде:

Первый операционный год.	
Общий доход	622.738 иен
Общий расход	651.484 иен
дефицит	28.745 иен
Второй операционный год.	
Общий доход	644.887 иен
Общий расход	660.378 иен
дефицит	15.490 иен
Третий операционный год.	
Общий доход	1.544.261 иен
Общий расход	1.488.706 иен
Активное сальдо	55.555 иен
Четвертый операционный год.	
Общий доход	1.673.440 иен
Общий расход	1.608.228 иен
Активное сальдо	65.212 иен

АКЦИОНЕРНОЕ ЛЕСОПРОМЫШЛЕННОЕ ОБЩЕСТВО РОРИО РИНГИО КАЙША.

КОНЦЕССИОННЫЙ ДОГОВОР РОРИО РИНГИО КАЙША С СССР.

Переговоры о заключении лесопромышленного концессионного договора между представителями Советского Правительства и представителями Дальне-Восточного Лесопромышленного Синдиката Рорио Рингио Кумиай, объединявшего японские лесопромышленные общества, эксплоатировавшие леса Приморской области, начались, вслед за открытием переговоров о пересмотре японо-русской рыболовной конвенции, 23 февраля 1926 года. После многих затруднений и неоднократного перерыва переговоров, тянувшихся в общей сложности 13 месяцев и 10 дней, сторонам все же удалось найти общий язык и закончить переговоры официальным подписанием договора

Договор был подписан 2 апреля 1927 года, в присутствии японского посла в Москве г. Танака, заместителя народного комиссара по иностранным делам Литвинова, комиссара земледелия Т. Одоровича и главы японской делегации на переговорах — Умеура Кенкичи.

Статьи, вызвавшие разногласия после предварительного подписания договора, не вошли в новый договор.

После официального подписания договора японской стороной было внесено 125.000 рублей за лесоматериалы и 75.000 рублей на исследование лесов.

Весь договор состоит из 72 статей, из которых мы приведем наиболее важные:

Заинтересованные в заключенном договоре общества: Рорио Рингио Кумиай, в который входят следующие 10 обществ: Ози Сейси, Фузи Сейси, Карафуто Когио, Окура Гоомей, Акита Мокузай, Тоио Такусиоку, Ничиро Когио, Азия Рингио, Киокуто Синрин, Энкайсю Мокузай.

После официального подписания договора, втечении одного года указанные десять обществ по своей инициативе должны организовать акционерное общество.

(Согласно этого пункта договора организовано акционерное общество под именем Рорио Рингио Кайша.)

Срок договора со дня подписания до 1-го июня 1933 года. Отдельно устанавливается срок вывоза лесоматериалов, который продолжен еще на один год, т.-е. до 1934 года. Срок договора может быть продолжен после окончания его, по соглашению сторон, путем новых переговоров.

Общая площадь концессии определена в 1.100.000 гектаров. В концессию отведены участки приморского леса под номерами 7, 10 и 11.

Наблюдение за точным исполнением настоящего договора возлагается на Народный Комиссариат Земледелия.

угольной концессии на Северном Сахалине, в конце концов закончились официальным подписанием концессионного договора 14 декабря 1925 года, председателем ВСНХ СССР господином Дзержинским и японским представителем господином Окумура.

Договор этот составлен из 41 статьи. Ниже мы приведем наиболее важные из них:

Правительство СССР, как исключение, предоставляет концессионеру праве разведок месторождений каменного угля и разработки каменноугольных копей, так же как и право организации других побочных предприятий, с оставлением за концессионером права употребления полученной выработки предприятия в свою пользу, в районах определенных настоящим договором согласно излагаемых ниже статей.

За исключением особых положений обусловленных настоящим договором, согласно существующих законов на территории СССР, концессионер обязуется выполнять и повиноваться всем постановлениям и распоряжениям советских властей существующим или могущим быть изданными впоследствии.

Правительство СССР предоставляет концессионеру монопольное право на разведку и добычу каменного угля на указанный в настоящем договоре срок в следующих районах на западном берегу Северного Сахалина, на условиях установленных настоящим договором: рудник Дуэ, рудник Владимировский и рудник Мачи.

Срок ностоящего договора устанавливается в 45 лет, начиная со дня вступления в силу настоящего договора.

В качестве арендной платы концессионер обязуется уплачивать Правительству СССР следующий процент выработки предприятий:

В случаях когда ежегодная добыча каменного угля достигает:	Выплачиваемый процент с общей суммы добычи каменного угля:
до 100.000 французских тон.	5.00%
„ 150.000 „ „	5.25%
„ 200.000 „ „	5.50%
„ 250.000 „ „	5.75%
„ 300.000 „ „	6.00%
„ 350.000 „ „	6.25%
„ 400.000 „ „	6.50%
„ 450.000 „ „	6.75%
„ 500.000 „ „	7.00%
„ 550.000 „ „	7.25%
„ 600.000 „ „	7.50%
„ 650.000 „ „	7.75%
больше 650.000 „ „	8.00%

Вышеуказанный процент выплачивается концессионером натурой, в течение навигационного периода (с 1 мая по 15 сентября каждого года), при чем Правительство СССР должно определить срок приема и количество товаров и заявить об этом концессионеру за 3 недели до приема товаров.

Концессионеру предоставляется право свободного вывоза каменного угла, добытого на его предприятиях, за границу, на льготных условиях.

Условия труда рабочих и служащих на предприятиях концессионера должны быть установлены согласно постановлений и распоряжений Правительства СССР уже существующих или могущих быть изданными впоследствии и на основании коллективных договоров, заключаемых между концессионерами и соответствующими профессиональными союзами.

Вышеуказанное положение применяется ко всем рабочим и служащим занятым на предприятиях концессионера, без различия национальностей.

Процент выделяемый для социального страхования рабочих и служащих устанавливается одинаковым с таковым же, установленным для государственных советских организаций.

Концессионеру представляется право найма иностранных рабочих на следующих условиях:

А) Наем иностранных делопроизводителей, техников, служащих и квалифицированных рабочих первой руки разрешается в числе не более 50% всех занятых на предприятиях этой категории рабочих и служащих.

Б) Наем иностранных квалифицированных рабочих второй руки и чернорабочих разрешается в числе не превышающем 25% всего числа таковых рабочих на предприятии.

В тех случаях когда Биржа Труда не сможет предоставить концессионеру необходимое число рабочих и служащих п. п. А и Б из числа граждан СССР и иностранцев, проживающих на территории СССР, концессионеру предоставляется право найма недостающего числа иностранных рабочих по его усмотрению.

Процент служащих и рабочих, установленный в п. п. А и Б с течением времени должен быть снижен путем изменения его в каждые три года.

По истечении срока концесии, предприятия концессионного общества должны быть переданы Советскому Правительству безвозмездно, вместе со всеми постройками и оборудованием, в таком состоянии, которое даст возможность продолжать без особенных затруднений работу на этих предприятиях с добычей каменного угля в размерах средней добычи за последние пять лет на концессионном предприятии.

ПОЛОЖЕНИЕ ПРЕДПРИЯТИЙ ОБЩЕСТВА КИТА КАБАФУТО КОГИО.

Северо-Сахалинское Каменноугольное общество (Кита Кабафуто Когио кайша) организованное на основании права установленного по Высочайшему Указу Его Императорского Величества Императора Японии и концессионного договора между Правительством СССР и Союзом японских горнопромышленников было учреждено в августе 1926 года.

Состояние дел общества в настоящее время рисуется в следующем виде:

Основной капитал общества	10.000.000 иен
Реализованный капитал	4.000.000 иен
Число акций	200.000 акций
Число акционеров	1.173 держателей

С 1 апреля 1928 года по 31 марта 1929. года:

Доход:

Доход от реализации нефти	3.558.908 иен
Прочие доходы	24.520 иен
Итого	3.583.428 иен

Расход:

Расход правления общества	297.331 иен
Расход предприятий общества	2.253.181 иен
Итого	2.550.513 иен
Активное сальдо	1.032.915 иен

ДЕЯТЕЛЬНОСТЬ ПРЕДПРИЯТИЙ ОБЩЕСТВА „КИТА КАБАФУТО СЕКИЮ КАЙША“ ЗА ИСТЕКШИЙ 1929-30 ОПЕРАЦИОННЫЙ ГОД.

В истекшем 1929-30 операционном году работа предприятий общества протекала нормальным темпом как и в прошлые годы. Ниже мы обрисуем деятельность предприятий на каждом отдельном участке нефтяных промыслов:

РАБОТА НЕФТЯНЫХ ПРОМЫСЛОВ НА ОХЕ.

В истекшем операционном году на нефтяных промыслах в Охе было заложено 27 новых скважин, что вместе с ранее заложенными старыми скважинами составит в общей сложности 58 скважины. Всего на этом предприятии было добыто 184 с лишним тысячи килограмм, из которых было экспортировано 131.000 с лишним килограмм.

Из нового оборудования нефтяных промыслов на Охе прежде всего следует указать на сооружение на протяжении 1 мили по дну моря 8 дюймового железного нефтепровода, затем на оборудование пристани. Благодаря тому что вследствие нового оборудования пристани были созданы более благоприятные условия для швартования судов, в истекшем операционном году представилась возможность подавать на суда более 5.200 килограмм в сутки и таким образом те затруднения, которые сильно испытывались предприятием в период начала работ его, теперь почти что изжиты.

В связи с увеличением добычи нефти на промыслах было сооружено еще четыре новых цистерны для хранения добываемой на промыслах нефти вместимостью до 10.000 килограмм каждая, что вместе с сооруженными в прежнее время дает возможность предприятию хранить запасы нефти в размерах до 172 тысяч килограмм.

Кроме этого закончено расширение электрической станции на промыслах и постройка новых мастерских и жилых помещений для служащих и рабочих предприятия.

Следует также отметить и значительное улучшение оборудования для связи промыслов с берегом моря (на сахалинском побережье близ Охи).

ПРОБНЫЕ РАБОТЫ НА УЧАСТКЕ НУТОВО.

В конце 1927-28 операционного года на участке Нутово была заложена одна скважина и получены первые результаты пробных работ. Однако летом 1928 года на участке этом возник лесной пожар, в результате которого было уничтожено все оборудование там и предприятие было лишено возможности вести дальнейшее продолжение закладки скважины. В настоящее время, после того как предприятие приложило большие старания к восстановлению оборудования, работы по возобновлению разведок закончены и в дальнейшем предприятие намерено приступить к закладке новых скважин.

ПРОБНЫЕ РАБОТЫ НА УЧАСТКЕ КАТАНГЛИ.

В операционном году на участке Катангли, была заложена одна новая скважина для пробных работ.

Нефть в этой вновь заложенной скважине обнаружена на глубине 114 метров, а пробная добыча нефти достигает 12 килограмм в сутки.

ПРОЧИЕ ПРЕДПРИЯТИЯ.

Во всех местах где предположено провести разведки нефти и где ведутся пробные работы предприятием проведено тщательное географическое и геологическое обследование этих участков.

ПЛАН РАБОТ ТЕКУЩЕГО ОПЕРАЦИОННОГО ГОДА.

До конца текущего операционного года обществом выполняется следующий намеченный им план работ и благоустройства предприятий на Северном Сахалине:

1. Закладка 30 новых скважин на Охинских промыслах, с увеличением общего их числа до конца операционного года до 88.
2. Сооружение новых цистерн для хранения нефти, вместимостью в 200.000 тонн нефти, с увеличением общей вместимости всех цистерн-нефтехранилищ до 30.000 тонн.
3. Проведение пробных работ в районах Северной Охи и Нутово, с закладкой по одной скважине на каждом участке.
4. Закладка 6 скважин на участке Катангли и второй скважины на участке в Поромае.

СЕВЕРО-САХАЛИНСКОЕ КАМЕННОУГОЛЬНОЕ ОБЩЕСТВО „КИТА КАБАФУТО КОГИО КАЙША.“

КОНЦЕССИОННЫЙ ДОГОВОР О КАМЕННОУГОЛЬНОЙ ПРОМЫШЛЕННОСТИ НА СЕВЕРНОМ САХАЛИНЕ.

Переговоры о заключении концессионного договора о каменноугольной промышленности японских предпринимателей на Северном Сахалине между Советским Правительством и Союзом японских горнопромышленников, открылись 22-го июля 1925 года в Главном Концессионном Комитете в Москве.

Со стороны СССР в качестве уполномоченного представителя на переговорах присутствовал господин Иоффе и его заместитель господин Мельников, с японской же стороны возглавляли делегацию на переговорах господа Окумура Масао, в качестве уполномоченного представителя Союза японских горнопромышленников и Каваками Тосихико, бывший посланник Японии в Польше, в качестве советника на переговорах.

Переговоры открылись на основании протокола „Б“ японо-советского основного договора, заключенного в январе 1925 года. Пережив тот же приблизительно процесс, который был пережит переговорами о нефтяных концессиях, переговоры о каменно-

приложений, должны быть разрешены высшей судебной инстанцией СССР.

Все споры между концессионером и третьими лицами разрешаются в местных судебных учреждениях.

Таблица уже разработанных участков, предоставляемых концессией:

Название районов месторождений нефти	Вид площади	Размеры площади	Размеры участков	Число участков
О х а	прямоугольник	925,05 десят.	22 и 35 десят.	В 22 десятины—11 В 35 десятин—20
Э х а б и	квадрат	591,96 „	37 десятин	16
П и л ь т у н	прямоугольник	443,76 „	37 „	12
Н у т о в о	многоугольник	925,03 „	38,5 „	24
Ч а й о	квадрат	443,76 „	27,75 „	16
Н ы й в о	квадрат	591,69 „	37 „	16
Виглектуй	прямоугольник	295,84 „	24 „	12
Катангли	квадрат	591,69 „	37 „	16

ПОЛОЖЕНИЕ ПРЕДПРИЯТИЙ ОБЩЕСТВА „КИТА КАБАФУТО СЕКИЮ“.

Северо-Сахалинское Нефтепромышленное Общество Кита Кабафуто Секию кайша организовавшееся на основании Высочайшего Указа Его Императорского Величества Императора Японии, согласно концессионного договора, заключенного с Советским Правительством было учреждено в июне 1926 года. Данные о состоянии дел общества на 1 января 1929 года представлялись в следующем виде:

Основной капитал общества	10.000.000 иен
Реализованный капитал	4.000.000 иен
Число акций	200.000 акций
Число акционеров	2.788 держателей

Во главе общества стоит президент общества господин Наказато Сигедзи, 9 директоров распорядителей: г. г. Симамура Киндзиро, Ямада Бундзи, Хасимото Кейсабуро, Хаяси Икутаро, Сакурай Хикоичиро, Макида Тамаки, Мацуката Коодзиро, Сайто Коосуке, Суенобу Мичинари и 2 члена ревизионной комиссии: г.г. Цуге Монтаро и Ядзима Томизоо.

Крупными акционерами общества являются следующие общества:

Нихон Секию кайша	17.076 паев
Кухара Когио	16 130 „
Мицубиси Гооси кайша	12.939 „
Окура Когио кайша	10.193 „

Накано Когио кайша	6.000 паев
Соо Кихей	4.543 „
Осака Шоодзи кайша	3.744 „
Асахи Секию кайша	3.420 „
Накано Кан-ичи	3.0 0 „

Операционный год оканчивается в марте и Общие Собрания акционеров в мае.

С тех пор как организовалось общество и начали нормально работать его предприятия на Северном Сахалине до сегодняшнего дня, деятельность предприятий общества протекает вполне успешно и бесперебойно.

Предприятия общества, сравнительно недавно начав свои работы на нефтяных участках, предоставленных в концессию, успешно развиваются, расширяясь в своих размерах и улучшая оборудование.

Результаты работы предприятий нефтепромышленного общества за истекшие операционные годы представляются в следующем виде:

С 1 июня 1926 года по 31 марта 1927 года.

Доход:

Доход от реализации нефти	874.359 иен
Прочие доходы предприятий	107.870 иен
Итого	982.229 иен

Расход:

Расходы главной конторы о-ва	123.019 иен
Расходы предприятий общества	778.267 иен
Итого	900.286 иен
Активное сальдо	81.943 иен

Это сальдо согласно постановления общего Собрания было распределено следующим образом:

1. На компенсацию расходов по учреждению о-ва	30.912 иен
2. На уплату налогов	3.200 иен
Итого	34.112 иен

Остающиеся же суммы зачислены:

1. В фонд установленный законом	2.500 иен
2. В активное сальдо будущего года	45.330 иен

С 1 апреля 1927 года по 31 марта 1928 года:

Доход:

Доход от реализации нефти	2.070.898 иен
Прочие доходы предприятий	90.956 иен
Итого	2.161.855 иен

Расход:

Расходы главной конторы о-ва	227.875 иен
Расходы предприятий общества	1.430.475 иен
Итого	1.658.350 иен
Активное сальдо	503.505 иен

ющих на промыслах.

в) Порубка леса для нужд предприятия.

г) Пользование землей, поверхностью воды, а также использование силы воды.

д) Проведение телефонных проводов для нужд предприятия.

е) Оборудование портовых сооружений.

ж) Право постройки и сооружения необходимого для промыслов оборудования.

з) Право постройки и сооружения побочных предприятий.

и) Проведение нефтепроводов.

к) Право занятия земледелием.

л) Пальзование радиотелеграфными станциями в Оха и Чаио (в настоящее время существующими) и сооружение новых станций.

м) Беспрепятственный вход судов.

Перечисленные выше права предоставляются безвозмездно.

Обязанности концессионера:

А) В качестве арендной платы концессионеры обязуются уплачивать 5% всей валовой добычи предприятий общества, если таковая не превышает 30.000 тонн в год, с увеличением добычи процент этой платы увеличивается на 0,25% за каждые 10.000 тонн до 45.000 тонн и 15% всей валовой добычи предприятий, если таковая достигнет 45.000 тонн в год. (В случае фонтанирования нефти эта плата повышается согласно таблицы, приведенной в другом пункте договора).

Б) Налоги: Концессионеры обязуются уплачивать единый налог в размере 3.84% валовой добычи предприятий.

В) Социальное страхование: Концессионеры обязуются ежегодно выделять особое ассигнование на социальное страхование в размере 16% общей суммы заработной платы занятых на нефтяных промыслах рабочих и служащих.

Г) Страхование от огня: При страховании имущества концессионера на предприятиях его, имущество, которое не опасно в пожарном отношении не страхуется. В тех случаях, когда пожаром уничтожается застрахованное имущество концессионера, страховая премия вносится в Госбанк СССР на имя концессионера в будет употреблена на восстановление уничтоженного пожаром имущества.

Д) Плата за пользование имуществом, принадлежащим Советскому Правительству: В тех случаях, когда концессионер из'явит желание воспользоваться имуществом, принадлежащим Советскому Правительству и находящимся в пределах предприятия, он обязуется вносить ежегодную плату за это имуществе в размере 4% цены назначенной за это имущество (оценка имущества решается по соглашение сторон). Что касается вопроса о том, какое из имеющегося в пределах концессионного предприятия, имущества принадлежит Советскому Правительству, должен быть решен путем переговоров между Советским и Японским Правительствами.

Преимущественное право на покупку нефти.

Советское Правительство не оставляет за собой преимущественного права на покупку нефти, добываемой на концессионном предприятии.

Наем рабочих и служащих:

А) На концессионном предприятии применяется кодекс труда ССС.

Б) Концессионер имеет право найма иностранных рабочих, при условии соблюдения следующей пропорции: делопроизводителей, техников и старших рабочих—50% всех занятых на предприятиях этой категоРии лиц, простых рабочих-25% всех занятых на предприятии простых рабочих.

Само собой разумеется, что на управляющих, заведующих промыслами и начальников отделов не распространяется настоящее ограничение.

В том случае, когда Владивостокская Биржа Труда не сможет представить в распоряжение концессионера необходимое числа рабочих и служащих, концессионеру предоставляется право нанять рабочих по своему усмотрению.

На иностранцев (не русских) нанятых через Владивостокскую Биржу Труда п. п. А и Б не распространяются.

При необычайных событиях концессионеру разрешается наем техников и рабочих по его усмотрению.

В) О своем желании нанять рабочих и служащих на предприятие концессионер обязан сообщать Владивостокской Бирже Труда ежегодно заблаговременно.

Компенсация Советского Правительства за имущество, которое концессионер обязуется передать СССР после истечения срока концессии.

А) Не доплаченная Советским Правительством сумма ассигнований, идущих в счет уплаты за оборудованое концессионного предприятия в течение последних 10 лет срока концессии, должна быть уплачена Советским Правительством концессионеру после передачи имущества.

Б) Процент компенсации:

За каменные здания, цистерны и железные трубы	3%
За машины и разное оборудование	7%
За деревянные здания и перевозочные средства	5%

Имущество, принадлежащее концессионному предприятию не может быть реквизировано.

Концессионер обязуется соблюдать распоряжения и постановления надлежащих властей, существующие и могущие быть изданными впоследствии.

Советское Правительство, в том случае, когда распоряжения или постановления его или местных властей ограничат или уничтожат права концессионеров, полученные ими на основании настоящего договора, обязуется компенсировать их убытки.

Советское Правительство ни в коем случае не должно ограничить или прекратить действие настоящего договора по мнению только одной стороны.

Статья о примирении споров.

Все споры и разногласия между Советским Правительством и концессионером, возникающие на почве понимания и проведения в жизнь настоящего договора и его

когда доход общества превысит расход и общество сможет распределить дивидент в 10% реализованного капитала за год, но не ранее чем после 4 лет существования общества.

Статья 10.

Распределение дохода не может быть сделано обществом без разрешения Министерства торговли и промышленности.

Статья 11.

В тех случаях когда размер прибыли, отчисляемой для выдачи дивидента в каждом отчетном году будет превышать 15% реализованного капитала, то половина суммы превышения должна быть внесена Японскому Правительству. В тех же случаях, когда при подсчете прибыли, отчисляемой для выдачи дивидента за последних три отчетных года, предшествующих данному (сумма, внесенная Правительству, из прибыли исключается), средний годовой ее размер за этот период окажется менее 15% оплаченного капитала, то недостающая до 15% в среднем сумма удерживается из прибыли данного операционного года, и только в том случае, если и после этого остаток суммы будет превышать 15% оплаченного капитала-половина превышения вносится Правительству.

Статья 12.

Общество должно представлять Министерству торговли и промышленности опись имущества, главную книгу, сводные отчеты об эксплоатации, сводные счета прибылей и убытков, расходов и доходов, именную книгу акционеров, перед каждым периодическим Общим собранием.

Статья 13.

Министерство торговли и промышленности, когда найдет это необходимым, может потребовать от общества отчет о положении дел общества и о состоянии его имущества, а также контролировать деятельность общества через командированных чиновников.

Статья 14.

Министерство торговли и промышленности может издать, в случае необходимости, соответствующий приказ о ревизии дел общества.

Статья 15.

В тех случаях когда Министерство торговли и промышленности найдет, что постановления общества противоречат закону и уставу общества и вредят пользе общества, оно может отменить эти постановления.

Если Министерство торговли и промышленности замечает, что действия членов-распорядителей противоречат закону и уставу общества и вредят пользе общества и в тех случаях когда последние не исполняют постановлений Министерства торговли и промышленности, оно оставляет за собой право издать приказ об их отставке.

Статья 16.

Ст. ст. 5, 6, 9 и 10 не применяются к обществам, которые имеют целью эксплоатацию каменноугольных предприятий.

Прибавление: Настоящий Высочайший Указ входит в силу с 10 марта 1926 года.

АКЦИОНЕРНОЕ СЕВЕРО-САХАЛИНСКОЕ НЕФТЕПРОМЫШЛЕННОЕ ОБЩЕСТВО (КИТА КАБАФУТО СЕКИЮ КАЙША).

КОНЦЕССИОННЫЙ ДОГОВОР СЕВЕРО-САХАЛИНСКОГО НЕФТЕПРОМЫШЛЕННОГО ОБЩЕСТВА С СОВЕТСКИМ ПРАВИТЕЛЬСТВОМ

Концессионный договор о нефтяных промыслах между Северо-Сахалинским Нефтепромышленным обществом Кита Кабафуто Секию Кайша и Советским Правительством был заключен 14 декабря 1925 года в Москве

Уполномоченным представителем общества на переговорах был господин Наказато Сигезу и уполномоченным Советского Правительства господин Иоффе, которого затем заменил господин Гревич.

В результате заключения концессионного договора, половина всех месторождений нефти на Северном Сахалине, то есть 8 уже разработанных участков и новая площадь в 1.000 квадратных верст, была передана в эксплоатацию японским предпринимателям.

Переговоры о заключении концессионного договора встречались со многими затруднениями, которые в конце концов все жс были преодолены, хотя для этого пришлось отсрочить срок подписания договора на полтора месяца.

Договор состоит из 48 статей, из которых ст. ст. 1—9 трактуют о правах и обязанностях, 10—16 о районах участков, далее о налогах, экспорте и импорте, об условиях труда, радио-телеграфе и т. д.

Заслуживающими особенного внимания из них являются следующие:

Цель концессии:

Разведка и эксплоатация нефтяных месторождений уже разработанных и еще не разработанных на восточном берегу северного Сахалина.

Районы участков, представляемых концессией:

А) Уже разработанные, согласно прилагаемой ниже таблицы.

Б) Еще не разработанные-площадь в 1.000 квадратных верст.

а) Определение новых участков нефтяных промыслов должно быть проведено в течение одного года после заключения договора, на основании соглашения между Советским Правительством и концессионером.

б) Срок разведок—11 лет, считая со дня вступления в силу договора то есть с 14 декабря 1925 года.

Срок концессии:

45 лет, считая со дня вступления в силу договора то есть с 14 декабря 1925 года.

Права и привиллегии концессионера, предоставляемые ему концессией:

а) Льготный вывоз продуктов предприятий общества

б) Льготный ввоз оборудования для предприятия и продовольствия для работа-

5 марта 1926 года. (Подпись Принца-Регента).

С подлинным верно:

Премьер-министр — Вакацуки Рейдзиро.
Министр иностранных дел — Барон Шидехара Кизюро.
Министр юстиции — Эги Иоку.
Министр торговли и промышленности — Катаока Чиокуон.

Высочайший указ Его Императорского Величества Императора Японии № 8.

Право № 37 о японских концессионных обществах, установленное на основании Моего Указа от 1925 года вступает в силу с 10 марта 1926 года.

ВЫСОЧАЙШИЙ УКАЗ ЕГО ИМПЕРАТОРСКОГО ВЕЛИЧЕСТВА ИМПЕРАТОРА ЯПОНИИ № 9.

Сим разрешаю организацию акционерных обществ Японской Империи, которые имеют своей целью эксплоатацию нефтепромышленных и каменноугольных предприятий на Северном Сахалине, организующихся на основании концессионных договоров, заключенных согласно протокола „Б“ конвенции об основных принципах взаимоотношений между Союзом Советских Социалистических Республик и Японской Империей, о чем и приказываю опубликовать.

Подписано: Император Японии.
(Подпись Принца-Регента)

С подлинным верно:

Премьер-министр — Вакацуки Рейдзиро.
Министр торговли и промышленност — Катаока Чиокуон.

Высочайший указ Его Императорского Величества Императора Японии №9.

Статья 1.

На акционерные общества Японской Империи, которые имеют своей целью эксплоатацию нефтепромышленных и каменноугольных предприятий на Северном Сахалине на основании концессионных договоров, заключенных согласно протокола „Б“ основного договора Японии и СССР, распроотраняются постановления надлежащего права и коммерческого права, за исключением тех пунктов, кнторые будут упомянуты особо в настоящем Указе.

Статья 2.

Инициаторы общества перед первым внесением капитала должны представить заявление в Министерство торговли и промышленности о разрешении им организовать

общество, приложив к нему устав общества и программу предприятий общества.

К заявлению о разрешении должны быть приложены копии заявлений желающих приобрести акции общества.

Статья 3.

Акции общества устанавливаются именными. Их держателями могут быть только японские граждане и установленные на основании японских законов юридические лица, в которых преобладающее число решающих голосов принадлежит японским гражданам или юридическим лицам.

Статья 4.

О изменении устава общества, о вынесенных резолюциях, об об'единении или ликвидации и о передаче ценного имущества общества должно быть получено разрешение Министерства торговли и промышленности. Размер ценного имущества определяется Министром Торговли и промышленности.

Статья 5.

Общества, составляя проэкт предприятия в каждом отчетном году со сметой доходов и расходов должны получить утверждение такового Министерством Торговли и расходов должны получить утверждение такового Министерством Торговли и промышленности.

В случаях когда общество пожелает изменить проэкт предприятия, оно должно также получить на это разрешение Министерства торговли и промышленности.

Заявление о разрешении первой части настоящей статьи должно быть сделано за 3 месяца до начала отчетного года, а в первом отчетном году в течение двух месяцев после начала организации общества.

Статья 6.

Министерство торговли и промышленности, когда найдет это необходимым, может сделать указания о пробных работах, указав место и глубину, а также может приказать об изменении проэкта предприятия.

Статья 7.

Добываемая акционерным обществом нефть может быть куплена Правительством по праву преимущества, ориентировочно по ценам существующим на рынке в момент покупки ее.

Статья 8.

Торговые сделки на выработанные О вом нефтепродукты устанавливаются свободно, по усмотрению сторон.

Статья 9.

В случаях когда Японское Правительство передает свое имущество на Северном Сахалине, плата за это имущество должна быть погашена путем распределения ее по годам в течение времени не более 10 лет, начиная с года следующего за тем годом

III. Концессионные предприятия.

ЯПОНСКИЕ КОНЦЕССИИ В СССР.

Экономические отношения между Японией и дореволюционной Россией, главным образом, базировались на торговле обоих стран друг с другом, теперь же в этих отношениях играют огромную роль концессионные предприятия японских промышленников в СССР. Благодаря предоставлению японским промышленникам права разработки естественных богатств ДВ им открылись широкие возможности к приложению своих капиталов, СССР же более или менее выгодные условия эксплоатации этих богатств.

За небольшой период времени нормальных дипломатических и экономических отношений между СССР и Японией, СССР были предоставлены японским промышленникам следующие концессии:

КОНЦЕСИИ ПРЕДОСТАВЛЕННЫЕ НА ОСНОВАНИИ ПЕКИНСКОГО ДОГОВОРА:

1. Концессия на разработку нефтяных промыслов в Северном Сахалине открытых ранее на восточном берегу острова в Оха, Эхаби, Пильтуне, Нутово, Чайо, Ныйво, Виглектуй и Катангли и на производство разведок на площади в 1.000 квадратных верст. Концессия была предоставлена акционерному обществу Кита Кабафуто Секию Кайша и договор вступил в силу с 14 декабря 1925 года.

2. Концессия на разработку каменноугольных копей на Северном Сахалине, Дуэ, Владимировский рудник и Мачи на западном берегу острова. Предоставлена акционерному обществу Кита Кабафуто Когио кайша. Договор вступил в силу 14 декабря 1925 г.

3. Концессия на разработку каменноугольных месторождений на Северном Сахалине на западном берегу реки Агнево. Предоставлена обществу Сакай Кумиай. Договор вступил в силу 14 декабря 1925 года.

КОНЦЕССИИ ПРЕДОСТАВЛЕННЫЕ ЧАСТНЫМ ЛИЦАМ:

1. Концессия на разработку каменного угля на Северном Сахалине в верховьях реки Костина на восточном берегу острова. Предоставлена обществу Цукахара Кумиай. Договор был заключен 23 февраля 1926 года.

2. Концессия на равработку и разведку золотых прийсков в Охотске (Лидинский прийск). Предоставлена концессионеру Танака Иотаро по договору заключенному 23 сентября 1925 года.

3. Концессия на эксплоатацию лесных участков Приморья (участки №№ 7, 10 и 12 на восточном побережье). Предоставлена акционерному обществу Рорио Рингио Кайша по договору заключенному 2 апреля 1927 года.

4. Концессия на разработку и разведку золотых прийсков в Охотске (прийски Владимирский, Правый и Левый). Предоставлена акционерному обществу Сиова Кинко Кабусики кайша по договору заключенному 12 июля 1927 года.

5. Концессия на производство работ по поднятию затонувшего во время Крымской войны близ Балаклава в 1854 году английского корабля „Блек Принц". Представлена Акционерному обществу Синкай Когио по договору заключенному 28 июня 1927 года.

ВЫСОЧАЙШИЙ УКАЗ ЕГО ИМПЕРАТОРСКОГО ВЕЛИЧЕСТВА ИМПЕРАТОРА ЯПОНИИ О ЯПОНСКИХ КОНЦЕССИЯХ НА СЕВЕРНОМ САХАЛИНЕ.

ВЫСОЧАЙШИЙ УКАЗ ЕГО ИМПЕРАТОРСКОГО ВЕЛИЧЕСТВА ИМПЕРАТОРА ЯПОНИИ.

Сим повелеваю установить право, касающееся частных обществ Империи, которые имеют своей целью эксплоатацию предприятий за границей на основании концессионных договоров, заключенных согласно договоров Японской Империи с иностранными государствами, принятых Японским Парламентом, и опубликовать таковое.

Подписано: Император Японии.

30 марта 1925 года. (Подпись Принца-Регента).

С подлинным верно:

Премьер-министр — Виконт Като Коомей.
Министр земледелия и торговли — Такахаси Корекио.
Министр иностранных дел — Барон Шидехара Кизюро.
Министр юстиции — Огава Хейкичи.

Право № 37.

Общества Японской Империи, имеющие своей целью эксплоатацию предприятий за границей на основании концессионных договоров заключенных с иностранными государствами, согласно договоров Японской Империи с этими государствами, по Указу Его Императорского Величества об особом установлении, могут основываться на этом праве.

Прибавление: Срок осуществления указанного выше права будет установлен Высочайшим Указом.

ВЫСОЧАЙШИЙ УКАЗ ЕГО ИМПЕРАТОРСКОГО ВЕЛИЧЕСТВА ИМПЕРАТОРА ЯПОНИИ № 8.

Сим разрешаю установление права, касающегося обществ Японской Империи, которые имеют своей целью эксплоатацию предприятий за границей, согласно заключенных концессионных договоров с иностранными государствами, на основании договоров Японской Империи с этими государствами.

Подписано: Император Японии.

Состав главных деятелей общества.

Председатель общества:	— Ивакура Мичитомо
Советники:	— Кабаяма Сукехиде
	— Мураками Риукичи
	— Итани Ичидзиро
Постоянные распорядители:	— Сасаки Хейдзироо
	— Уэки Кенкичи
	— Танакамару Юкоо

АКЦИОНЕРНОЕ РЫБОПРОМЫШЛЕННОЕ ОБЩЕСТВО „НИЧИРО ГИОГИО КАБУСИКИ КАЙША".

Главная контора: Токио, Коджимачи-ку, Эйраку-чо, Маруноучи Бильдинг.
Отделение: Хакодате, Масаго-чо.

Настоящее общество пользуется привиллегиямии, приобретенными по Портсмутскому договору Японией и считается одним из крупнейших рыбопромышленных обществ, владеющим целым рядом рыболовных участков по Восточному и Западному берегам Камчатки, Охотскому побережью и в Приморской области.

Совет управляющих общества состоит из следующих лиц:

Президент:	— Каваками Тосицуне
Директора управляющие:	— Канеко Кииота
	— Хирацука Цунедзиро
Управляющие:	— Накано Сейей
	— Такахаси Рен-ецу
Директор-распорядитель:	— Мацусита Такаси
	— Синдоо Синтаро
Постоянный член Ревизионной комиссии:	— Абе Хидетароо
Члены Ревизионной комиссии:	— Накадзима Ихей
	— Ф. С. Бус

Краткий очерк создания общества.

Общество „Ничиро Гиогио Кабусики Кайша" организовалось 23-го марта 1914 г. с основным капиталом в 2.000.000 иен. В июле 1917 года по постановлению Общего Собрания акционеров оно увеличило свой капитал на 1.000.000 иен и через три года в 1920 году, увеличив капитал до 10.000.000 иен обратилось в одно из крупнейших акционерных обществ Японии. В июне 1921 года, когда произошло об'единение трех больших обществ „Ничиро Гиогио кабусики кайша", „Юсюцу Сиокухин Кабусики кайша" (Акционерное общество экспорта продовольствия) и „Камчатка Гиогио кайша" (Камчатское рыбопромышленное общество), об'единенный капитал достиг 25.700.000 иен. В 1924 году общество „Ничиро Гиогио кайша" скупило акции общества „Хокуио Гиогио кайша" и оказалось обладателем лучших рыболовных участков на побережье советского Дальнего

Востока, став почти единственным хозяином всех рыбалок, сдаваемых советскими властями японским рыбопромышленникам.

За весь период существования общества дела его были несколько неудовлетворительны после русской революции, но после восстановления сношений с СССР, они снова быстро поправились и теперь мы являемся свидетелями расцвета общества. В виду того, что рыбопромышленность северных морей имеет грамадное экономическое значечие для Японии и японские правящие сферы при разрешении вопросов о продовольствии населения и государственных долгах уделяют большую сумму внимания ей, значение деятельности общества „Ничиро Гиогио кайша" увеличивается и дает ему прочную базу для дальнейшего развития своих предприятий. Оно поистине является одним из наиболее надежных обществ Японии, могущих строить светлые перспективы своего будущего.

Положение дел общества на 31 августа 1929 года.

Капитал общества:

Основной капитал общества	40.000.000 иен
Реализованный капитал	22.750.000 иен
Ежегодный оборот по реализации продуктов производства общества	46.000.000 иен.

Предприятия общества.

В истекшем 1930 году акционерное общество „Ничиро Гиогио кайша" арендовало и эксплоатировало 115 рыболовных участков и 19 краболовных в Охотском и Камчатском районах территории советского Дальнего Востока. В Охотском районе им эксплоатировалось 16 рыболовных участка, в Ичинском 14 участков, в Западной Камчатке 52 участков, в восточной Камчатке 15 участка, в Карагинском районе 5 участка, в Олюторско-Наваринском районе 13 участка, 9 краболовных участков в Западной Камчатке и 10 в Ичинском районе.

Результаты деятельности рыбопромышленного общества Ничиро Гиогио Кайша в рыболовном сезоне 1930 года.

Общая сумма заготовленных консервов в рыболовном сезоне 1930 года выражалась в 1.095.146 ящиков, из которых:

Консервов красной кеты	449.460 ящ.
Консервов кижуча	83.000 ящ.
Консервов кеты (чам)	10.989 ящ.
Консервов горбуши	490.197 ящ.
Крабовых консервов	61.500 ящ.

А общее же количество улова рыб в 1930 г. выражалось в 395.800 коку, из которых:

Красной кеты	102.400 коку
Кеты (чам)	112.400 „
Горбуши	158.000 „
Кижуча	16.700 „
Чавычи	5.300 „

общества распространяются все постановления применяемые к подобным предприятиям. Это постановление в начале применялось, главным образом, к японским подданным, занимающимся рыбным промыслом в водах корейской территории, а затем после заключения японо-русской рыболовной конвенции было распространено на японских рыбопромышленников, занимающихся рыбным промыслом в водах русской территории, в результате чего создался Союз Рорио Енкайшю Суйсан Кумиай, название которого в 1909 году было переименовано в Союз Рорио Суйсан Кумиай, сохранившееся до сего времени.

Создание Союза японских рыбопромышленников Рорио Суйсан Кумиай послужило значительным фактором в развитии японской рыбопромышленности в водах территории советского Дальнего Востока.

Цели и деятельность Союза.

Союз японских рыбопромышленников Рорио Суйсан Кумиай ставит своей целью установление мирных, дружеских отношений среди русских и японских рыбопромышленников, занимающихся промыслом в водах Приморского, Камчатского и Сахалинского районов, устранение всякого рода злоупотреблений с обоих сторон и введение новых усовершенствованных способов в рыбном промысле, укрепление солидарности между членами Союза и защиту интересов своих членов.

Основными задачами деятельности Союза японских рыбопромышленников Рорио Суйсан Кумиай являются следующие:

1. Поднятие нравственности среди членов и служащих Союза.
2. Защита и помощь членам и служащим Союза.
3. Посредничество при наличии недоразумения между членами Союза.
4. Исследование рыболовных участков и создание условий для сохранения и размножения обитателей животного и растительного царства моря.
5. Улучшение способов заготовки рыбы и ее продуктов, а также изыскание рынков для сбыта этих продуктов.
6. Посредничество по сношениям с официальной властью обоих стран.
7. Оказание содействия и удобств промышленникам обоих стран.
8. Выполнение разного рода формальностей и др.

Состав Союза.

Членами Союза японских рыбопромышленников Рорио Суйсан Кумиай состоят японские подданные, занимающиеся рыбной ловлей и добычей морских животных и растений и сбытом их.

Члены Союза японских рыбопромышленников Рорио Суйсан Кумиай в настоящее время работают в разных пунктах побережья Дальнего Востока, занимаясь как рыбным промыслом, так и обработкой рыбы и других продуктов моря.

В необходимых случаях собирается Общее Собрание членов Союза. Общее же Собрание избирает 25 представителей Союза, которые составляют Совет Союза. Из состава Совета избирается правление Союза, в которое входит: председатель Союза, его заместитель и 4 чрезвычайных члена правления.

Председатель Союза является представителем Союза и руководит всей деятельностью его.

Советники контролируют деятельность Союза и устраивают совещания по различным вопросам представляемым их обсуждению председателем Союза.

Совет Союза, так же как председатель, его заместитель, распорядители и советники избираются на срок 3 года.

В виду того что в истекшем 1929 году председатель Союза Рорио Суйсан Кумиай г. Цуцуми Сейроку в связи с вопросом об участках заторгованных г. Уда ушел с поста, место его оставалось вакантным а в настоящее время председателем союза является г. Кабаяма Сукехиде.

Отделения Союза.

Отделения Союза имеются в следующих местах Японии:

Токийское отделенне—г. Токио, Маруноучи, Маруноучи Бильдинг № 403.
Хоккайдовское отделение—г. Хакодате, Бентен-чо.
Ниигатское отделение—г. Ниигата, Камиоокава-мае-дори № 10.
Тоямское отделение—губерния Тояма г. Синминато-мачи.

Число членов в этих отделениях представляется в следующем виде:

В Токийском отделении—37 человек.
В Хоккайдовском отделении—53 человек.
В Ниигатском отделении—27 человек.
В Тоямском отделении—17 человек.

„ХОКУИОО КИОКАЙ“ ОБЩЕСТВО СОДЕЙСТВИЯ РАЗВИТИЮ РЫБОПРОМЫШЛЕННОСТИ ЯПОНИИ В ВОДАХ СЕВЕРНЫХ МОРЕЙ.

Главная контора: Токио, Маруноучи, Маруноучи бильдинг.

Общество учреждено 15 апреля 1930 года, по инициативе как заинтересованных лиц, имеющих связи с рыбопромышленностью Японии в водах Северных морей, так и заинтересованных деятелей политического мира, в целях содействия развитию рыбопромышленности, укреплению интересов и защите рыбных промыслов Японии в водах Северных морей.

Цели и деятельность Общества.

Основными задачами деятельности общества являются следующие:

1. Выработка соответствующих мероприятий, могущих способствовать развитию рыбопромышленности в водах Северных морей.
2. Ознакомление населения всей Японии с действительным положением рыбопромышленности.
3. Выпуск разного рода литературы на интересующие темы для ознакомления с рыбопромышленностью и устройство соответствующих собраний.

Лица, изъявившие желание поступить в члены общества, должны представить письменное заявление и получить разрешение Комитета распорядителей.

1923	229 „	84 „	17.074 „
1924	215 „	66 „	15.816 „
1925	228 „	64 „	20.379 „
1926	243 „	55 „	18.919 „
1927	232 „	64 „	20.553 „
1928	221 „	47 „	20.000 „
1929	253 „	45 „	25.000 „

Далее мы приведем таблицу ежегодного улова рыбопродукции в водах русского Дальнего Востока-кеты, горбуши и сельди,—за истекший период лет в 22 году с 1908 года по 1929 год включительно.

Год	Количество улова	Год	Количество улова	Год	Количество улова
1908 —	89.517 коку	1916 —	480.199 коку	1924 —	644.237 коку
1909 —	162.446 „	1917 —	443.940 „	1925 —	250.325 „
1910 —	240.812 „	1918 —	412.419 „	1926 —	632.296 „
1911 —	406.597 „	1919 —	460.388 „	1927 —	296.622 „
1912 —	225.166 „	1920 —	549.307 „	1928 —	750.976 „
1913 —	366.382 „	1921 —	579.535 „	1929 —	375.512 „
1914 —	459.447 „	1922 —	680.883 „		
1915 —	409.624 „	1923 —	385.416 „		

Из приведенной в таблице валовой продукции часть перевезена в Японию в соленом виде, часть в мороженном (на судах рефрежираторах) и часть в виде рыбных консервов. Заготовка рыбных консервов в последние годы значительно увеличивается.

Заготовка рыбных консервов японскими рыбопромышленниками по годам, начиная с 1910 года по 1929 год включительно представляется в следующем виде:

1908 —	———	1916 — 222.390 ящиков	1924 — 906.636 ящиков
1909 —	———	1917 — 271.769 „	1925 — 739.132 „
1910 —	700 ящиков	1918 — 382.481 „	1926 —1.244.725 „
1911 —	3.300 „	1919 — 661.738 „	1927 —1.220.969 „
1912 —	23.100 „	1920 — 534.490 „	1928 —1.250.338 „
1913 —	75.074 „	1921 — 703.391 „	1929 — 798.104 „
1914 —	75.000 „	1922 — 709.554 „	
1915 —	119.700 „	1923 — 672.760 „	

Эти консервы являются не только одним из важнейших продовольственных товаров внутри Японии, но одним из главных экспортных товаров ее на заграничных рынках.

ПОЛОЖЕНИЕ ЯПОНСКОЙ РЫБОПРОМЫШЛЕННОСТИ В ВОДАХ ДВ СССР В 1930 ГОДУ.

В 1930 году на всех рыболовных участках, как на советских, так и на японских был весьма хороший лов рыбы. В ином положении находились краболовные промысла, где лов крабов был не совсем удовлетворительным.

Количество улова рыбы в 1929 и 1930 году по отдельным породам рыбы распределяется следующим образом:

	1929 год.	1930 год.
Кета	231.280 коку	228.756 коку
Чавыча	2.063 „	2.500 „
Красная кета	99.689 „	92.376 „
Горбуша	38.787 „	246.008 „
Семга	1.381 „	1.980 „
Сельдь	2.313 „	1.580 „
Итого	375.513 „	573.200 „

Количество заготовленных консервов в 1929 г. по отдельным видам их представлялось в следующем виде:

Красной кеты в фунтовых банках	263.342 ящиков
Тоже в полуфунтовых банках	371.014 „
Кеты в фунтовых банках	49.739 „
Тоже в полуфунтовых банках	25.922 „
Горбуши в фунтовых банках	78.201 „
Тоже в полуфунтовых банках	9.886 „
Итого	798.104 ящиков

ЯПОНСКИЕ АРЕНДАТОРЫ, КРОМЕ ОБ-ВА НИЧИРО ГИОГИО, В ТЕКУЩЕМ ГОДУ ЯВЛЯЮТСЯ СЛЕДУЮЩИМИ.

Г. Исимару, Ханабуса, К. Хасимото, Хасегава, Об-ва Нисино Суйсан, Хатакеяма Гоомей Хаясикане, Нисиде Шоодзи, Мацуда Щокай, Тоохоо Суйсан, Кокусай Коосен, Мизухаси Шоодзи, Хамада, С. Хасимото, Хосака, Мотокава, Оокуси, Огума, Кадзи, Иоситаке, Се. Танака, Такахаси, Огиу, Тасиро, Катори, Ногучи, Яманоучи, Сасаки, Такано, Катагири, Косуги, Саватари, Сиоми, Ясима, Си. Танака, Сайто, Миякава, Ямасита, Фудзики, Сузуки.

ЯПОНСКИЕ РЫБОПРОМЫШЛЕННЫЕ ОБЩЕСТВА, ИМЕЮЩИЕ СВЯЗИ С СССР.

СОЮЗ ЯПОНСКИХ РЫБОПРОМЫШЛЕННИКОВ „РОРИО СУЙСАН КУМИАЙ“.

Союз японских рыбопромышленников Рорио Суйсан Кумиай (Союз по ловле, добыче и обработке продуктов моря в пределах России) был учрежден в декабре 1908 года, на основании постановления Японского Правительства о рыболовном промысле в водах иностранной территории. Последнее было установлено и опубликовано в 1902 году, с целью надзора за японскими подданными занимающимися рыбным промыслом в водах иностранной территории, об'единения предпринимателей в этой области и урегулирования дипломатичесмих вопросов, возникавших в связи с занятием японских рыбопромышленников промыслом в водах иностранной территории. Содержание этого постановления было весьма несложным. Так например, в статье первой его говорилось следующее: „Подданные Японской Империи, занимающиеся добычей, ловом, обработкой и продажей морских зверей, рыб и растений в водах иностранной территории по договору или разрешению могут учреждать рыбопромышленные общества на основании настоящего постановления“. В другом месте говорится, что на эти рыбопромышленные

ЧИСЛО РЫБОУЧАСТКОВ, АРЕНДНАЯ ПЛАТА ЗА УЧАСТКИ И НОРМЫ УЛОВА (или производства) РЫБОПРОДУКТОВ ПО РАЙОНАМ НАДЗОРА И ПО СРОКАМ АРЕНДЫ В ОТНОШЕНИИ УЧАСТКОВ, АРЕНДОВАННЫХ СОВЕТСКИМИ ПРЕДПРИЯТИЯМИ В 1930 ГОДУ В СОВЕТСКИХ ТЕРРИТОРИАЛЬНЫХ ВОДАХ.

(А) По лососевым и селедочным участкам.

		Примор-ский	Сахалин-ский	Охот-ский	Кишкин-ский	Ичин-ский	Западно-Камчат-ский	Восточно Камчат-ский	Карагин-ский	Олюторо Навалин-ский	Всего
С 1929 по 1931 г.	Число участ.	1	—	2	—	2	—	—	—	—	5
	Аренди. плата (в рублях)	12.800	—	12.000	—	29.300	—	—	—	—	54.100
	Нормы улова (в центнерах)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
С 1929 по 1933 г.	Число участ.	2	—	3	—	1	8	0	1	2	18
	Аренди. плата (в рублях)	17.300	—	21.400	—	8.800	157.480	—	5.200	24.400	234.580
	Нормы улова (в центнерах)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1930 год.	Число участ.	15	2	9	0	3	4	11	10	27	82
	Аренди. плата (в рублях)	134.851	14.703	89.109	—	18.007	92.438	121.778.76	98.863	279.674	849.423.76
	Нормы улова (в центнерах)	14.920	2.400	20.060	—	5.000	21.000	21.300	20.500	68.100	173.280
С 1930 по 1932 г.	Число участ.	17	1	1	—	3	6	8	4	18	58
	Аренди. плата (в рублях)	202.763	6.101	16.003	—	61.200	191.400	176.260	37.810	275.200	966.737
	Нормы улова (в центнерах)	20.200	1.200	2.000	—	8.500	31.200	20.800	7.900	53.340	145.140
С 1930 по 1934 г.	Число участ.	—	—	1	—	6	6	—	—	—	13
	Аренди. плата (в рублях)	—	—	16.003	—	194.201	248.000	—	—	—	458.204
	Нормы улова (в центнерах)	—	—	2.000	—	27.110	35.660	—	—	—	64.770
Итоги 1-х, 2-х ср. за искл.	Число участ.	36	3	16	—	15	24	19	15	47	175
	Аренди. плата (в рублях)	367.714	20.804	154.515	—	311.508	689.318	298.038.76	141.873	579.274	563.044.76
	Нормы улова (в центнерах)	35.120	3.600	24.060	—	40.610	87.860	42.100	28 400	121.440	2383.190
Рыбоучаст., которые желают эксплоат. совгоспр.	Число участ.	16	2	9	0	3	4	11	10	27	63
	Аренди. плата (в рублях)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	Нормы улова (в центнерах)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(В) По краболовным участкам.

		Приморский	Ичинский	Западно-Камчатск.	Восточно-Камчатск.	Олюторо-Навалинск.	Всего
С 1929 по 1931 г.	Число участ.	1	—	—	—	—	1
	Аренди. плата (в рублях)	7.350	—	—	—	—	7.350
	Нормы улова (в ящиках)	—	—	—	—	—	—

С 1929 по 1933 г.	Число участ.	—	—	—	—	—	—
	Аренди. плата (в рублях)	—	—	—	—	—	—
	Нормы улова (в ящиках)	—	—	—	—	—	—
1930 год.	Число участ.	4	1	1	2	0	8
	Аренди. плата (в рублях)	42.847	18.000	21.100	70.200	—	152.147
	Нормы улова (в ящиках)	11.000	3.000	4.000	10.000	—	28.000
С 1930 по 1932 г.	Число участ.	4	2	3	—	4	13
	Аренди. плата (в рублях)	50.302	144.000	126.000	—	105.400	425.702
	Нормы улова (в ящиках)	10.500	12.500	13.000	—	15.000	51.000
С 1930 по 1934 г.	Число участ.	—	1	—	—	—	1
	Аренди. плата (в рублях)	—	87.400	—	—	—	87.400
	Нормы улова (в ящиках)	—	10.000	—	—	—	10.000
Итоги	Число участ.	9	4	4	2	4	23
	Аренди. плата (в рублях)	100.499	249.400	147.100	70.200	105.400	672.599
	Нормы улова (в ящиках)	21.500	25.500	17.000	10.000	20.000	94.000
Рыбоучаст., которые желают эксплоатир. совгоспредприят.	Число участ.	1	3	7	1	—	12
	Аренди. плата (в рублях)	—	—	—	—	—	—
	Нормы улова (в ящиках)	—	—	—	—	—	—

Данные о действительно эксплоатировавшихся японскими рыбопромышленниками рыболовных участках за период в 22 года, вместе с данными о числе японских рыбопромышленников арендаторов и числе обслуживающего арендовывавшиеся рыбалки персонала представляются в следующем виде:

Годы	Число эксплоатировавшихся участков	Число арендаторов рыболовных участков	Обслуживающий персонал
1908	117 участков	54 человек	3.570 человек
1909	178 „	87 „	3.714 „
1910	152 „	85 „	4.938 „
1911	214 „	104 „	7.616 „
1912	213 „	93 „	9.751 „
1913	231 „	98 „	10.676 „
1914	226 „	90 „	10.031 „
1915	230 „	85 „	10.717 „
1916	201 „	75 „	9.929 „
1917	213 „	69 „	10.458 „
1918	224 „	68 „	10.906 „
1919	246 „	77 „	13.600 „
1920	246 „	80 „	13.268 „
1921	224 „	75 „	12.556 „
1922	264 „	91 „	16.852 „

1908 г. — 119 участков	1916 г. — 203 участков	1924 г. — 242 участков
1909 г. — 183 „	1917 г. — 218 „	1925 г. — 257 „
1910 г. — 157 „	1918 г. — 245 „	1926 г. — 257 „
1911 г. — 224 „	1919 г. — 247 „	1927 г. — 255 „
1912 г. — 214 „	1920 г. — 315 „	1928 г. — 239 „
1913 г. — 215 „	1921 г. — 228 „	1929 г. — 274 „
1914 г. — 210 „	1922 г. — 272 „	1930 г. — 293 „
1915 г. — 214 „	1923 г. — 268 „	

Вышеприведенная таблица дает представление о рыболовных участках на территории русского Дальнего Востока, арендованных на имя японских рыбопромышленников в течение истекшего периода лет. Обычно же в течение приведенного периода лет не все участки арендованные японскими рыбопромышленниками эксплоатировались и часть из них оставались недействующими.

Так например, число рыболовных участков занимавшихся японскими рыбопромышленниками в 1908 году выражалось в 119 участков, действительно же эксплоатировалось 117 участков, в 1909 году из 183 участков, приобретенных в аренду японскими рыбопромышленниками эксплоатировалось всего лишь 178 участков.

ЧИСЛО РЫБОУЧАСТКОВ, АРЕНДНАЯ ПЛАТА ЗА УЧАСТКИ И НОРМЫ УЛОВА (или производства) РЫБОПРОДУКТОВ ПО РАЙОНАМ НАДЗОРА И ПО СРОКАМ АРЕНДЫ В ОТНОШЕНИИ УЧАСТКОВ, АРЕНДОВАННЫХ ЯПОНСКИМИ ПРЕДПРИЯТИЯМИ В 1930 ГОДУ В СОВЕТСКИХ ТЕРРИТОРИАЛЬНЫХ ВОДАХ.

(А) По лососевым и селедочным участкам.

		Примор-ский	Сахалин-ский	Охот-ский	Кишкин-ский	Ичин-ский	Западн. Камчат-ский	Вост.-Камчат-ский	Карагин-ский	Олюторо-Навалин.	Всего
С 1929 по 1931 г.	Число участ.	—	—	1	—	—	—	—	1	—	2
	Аренд. плата (в рублях)	—	—	2.550	—	—	—	—	3.500	—	6.050
	Нормы улова (в центнерах)	—	—	1.200	—	—	—	—	2.000	—	3.200
С 1929 по 1933 г.	Число участ.	16	5	16	2	31	20	—	33	—	123
	Аренд. плата (в рублях)	80.146	12.764	58.730	4.010	145.737	215.567	—	127.645	—	644.599
	Нормы улова (в центнерах)	38.660	5.055	37.255.5	2.680	90.290	117.555	—	73.910	—	365.405.5
С 1929 по 1938 г. (по особому договору)	Число участ.	—	—	—	—	5	26	6	—	—	37
	Аренд. плата (в рублях)	—	—	—	—	103.300	1.844.580	1.035.335	—	—	2.983.215
	Нормы улова (в центнерах)	—	—	—	—	25.080	253.943	136.555	—	—	415.578
1930 год.	Число участ.	—	—	4	5	3	1	6	10	10	39
	Аренд. плата (в рублях)	—	—	11.100	9.416	14.030	62.500	26.050	36.280	58.355	217.731
	Нормы улова (в центнерах)	—	—	8.130	7.500	8.450	5.000	9.840	19.400	28.500	86.820
С 1930 по 1932 г.	Число участ.	3	—	3	4	2	5	3	16	6	42
	Аренд. плата (в рублях)	10.300	—	7.600	6.000	9.700	130.800	13.090	86.370	79.500	343.360
	Нормы улова (в центнерах)	4.955	—	4.000	6.400	4.100	32.000	5.040	34.800	20.700	111.995

С 1930 по 1934 г.	Число участ.	—	—	13	—	6	22	9	—	—	50
	Аренд. плата (в рублях)	—	—	121.280	—	85.300	883.900	372.000	—	—	1.462.480
	Нормы улова (в центнерах)	—	—	51.920	—	21.370	135.075	46.660	—	—	255.025
Итоги	Число участ.	19	5	37	11	47	74	24	60	16	293
	Аренд. плата (в рублях)	90.446	12.764	201.260	19.426	358.067	3.137.347	1.446.475	253.795	137.855	5.657.435
	Нормы улова (в центнерах)	43.615	5.055	102.505.5	16.580	149.290	543.573	198.095	130.110	49.200	1.238.023.5

(В) По краболовным участкам.

		Приморский	Ичинский	Западно-Камчатск.	Восточно-Камчатск.	Олюторо-Навалинск.	Всего
С 1929 по 1931 г.	Число участ.	—	—	—	—	—	—
	Аренд. плата (в рублях)	—	—	—	—	—	—
	Нормы улова (в ящиках)	—	—	—	—	—	—
С 1929 по 1933 г.	Число участ.	—	—	—	—	—	—
	Аренд. плата (в рублях)	—	—	—	—	—	—
	Нормы улова (в ящиках)	—	—	—	—	—	—
С 1929 по 1938 г. (по особому договору)	Число участ.	—	7	—	—	—	7
	Аренд. плата (в рублях)	—	189.780	—	—	—	189.780
	Нормы улова (в ящиках)	—	53.500	—	—	—	53.500
1930 год.	Число участ.	—	2	—	—	—	2
	Аренд. плата (в рублях)	—	21.240	—	—	—	21.240
	Нормы улова (в ящиках)	—	8.000	—	—	—	8.000
С 1930 по 1932 г.	Число участ.	—	4	1	—	—	5
	Аренд. плата (в рублях)	—	64.600	22.200	—	—	86.800
	Нормы улова (в ящиках)	—	16.000	5.000	—	—	21.000
С 1930 по 1934 г.	Число участ.	—	—	8	—	—	8
	Аренд. плата (в рублях)	—	—	252.600	—	—	252.600
	Нормы улова (в ящиках)	—	—	46.000	—	—	46.000
Итоги	Число участ.	—	13	9	—	—	22
	Аренд. плата (в рублях)	—	275.620	274.800	—	—	550.420
	Нормы улова (в ящиках)	—	77.500	51.000	—	—	128.500

бованиям в условиях сезонных работ.

§ 5-й. Японские рыбопромышленники принимают на себя за свой счет на все время работ расходы по содержанию упомянутых в § 2 договора лечучреждения, помещения с коммунальными услугами (отопление, освещение, водоснабжение, ассенизация), а также снабжают лечучреждения и медперсонал продуктами и материалами за плату по ценам и нормам для рабочих и служащих промыслов района.

§ 6-й. Штаты лечучреждений, согласно списка, прилагаемого к договору, нормы медицинского и материального имущества, достаточные для полного обслуживания больниц медучастка, устанавливаются Крайздравом по согласованию с Союзом Медсантруд.

§ 7-й. Назначения, перемещения и увольнения Заведывающих лечебными учреждениями производятся японскими рыбопромышленниками с ведома Крайздрава.

Примечание: На должность Заведывающего Лечебными пунктами назначаются лица, получившие государственный диплом, на звание врача.
На должность Заведывающего фельдшерскими пунктами назначаются лица в звании помощников врачей имеющих соответствующие официальные учебные документы.

§ 8-й. Заведывающие лечебными учреждениями обязаны каждый случай нетрудоспособности своевременно оформлять листком нетрудоспособности в установленной форме.

§ 9-й. Японские рыбопромышленники предоставляют бесплатно в каждом районе транспортные средства для доставки больных в лечучреждения и для переезда медперсонала по делам службы в районе.

§ 10-й. Медицинские учреждения японских рыбопромышленников обслуживают застрахованных рабочих и служащих, членов их семейств а также не застрахованное население в конвенционных водах бесплатно.

Примечание: Медицинская помощь Советским гражданам, находящимся по роду службы в районе рыболовных участков, арендуемых японскими рыбопромышленниками в конвенционных водах ДВК оказывается бесплатно.

§ 11-й. Японские рыбопромышленники освобождаются от внесения части страховых взносов в размере 3,6% от заработной платы на организацию медицинской помощи рабочих и служащих, занятых на рыбалках в конвенционных водах.

§ 12-й. Крайздрав ведет руководство и контроль над деятельностью всех лечучреждений, открываемых в конвенционных водах, а также контролирует правильность выдачи освобождений по временной нетрудоспособности производимых Зав. лечебными учреждениями.

Примечание: Право контроля над правильностью выдаваемых освобождений имеет и орган социального страхования, согласно существующих законоположений.

§ 13-й. Японские рыбопромышленники при отправке из Японии рабочей силы для своих предприятий производят предварительный медицинский осмотр каждого нанимаемого рабочего или служащего, и на основании результатов освидетельствования дают гарантию о неввозе больных на территорию конвенционных вод.

§ 14-й. В случае невозможности выполнения японскими рыбопромышленниками взятых на себя по сему договору обязательств вследствие ликвидации или остановки работ, в перечисленных в прилагаемом списке пунктах, последние обязаны предупредить Крайздрав о своем желании расторгнуть договор не позднее, чем за месяц.

§ 15-й. В случае невыполнения договора или отдельной его части со стороны японских рыбопромышленников Крайздрав имеет право организовать медицинскую помощь в той форме, как она предусмотрена заключенным договором (больница, фельдшерский пункт) за счет японских рыбопромышленников.

§ 16-й. Крайздрав сообщает Далькомсоцстраху с выдачей копии этого сообщения японским рыбопромышленникам на руки, что между ним и японскими рыбопромышленниками подписан настоящий договор по обслуживанию медпомощью в перечисленных районах.

§ 17-й. Настоящий договор заключается на сроки с 20-го июня 1930 г. по 31-е декабря 1930 г., после чего действие настоящего договора автоматически прекращается.

§ 18-й. Японские рыбопромышленники обязуются снабдить копиями настоящего договора руководителей промыслов для руководства при практическом проведении его на промыслах.

§ 19-й. Подлинник настоящего договора хранится в Крайздраве, а копия, засвидетельствованная нотариальным порядком, передается Уполномоченному Представителю Японских Рыбопромышленников.

Заведывающий краевым Отделом здравоохранения **Ячин** (Ячин)

Уполномоченный представитель Японских рыбопромышленников **Ю. Танакамару.** (Юко Танакамару)

{Сокращается сеть устройст. медицинских пунктов японских рыбопромышленников в конвенционных водах двк за 1930 рыбный сезон.}

ПОЛОЖЕНИЕ ЯПОНСКОЙ РЫБОПРОМЫШЛЕННОСТИ В ВОДАХ СОВЕТСКОГО ДАЛЬНЕГО ВОСТОКА.

Занятие рыбным промыслом японских рыбопромышленников в водах русского Дальнего Востока официально началось в 1907 году, когда была заключена японо-русская рыболовная конвенция между Японским Правительством и Российским Императорским Правительством.

В первый выход на рыбный промысел официально, согласно заключенной рыболовной конвенции и договоров с русскими надлежащими ведомствами об аренде рыболовных участков, в 1908 году японские рыбопромышленники заняли 119 участков и выловили в течение рыболовного сезона этого года 87.965 коку рыбопродукции, из которых 46.938 коку составляла кета.

Число приобретавшихся в аренду японскими рыбопромышленниками рыболовных (лососевых) участков в течение периода лет в 23 года, начиная с 1908 года по 1930 год включительно представляется в следующем виде:

Потом число судов, занимающихся краболовством в открытых водах Северных морей не только увеличилось до 18, но и пополнилось 4 судами СССР, до тех пор не мечтавшего о краболовстве. Поэтому имея в виду, что выступление другой иностранной державы с краболовством в водах Северных морей, конечно, повлечет за собой дальнейшее увеличение числа судов, занимающихся краболовством и в результате возникновения конкуренции, улучшения техники краболовства и увеличения размеров улова, все вместе взятое поведет к уничтожению крабов в водах Северных морей, Министерство Земледелия и Лесного Хозяйства Японского Правительства в целях охраны крабов, решило заново пересмотреть существовавшие до тех пор правила и по возможности новыми правилами оградить крабов от их полного уничтожения.

Пересмотренные указанным Министерством пункты в данных правилах представляются в нижеследующем виде:

Директива Министерства Земледелия и Лесного Хозяйства
Японского Правительства № 28.

Часть правил о надзоре за краболовством на плавучих заводах изменяется в нижеследующем виде:

26 ноября 1929 года. Министр Земледелия и Лесного Хозяйства
Мачида Чиудзи.

„Предыдущая статья“ в 4-й статье 1-го пункта переименовывается в „третью статью“.

В отделе втором статьи 15 новых правил вводится новый пункт, гласящий что без получения особого разрешения Министра Земледелия и Лесного Хозяйства воспрещается эксплоатация труда, связанного с краболовством на судах-заводах, включая также и иностранные суда.

Желающие получить разрешение Министра Земледелия и Лесного Хозяйства, должны представить на его имя соответствующее заявление с помещением в заявлении нижеследующих сведений:

1. Имя, фамилия, адрес, время рождения (возраст).
2. Род труда и срок эксплоатации.
3. Название краболовного судна и пределы эксплоатации.

Отдел 3 ст. 15 предусматривает, что при разрешении Министра Земледелия и Лесного Хозяйства, последним выдается соответствующее свидетельство, на срок не менее одного года.

Отдел 2 ст. 19 новых правил обуславливает, что лицо, нарушающее постановление в пункте 1 отд. 2 ст. 15 или лицо, получившее разрешение, установленное отделом 2 ст. 15, нарушает условия разрешения или ограничения, — подвергается наказанию-заключению в тюрьму на срок не менее трех месяцев, или-же взысканию штрафа в сумме не менее 100 иен.

Из формы № 3. „Предназначенное максимальное количество производства консервов“ изменяется в „предназначенное максимальное количество производства консервов и число занимающихся краболовством“

Приложенное постановление:

Настоящие правила входят в силу со дня опубликования.

ЯПОНО-СОВЕТСКИЙ ДОГОВОР О ВСПОМОЩЕСТВОВАНИИ РАБОЧИМ ЗАНЯТЫМ НА ПРОМЫСЛАХ ЯПОНСКИХ РЫБОПРОМЫШЛЕННИКОВ В ВОДАХ Д. В.

20-го Июня 1930 года г. Хабаровск.

Мы, нижеподписавшиеся Дальне-Восточный Краевой Отдел Здравоохранения, в лице Заведывающего Отделом ЯЧИНА Александра Васильевича, именуемый в дальнейшем „КРАЙЗДРАВ“ с одной стороны и с другой стороны Уполномоченный Представитель японских рыбопромышленников, работающих в Водах Советского Дальнего Востока: Садо Дензи, Хасимото Шотаро, Хирацука, Мацуда Такаси, Фудзино Тацудзиро, Нисиде Магодзаймон, Яманоучи Дайдзиро, Хасегава Тозабуро, Сакамото Сакухей, Катори Киудзиро, Ногучи Казусабуро, Хамада Шохей, Катагири Торакичи, Иосимото Тоиозиро, Такахаси Кироку, Хасимото Кумасаку, Такано Кензо, Сайто Садагоро, Тасиро Санкичи, Исимару Иосисуке, Миякава Котаро, Оокуси Чиодзиро, Ханафуса Намидиро, Хосака Кейзо, Ясима Сиотаро, Сузуки Сахей, Комацу Такегоро, Фузики Зирохей, Сиокай Шо, Кадзи Ейзиро, Танака Сентаро, Танака Сигеичи, Хонкава Тосабуро, Косуги Шози, Хатакеяма Гомей Кайша, Огума Козиро, Огиу Соотаро, Сасаки Хейзиро, в лице Юко Танакамару действующего на основании доверенности указанных лиц, засвидетельствованной в Консульстве СССР в Хакодате, именуемой в дальнейшем „японские рыбопромышленники“, заключили настоящий договор в нижеследующем:

§ 1-й. Японские рыбопромышленники принимают на себя в сезон 1930 г. полное обслуживание медицинской помощью рабочих и служащих с их семьями, занятых на морских, рыболовных и краболовных участках, арендуемых японскими рыбопромышленниками и их консервных заводах в конвенционных водах ДВК.

§ 2-й. Для обеспечения медпомощью рабочих и служащих промыслов и предприятий японские рыбопромышленники, на упомянутых в § 1 участках, организуют стационарные и амбулаторные лечебные учреждения, из следующего рассчета:

а) на предприятиях с числом рабочих и служащих от 80-200 человек: фельдшерский приемный покой с одной-двумя койками;

б) на предприятиях с числом рабочих и служащих от 200 до 400 чел.: врачебные приемные покои с 2-5 койками;

в) на предприятиях с числом рабочих и служащих свыше 400 чел.: б-цы с 5 и выше койками.

Примечание: Подробная сеть открываемых медпунктов устанавливается по согласованию с Крайздравом, Далькомсоцстрахом и Крайправлением Союза пищевиков.

§ 3-й. Японские рыбопромышленники обязуются каждый отдельный промысел или предприятие с числом рабочих не менее 20 чел. снабдить аптечками первой помощи.

§ 4-й. Японские рыбопромышленники обязуются предоставить под стационарные и амбулаторные леч. учреждения помещения в полной пригодности и исправности со всем хозяйственным оборудованием и инвентарем, удовлетворяющие медико-санитарным тре-

общество составленное по об'единению станут продолжать дело умершего предпринимателя или общества ликвидировавшего свои дела по об'единению во втором случае, выпущенное разрешение считается полученным ими, но для этого требуется представить заявление на имя Министра Земледелия и Лесоустройства о наследнике или об об'единенном обществе в течение 30 дней со дня смерти предпринимателя в первом случае или ликвидации дел общества по об'единению во втором случае.

После получения разрешения в случаях уромянутых в примечании ст. 13 право на эксплоатацию судна считается полученным наследником или обществом по об'единению.

14. В следующих случаях действие разрешения на занятие промыслом лососевых в открытых водах морей на судах заводах считается утерянным:

1. В случае уничтожения разрешения на занятие промыслом.
2. В случае уничтожения судна, ликвидации завода, гибели судна при аварии и потери национальности.
3. В случаях передачи судна-завода, сдачи его в аренду, возращения судна-завода судовладельцу и потери права эксплоатации судна.

15. В случаях упомянутых в ст. 9, 10 и прим. ст. 13, Министр Земледелия и Лесоустройства, переписав разрешение и свидетельство, вслед затем выдает их подавшему заявление.

16. Если предприниматель после получения разрешения на занятие промыслом лососевых в открытых водах морей на судах-заводах в течение года или двух лет и больше не приступит к промыслу, Министр Земледелия и Лесоустройства органичивает его права на занятие промыслом или совсем уничтожает это право.

17. Министр Земледелия и Лесоустройства, если признает необходимым для охраны морских растений и зверей или для общественного блага, может ограничить или уничтожить выданное им право на занятие промыслом.

18. Если предприниматель, занимающийся ловлей лососевых в открытых водах морей на судах-заводах нарушит настоящие правила или обязательные постановления и распоряжения изданные на основании этих правил, он по распоряжению Министра Земледелия и Лесоустройства может быть ограничен или совершенно лишен прав занятия промыслом или прав эксплоатации судна-завода.

19. В случаях смерти предпринимателя или ликвидации дел по об'единению или в случаях уничтожения права занятия промыслом необходимо немедленно возвращать выданные разрешения.

Примечание: Если почему либо невозможно возвратить разрешение, должно быть подано заявление с указанием причины этого.

В случае упомянутом в примечании ст. 13 наследник, ликвидатор или общество продолжающее дело ликвидированного общества после об'единения должны соблюсти все формальности по возможности.

В случаях уничтожения права употребления судна-завода или в случаях уничтожения права занятия промыслом, выданные разрешения должны возвращаться немедленно, при чем выполнение первых двух пунктов настоящей статьи обязательно.

20. Если Министр земледелия и лесоустройства найдет это необходимым для общественного блага, он может приказать об увольнении управляющего промыслами на судне-заводе или капитана.

21. Нарушающие ст. 2 и ст. 6 настоящих правил приговариваются к лишению свободы меньше чем на три месяца или к денежному штрафу в размере не более чем 100 иен, при чем добыча и рыболовное оборудование конфискуется. В случае, если все оборудование или добыча или их часть не могут быть конфискованными стоимость всего оборудования или добычи или их части взимается дополнительно.

22. Предприниматели занимающиеся ловлей лососевых в открытых водах морей на судах заводах подвергаются наказанию в виде лишения свободы меньше чем на три месяца или штрафу в размере меньше чем 100 иен в следующих перечисленных ниже случаях:

1. В случае нарушений пунктов выданного разрешения на занятие промыслом или свидетельства на употребление судна-завода или распоряжений об ограничении.
2. В случае нарушений настоящих правил ст. ст. 16, 17 и 18 об ограничении или уничтожении прав занятия промыслом и употребления судна-завода.

Заместитель управляющего промыслами или предпринимателя занимающегося ловом лососевых в открытых водах морей на судне-заводе, капитан судна или капитан судов, принадлежащих судну-заводу или помощник капитана подвергаются наказанию указанному в верхнем пункте настоящей статьи в следующих случаях:

1. В случае игнорирования пунктов выданного разрешения на занятие промыслом и свидетельства об употреблении судна-завода или распоряжений об ограничении.
2. Нарушение ст. 16, 17 и 18 настоящих правил.
3. В случаях когда перечисленные лица с умышленной целью будут стремиться скрыть или затереть номер разрешения, который должен быть написан на видном месте согласно ст. 8.

23. В случаях нарушения предпринимателями, занимающимися промыслом лососевых в открытых водах на судах заводах части первой пункта 12 виновные подвергаются штрафу не свыше 100 иен.

24. Нарушающие пункты 8, 10, 11, 2 часть п. 12, часть первую п. 13 и 19 подвергаются штрафу.

НОВЫЕ ПРАВИЛА МИНИСТЕРСТВА ЗЕМЛЕДЕЛИЯ И ЛЕСНОГО ХОЗЯЙСТВА О КРАБОЛОВСТВЕ В ВОДАХ СЕВЕРНЫХ МОРЕЙ.

Японское Правительство в 1923 году, в целях нормального развития краболовства в водах Северных морей, а также в целях охраны крабов, издало соответствующие правила о краболовстве в водах Северных морей.

	Пострадавшему на работе	Пострадавшему по своей вине
На похороны	по 60 иен	по 30 иен
Единовременное пособие	свыше 500 иен	свыше 100 иен

Статья 8. Пострадавший или семья пострадавшего должны заявить претензии на получение пособия в течение срока в 1 год, после события, представив в Союз следующие документы:

1. Для тех кто подходит под действие ст. 6: Удостоверение нанявшего или его агента и медицинское свидетельство.
2. Для тех кто подходит под действие ст. 7: Удостоверение нанявшего или его агента и копию документов, относящихся к исключению его из семейной записи и доказательства о факте его исчезновения.

Прошения могут быть поданы в Союз нанявшим вместо нанявшегося или его семьи.

Статья 9. Пособия выдаются нанявшемуся или его оставшейся семье на основании вышеуказанного прошения, при чем под его семьей подразумеваются: дед, бабушка, отец, мать, жена, муж, сыновья, братья и сестры, которые находятся в той же семейной записи в момент смерти или исчезновения нанявшегося или муж или жена, которые в момент события, находятся на иждивении пострадавшего, хотя и не находятся в той же самой семейной записи.

ПРАВИЛА МИНИСТЕРСТВА ЗЕМЛЕДЕЛИЯ И ЛЕСОУСТРОЙСТВА О ПРОМЫСЛАХ ЛОСОСЕВЫХ В ОТКРЫТЫХ ВОДАХ МОРЕЙ НА СУДАХ ЗАВОДАХ.

В прошлом 1929 году Министерство Земледелия и лесоустройства снова разрешило лов кеты и горбуши в открытом море. В виду того что в связи с разрешением предполагается увеличение числа желающих заняться промыслом, Министерство решило установить для этого такой же порядок, который существует в отношении краболовного промысла, при чем 8 июня 1929 г. в Правительственном Вестнике оно опубликовало правила о промысле лососевых в открытых водах морей на судах-заводах, которые мы ниже помещаем полностью:

1. Согласно настоящих правил судном-заводом называется судно, которые имеет полное оборудование для приготовления рыбы и сохранения ее со всеми принадлежащими ему малыми судами для промысла лососевых в открытых водах морей.

2. Занятие промыслом лососевых в открытых водах морей на судах-заводах без разрешения Министра земледелия и лесоустройства не допускается.

3. Получившие разрешение на занятие промыслом лососевых в открытых водах морей на судах заводах должны подать об этом заявление на имя Министра земледелия и лесоустройства, согласно формы № 1 указанной в конце настоящих правил вместе с проэктом промыслов.

4. После разрешения Министра земледелия и лесоустройства промыслов им выдается свидетельство, согласно формы № 2, указанной в конце настоящих правил.

5. Срок выдаваемого свидетельства на занятие промыслом лососевых в открытых водах морей на судах-заводах определяется в 10 лет.

6. Предприниматели когда они желают употреблять для промыслов суда-заводы, представляют заявление по форме № 3, копию свидетельства о национальности судна и копию осмотра его и должны получить разрешение Министра земледелия и Лесоустройства.

7. Министр Земледелия и Лесоустройства, давая разрешение указанное в разделе первом ст. 6. выдает разрешение на эксплоатацию судна по форме № 4.

Примечание: В случае указанном в разделе 2 ст. 6, разрешение выдается после представления данных о национальности и осмотре судна, упомянутых в разделе втором ст. 6.

8. предприниматели, занимающиеся ловом лососевых в открытых водах морей обязуются хранить на судне полученное ими разрешение на эксплатацию судна-завода. На обоих сторонах судна-завода также как на обоих сторонах носа судов, принадлежащих судну-заводу на наиболее видном месте по форме № 5 они должны написать номер разрешения на эксплоатацию судна. Как не судне заводе, так и на принадлежащих ему судах на видном месте должен быть вывешен флаг, указанный в форме № 6, приведенной в конце настоящих правил. Все буи судна завода также должны быть с обозначением номера разрешения.

9. В случаях когда предпринимателю понадобиться исправить пункты в содержании полученного им промыслового свидетельства, они должны получить на это разрешение Министра земледелия и Лесоустройства.

10. Предприниматели занимающиеся ловом лососевых в открытых водах морей на судах заводах, которые пожелают изменить название судна, имя лица на которое выдано разрешение или его местожительство, они обязуются довести об этом до сведения Министра Земледелия и Лесоустройства в заявлении на его имя

Примечание: В случаях когда предприниматель изменит проэкт занятия промыслом, он обязан поступать также как указано выше.

11. В случаях утери или порчи промыслового свидетельства или разрешения на эксплоатацию судна предприниматель занимающийся промыслом лососевых в открытых водах морей на судах заводах должен получить новые разрешение и свидетельство.

12. Предприниматели занимающиеся ловлей лососевых в открытых водах морей на судах заводах для руководства промыслом обязаны посадить на судно одного управляющего промыслом в период занятия промыслом.

Примечание: В том случае когда сами рыбопромышленники садятся на судно для управления промыслом исполнение этого пункта не обязательно.

В тех случаях когда изменяется имя или местожительство выбранного управляющего промыслами, предприниматели занимающиеся ловлей лососевых в открытых водах морей на судах-заводах обязуются поступать как указано в прежних статьях, подав соответствующее заявление на имя Министра земледелия и лесоустройства.

Представление об управляющем подается вместе с его автобиографией.

13. В случае смерти предпринимателя или ликвидации дел общества, занимающегося ловлей лососевых в открытых водах морей, действие разрешения на занятие промыслом уничтожается.

Примечание: В том случае если наследник умершего предпринимателя, занимавшегося ловлей лососевых в открытых водах морей или общество после ликвидации своих дел вошедшее в другое общество или новое

банка, рыбопромышленность Японии в советских территориальных водах находится на краю невозможности дальнейшей эксплоатации промыслов, т.-е. японские заинтересованные рыбопромышленники, во главе которых стоит общество Ничиро Гиогио, встречают большие затруднения в получении кредитов, необходимых для эксплоатации рыбных промыслов, со стороны финансистов: фирмы Мицубиси, английской фирмы „Сейл“ и друг. японских банков, которые без разрешения данного вопроса не соглашаются на предоставление нужных кредитов.

Союз Рорио Суйсан Кумиай, еще с лета 1930 года занимался обсуждением соответствующих мер выхода из создавшегося положения, также как и заинтересованные ведомства, бывший посол Японии в СССР г. Танака и вновь назначенный посол в СССР г. Хирота не раз прилагали усилия к удовлетворительному разрешению данного вопроса, ведя частые переговоры с советской стороной.

На основании всего изложенного, Минидел барон Шидехара 8 ноября 1930 г. сделал неофициальное заявление, г. Кимура представителю концерна Мицубиси, г. Сануи-представителю Чосен банка и г. Симизу-представителю Такушоку гинко которое в общих чертах сводится к нижеследующему:

„1. Японское правительство издавна вело переговоры с Совправительством о понижении арендной платы за рыбоучастки.

2. Японское правительство намерено стремиться всеми силами к тому, чтобы наша рыбопромышленность в советских территориальных водах не очутилась в состоянии невозможности эксплоатации промыслов“.

И г. Хирота, новый посол Японии в СССР предполагает приложить все свои усилия к разрешению данного спорного вопроса по вступлении на свой пост.

ПРАВИЛА ВСПОМОЩЕСТВОВАНИЯ РАБОЧИМ ЗАНЯТЫМ НА ПРОМЫСЛАХ ЯПОНСКИХ РЫБОПРОМЫШЛЕННИКОВ В ВОДАХ ТЕРРИТОРИИ СОВЕТСКОГО ДАЛЬНЕГО ВОСТОКА.

Союз японских рыбопромышленников Рорио Суйсан Кумиай на Общем Собрании 24 июня 1929 г. утвердил проэкт правил вспомоществования трудящимся нанимаемым на промысла японских рыбопромышленников в водах территории советского Дальнего Востока—членов Союза Рорио Суйсан Кумиай и представил его на утверждение Министерства Земледелия и Лесоустройства. Последнее не задержало проэкт длительным рассмотрением и он был утвержден 3 июля 1929 года. Ниже мы помещаем правила эти полностью:

Правила вспомоществования рабочим занятым на промыслах японских рыбопромышленников в водах территории Советского Дальнего Востока.

Статья 1. Настоящие правила применяются к тем членам Союза Рорио Суйсан Кумиай и нанимаемым ими лицам, которые занимаются какой-либо работой на промыслах в водах территории СССР.

Статья 2. Трудящиеся нанятые членами Союза Рорио Суйсан Крмиай на рыбные промысла в воды территории СССР, в случае временной потери трудоспособности, увечья или смерти, по причине несчастного случая в течение законтрактованного периода, пользуются правом вспомоществования на основании настоящих правил.

Статья 3. Члены Союза Рорио Суйсан Кумиай, нанимающие на свои промысла трудящихся, должны вносить в Союз по 2 иены за одно нанимаемое лицо до отправки его из Японии. Эти деньги должны быть внесены вместе с представлением именного списка нанимаемых, удостоверенного местной полицией. Когда происходит перемена состава нанимаемых, упомянутые члены Союза Рорио Суйсан Кумиай должны получить удостоверения от полиции и заявить об этом в Союз.

Статья 4. Члены Союза Рорио Суйсан Кумиай, нанимающие на свои промысла трудящихся, обязаны выдавать пособия в случаях потери трудящимся временной трудоспособности, увечья, болезни или карантина для предохранения от заразных болезней в продолжении всего того времени пока вследствие выше указанных причин трудящийся будет оторван от работы.

При чем если это время продолжится больше двух недель, допускается выдача выходного пособия, сумма которого определяется Союзом на основании осмотра врача. Размер вспомоществования может быть уменьшен до двух третей заработной платы со дня прекращения работы.

На получившего увечье или умершего на работе после получения выходного пособия постановления ст. ст. 6 и 7 распространяются.

Статья 5. Вышеупомянутое пособие не может быть выдано в нижеследующих случаях:

1. Когда нанимаемый утерял способность к труду вследствие чрезвычайного пьянства или поведения вызванного пьянством.
2. Когда он умышленно вредит своему здоровью с целью получения пособия.
3. Когда он проводит предоставленный ему отпуск не для целей лечения или сознательно противодействует выздоровлению.

Статья 6. Когда нанимаемый стал инвалидом по причине увечья или болезни на работе на рыбных промыслах, Союз должен выдать ему единовременное пособие по следующей таблице:

1. Потерявшим на всю жизнь способность самостоятельного передвижения и способность к труду . . . . . свыше 500 иен
2. Окончательно потерявшим способность к труду . . свыше 375 иен
3. Тем кто вследствие несчастья случившегося на работе не может заниматься прежней профессией или здоровье которого не может вернуться в прежнее состояние, а также женщинам, лица которых обезображены на работе. . свыше 250 иен
4. Тем, кто получив непоправимое увечье все же может заниматься прежней профессией, но с пониженной способностью . . . свыше 35 иен
5. Тем кто искалечил или потерял часть своего тела, но не может быть причислен ни к одной из вышеперечисленных категорий потерявших трудоспособность . . . . . свыше 10 иен

Статья 7. Когда нанявшийся умер от ран или болезни или исчез бесследно в течение срока более чем 6 месяцев, Союз Рорио Суйсан Кумиай должен выдать пособие на похороны или единовременное пособие семье пострадавшего, по следующей таблице:

были заторгованы г. Уда и 4 участка купленных обществом у частных японских рыбопромышленников.

Таким образом число рыболовных участков, которые будут в промысловом сезоне текущего года в эксплоатации общества Ничиро Гиогио, представится в следующем виде:

Ранее арендованные участки	6	участков
Участки принадлежащие заводам	38	„
Заторгованные на первых торгах текущего года	42	„
Заторгованные на вторичных торгах	45	„
ИТОГО	131	участок

Участки, которые в прошлом году были заторгованы г. Уда распределились следующим образом:

Число участков, от претензий на которые Общество Ничиро Гиогио отказалось	7	уч.
Заторгованные на первых торгах Обществом Ничиро Гиогио	13	„
Заторгованные японскими или советскими частными рыбопромышленниками	12	„
Заторгованные обществом Ничиро Гиогио на вторичных торгах	41	„
Оставшиеся не заторгованными обществом Ничиро Гиогио на вторичных торгах	5	„
Итого	78	участков

Таким образом в промысловом сезоне текущего года в конвенционных водах СССР японским и советским предприятиям будет предоставлено 588 участков, из них японским —319 участков и советским—267 участков. Сравнительная таблица распределения участков между японскими и советскими предприятиями за последние три года представляется в следующем виде:

Распределение участков, предоставленных японским предприятиям.

	1930 г.	1929 г.	1928 г.
Рыболовные	297	274	239
Краболовные	22	99	18
Итого	319	303	257

Распределение участков, представленных советским предприятиям.

	1930 г.	1929 г.	1928 г.
У госпредприятий:			
Рыболовные	63	63	21
Краболовные	9	9	2
У частников:			
Рыболовные	152	83	19
Краболовные	23	7	—
Итого	267	162	42

Процентное соотношение распределения участков за последние 3 года представляется в следующем виде:

Годы	Япония	С. С. С. Р.
1930	54%	46%
1929	65%	35%
1928	86%	14%

СПОРНЫЕ ВОПРОСЫ ПОСЛЕ ТОРГОВ.

В результате торгов на рыбоучастки в советских территориальных водах в 1930 году, кроме еще не разрешенного важного вопроса вокруг рыбоучастков, эксплоатируемых госпредприятиями, вновь возникли вопросы, разрешение которых признается весьма необходимым, т.-е.:

1. Вопрос о предоставлении рыбоучастков, взамен 18 участков, приобретенных госпредприятиями в 1929 году, а также и тех, эксплоатировать которые вновь желают последние.
2. Вопрос о несообразном выступлении советских частных рыбопромышленников на торгах в 1930 году.
3. Вопрос о понижении минимальной арендной платы за рыбоучастки.

В отношении первого вопроса, в связи с категорическим отказом советской стороны в удовлетворении требования японской стороны, последняя намеривалась разрешить данный вопрос путем приобретения вместо них другие участки, но на торгах 1930 года, из этого числа пять участков опять перешли в руки советских частных рыбопромышленников.

Поэтому заинтересованные японские рыбопромышленники через Министерство Иностранных Дел предприняли переговоры с Советским Правительством для разрешения данного вопроса, при условии отказа советской стороны от эксплоатации 6 участков, эксплоатированных Японией из числа 18 спорных, передачи в руки японских рыбопромышленников 5 участков, заторгованных советской стороной в текущем году по арендной плате, назначаемой Японией и предоставления японской стороне без торгов остальные 7 участков, но переговоры не привели к желаемым результатам и этот вопрос все еще остается неразрешенным.

В отношении второго вопроса, Министерство Иностранных Дел, предприняло переговоры с СССР, основываясь на мнении Союза Рорио Суйсан Кумиай, заключающемся в том, что выступление частных предприятий СССР на рыболовных промыслах в водах Северных морей, является нарушением статей рыболовной конвенции, заключенной между Японией и СССР и в эксплоатации рыбоучастков им должно быть отказано. Но советская сторона под разными предлогами продолжала и продолжает отказывать в удовлетворении требования японской стороны.

Что-же касается третьего вопроса, то т.-к. советская сторона принимала норму арендной платы, установленную за рыбоучастки, заторгованные г. Уда, переговоры между обоими сторонами не привели к желательным результатам, что теперь является одним из вопросов, могущих затормозить дальнейшее развитие японо-советских рыбопромышленных отношений.

ЗАПРЕШЕНИЕ СОВВЛАСТЯМИ СВОБОДНОЙ ТОРГОВЛИ СОВВАЛЮТОЙ И ВОПРОС О ЯПОНСКОЙ РЫБОПРОМЫШЛЕННОСТИ В ВОДАХ СОВЕТСКОГО ДАЛЬНЕГО ВОСТОКА.

В связи с возникновением вопроса о запрещении совластями свободной торговли советской валютой, о чем поставлено в известность и Владивостокское отделение Чосен

и Союз Рорио Суйсан Кумиай, после того как был избран специальный Комитет для исполнения резолюции, обратился в Министерство иностранных дел и Министерство Земледелия и лесного хозяйства с просьбой о представлении протеста против состоявшихся торгов перед СССР. Однако, на этот раз Правительство отнеслось весьма сдержанно и не одобрило резолюции Союза Рорио Суйсан Кумиай, находя что торги проведены на вполне законных основаниях, установленных рыболовной конвенцией. Тем не менее японские рыбопромышленники не бросили своего решения и намеривались занять еще более твердую и решительную позипию.

Положение резко изменилось после того когда вечером 4 марта Министерство иностранных дел Японского Правительства получило уведомление о том что Дальневосточное Управление рыболовства и охоты на морскго зверя, основываясь на статьях рыболовной конвенции, касающихся рыболовных участков, решило 8 сего марта произвести вторичные торги на те рыбопромышленные и крабопромышленные участки, которые не были заторгованы на торгах 25 сего февраля, т. е. 73 рыболовных и 10 краболовных.

В то же самое время заместитель председателя Союза г, Сасаки Хейдзиро, находившийся во Владивостоке, прислал в Главную Контору Союза телеграмму, в которой настаивал на том чтобы Союз принял участие во вторичных торгах. А так как Министерство иностранных дел Японского Правительства советывало с своей стороны японским рыбопромышленникам принять участие на торгах на незаторгованные участки, обешая при этом свое содействие, Японские рыбопромышленники приняли решение принять участие на вторичных торгах на незаторгованные участки безусловно отказавшись от своей прежней резолюции о непризнании торгов.

2. Переговоры до открытия вторичных торгов.

После решения Союза японских рыбопромышленников Рорио Суйсан Кумиай принять участие во вторичных торгах, барон Гоо от имени рыбопромышленников обратился к Правительству с просьбой начать переговоры с СССР о перенесении даты вторичных торгов с 8 на 12 марта, а также по ряду следующих вопросов:

1. Понижение минимальной оценки на участки.
2. Выступление советских частных рыбопромышленников на торгах.
3. Возвращение участков заторгованных советским кооперативным союзом Всекопромрыбсоюз (тех из них, аренда коих противоречит статьям рыболовной конвенции).
4. Прибавление в качестве об'екта вторичных торгов 25 рыболовных и 1 краболовного участка, из тех которые не были об'ектом торгов на первых торгах.

Согласно сообщений полученных Министерством иностранных дел от 10 марта, советская сторона ответила что она примет во внимание заявления японской стороны по первому вопросу. Чтоже касается второго вопроса о выступлении советских частников то последнее является необычным явлением для СССР и касается только последнего. В третьем вопросе советская сторона не находит противоречий в аренде рыболовных участков. Всекопромрыбсоюзом с рыболовной конвенцией.

На четвертый вопрос она воздержалась от ответа.

ИТОГИ ВТОРИЧНЫХ ТОРГОВ НА НЕЗАТОРГОВАННЫЕ УЧАСТКИ В КОНВЕНЦИОННЫХ ВОДАХ СССР.

Результаты торгов на незаторгованные рыболовные и краболовные участки, проведенных 12 сего марта во Владивостоке представились в следующем виде:

	Заторгованные японцами	СССР
Рыболовные	53	16
Краболовные	9	1
ИТОГО	62	17

Распределение участков, заторгованных японцами, между отдельными предпринимателями представляется в следующем виде:

Общество Ничиро Гиогио Кайша	41 участков
Кокусай Кеосен	2 „
Иоситаке	7 „
Танака	1 „
Ногучи	1 „
Огиу	1 „

Распределение же краболовных участков заторгованных японцами, между отдельными предпринимателями представляется в следующем виде:

Общество Ничиро Гиогио Кайша	8 участков
Мацуда	1 участок

Распределение участков заторгованных СССР между отдельными предприятиями может быть показано в следующей таблице:

Рыболовные:	
Люри	3 участка
Всепром	1 „
Рыбопродукт	3 „
Примсельд	2 „
Всекорыбасоюз	7 „
Краболовные:	
Всекорыбасоюз	1 участок

Число участков заторгованных японским рыбопромышленным обществом Ничиро Гиогио на вторичных торгах представляется в следующем виде:

Название района	Заторгованные участки	Число участков на которые имело претензии общество
Рыболовные:		
Охотский	7	7
Западное побережье Камчатки	23	30
Восточное побережье Камчатки	7	8
Краболовные:		
	8	8
ИТОГО	45 участков	53 участков

Из числа 45 участков 41 участок принадлежит к участкам, которые в прошлом году

Детали результатов торгов представлялись в следующем виде:

Число поданных пакетов	—	526
Число заторгованных участков:		
Рыболовных		214
Краболовных		28
Всего		242
Распределение участков между обоими странами:		
Япония:		
Рыболовных		79
Краболовных		7
Всего		86
СССР:		
Рыболовных		135
Краболовных		21
Всего		156

Распределение участков, между японскими и советскими предприятиями по отдельным районам представляется в следующем виде:

Рыболовные:

Местонахождение участков	У Японцев Число участков	Цена	У СССР Число участков	Цена
Приморье	3	10.000	29	298.407
Сахалин	—	—	3	20.804
Охотск	11	64.000	11	121.115
Гижигинский р.	5	7.300	—	—
Ичинский р.	7	71.930	8	241.001
Западная Камчатка	9	524.200	14	431.038
Восточная Камчатка	12	333.070	19	298.038
Карагинский р.	22	86.200	13	124.172
Олюторский р.	10	102.900	38	473.257
Итого	79	1.199.900	135	2.007.832

Краболовные:

Местонахождение участков	У Японцев Число участков	Цена	У СССР Число участков	Цена
Приморье	1	4.800	6	79.604
Ичинский район	5	79.800	5	258.400
Западная Камчатка	1	22.200	4	147.100
Восточная Камчатка	—	—	2	70.200
Олюторский район	—	—	4	105.400
Итого	7	106.800	21	660.704
	У Японцев		У СССР	
Общий итог	86	1.306.700	156	2.668.536
Итого	242	3.975.236 руб.		

Резолюция о непризнании торгов.

Недовольные результатами торгов японские заинтересованные рыбопромышленники в 2 часа утра 26-го сего февраля в помещении японского Генерального Консульства во Владивостоке устроили экстренное совещание, на котором и была вынесена резолюция о непризнании проведенных 25 февраля торгов. Эта резолюция в форме заявления была послана Министерству иностранных дел Японского Правительства, Японскому Послу в СССР г. Танака Токичи, Советскому Правительству, Начальнику Дальрыбы г. Головскому и другим заинтересованным лицам. Представители Союза Рорио Суйсан Кумиай г. г. Танакамару, Хасигучи, Хирацука, Суда и др. возвратились в Японию, не ожидая ответа советской стороны.

Мотивы, которые были выставлены к резолюции о непризнании торгов, в общих чертах представлялись в следующем виде:

Несмотря на то что задолго до торгов заместитель Комиссара по иностранным делам г. Карахан сделал заявление что частные советские рыбопромышленники не примут участия на торгах, результаты последних обнаружили замечательную подготовленность советских частных рыбопромышленников к торгам вследствие чего часть участков, ранее эксплоатировавшихся японскими рыбопромышленниками, оказалась в их руках. Этот факт является посягательством на интересы японских рыбопромышленников, подтвержденные соглашением между г. г. Караханом и Гото перед заключением конвенции.

С другой стороны установление минимальной оценки на участки на торгах текущего года на основании цен предлагавшихся в прошлом году, явно противоречит основным ст. ст. рыболовной конвенции.

Сама же резолюция была составлена в следующим духе: Мы настаиваем на признании недействительными торгов на рыболовные участки, проведенных 25 февраля 1930 года.

Мотивами для настоящей резолюции являются следующие:

1. Несмотря на то что советские частные рыбопромышленники не имеют достаточной материальной базы для того чтобы выступить на торгах, опираясь на власть и финансовую мощь государства, они смело выступают на торгах и предлагают ненормальные цены за участки. Этот факт противоречит ст. ст. рыболовной конвенции и декларации СССР во время заключения этой конвенции.

2. Оценка участков на проведенных торгах самовольно была ненормально повышена, что дает основания думать о том, что несмотря на то что это противоречит духу конвенции, аренде участков японскими рыбопромышленниками сознательно ставились препятствия.

ПОЛОЖЕНИЕ ПЕРЕД ВТОРИЧНЫМИ ТОРГАМИ

1. Позиция Японского Правительства и снятие резолюции о непризнании торгов.

С прибытием представителей Рорио Суйсан Кумиай г. Танакамару и др. в Токио, Союз созвал совещание Совета Союза, на котором, в числе прочих, присутствовали г. г. Сакамото, Мотокава, Иде и Кобаяма. Совет одобрил резолюцию о непризнании торгов

о переговорах с СССР относительно разрешения вопроса об участках сданных в аренду г. Уда.

14 Премьер-министр Танака совещался с г. Трояновским Полпредом СССР в Японии по поводу участков сданных в аренду г. Уда.

18 Состоялось негласное совещание премьера-министра Танака, министра земледелия и лесоустройства г. Ямамото, министра железных дорог г. Огава и министра почт и телеграфов г. Кухара, в результате которого была послана телеграфная инструкция заместителю японского посла в СССР г. Сакоо о его содействии разрешению вопроса о рыболовных участках сданных г. Уда.

21 Союз Рорио Суйсан Кумиай опубликовал декларацию об осуществлении выхода на промысла на спорные участки автономными мерами.

23 Руководители Союза Рорио Суйсан Кумиай обратились к министру иностранных дел и министру земледелия и лесоустройства с просьбой о санкционировании выхода на промысла на спорные участки автономным мерами.

27 Была получена официальная телеграмма сообщавшая что Комиссариат по иностранным делам СССР заявил о том, что в том случае, если г. Уда отказался от права на полученные им участки, он согласен с предложением Японского Правительства начать переговоры относительно разрешения вопроса и примет соответствующие меры к сдаче в аренду этих участков.

28 Состоялось возвращение 4 участков эксплоатировавшихся ранее японскими рыбопромышленниками: Сибата Сейсаку, Ямамото Фусазоо и обществом Ничиро Гиогио.

29 Группа Сима и общество Ничиро Гиогио подписали соглашение и обменялись заверениями о полном примирении между ними в письменной форме.

Июнь 1929 г.
1 Получено сообщение о том, что СССР отказался от предложения г. Уда о расторжении контракта.

Японский Посол в СССР г. Танака выехал из Японии в Москву.

4 Обнаружились грязные хлопоты г. г. Накаяма и Нисикава из группы Сима вокруг участков от права на эксплоатацию которых отказался г. Уда.

6 Получена была телеграмма сообщавшая, что г. Карахан заместитель Комиссариата по иностранным делам СССР через г. Сакоо-заместителя японского посла в Москве отказал в требовании японской стороны о возвращении 18 рыболовных участков, на которые заявлены претензии со стороны госпредприятий СССР.

13 Г. Трояновский, Полномочный Представитель СССР в Японии посетил г. Иосида, заместителя Министра иностранных дел в связи с рыбопромышленным вопросом.

14 Вопрос о рыболовных участках полученных г. Уда был передан на разрешение его на непосредственные переговоры между Дальневосточным Управлением Рыболовства и Охоты на морского зверя и обществом Ничиро Гиогио в Хабаровске.

18 Между Дальрыбохотой и Ничиро состоялось соглашение о 78 рыболовных участках сданных ранее в аренду г. Уда с установлением арендной платы за них в размере 1.350.000 рублей.

Июль 1929 г.
3 Министерством земледелия и лесоустройства утверждены правила Союза Рорио Суйсан Кумиай о вспомоществовании рабочим, занятым на промыслах японских рыбопромышленников в водах территории советского Дальнего Востока.

12 Установление арендной платы за участки принадлежащие консервным заводам.

20 Мелкие японские рыбопромышленники представили заявление Полномочному Представителю Союза ССР г. Трояновскому с просьбой о его содействии в получении ими участков, арендованных на торгах 28 февраля советскими частными рыбопромышленниками. Одновременно ими было подано аналогичное заявление заинтересованным ведомствам Японии и прессе СССР и Японии о защите их прав на приобретение указанных участков.

31 Министерство иностранных дел Японского Правительства послало Советскому Правительству протест в письменной форме о нарушении последним условий японо-советской рыболовной конвенции в вопросе о 18 рыболовных участках, на которые заявлены претензии со стороны госпредприятий СССР.

ВОКРУГ ТОРГОВ НА РЫБОЛОВНЫЕ УЧАСТКИ В КОНВЕНЦИОННЫХ ВОДАХ СССР В 1930 ГОДУ.

После того как Дальневосточное Управление рыболовством и охотой на морского зверя в конце 1929 года послало официальное уведомление о том что торги на рыболовные и краболовные участки в конвенционных водах СССР в текущем году состоятся 25 февраля во Владивостоке, Союз японских рыбопромышленников Рорио Суйсан Кумиай после необходимых приготовлений к предстоящим торгам, в средних числах февраля, 15-го и 22, через порт Цуругу, отправил своих представителей, в состав которых входили следующие лица: Сасаки Хейдзиро, Хирацука Цунедзиро, Синдоо Синтаро, Хасигучи Цукума, Танакамару Юкоо, Суда Коотаро, Ногучи Ичисабуро и др. всего 15 человек.

Результаты первых торгов.

25 февраля в 10 часов утра в Управлении Дальрыбы во Владивостоке был открыт прием закрытых пакетов на об'явленные об'екты торгов на рыболовные и краболовные участки в текущем году.

Вскрытие пакетов началось в тот же день и закончилось к 10 часам вечера. Результаты торгов обнаружили небывалое поражение японцев на торгах. Из оказавшихся заторгованными 242 участков СССР было заторговано 156 участков, а японцами всего лишь 86 участков.

ную инструкцию Генеральному консулу Японии во Владивостоке г. Ватанабе о том чтобы последний начал переговоры с СССР об отсрочке официального опубликования результатов торгов.

8 Г. Уда посетив Министерство земледелия и лесоустройства заявил о своем намерении заняться рыбным промыслом на полученных им участках.

9 СССР опубликовал утверждение результатов торгов и акции общества Ничиро Гиогио сразу сильно упали в цене. Союз Рорио Суйсан Кумиай и общество Ничиро Гиогио представили заявление в Министерство земледелия и лесоустройства и в Министерство иностранных дел Японского Правительства, в котором указывали на незаконность получения г. Уда рыболовных участков на торгах.

10 Решено было что 12 участков полученных русскими рыбопромышленниками на торгах 5 апреля возвращаются японским рыбопромышленникам.

11 Г. Ямамото-министр земледелия и лесоустройства вызвав г. Сима предложил ему передумать его решение, но г. Сима твердо отстаивал свое мнение.

12 Во Владивостоке состоялись повторные торги на 20 рыболовных участков не полученных никем на торгах 5 апреля, из которых 17 получены были японскими рыбопромышленниками и 2 участка советскими рыбопромышленниками. Союз Рорио Суйсан Кумаай представил прошение Министру земледелия и лесоустройства г. Ямамото о его содействии в разрешении вопроса о рыболовных участках на территории советского Дальнего Востока.

15 Акции общества Ничиро Гиогио упали в цене на 15 иен. Состоялось Собрание граждан г. Хакодате, которое делегировало 67 своих представителей в Токио для хлопот о рыбопромышленных участках.

18 Г. Такахаси Коои обратил внимание премьера-министра Танака на рыбопромышленный вопрос. Сообщали также что г. Сугияма Сигемару вчера также сделал предупреждение премьеру-министру Танака об этом же самом вопросе.

20 Министр земледелия и лесоустройства г. Ямамото начал хлопоты о примирении между спорящими сторонами, при чем он решил передать их влиятельным лицам в стране. Стали называться в качестве посредников для примирения имена г. г. Сугияма и барона Гоо.

В этот же день состоялось Общее Собрание членов Совета Союза Рорио Суйсан Кумиай.

21 Состоялось Общее Собрание членов Союза Рорио Суйсан Кумиай. Группа Сима заявила об организации нового общества с капиталом в 20.000.000 иен.

21 На заседании Общего Собрания членов Союза японских рыбопромышленников Рорио Суйсан Кумиай была принята резолюция о поражении в правах членов Союза г. г. Накасе и Фудзии и выработаны резолюция

о выходе на промысла в воды советской территории и декларация Союза по этому поводу, для исполнения чего был избран Исполком.

Г. Сугияма взялся за хлопоты по разрешению спора между рыбопромышленниками и пригласив г. Цуцуми обменялся с ним мнениями.

В тот же день г. Цуцуми отказался от поста председателя Союза Рорио Суйсан Кумиай.

23 Г. Миура Риодзи, директор-управляющий общества Ничиро Гиогио в связи со спором из-за рыбопромышленных участков ушел с поста взяв на себя ответственность. Г. Цуцуми поручил ведение всех переговоров г. Сугияма и г. Нисикава отправился в Осака для совещания с г. Сима по поводу примирения с группой Ничиро Гиогио.

24 Г. Сугияма предложил Министру земледелиа и лесоустройства г. Ямамото проэкт реорганизации общества Ничиро Гиогио.

Г.г. Мори Каку и Фудзита Кен-ичи посетили г. Сугияма и обменялись мнениями.

27 Президиум общества Ничиро Гиогио вышел в отставку в полном составе и был заменен новым.

Прошел слух о том, что общество Ничиро Гиогио берет курс на партию Сейюкай.

30 В Союзе Рорио Суйсан Кумиай от начальника рыбопромышленного департамента Министерства земледелия и лесоустройства получено сообщение о выходе на рыболовной промысел советского общества АКО.

Май 1929 г. Общество Ничиро Гиогио созвало чрезвычайное собрание его директоров для обсуждения условий примирения о группой Сима.

3 Вследствие совещания директоров общества Ничиро Гиогио, вопрос о примирении изменил свое направление в противоположную сторону.

Г. Такахаси Коои вышел из состава членов Ревизионной комиссии общества Ничиро Гиогио.

8 Г. Сима прибыл в Токио.

Контора г. Накаяма в Империаль-отеле была ликвидирована.

9 Министр земледелия и лесоустройства г. Ямамото советывал снова г. Сима примириться с обществом Ничиро Гиогио.

Г. Сима посетил г. г. Сугияма и Гоо и передал последнему его личный проэкт о примирении.

10 Было созвано совещание директоров общества Ничиро Гиогио, которое отвергло проэкт примирения предложенный бароном Гоо.

Г.г. Сугияма и Гоо передали окончательный проэкт группам Ничиро и Сима.

11 В 7 часов 30 минут вечера состоялось наконец соглашение между обоими спорящими сторонами.

13 Вопрос о рыболовных участках полученных на торгах обратился из внутреннего вопроса в вопрос, который должен быть разрешен путем переговоров с СССР.

Состоялось совещание Министерства земледелия и лесоустройства

обратились в Министерство земледелия и лесоустройства с прошением по ряду вопросов связанных с рыболовным промыслом на советской территории.

30 Г. г. Хирацука Цунедзиро и Накасе Сутетаро, представители Союза Рорио Суйсан Кумиай отправились в Хабаровск для переговоров о ряде вопросов связанных с японской рыбопромышленностью в водах территории СССР.

Декабрь 1928 г. 26 Дальневосточное Управление Рыболовством и Охотой на морского зверя официально сообщило Японскому Генеральному Консулу во Владивостоке о проведении торгов на рыболовные участки 28 февраля 1929 года и список рыболовных участков.

Январь 1929 г. 8 С этого дня заинтересованные японские рыбопромышленники собираясь в главной конторе Союза Рорио Суйсан Кумиай приступили к к обсуждению соответствуюших мероприятий для сохранения за собой участков находящихся в их руках.

11 Руководители Союза Рорио Суйсан Кумиай посетили заместителя Министра земледелия и лесоустройства г. Абе и заместителя министра иностранных дел г. Мори с просьбой о конретном разрешении вопроса о рыболовных участках, отмечая нарушения советской стороной рыбопромышленного договора.

12 В полдень руководители Союза Рорио Суйсан Кумиай посетили министра земледелия и лесоустройства г. Ямамото и обратились к нему с просьбой о содействии.

17 В заинтересованных кругах японских рыбопромышленников было получено сообщение о раз'яснении г. Головского, управляющего Дальрыбохотой относительно неопубликованных и закрытых рыболовных участках, вызвавшее здесь большое возбуждение.

19 Получено сообщение о том, что в результате ряда совещаний в Полпредстве СССР в Японии по поводу разрешения вопроса было решено смягчить конфликт путем опубликования новых рыболовных участков для японских рыбопромышленников.

25 Чрезвычайное Общее Собрание членов Союза Рорио Суйсан Кумиай.

28 Союз Рорио Суйсан Кумиай определил свою позицию по отношению к СССР и избрал состав Исполкома в 10 человек.

29 Исполком Союза Рорио Суйсан Кумиай представил Министерству иностранных дел и Министерству земледелия резолюцию принятую на заседании Общего Собрания членов Союза о защите государственных прав Японии.

Февраль 1928 г. 5 Союз Рорио Суйсан Кумиай во второй раз обратился к заинтересованным ведомствам с просьбой о содействии в сохранении рыболовных участков ранее эксплоатировавшихся японскими рыбопромышленниками и приобретении новых рыболовных участков.

7 Г. Фузии Иносуке, член Союза Рорио Суйсан Кумиай, был вызван в контору фирмы Накаяма в Империаль-отеле в Токио и принял участие

в интриге группы Сима Токузо.

15 Получена официальная телеграмма японского генерального консула в Хабаровске г. Ямагучи, сообщавшая о прибавке советской стороной 46 лососевых и 6 краболовных участков.

18 Г. Кодзима Кандзи был вызван г. Накаяма и встретившись с группой Сима в Империаль-отеле остался там на некоторое время.

20 Советская сторона согласилась снова прибавить 15 лососевых и 5 краболовных участков.

21 Японский министр иностранных дел послал телеграфную инструкцию г. Сакоо, заместителю Посла Японии в СССР об открытии переговоров с советской стороной о продлении срока торгов.

На Чрезвычайном Общем Собрании членов Союза Рорио Суйсан Кумиай решено было что японские рыбопромышленники не примут участия на торгах на рыболовные участки до удовалетворительного разрешения вопроса об участках с СССР.

28 СССР, не взирая на японские требования, провел торги на рыболовные участки во Владивостоке без участия японских рыбопромышленников.

Март 19 г. На заседании бюджетной комиссии Верхней Палаты Японского парламента барон Сакамото внес запрос Правительству о рыболовном вопросе, на который ответил г. Мори, заместитель министра иностранных дел.

7 Г. Кодзима отправил письмо к г. Ояма в город Хаката (на островах Киусиу), в котором сообщил что проэкт интриги прекращен, вследствие недостатка средств.

15 Самостоятельное проведение торгов на рыболовные участки СССР Распечатание конвертов отложено на неопределенное время.

25 Состоялось Чрезвычайное Общее Собрание членов Союза Рорио Суйсан Кумиай, принявшее бурный характер, вследствие того что на повестке заседания был поставлен вопрос о сепартаных переговорах г. Накасе с СССР через Полпреда СССР в Японии о выходе на промысла. Г. Накасе отказался от поста члена Совета Союза Рорио Суйсан Кумиай.

27 Вследствие переговоров между Японским Министерством иностранных дел и Полномочным Представительством СССР в Японии о рыбопромышленном вопросе состоялся некоторый компромисс и Министерство иностранных дел Японского Правительства советывало Союзу Рорио Суйсан Кумиай принять участие в торгах.

30 Группа заинтересованных рыбопромышленников Японии состоящая из 30 человек с лишним отправилась из Цуруги во Владивосток с тем чтобы принять участие на торгах на рыболовные участки.

Апрель 1929 г. 5 Во Владивостоке были проведены торги на 365 рыболовных участков на территории советского Дальнего Востока. Получение г. Уда на этих торгах 78 рыболовных участков вызвало в Японии большую сенсацию и горячие споры.

7 Министр иностранных дел Японского Правительства отправил телеграф-

и 5 апреля. По этому поводу Советским Полномочным Представителем Союза ССР в Японии г. Трояновским японской стороне было обещано возвращение этих участков. Между тем, несмотря на то что Япония согласилась на уменьшение числа участков до 38 и не раз выражала протест по этому поводу, СССР не только не соглашается на возвращение участков, а абсолютно отказывается от обсуждения этого вопроса, ограничиваясь выделением лишь двух участков из общего числа за крупное вознаграждение. Сомнительные действия СССР в данном случае очевидны, вследствие чего Союз Рорио Суйсан Кумиай твердо решает выйти на промысла автономными мерами.

3. **Вопрос о занятии японскими рыбопромышленниками рыболовных участков, арендованных г. Уда.** В виду того, что г. Уда отказался от своего права аренды и Японское Правительство, принимая во внимание охрану рыбопромышленного права в водах советского Дальнего Востока вступило в переговоры с Советским Правительством о передаче права г. Уда другим японским рыбопромышленникам, Союз Рорио Суйсан Кумиай, принимая во внимание то обстоятельство, что переговоры по этому поводу еще не пришли к положительным результатам, несмотря на приближение рыболовного сезона, а также то что если такое положение продолжится и в будущем, Япония может окончательно утерять свое рыбопромышленное право в водах советского Дальнего Востока, чем будут нанесены громадные убытки стране, решил, независимо от происходящих переговоров, разрешить выход на промысла тем членам Союза Рорио Суйсан Кумиай которые наследуют право г. Уда на 78 рыболовных участков.

Условия выхода на промысла.

1. Арендная плата за рыболовные участки:

а) Плату за 18 рыболовных участков, право на занятие которых оспаривается советскими госпредприятиями, Союз Рорио Суйсан Кумиай решил увеличить на 15% по сравнению с платой прошлого года.

б) Арендная плата за 38 рыболовных участков, отобранных советскими частными рыбопромышленниками, будет установлена Союзом японских рыбопромышленников Рорио Суйсан Кумиай самостоятельно.

в) Что касается арендной платы за рыболовные участки арендованные господином Уда, то она будет установлена в размерах, указанных в пакетах членов Союза Рорио Суйсан Кумиай на торгах 5 апреля 1929 г.

2. Срок платежа за аренду рыболовных участков:

а) Залог и арендная плата за рыболовные участки за первое полугодие вместе с паушальной суммой должны быть внесены в Союз японских рыбопромышленников до выхода на промысла.

9) Арендная плата за рыболовные участки за второе полугодие вместе с паушальной суммой должны быть внесены в Союз японских рыбопромышленников Рорио Суйсан Кумиай до конца июня.

Суммы эти Союзом японских рыбопромышленников Рорио Суйсан Кумиай, а качестве специальной кассы, будет вложены в надежное место и переданы Союзу ССР по окончании переговоров с Советским Правительством и заключении соглашения.

3. Разрешение на выход на промысла:

а) Желающие выйти на промысла должны своевременно получить соответствующие

разрешения на выход на промысла от Союза японских рыбопромышленников Рорио Суйсан Кумиай.

б) Разрешения на выход на промысла будут выданы на основании Устава Союза японских рыбопромышленников Рорио Суйсан Кумиай.

Это заявление об автономном выходе на промысла оказало большое влияние на ход переговоров о спорных рыбопромышленных участках, происходивших между Японским и Советским Правительством. Японское Правительство понуждало Союз японских рыбопромышленников Рорио Суйсан Кумиай передумать его решение, а Союз Рорио Суйсан Кумиай наоборот настаивал на санкционировании своего решения со стороны Японского Правительства, несмотря даже на то что Министерство иностранных дел Японского Правительства на запрос советских местных властей о его мнении по поводу заявления Рорио Суйсан Кумиай ответило что оно относится к нему отрицательно, Союз японских рыбопромышленников Рорио Суйсан Кумиай по прежнему упорно настаивал на своем решении и даже выдал некоторым из своих членов разрешения на выход на промысла.

Последнее обстоятельство вызвало большую сенсацию в заинтересованных кругах СССР, и позиция как Советского Прявительства, так советской общественности с тех пор быстро изменилась и на время, как казалось, переговоры о рыболовных участках снова сделались как будто бы безнадежными.

Изменение в ходе переговоров наметилось после того когда Японское Правительство выступило с заявлением о том что оно категорически не разделяет мнения Союза японских рыбопромышленников Рорио Суйсан Кумиай о самостоятельном выходе на промысла на рыболовные участки на территории советского Дальнего Востока и что в том случае если Союз японских рыбопромышленников выступит самостоятельно на промысла и Советское Правительство примет против этого меры, какие обычно принимаются в отношении хищников и хищнической ловли, Японское Правительство не берет на себя никакой ответственности.

В виду того что 18 июня был разрешен в окончательном виде вопрос об участках заарендованных на торгах г. Уда, вопрос об автономном выходе на промысла потерял свою остроту и в дальнейшем не поднимался.

ХРОНОЛОГИЧЕСКИЙ УКАЗАТЕЛЬ СОБЫТИЙ СОПРОВОЖДАВШИХ РЫБОПРОМЫШЛЕННЫЕ КОНФЛИКТЫ МЕЖДУ СССР И ЯПОНИЕЙ В 1928-29 ГОДУ.

Ноябрь 1928 г.	Союз японских рыбопромышленников Рорио Суйсан Кумиай подал
9	прошение о предоставлении ему в аренду 304 новых рыболовных участков на территории советского Дальнего Востока в Дальневосточное Управление Рыболовством и Охотой на морского зверя.
24	Представители Союза Рорио Суйсан Кумиай г. г. Сасаки и Хирацука

Что же касается остальных участков, вопрос о них до сих пор остается неразрешенным. В последнее время мелкие японские рыбопромышленники, для которых собственно и отводились вышеназванные участки, сданные на торгах 28 февраля советским частным рыбопромышленникам, обратились к Полномочному Представителю Союза ССР в Японии г. Трояновскому с просьбой об оказании его содействия в получении ими этих участков в будущем году без торгов и при условии заключения долгосрочного контракта и одновременно с этим ко всем заинтересованным ведомствам Японии и прессе СССР и Японии о защите их права на приобретение вышеназванных участков.

Вопрос о переговорах относительно рыболовных участков, полученных г. Уда, начатых после состоявшегося соглашения между группами Сима и Ничиро.

11 сего мая между группами Сима и Ничиро состоялось соглашение относительно рыболовных участков, полученных на торгах г. Уда, в результате которого группа Сима уступила обществу Ничиро Гиогио все полученные г. Уда на торгах участки. Но так как для осуществления соглашения необходимо было согласие Советского Правительства на снижение арендной платы за рыболовные участки, Японское Правительство начало переговоры с Советским Правительством, о чем оно и выслало соответствующие инструкции по телеграфу заместителю посла Японии в СССР господину Сакоо.

Так как 1 июня Советское Правительство официально отказало в просьбе г. Уда принять его отказ от прав на аренду рыболовных участков, г. Уда обратился с просьбой о расторжении контракта на аренду рыболовных участков в виду нерентабельности последних. Так как на последнее заявление г. Уда последовало согласие советской стороны, в вопросе этом оставалось только разрешить вопрос о том, в какой форме эти рыболовные участки смогут быть переданы обществу Ничиро Гиогио и до каких размеров может быть снижена арендная плата за эти участки.

В виду того, что советская сторона настаивала на арендной плате в сумме 3.000.000 рублей, т.е. в таких размерах как она была предложена на торгах г. Уда, а общество Ничиро Гиогио настаивало на арендной плате в размерах в 800.000 рублей с увеличением этой суммы на 10%, переговоры о рыболовных участках заторгованных г. Уда снова оказались в безвыходном положении.

Как выход из этого положения, советская сторона внесла предложение о перенесении этих переговоров в Хабаровск и превращении их в непосредственные переговоры между Дальне-Восточным Управлением Рыболовства и Охоты на морского зверя и обществом Ничиро Гиогио кайша, мотивируя это свое предложение тем, что вопрос об установления арендной платы находится в компетенции Дальневосточного Управления Рыболовства и Охоты на морского зверя.

В конце концов переговоры об арендной плате за рыболовные участки полученные на торгах г. Уда были перенесены в Хабаровск и были начаты непосредственно между Управлением Дальрыбохоты и обществом Ничиро Гиогио.

Первое заседание было открыто 15 июля 1929 г. в присутствиия понского консула г. Ямагучи и представителя общества Ничиро Гиогио кайша господина Ооми Масатаро с японской стороны и заместителя председателя Дальне-Восточного Краевого Исполнительного Комитета г. Мамонова и Управляющего Управлением Рыболовства и Охоты

на морского зверя г. Головского с советской стороны.

На этом заседании советская сторона выступила с требованием об установлении арендной платы за передаваемые рыболовные участки обществу Ничиро Гиогио в размере 2.000.000 рублей, на что не могла согласиться японская сторона и над вопросом снова как будто бы набежали тучи. Однако в виду приближения рыболовного сезона и в виду того что обе стороны имели горячее желание закончить переговоры в возможно непродолжительном времени, между ними 18 сего июня состоялось полное соглашение в следующем:

78 рыболовных участков, заарендованных на торгах 5 апреля 1929 г. Уда временно сдаются в аренду акционерному обществу Ничиро Гиогио Кабусики кайша.

Размер арендной платы за сданные временно рыболовные участки определяется в 1.350.000 рублей, при чем первая половина арендной платы в сумме 675.000 рублей должна быть внесена одновременно с заключением контракта на аренду вышеозначенных раболовных участков, а вторая 1 июля текущего года.

В результате состоявшегося соглашения вопрос о рыболовных участках заторгованных г. Уда был разрешен и общество Ничиро Гиогио отправило находящимся в Хакодате и Отару и готовым к отправке пароходам телеграфное распоряжение о немедленном выходе на промысла.

Вопрос об автономном выходе на промысла на рыболовные участки советского ДВ.

Японские заинтересованные рыбопромышленники. видя приближение сезона и беспокоясь за будущее японской рыбопромышленности в водах советского Дальнего Востока, проявляли необычное беспокойство и выражали свое желание о том чтобы осуществить выход на промысла самостоятельно, не прекращая переговоров с Советским Правительством.

Принимая во внимание это желание заинтересованных японских рыбопромышленников специальная комиссия Союза Рорио Суйсан Кумиай для переговоров с СССР 21 сего мая, обсудив общее положение, вынесла резолюцию об осуществлении автономного выхода на промысла, мотивируя его духом японо-советской рыболовной конвенции и приближением сезона.

Члены президиума Союза Рорио Суйсан Кумиай соглашаясь с резолюций вынесенной вышеназванной комиссией, опубликовали следующую декларацию:

1. **Вопрос о занятии японскими рыбопромышленниками рыболовных участков, право на занятие которыми оспаривается советскими госорганизациями**: Согласно японо-советской рыболовной конвенции занятие рыболовных участков советскими государственными рыбопромышленными организациями происходит на основании соглашения с Японией. Между тем советские госпредприятия в настоящее время без согласия Японии решили занять 18 рыболовных участков, которые ранее эксплоатировались японскими рыбопромышленниками. Принимая во внимание это положение Союз решил осуществить автономный выход на промысла, во имя охраны японского рыбопромышленного права в водах советского Дальнего Востока, в виде протеста против нарушения японо-советской рыболовной конвенции Союзом ССР.

2. **Вопрос о разрешении занятия японским рыбопромышленникам 44 рыб. участков, взятых советскими частными рыбопромышленниками на торгах 28 февраля, 15 марта**

Вопрос о рыболовных участках, на приобретение которых заявлены претензии со стороны госпредприятий.

Самым трудным вопросом в японо-советских переговорах о рыболовных промыслах является именно этот вопрос. Он остался нерешенным со времени конференции о японо-советском рыбопромышленном договоре, который был заключен с большим трудом лишь после ходатайства покойного графа, тогда виконта, Гото Симпей, с условием что нерешенный вопрос о рыбопромышленных участках будет разрешен после заключения рыболовного договора, при чем в отношении способа решения его в статьи договора были внесены пункты, обуславливавшие что Советское Правительство обратит должное внимание на то, что в 1927 году, то есть во время переговоров о заключении договора, рыболовные участки эксплоатировавшиеся госпредприятиями не достигали 20% всех рыболовных участков и что оно будет советываться с Японским Правительством до принятия окончательных решений по такому определению.

После заключения договора советская сторона выбрала 30 участков, из тех рыболовных участков, которые ранее эксплоатировались японскими рыбопромышленниками и заявив претензии на приобретение их в 1929 году, стала просить со стороны Японского Правительства признания этих претензий. Однако, в виду того что эти участки являются наиболее важными из всех рыболовных участков для японских рыбопромышленников, Японское Правительство не согласилось с заявлением советской стороны и отстаивало решительно свою позицию.

Впоследствии советская сторона, как мы уже отмечали выше, сделала некоторые уступки и согласилась отказаться от участков занимавшихся ранее японскими рыбопромышленниками, кроме 18 участков ранее эксплоатировавшихся акц. об. Ничиро Гиогио, на занятии которых она стала упорно настаивать.

Вопрос осложнился после того, как АКО 23 апреля 1929 г. начало промысел на одном из спорных участков.

Вслед за получением сообщения об этом Министр иностранных дел выслал телеграфные инструкции заместителю Посла Японии в СССР господину Сакоо о выражении решительного протеста против действий АКО перед Советским Правительством с одной стороны и вступил в переговоры с Полномочным Представителем Союза ССР в Японии г. Трояновским, о том чтобы последний возбудил соответствующее ходатайство о принятии мер против самовольного выступления АКО, с другой стороны.

Советская сторона на японский протест ответила тем, что Советское Правительство считало что Японское Правительство уже не имеет возражений против приобретения госпредприятиями рыболовных участков ранее эксплоатировавшихся японскими рыбопромышленниками.

Японское Правительство, получив такой ответ, не изменяя своей точки зрения, выступило с предложением о предоставлении японским рыбопромышленникам других рыболовных участков, вместо отводимых 18. Однако советская сторона отклонила и это предложение, на том основании что оно не предусматривается статьями договора.

Одной из причин возникших в данном случае разногласий между странами явилась разница в понимании аглийского слова "confer" в тексте японо-советского рыбопромышленного договора в пункте 3 в раздела Б части первой заключительного протокола его, которое японской стороной переводилось как „советоваться" в смысле

получения согласия или понимания или в японском чтении „киооги" (協議), а советской стороной в буквальном смысле „советоваться", независимо от результатов этого совещания.

Японские рыбопромышленники, возбужденные самостоятельным разрешением вопроса о рыболовных участках советской стороной, признали необходимость осуществления выхода на рыболовные промысла автономными мерами, при чем Союз японских рыбопромышленников по этому поводу вынес даже определенную резолюцию. О последнем мы, впрочем, расскажем в другом месте, здесь же укажем лишь только на то, что Советское Правительство в начале июня решительно отказалось от переговоров по этому поводу и 4 сего июня заместитель Народного Комиссара по иностранным делам Советского Правительства г. Карахан сообщил заместителю Японского Посла в СССР г. Сакоо о том, что Советское Правительство совсем не имеет мысли обсуждать этот вопрос.

После того разрешение вопроса было отложено до возвращения Японского Посла в СССР г. Танака Токичи в Москву и вопрос, таким образом, должен был разрешиться путем переговоров между подписавшими рыболовную конвенцию г. Танака–Японским Послом в СССР и г. Караханом–Заместителем Народного Комиссара по иностранным делам СССР. Начавшиеся вслед за прибытием в Москву г. Танака переговоры, однако, не дали ожидавшихся результатов и вопрос до сих пор остается не разрешенным. В последнее время Министр иностранных дел нового кабинета министров Японского Правительства г. Шидехара, принимая во внимание что вопрос об этих участках до сих пор остается открытым и желая зафиксировать точку зрения Японского Правительства на этот вопрос 31 июля 1929 года отправил протест к СССР в письменной форме, в котором указал Советскому Правительству на нарушение условий японо-советской Рыболовной Конвенции и просил изменить точку зрения.

Вопрос о возвращении рыболовных участков полученных советскими частниками на торгах без участия японских рыбопромышленников.

На торгах проведенных 28 февраля, 15 марта и 5 апреля сего года советские частные рыбопромышленники получили много рыболовных участков из тех которые ранее эксплоатировались японскими рыбопромышленниками или на которые поступили заявления со стороны последних. Вследствие желания японских рыбопромышленников возвратить эти участки себе и возник вопрос о возвращении этих участков. Так как по соглашению обоих сторон перед торгами 5 апреля, торги проведенные 28 февраля были признаны состоявшимися, вопрос о рыболовных участках полученных советскими частными рыбопромышленниками решено было разрешить путем переговоров между заинтересованными сторонами.

Число этих спорных участков в начале переговоров исчислялось в 41 участок, при чем в это время советская сторона согласилась возвратить из них только два участка–один рыболовный общества Хатакеяма и один краболовный Косуги.

В дальнейшем состоялось соглашение относительно участков № 171 и № 46, в виду того что советская сторона согласилась на уменьшение размеров компенсации за эти участки по 2.000 рублей с каждого и в отношении № 171 (3) и № 175, размер компенсации за которые установлен для первого в 4.200 рублей и второго в 1.000 иен.

Залог, представленный группой Сима Токузо в отделение Дальбанка в Кобе явится неприкосновенным имуществом группы Сима Токузо.

б) Остальная сумма ссуды в размере 2.000.000 рублей в советской валюте должна быть выдана до 18 августа сего года и уплачена группой Сима Токузо Дальбанку.

Залог, представленный группой Сима Токузо в отделение Дальбанка в Кобе явится неприкосновенным имуществом группы Сима Токузо.

2. В том случае когда общество Ничиро Гиогио кайша будет не в состоянии выдать ссуду группе Сима Токузо в советской валюте в размере 2.000.000 руб. до указанного срока, оно должно выдать ее в размере 1.200.000 иен, из расчета 60 сен за один рубль. В данном случае группе Сима предоставляется произвести уплату в Дальбанк на более выгодных условиях.

3. О полученной от общества Ничиро Гиогио ссуде группа Сима в солидарной ответственности выдает обществу Ничиро Гиогио долговое обязательство. Долг группы Сима обществу Ничиро Гиогио должен быть возвращен группой Сима в течение пяти лет с процентами от прибылей, упоминаемых в статье 5.

4. Если бы Советское Правительство не признает отказа от аренды рыболовных участков группы Сима Токузо и оставит право эксплоатации рыболовных участков за господином Уда, группа Сима обязуется возвратить свой долг обществу Ничиро Гиогио.

5. Различные расходы, произведенные группой Сима для подготовки для эксплоатации рыболовных участков, будут погашены постепенно из чистой прибыли, которая будет получена от эксплоатации 78 участков в течении 5 лет то есть времени аренды этих рыболовных участков, при чем за основание будет взята сумма указанная в специальном по этому поводу соглашении.

Под чистой прибылью, о которой упоминается в этой статье, следует подразумевать прибыль, которая будет получена из валового дохода минус расход и процент от обращения капитала из расчета 8% в год.

6. Один член президиума правления и один член ревизионной комиссии общества Ничиро Гиогио будет введен из группы Сима по рекомендации г.г. барона Гоо и Сугияма.

7. Та часть из заготовленных группой Сима для эксплатации рыболовных промыслов предметов, которая будет признана имеющей право на компенсацию должна быть полностью вознаграждена обществом Ничиро Гиогио.

Таким образом, после того как стороны обменялись заявлениями друг с другом в письменной форме, вопрос о споре из-за рыболовных участков как будто бы разрешился в удовлетворительном смысле. Однако после этого неожиданно выступили г.г. Нисикава и Накаяма, которые стали настаивать на осуществлении первоначальных условий соглашения т. е. чтобы прибыль от промыслов была бы разделена пополам и чтобы два лица от группы Сима вступили бы в общество Ничиро Гиогио в качестве директоров этого общества. При чем в это же самое время они обратились к советским властям с просьбой о признании прав г. Уда. Это обстоятельство явилось большим препятствием как в переговорах между японским и советским правительствами относительно рыболовных участков, от права приобретения которых отказался г. Уда, так и в оформлении состоявшегося соглашения между группами Ничиро Гиогио и Сима Токузо.

В связи с этим г. Уда 5 сего июня посетил Министерство иностранных дел и сделал официальное заявление о том что г.г. Накаяма и Нисикава не имеют никаких прав на рыболовные участки, приобретенные им на торгах.

Так как выступление г.г. Накаяма и Нисикава вызвало не только возбуждение в обоих группах Ничиро Гиогио и Сима, но и возмущение в обществе, оба 6 сего июля заявили о том что они отказываются от своих требований, однако 7 июня они снова стали возражать против деталей соглашения.

В виду этого, после совещания г. Сима с г. г. Гоо и Сугияма было решено провести оформление соглашения без участия г. г. Накаяма и Нисикава.

Таким образом группа Сима, в конце концов, также оказалась хищнической группой, которая пренебрегла интересами государства и общественного блага, как только отдельные интересы ее членов столкнулись и они начали ссориться друг с другом.

Последние события воочию обнаружили недостатки в уставе права о японской рыбопромышленности в водах заграничной территории и Министерство земледелия и лесоустройства, принимая во внимание ожесточенную конкуренцию между японскими рыбопромышленниками в приобретении ими рыбопромышленных участков, а также необходимость твердого руководства рыбопромышленностью японских подданных в водах заграничной территории, в частности японских рыбопромышленников, занимающихся ею в конвенционных водах советского Дальнего Востока, считая что одной из важнейших причин происшедшего спора из-за рыбопромышленных участков является недостаточная проработка законоположений о рыбопромышленности японских подданных в водах заграничной территории, в настоящее время предполагает пересмотреть право Союза морской промышленности в водах заграничной территории, являющееся одним из центральных в праве рыбопромышленности японских подданных в водах заграничной территории.

Новый проэкт законоположений о Союзе морской промышленности в водах заграничной территории будет составлен на детально разработанных и тщательно изученных материалах и предложен на утверждение будущей 57-ой сессии Японского Парламента.

ПОСЛЕДНЕЕ ПОЛОЖЕНИЕ ЯПОНО-СОВЕТСКИХ ПЕРЕГОВОРОВ О РЫБОЛОВНЫХ ПРОМЫСЛАХ НА ДВ.

Вопросам, которые явились предметом переговоров Японского Правительства с Советским Правительством мы посвятим наше дальнейшее повествование.

Из этих вопросов важнейшими являются следующие:

1. Вопрос о рыболовных участках, на приобретение которых заявлены претензии со стороны госпредприятий СССР.

2. Вопрос о возвращении рыболовных участков, которые были получены советской стороной на торгах проведенных без участия японских рыбопромышленников.

3. Вопрос об условиях труда и об установлении социального страхования.

4. Вопрос об автономном выходе на рыболовный промысел.

5. Вопрос о переговорах относительно рыболовных участков, приобретенных г. Уда, начатых после состоявшегося соглашения между группами Сима и Ничиро.

Ниже мы отдельно изложим содержание и ход переговоров по каждому вопросу.

ющим общества Ничиро Гиогио г. Данно, между бароном Гоо и премьером-министром Танака и между Исполнительным Комитетом Союза Рорио Суйсан Кумиай и Министерствами замледелия и лесоустройства и иностранных дел.

В результате этих переговоров мнения заинтересованных лиц склонились к тому чтобы просить г. Сугияма взять на себя хлопоты по примирению сторон. Дав свое согласие г. Сугияма вслед затем совещался по этому поводу с бароном Гоо, в результате чего оба посредника предложили обществу Ничиро Гиогио ряд следующих требований:

1. Некоторые директора общества Ничиро Гиогио должны уйти с занимаемых ими мест.

2. Общество должно прекратить свои хлопоты о возвращении рыболовных участков.

3. Дивидент акционеров общества должен быть снижен до 10-20%%.

После горячих прений по этому поводу общество все же согласилось с предложением господина Сугияма и 27 сего апреля все директора общества в полном составе вышли в отставку. Господин Сугияма после совещания с Министром земледелия и лесоустройства г. Ямамото и премьером-министром бароном Танака выработал проэкт коренного преобразования общества Ничиро Гиогио на основе системы совета управляющих, при чем Совет Управляющих был намечен из следующих лиц:

Члены Совета: г.г. Данно Рейсуке, Хирацука Цунедзиро, Синдоо Синтаро, Набесима Кумамичи и Такахаси Кумазоо.

Инспектора общества: г. г. Абе Хидетаро и Ф. С. Буз.

Советник общества — г. Цуцуми Сейроку.

Проэкт этот был принят без изменений и таким образом вопрос в отношении общества Ничиро Гиогио был разрешен.

Что касается переговоров с группой Сима, то, как нам передавали в свое время, с этой целью было уполномочены для ведения переговоров г. Мори, заместитель Министра иностранных дел, г. Фудзита-председатель Торгово-промышленной Палаты г. Токио и г. Мияо-председатель Восточного Колониального общества.

К этому времени в позиции группы Сима, которая до сих пор была непоколебимой, к концу апреля приблизительно стало наблюдаться некоторое ослабление из-за разногласий среди участников сепаратного выступления.

Как передают, г. Синомото Канае-один из участников сепаратного выслупления на торгах, имевший большое влияние на г. Сима, будучи недоволен тем, что он не был посвящен в план выступления с самого начала и считая что проэкт эксплоатации промыслов группой составлен беспорядочно, советывал г. Сима отказаться от проэкта эксплоатации промыслов. С другой стороны г. Нисикава стал также настаивать на соглашении с обществом Ничиро Гиогио, вследствие того что стало очевидным, что новая затея не может дать тех прибылей, которые предполагались при возникновении проэкта.

Приглашенные Министром земледелия и лесоустройства г. Ямамото 9 сего мая г.г. Сима, Уда и другие, получив совет Министра составить свой проэкт соглашения с обществом Ничиро Гиогио, дали свое согласие и уговорили также г. г. Нисикава, Накаяма и других прийти к соглашению с группой общества Ничиро Гиогио. Однако когда был затронут вопрос об условиях соглашения в группе Сима произошли значительные разногласия.

Несмотря на указанное обстоятельство, г. Сима Токузо посетил г. Сугияма и представил ему свой проэкт соглашения. 10 сего мая барон Гоо на основании проэкта предложенного г. Сима господину Сугияма составил свой проэкт соглашения и передал его г. Сугияма.

Созванное по настоянию г. Сугияма по этому поводу чрезвычайное совещанке директоров общества Ничиро Гиогио решительно отвергло проэкт предложенный бароном Гоо, вследствие чего последнему вместе с г. Сугияма пришлось снова пересмотреть проэкт и в исправленном виде снова представить его обществу Ничиро Гиогио.

После ряда совещаний заинтересованных лиц относительно проэкта стороном все же удалось договориться, при чем в основание соглашения был положен проэкт соглашения составленный посредниками господами Сугияма Сигемару и бароном Гоо.

Основные пункты состоявшегося соглашения в общих чертах сводились к следующему:

1. Обе договаривающиеся сгороны ведение всех переговоров с Правительством относительно торгов на рыболовные участки поручают барону Гоо и господину Сугияма.

2. Достигнув соглашения между собой, общество Ничиро Гиогио и группа Сима, имея в виду любезное содействие в разрешении вопроса господ Сугияма Сигемару и и барона Гоо, вполне искренне отказываются от соперничества друг с другом, во имя сохранения прав и интересов Японской Империи.

3. Что касается вопроса о расчетах и организации предприятий, решено разрешить его соответствующим образом при содействии господ Сугияма и барона Гоо.

4. В том случае если в правлении общества Ничиро Гиогио потребуется изменить его состав, уменьшив число членов правления или соответствующим образом увеличив его, это должно быть сделано также по усмотрению господ Сугияма и барона Гоо, по соглашению с крупнейшими акционерами общества Ничиро Гиогио, имея в виду решение обоих сторон.

Детали же соглашения были выработаны несколько позднее, а именно 29 сего мая. Это детальное соглашение в общих чертах представляется в следующем виде:

Настоящий статут соглашения между обществом Ничиро Гиогио Кабусики кайша с одной стороны и г. г. Сима Токузо, Уда Каничиро, Нисикава Суекичи и Накаяма Сецутаро с другой стороны составлен при содействии г. г. барона Гоо Сейносуке и Сугияма Сигемару.

Договаривающиеся стороны после подписания соглашения получают по одному оригиналу соглашения.

1. Господин Уда, отказавшись от своего права эксплоатации рыболовных участков, арендованных им на торгах, передает его обществу Ничиро Гиогио кайша.

Общество Ничиро Гиогио кайша берет на себя обязательство выдать ссуду группе Сима на нижеследующих условиях:

А) Ссуда в размере долга группы Сима в Дальбанке в сумме 3.500.000 руб. в советской валюте должна быть выдана обществом Ничиро Гиогио до 18 августа сего года следующим образом:

а) Ссуда в советской валюте в размере 1.500 т. рублей должна быть выдана до 3 июля сего года и уплачена группой Сима Дальбанку.

Утверждение Советским Правительством прав на приобретение рыболовных участков г. Уда и дальнейшие шаги последнего.

Японское Правительство, получив сообщение о результатах торгов, немедленно же выслало телеграфные инструкции японскому генеральному консулу во Владивостоке г. Ватанабе, с тем чтобы он обратился к советским властям с просьбой о непризнании спекулятивного выступления г. Уда, а всеобщее внимание с тех пор было привлечено вопросом о том, признает ли СССР за г. Уда права на приобретение рыболовных участков или нет. Однако СССР, считая что для него безразлично кто бы не получил рыболовных участков, лишь бы он не нарушал рыбопромышленного договора заключенного между Яппнией и СССР и постановлений в отношении условий аренды рыболовных участков, 9 сего апреля официально опубликовал об утверждении результатов торгов. Таким образом вышеупомянутые 78 рыболовных участков оказались в руках группы Уда, при чем общая сумма арендной платы за первую половину срока и паушальная сумма в общей сложности составили 1.803.348 рублей.

Группа Уда заявила о том, что она намерена организовать новое рыбопромышленное общество и заняться эксплоатацией с сего года. В то время мнение их по этому поводу заключалось в следующем:

„Мы получили рыболовные участки совершенно законно на основании японо-советской рыболовной конвенции и намерены организовать новое рыбопромышленное общество с капиталом в 25 миллионов иен, которое будет зарегистрировано до 15 сего мая. В настоящее время ходят слухи о том, что арендная плата несообразно-велика и ненормальна. Но это совершенно не так. До сих пор в течение 8 лет японские рыбопромышленники из Союза Рорио Суйсан Кумиай занимали монопольно рыболовные участки на территории советского Дальнего Востока, платя за них крайне низкую арендную плату. Участие же на торгах в настоящее время группы Уда должно послужить залогом для развития искренних дружеских отношений между Японией и СССР."

Мероприятия Союза Рорио Суйсан Кумиай

Союз Рорио Суйсан Кумиай, главное место в котором принадлежит обществу Ничиро Гиогио Кайша, между тем продолжал активное наступление против группы Уда, стараясь доказать неискренность стремлений группы Уда на торгах.

В ряде прошений к заинтересованным министерствам Японского Правительства и в обращении к Полномочному Представителю СССР в Японии г. Трояновскому, Союз Рорио Суйсан Кумиай просил о непризнании торгов советской властью или о запрещении занятия рыболовством на территории советского Дальнего Востока г. Уда японскими властями.

На декларацию группы Уда Союз Рорио Суйсан Кумиай опубликовал свое заявление, в котором отметил несообразность проэкта эксплоатации рыбных промыслов, составленного группой Уда и невозможность последней подготовиться должным образом к рыболовному промыслу в текущем году.

21 и 22 сего апреля Союзом Рорио Суйсан Кумиай было созвано Чрезвычайное Общее Собрание членов Союза для обсуждения вопросов о выходе на промысла в рыболовном сезоне текущего года и вопросов, касающихся приобретения рыболовных участков не членами Союза Рорио Суйсан Кумиай. В результате совещания была вынесена резолюция об опубликовании декларации Союза Рорио Суйсан Кумиай об

охране японской рыбопромышленности в водах территории советского Дальнего Востока и выработаны новые правила о выходе на промысла, которые имели своей целью оказание давления на участие на торгах тех рыбопромышленников, которые не являются членами Союза Рорио Суйсан Кумиай, т.е. на группу г. Уда.

Для выполнения положений, излагавшихся в декларации Союза японских рыбопромышленников Рорио Суйсан Кумиай был избран Исполнительный Комитет в составе следующих лиц: Председатель Комитета—Иде Сатоси, заместитель председателя г. Мотокава Тоосабуро, члены Комитета: Какемура Коокичи, Миякава Коотаро, Синдоо Токичиро (из Токийского отделения), Ногучи Ичисабуро, Кондо Киукичи, Оокуси Чоодзиро (из отделения Ниигата) Хараяма Сейзоо, Сато Дендзи, Огиу Соотароо (из отделения Тояма), Эбара Сюнсуке, Убуката Масаиоси и Ямаоучи Дандзиро (из отделения Хоккайдо), который немедленно и решительно приступил к необходимым хлопотам.

22 сего апреля г. Цуцуми Сейроку отказался от поста председателя Союза Рорио Суйсан Кумиай Это событие вызвало необыкновенную сенсацию среди различных кругов Японии, как в финансовых, политических, так и в печати, а особенно глубокое впечатление отказ г. Цуцуми от поста председателя Союза Рорио Суйсан Кумиай произвел на заинтересованные круги города Хакодате, являющегося центром японской рыбопромышленности в водах северных морей. Эти заинтересованные круги после того избрали из своей среды делегацию в составе 44 человек и командировали ее в столицу, с тем чтобы добиться понимания претензий японских рыбопромышленников у заинтересованных ведомств Японского Правительства. В то же самое время, в Хакодате неожиданно появилась группа лиц поддерживавшая группу Уда или Сима, как она стала называться впоследствии.

Правительство и выдающиеся деятели Японии в вопросе о рыболовных участках.

Ход переговоров о компромиссе между спорящими сторонами.

Общее мнение в Японии вызванное сепаратным выступлением японских рыбопромышленников на торгах на рыболовные участки 5 апреля разделялось в то время на две части: одни категорически осуждали сепаратное выступление группы Сима, другие же склонялись к признанию законным это выступление на основании принципов свободы соревнования, при чем в правительственных кругах первое мнение решительно поддерживалось Министром земледелия и лесоустройства г. Ямамото, а второе Министром почт и телеграфов господином Кухара.

Несмотря на то что общество Ничиро Гиогио, Союз японских рыбопромышленников Рорио Суйсан Кумиай и большая часть печати внутри страны настойчиво требовали непризнания действительности торгов и разрешения вопроса дипломатическими мерами, этому желанию не суждено было осуществиться, так как в правительственных кругах в конце концов мнение о необходимости разрешения вопроса путем компромисса между спорящими сторонами стало одерживать верх над мнением которое защищал Министр земледелия и лесоустройства.

17 апреля г. Сугияма Сигемару, один из видных деятелей политического и финансового мира Японии, посоветывал премьеру-министру Танака понудить стороны к соглашению путем компромисса между ними. После того был проведен ряд совещаний между г. Мори Каку, заместителем Министра иностранных дел и директором-управля-

рыбопромышленных участках сгущалась и напряжение это грозило не малыми конфликтами. Произведенные 15 марта самостоятельные торги без участия японских рыбопромышленников убедили советскую сторону в безвыходности положения, вследствие чего она показала склонность, хотя и слабую, на уступки. После вторых торгов Советское Правительство заявило надлежащим ведомствам Японии, что оно само посоветует рыбопромышленникам возвратить японским рыбопромышленникам 41 участок из числа новых и 4 из числа старых, ранее эксплоатировавшихся японцами. Японские рыбопромышленники, получив это сообщение и обсудив его в ряде совещаний, составив проэкт обратились к Японскому Правительству с просьбой о начале переговоров по этому поводу.

В результате переговоров Советского Полпреда в Японии г. Трояновского с заинтересованными ведомствами Японского Правительства сторонам в конце концов удалось прийти к соглашению в следующем:

1. Торги проведенные 28 февраля считаются действительными, но в будущем должны состояться новые торги.

2. Об'ектами на предстоящих торгах должны явиться все рыболозные участки, опубликованные во всех трех об'явлениях о торгах, за исключением 80 с лишним рыболовных участков сданных в аренду советским рыбопромышленникам на торгах 28 февраля.

Союз Рорио Суйсан Кумиай, согласившись с подобным разрешением вопроса, все нерешенные вопросы, как например вопрос об участках, на которые заявлены претензии госпредприятий СССР и др., поручив Правительству, согласился на участие в торгах на 365 рыболовных участков, которые должны были состояться во Владивостоке 5 сего апреля.

СПОР О РЫБОЛОВНЫХ УЧАСТКАХ.

Результаты торгов 5 апреля.

Выше мы познакомили наших читателей с ходом переговоров по различным вопросам японской рыбопромышленности в водах территории советского ДВ, происходивших между Японией и СССР в течение времени с конца 1927 года до начала апреля 1930 года.

Повторные торги на рыболовные участки на территории советского Дальнего Востока, как это и предполагалось, состоялось во Владивостоке 5 апреля сего года, однако результаты торгов были совершенно неожиданными для заинтересованных рыбопромышленников. Из 247 рыболовных участков, которые были об'ектами торгов и ранее эксплоатировались японскими рыбопромышленниками – членами Союза Рорио Суйсан Кумиай, 77 рыболовных участков эксплоатировавшихся ранее акционерным обществом Ничиро Гиогио и 1 участок эксплоатировавшийся фирмой Нисиде Шодзи, известных под именем „плодотворных“ были получены на торгах японским подданным господином Уда Каничиро, не членом Союза японских рыбопромышленников Рорио Суйсан Кумиай, с арендной платой в размере 2.956.404 рублей, что составлят увеличение по сравнению с платой прошлого года в 4 раза. Последнее послужило причиной того, что господин Уда был забросан градом упреков со стороны заинтересованных японских рыбопромышленников, обвинявших его в аренде рыболовных участков по

баснословно высоким ценам. О том что цены предложенные г. Уда на торгах были действительно высокими говорит хотя бы следующая таблица сравнения фактической арендной платы за аренду рыболовных участков в прошлом году и арендной платы за них предложенной на торгах господином Уда.

Число участков	В 1928 году	В 1929 году (предложенная г. Уда)	Сумма разницы
77	644.007 руб.	2.956.604 руб	2.312.597 руб.
1	4.761 „	41.146 „	36.385 „
Итого 78	648.768 „	2.997.750 „	2 348.982 „
Единый налог	181.655 „	839.370 „	657.715 „
Общий итог	830 423 „	3.837.120 „	3.006.697 „

Группа Сима Токузо.

Результаты торгов вызвали громадную сенсацию, как в среде японских рыбопромышленников, так и среди японской общественности. Рыбопромышленники вступавшие в споры из-за рыболовных участков до сих пор с СССР, пришли наконец к конфликту между собой. Это событие чрезвычайно сильно отразилось на рынке акций в Японии. На следующий же день последовавший за торгами, т.е. 6 апреля, на рынке акций в Японии стало нлблюдаться настроение поспешной распродажи краткосрочных акций общества Ничиро Гиогио кайша и вскоре же после этого были окончательно прекращены все операции с ними. Вслед затем наметилось снижение цены долгосрочных акций общества Ничиро Гиогио, при чем в первые же дни стоимость их пала на 17-18 иен. По слухам группа Сима от этой операции получила громадную прибыль в сумме около 3.000.000 иен и таким образом между покупщиком акций — обществом Ничиро Гиогио и продовцем их — группой Сима выросла громадная пропасть.

В первое время выступление группы Сима на торгах рассматривалось как спекуляция грандиозных размеров, имевшая целью путем операций с акциями общества Ничиро Гиогио составить громадную прибыль. Но вскоре после того, как была снята маска с выступавших на торгах, выяснились и некоторые другие подробности. В первую очередь оказалось что за спиной г. Уда Каничиро стояли следующие лица: Сима Токузо, бывший председатель президиума общества Ничиро Гиогио, небез'известный промышленник Японии, г.г. Накаяма Сецутаро и Синомото Канае, бывшие управляющие общества Ничиро Гиогио, Накасе Сутетаро-председатель отделения Союза японских рыбопромышленников Рорио Суйсан Кумиай и другие лица, хорошо осведомленные с постановкой японской рыбопромышленности в водах территории советского Дальнего Востока и тактикой Союза Р.С.К., как например Нисикава Суекичи, Миякава Тоиокичи, Фудзии Иносуке, Кодзима Кандзи. Некоторые лица из группы Сима имеют различные связи с министром почт и телеграфов г. Кухара, премьером-министром Танака и партией Сейюкай, что говорит о том, что это событие возникло не просто, как это в начале предполагалось, а является более серьезным и продуманным, вследствие чего очевидно стало что безболезненное разрешение вопроса неминуемо должно встретиться с большими препятствиями.

Узнав неожиданно о том что группа Сима необыкновенно сильна, японская общественность следила с большим вниманием и интересом за ходом событий, будучи, однако, недовольной выступлением группы Сима, так как оно грозило уничтожением прав и интересов японского государства.

разрешить все вопросы связанные с отношениями обоих стран в рыбопромышленности.

После вынесенной резолюции о выражении протеста против новых условий аренды рыболовных участков Союз Р.С.К. на совещании 28 января составил Исполнительный Комитет, которому поручалось добиться исправления условий аренды рыболовных участков, в составе следующих лиц: Председателя Союза Р.С.К. г. Цуцуми Сейроку, заместителя председателя Сасаки Хеидзиро, советников: Хирацука Цунедзиро, Иде Сатоси, Мотокава Тоосабуро представителей отделения Токио: Хасигучи Цукума, Синдоо Синтаро, Кояма Томизоо, Суда Коотаро, тоже от отдела губ. Ниигата: Ногучи Ичисабуро, Кондоо Хисакичи, тоже от отдела губ. Тояма: Хакама Синичиро, Сато Дендзи и тоже от Хоккайдовского отделения: Ямаоучи Дандзиро и Убуката Масаиоси.

Японское же Правительство хотя и не так резко тоже опротестовало некоторые действия советских властей и вступило по этому поводу в переговоры с Советским Правительством, в результате чего, 15 сего февраля последнее через Японского Генерального Консула во Владивостоке, сообщило о следующих уступках советской стороны:

1. К прежним рыболовным участкам решено прибавить еще 52 новых участка.

2. Из 30 старых рыболовных участков, на которые заявлены претензии со стороны госорганизаций, 20 возвращается японским рыбопромышленникам.

3. Советское Правительство инструктирует ДВ Управление Рыболовством и охотой на морского зверя о изменении срока окончания рыболовного сезона.

Несмотря на то что советская сторона согласилась пойти на вышеперечисленные уступки, японские рыбопромышленники снова остались недовольными и выступили с требованием о новом увеличении числа рыболовных участков, благодаря чему Японское Министерство иностранных дел снова вступило в переговоры с СССР.

В это время, в виду того что приблизился срок торгов 1920 года, вопрос об участии на торгах японских рыбопромышленников был выдвинут на первую очередь и после горячего его обсуждения намечалось разрешение его в том смысле что японские рыбопромышленники соглашаются принять участие на торгах и будут требовать аренды старых рыболовных участков без торгов. Несмотря однако на то, что к этому времени советская сторона согласилась прибавить еще 20 участков сдаваемых в аренду японским рыбопромышленникам, разрешить производство консервов на судах, отсрочить срок окончания рыболовного сезона до 10 октября и на др. уступки, японским рыбопромышленникам не удалось договориться между собой о вопросе участия на торгах, из за крупных разногласий в своей среде, благодаря чему Общее Собрание членов Союза по этому поводу 20 февраля носило весьма сумбурный характер. Некоторые из членов, особенно местных отделений Хоккайдо, Ниигата и Тояма настаивали на участии в торгах и даже выступали с упреками по адресу правления.

Правление же и группировавшиеся вокруг него рыбопромышленники, несмотря на совет Японского Миниидела об участии на торгах 28 февраля, резко и непрекленно настаивали на неучастии на торгах, благодаря чему, в конце концов, собрание вынесло резолюцию предложенную правлением. После того Министерство иностранных дел послало инструкции заместителю посла в Москве господину Сакоо о переговорах с Советским Правительством относительно продления срока торгов на рыболовные участки на две недели. Но советская сторона, оставшись вероятно недовольной решением

японских рыбопромышленников не принимать участия в торгах, провела это торги в назначенный срок, в присутствии председателя ДВ Управления Рыболовства и охоты на морского зверя г. Головского.

На состоявшихся торгах приняли участие 13 частных советских рыбопромышленников. В результате торгов из 109 участков, предложенных на торгах, 87 участков, из которых 18 лососевых и 1 краболовный, эксплоатировавшиеся до сих пор японцами, 54 лососевых и 6 краболовных вновь предоставленных японским рыбопромышленникам и 9 участков до сих пор эксплоатировавшихся советскими рыбопромышленниками, были получены 11 советскими рыбопромышленниками.

Получившееся сообщение о состоявшихся торгах в Японии произвело впечатление разорвавшейся бомбы. Японские рыбопромышленники немедленно выступили с декларацией о непризнании и недействительности произведенных торгов с участием одних лишь советских рыбопромышленников. А Японское Правительство, отмечая в данном случае нарушение договора, с своей стороны также выступило с выражением протеста к СССР.

Имевшие в это время место заседания Японского Парламента послужили основанием для запроса Правительству о его позиции по отношению данного вопроса.

На запрос, сделанный бароном Саката на заседании бюджетной комиссии 5 марта в Верхней Палате Парламента, заместитель Министра иностранных дел г. Мори ответил приблизительно следующее: Проведение торгов на рыболовные участки 28 февраля, по всей вероятности, произошло из-за того, что между Советским Правительством и местными советскими властями не было установлено соглашения, вследствие недостаточной осведомленности местных властей с намерениями Правительства. Японское Правительство, во избежание нежелательных трений, в свое время провело ряд переговоров с СССР об отсрочке проведения торгов, однако, к нашему глубокому сожалению, эти попытки не оказались успешными. По мнению Японского Правительства самостоятельное проведение торгов без участия японских рыбопромышленников нарушает не один пункт рыбопромышленного договора, вследствие чего оно немедленно вступило по этому поводу в переговоры с Советским Правительством, опираясь на свое право, обусловленное в рыбопромышленном договоре".

После того, в результате ряда совещаний по этому поводу в Москве, советская сторона согласилась увеличить в третий раз число рыболовных участков и определить норму ограничения в размерах прошлого года. Кроме того она выразила согласие на исключение 13 рыболовных участков ранее эксплоатировавшихся японскими рыбопромышленниками полученных советскими рыбопромышленниками на торгах 28 февраля.

В вопросе о торгах советская сторона соглашалась провести повторные торги 15 марта для всех рыболовных участков, за исключением 74 полученных на торгах советскими рыбопромышленниками. Японская же сторона не соглашалась признать действительными повторные торги и заявила с своем неучастии в них. Японское Правительство в то же время обратилось к Советскому Правительству с ходатайством об анулировании первых торгов и отсрочке вторых. Однако советская сторона в этом вопросе стала на непреклонную позицию и даже заявила о том что она готова провести торги самостоятельно.

Таким образом с приближением рыболовного сезона атмосфера вокруг вопроса о

РЫБОПРОМЫШЛЕННЫЕ КОНФЛИКТЫ 1929 ГОДА МЕЖДУ СССР И ЯПОНИЕЙ.

ВОПРОСЫ ОБ УСЛОВИЯХ АРЕНДЫ РЫБОЛОВНЫХ УЧАСТКОВ В 1929 ГОДУ, ВОЗНИКАВШИЕ В ТЕЧЕНИЕ ВРЕМЕНИ С ОСЕНИ ПРОШЛОГО ГОДА ДО ТОРГОВ 5 АПРЕЛЯ.

Японо-советский рыбопромышленный договор, явившийся результатом больших стараний и усилий правительств и заинтересованных рыбопромышленников обоих стран в течение двух лет и одного месяца, ожидался обоими народами с большой надеждой как основание для разрешения всех разногласий и недоразумений, которые возможно предполагать между обоими странами. Каждый предполагал, что этот договор в окончательном виде разрешит все вопросы в рыбопромышленных отношениях обоих стран, которые вышли из нормального русла и продолжают оставаться в таком положении вот уже около 10 лет и что в рыбопромышленности ДВК между странами будет достигнуто наконец полное понимание и выработаны определенные условия рыболовства.

Однако это ожидание не оправдалось. В чем бы не была причина разногласий, основание их все же заключается в том, что элементы разногласий не были устранены заключением новой рыболовной конвенции. В первый же год осуществления новой конвенции, когда впервые японская рыбопромышленность на территории советского ДВ должна была базироваться на выполнении положений выработанных новой рыболовной конвенцией между Японией и СССР, разногласия в рыбопромышленных вопросах проявились с еще большей силой чем в прежние годы, в результате чего возник ряд вопросов, как напр.: вопрос о споре из-за рыболовных участков на территории советского Дальнего Востока между группировкой Сима Токузо и Ничиро Гиогио Кайша; вопрос о переговорах с СССР об урегулировании этого вопроса; вопрос о временном занятии рыболовных участков, ранее эксплоатировавшихся японскими рыбопромышленниками, советскими госорганизациями; вопрос о сдаче в аренду частным советским рыбопромышленникам рыболовных участков, ранее эксплоатировавшихся японскими рыбопромышленниками и тех рыболовных участков, на которые поданы заявления со стороны японских рыбопромышленников; вопрос о переговорах об условиях труда в японской рыбопромышленности на территории советского Дальнего Востока с местными советскими властями; вопрос о самостоятельном выходе на промысла Союза Рорио Суйсан Кумиай. Сущность этих вопросов, несмотря на то что они являлись сенсационными вопросами для обоих народов, понять очень трудно и мы в настоящей статье постараемся ознакомить наших читателей с процессом возникновения этих вопросов, в каком положении они находятся в настоящее время и в каком смысле их следует понимать.

Японо-советский рыболовный договор во втором пункте статьи второй говорит следующее:

„Торги на рыболовные участки будут иметь место во Владивостоке в феврале каждого года и о времени и месте, для этого установленных, а также о необходимых подробностях, касающихся аренды различных рыболовных участков назначенных к торгам, должно быть официально сообщено Японскому Консульскому Представителю во Владивостоке, по меньшей мере за два месяца до торгов".

На основании этого пункта договора 28 февраля должны были состояться первые торги. Перед тем Союз Рорио Суйсан Кумиай, выяснив желание своих членов 9 ноября 1928 года представил заявление о представлении ему 304 рыболовных участков (244 лососевых, 59 краболовных и 1 селедочный) в ДВ Управление Рыболовством и охотой на морского зверя. 23 декабря 1928 года советские местные власти, воспользовавшись пребыванием в Хабаровске советников Союза Р.С.К. г.г. Хирацука Цунедзиро и Накасе Сукетаро, командированных из Токио 30 ноября того же года для урегулирования ряда рыбопромышленных вопросов, ознакомили последних с проэктом деталей аренды рыболовных участков, обусловленных параграфом вторым статьи второй рыболовной конвенции. 26-го декабря советские власти официально сообщили Японскому Правительству содержание выработанных ими условий аренды рыболовных участков. Наиболее важные пункты этих условий в общих чертах сводятся к следующему:

1. Торги на рыболовные участки произойдут в конторе ДВ Управления Рыболовства и охоты на морского зверя в городе Владивостоке 28 февраля 1929 года.

2. В торгах разрешается принять участие, как советским гражданам и организациями, так и иностранцам.

3. Рыболовный сезон должен быть закончен 7 сентября.

4. Об'ектом для японских рыбопромышленников на торгах явятся 283 участка, из которых 173 лососевых и 9 краболовных, эксплоатировавшихся ранее японскими рыбопромышленниками и 83 лососевых и 13 краболовных, которые ранее не эксплоатировались японскими рыбопромышленниками, но на занятие их поданы заявления со стороны японских рыбопромышленников.

По поводу этого 7 сего января в правлении Союза Р.С.К. состоялось об'единенное совещание, которое после обсуждения вопроса вынесло протест против вышеназванных условий аренды участков и обратились к надлежащим лицам с просьбой о их ходатайстве перед Советским Правительством об исправлении условий аренды.

В это же самое время все японские газеты повели определенную анти-советскую компанию, стараясь доказать что новые условия аренды рыболовных участков разрушают основания рыболовной конвенции и тем самым возбудить анти-советские настроения в японской общественности. Советские газеты в свою очередь, с органом Советского Правительства „Известия" во главе, обрушились нападками на позицию японских рыбопромышленников и японских газет, стараясь об'яснить это неудачей политики Японии в Китае, напряжением политических разногласий внутри Японии и приближением рыболовного сезона с одной стороны и желанием японских рыбопромышленников сорвать рыболовную конвенцию и возвратить время их безконтрольного хозяйничания в водах советского Дальнего Востока с другой стороны, в то же время выражали уверенность в том что Японское Правительство не поддастся интригам японских рыбопромышленников.

Вышеизложенное говорит о том насколько отношения обоих сторон в рыбопромышленных вопросах были напряжены и следовательно насколько трудно было гладко

вительством, на основании которого Советское Правительство вступает в переговоры с концессионером по данному вопросу.

Советское Правительство предоставляет концессионеру 2 рыболовных участка, которые должны иметь каждый площадь в 400 метров вдоль берега моря и земельный участок в 400 метров длиной и 120 метров шириной, при чем земельный участок если он не одинаков с таковым же указанным в ст. приведенной выше, дается независимо от последнего.

Краболовный участок имеет площадь 5.300 метров вдоль берега, площадь земельного участка определяется в 400 метров длиной и 120 метров шириной и краболовный промысел должен производится на глубине более 21,80 метров.

Концессионеру предоставляется право беспошлинного ввоза необходимого для консервного завода оборудования в течение срока действия настоящего договора.

Концессионер обязуется уплачивать Советскому Правительству за один ящик консервов весом в 22,32 киллограмм нетто, до 15 декабря каждого года, специальную плату (долевое отчисление) в следующих размерах:

Красная кета	20 копеек
Кета, чавыча и кижуч	16 копеек
Горбуша	9 копеек
Крабы	40 копеск.

Концессионер обязуется уплачивать ежегодно арендную плату за рыболовные участки, упомянутые в статье приведенной выше.

Сумма арендной платы должна определиться после торгов на рыболовные участки в 1929 году, согласно постановлений японо-советского рыболовного договора.

Концессионер обязуется вносить арендную плату по полугодиям не позднее 2 января и 1 июля.

Сумма арендной платы согласно постановления японо-советской рыболовной конвенции изменяется через каждые три года.

В случае когда концессионер желает передать все или часть своих прав и обязательств по настоящему договору третьему лицу, он должен обязательно получить на это разрешение Советского Правительства.

Согласно настоящего соглашения о консервых заводах в истекшем 1929 году между заинтересованными японскими рыбопромышленниками и подлежащими властями СССР должно было состоятся соглашение об установлении арендной платы за рыболовные участки принадлежащие консервным заводам после проведения торгов на все рыболовные участки, сдаваемые в аренду японским рыбопромышленникам. Однако, в виду того что проведение торгов весной 1929 года неожиданно встретилось с рядом конфликтов между сторонами, в результате обсуждения вопроса об арендной плате за участки принадлежащие консервным заводам было решено в рыболовном сезоне 1929 года установить временную арендную плату, оставив вопрос об определении постоянной арендной плате за эти участки до торгов будущего то есть 1930 года.

Ниже мы считаем не лишним поместить таблицу рыболовных участков, принадлежащих консервным заводам японских рыбопромышленников (Размер арендной платы в ней, также как и нормы улова указаны на основании данных представленных японской стороной после заключения договора советской стороне и составленных по примеру прошлого года):

Таблица участков, принадлежащих к консервным заводам.

№ завода	Местонахождение завода	Номера рыболовных участков при заводах.	Арендатор	Арендная плата	Норма улова рыбы.
1	В 4 верстах на северо-восток от р. Камчатки	245 В 245 Г	Акц.О-во Ничиро Гиогио кайша	22.483 руб. 31.873 „	110.000 пудов 165.000 „
2	В 10 верстах на юго-запад от р. Камчатки	243 А 242	„	34.500 „ 47.030 „	165.000 „ 190.000 „
3	В 34 верстах на юго-запад от реки Камчатки	241 Г 241 Д	„	50.600 „ 13.887 „	137.000 „ 66.000 „
4	В 8 с половиной верстах на север от р. Озерной	230 231	„	13.358 „ 13.098 „	60.000 „ 66.000 „
5	В 4 с половиной верстах на север от р. Яина	225 224	„	21.293 „ 17.854 „	108.000 „ 81.000 „
6	В 4 с половиной верстах на юг от р. Госе	220 А 220	„	6.480 „ 14.835 „	60.000 „ 60.000 „
7	В 14 с половиной верстах на север от р. Опала	216 И 216 З	„	6.613 „ 3.836 „	42.000 „ 20.000 „
8	В 26 верстах на юг от р. Большой	216 В 216 Г	„	5.290 „ 4.497 „	34.000 „ 32.000 „
9	В 10 верстах на юг от р. Большой	209 210	„	9.258 „ 13.550 „	60.000 „ 25.620 „
10	В 12 верстах на север от р. Большой	201 200	„	23.805 „ 27.772 „	150.000 „ 150.000 „
11	В 4 с половиной верстах на север от р. Пымты	182 Б 182 А	„	4.960 „ 4.083 „	34.000 „ 40.000 „
12	В 5 верстах 200 сажней на север от р. Кефты	179 Д 179 В	„	4.867 „ 4.365 „	34.000 „ 34.000 „
13	В 12 с половиной верстах на север от р. Воровской	171 Т 172	„	13.093 „ 9.919 „	76.000 „ 56.000 „
14	В 30 с половиной верстах на север от реки Воровской	171 О 171 П	„	14.486 „ 10.580 „	34.000 „ 53.000 „
15	В 6 с половиной верстах на юг реки Конпа	167 167 А	„	7.010 „ 9.614 „	42.000 „ 38.000 „
16	В 7 с половиной верстах на север от р. Сопочной	Краболовный 29 Б	„	13.800 „	10.000 ящиков
17	В 46 с половиной верстах на север от реки Сопочной	Тоже 29Г 29Д	„	11.040 „ 8.400 „	8.000 „ 8.000 „
18	В 5 верстах 200 сажней на север от р. Сопочной	„ 29 29К	„	10.350 „ 8.400 „	7.500 „ 8.000 „
19	В 4 с половиной верстах на север от реки Госе	219 А 218 В	„	9.126 „ 24.467 „	60.000 пудов 135.000 „
20	В 4 с половиной верстах на юг от реки Ичи	144 крабол.30	Ясима Хачиро „	6.785 „ 6.900 „	38.000 „ 5.000 „
21	В 30 верстах на юг от реки Большой	216 Д	О-во Хатакеяма Гоомей	3.307 „	24.000 „
22	В 2 верстах на север от реки Паланы	119 118	Акц. О-во Мацуда Сюкай	3.307 „ 2.300 „	20.000 „ 15.000 „
Итого	22 завода	42 участка	4 предпринимателя	563.272 „	2.504.620 пудов рыбы 46.500 ящиков крабовых консервов

договора и прежней рыболовной конвенции, согласно которых не признавалось никаких ограничений ни как к числу занимающихся рыболовством, так и к национальности последних. Советский же проэкт предлагал значительные ограничения, сущность которых сводилась к следующему: Согласно предложенного советской стороной проэкта японские рыбопромышленники обязуются в первом же году после заключения договора нанять советских рабочих в следующем процентном соотношении: 15% набережных и 10% для работ в открытом море соответственно числу всех занятых на предприятии рабочих, при чем это число рабочих должно соответственным образом ежегодно увеличиваться, с тем чтобы к пятому году советские рабочие составляли половину всех набережных и 30% всех работающих в открытом море.

Так как требования советской стороны явно ставили в невыгодное положение японскую рыбопромышленность на территории советского Дальнего Востока, японские представители заняли в этом вопросе твердую позицию и резко выразили свой протест против предложений советской стороны, на том основании, что японская рыбопромышленность в водах советской территории находится на совершенно ином положении в отличие от других японских предприятий на советской территории, а потому к ней не могут быть применены постановления о труде другого иностранного государства, что принудительный наем неопытных советских рабочих на японские предприятя противоречит общему духу найма японских рабочих в Японии и т. д.

В результате долгих прений между сторонами вопрос этот также был разрешен в общих чертах, так как настаивала японская сторона т. е. в отношении национальности нанимаемых рабочих принят принцип найма рабочих без ограничения национальности, в отношении принудительного найма советских рабочих на предприятия японских рыбопромышленников, советская сторона сняла свое предложение. Что же касается применения советского кодекса о труде к рабочим на предприятиях японских рыбопромышленников, то в статьях где о нем упоминается внесены значительные изменения, исключения и дополнения, в соответствии с особенностями японской рыбопромышленности в водах советского Дальнего Востока.

5. Одним из наиболее трудных вопросов был также вопрос об установлении срока действия пересмотренного договора, который был разрешен с большим трудом и сопровождался горячими прениями с обоих сторон. Согласно прежнего договора срок действия договора должен быть продленным на 12 лет. Советская же сторона предложила сократить этот срок на 4 года. В конце концов было решено установить срок действия пересмотренного договора в 8 лет, с тем чтобы после вторичного пересмотра договора по истечении 8 лет, срок действия его был установлен в 12 лет.

Перечисленные вопросы были наиболее трудно разрешимыми в переговорах сторон Кроме этих больших вопросов было не мало и мелких вопросов, которые создавали не малые затруднения в ходе переговоров. Но в конце концов все препятствия были преодолены благодаря упорных усилий с обоих сторон.

Проследив ход переговоров, мы можем сделать вывод, что все затруднения в них происходили, вследствие различия в государственном строе, во внутреннем управлении, политике и сущности народного хозяйства договаривавшихся стран, а также вследствие того что Япония стремилась пересмотреть рыбопромышленный договор, оставив незыблемыми положения выраженные в Портсмутском договоре и заключенной после него

японо-русской рыболовной конвенции, советская же делегация стремилась к изменению в корне прежней конвенции. 7 мая 1928 года СССР ратифицировал договор и выслал его в Японию, 22 мая договор был ратифицирован Японией, а 23 мая произошла церемония обмена ратификациями пересмотренного договора и с 28 мая он вступил в полную силу.

VI. СОГЛАШЕНИЕ О КОНСЕРВНЫХ ЗАВОДАХ.

Переговоры о заключении договора о японских консервных заводах, на основании протокола Ц. § В. рыбопромышленного договора, открылись с 10 июля 1928 года между господином Синдоо, представителем заинтересованных рыбопромышленных кругов Японии и Главным Концессионным Комитетом Союза ССР, но в виду того что к назначенному сроку их окончания 28 июля они не пришли к соглашению, срок этот был продлен до 15 сентября 1928 года, до истечения которого и состоялось соглашение между обоими сторонами.

Официальное подписание этого договора состоялось, по причине перередактирования статей договора и печатания их, 1 ноября 1928 года в Москве с одной стороны г. Синдоо и с другой советским Правительством.

Важные пункты договора представляются в следующем виде:

Советское Правительство на основании настоящего договора дает концессионеру право на организацию предприятий, которые ставят себе целью обработку рыбы и других предуктов моря и продажу их.

Примечание: Концессионер имеет право производить продукты соленые, копченые, мороженные и сушеные, путем использования части рыбопродукции уловленной в районах определенных ст. 6 в размере не более 60% всего уловленного количества рыбы, независимо от того будут это консервы или другие продукты.

Советское Правительство предоставляет концессионеру право на организацию следующих побочных предприятий на концессионном предприятии:

а) производство тука и рыбьего жира путем использования малоценных пород рыбы (запрещается производство тука и рыбьего жира из рыбы лососевых пород и сельди) и отбросов, получающихся в результате обработки морских продуктов.

б) заготовка икры.

в) производство тары для продуктов концессионного предприятия.

Настоящий договор, вступив в действие, имеет силу до 1-го декабря 1938 года.

Примечание: Все упомянутые в этом договоре сроки следует исчислять с того дня когда договор вступит в действие, если они не обусловлены особыми постановлениями.

Советское Правительство предоставляет концессионеру, намеривающемуся заняться вышеуказанными производственными предприятиями, право использования земельного участка площадью в 500 метров длиной и 200 метров шириной, находящегося в …… верстах от устья……вместе с зданием консервного завода имеющего……линий, жилыми и нежилыми строениями, со всем оборудованием и пр. находящимся на данной площади.

В случае надобности расширения района определенного в этой статье концессионеру предоставляется право возбудить соответствующее ходатайство перед Советским Пра-

лось весьма много различных совещаний. Мы не будем здесь останавливаться на содержании каждого из них, а укажем лишь на те расхождения, которые определились между сторонами в результате этих совещаний и на те достижения, которые получены в результате стараний, приложенных сторонами для разрешения вопросов на переговорах по пересмотру японо-русской рыболовной конвенции.

IV. ВОПРОС О РЫБОПРОМЫШЛЕННЫХ УЧАСТКАХ.

Неотложным вопросом на происходивших переговорах являлся вопрос о распределении рыболовных участков. Этот вопрос имеет тесную связь с вопросом о предоставлении рыболовных участков советским госорганизациям на льготных условиях и участии кооперативных организаций на торгах. Японские рыбопромышленники, проявляя большое беспокойство о том, что в том случае если советским госорганизациям будет предоставлено преимущественное право получать рыболовные участки без торгов, а кооперативным организациям получать таковые на торгах, не войдут ли в число этих рыбалок также и те, которые до сих пор были арендованы японскими рыбопромышленниками и эксплоатировались ими с таким большим трудом и жертвами и благодаря особенным усилиям в настоящее время представляют собой прекрасно оборудованные промысла,—настаивали на исчерпывающем разрешении вопроса. Для рыбопромышленников разрешение этого вопроса было настолько важным, что они решили не уступать в нем ни на иоту и настаивать на заключении договора, после разрешения вопроса о распределении рыболовных участков. Однако оба представителя Японского Правительства были не согласны с мнением заинтересованных рыбопромышленников и хотели заключить договор возможно скорее, оставив разрешение вопроса о распределении рыболовных участков после подписания конвенции. Договор был временно подписан 11 октября 1927 года г. г. Караханом и Танака, но вследствие резкой оппозиции со стороны японских рыбопромышленников, переговоры об окончательном подписании договора очутились снова в тупике и только в конце 1927 года, благодаря поездке покойного графа Гото в Москву и его содействию в разрешении некоторых вопросов, был снова найден путь для соглашения и договор был официально подписан 23 января 1928 года, с оставлением разрешения вопроса о распределении участков после подписания договора до его ратификации.

Теперь мы скажем несколько слов о внутреннем содержании происходивших переговоров.

V. АНАЛИЗ РЫБОПРОМЫШЛЕННОГО ДОГОВОРА.

Первые совещания переговоров о пересмотре японо-русской рыболовной конвенции были посвящены обсуждению проэктов пересмотренного договора, предложенных обоими сторонами. Проэкты эти значительно отличались друг от друга благодаря тому что каждая сторона хотела занять для себя наиболее выгодное положение. Так, проэкт японской стороны был составлен в том духе, чтобы положения, выработанные Портсмутским договором оставались в силе и на будущее время, проэкт же советской стороны вносил значительные изменения в старую рыболовную конвенцию. Чтобы понять, почему переговоры о пересмотре японо-русской рыболовной конвенции не могли закончиться быстро и не раз встречались с большими затруднениями, необходимо знать сущность отличий существовавших проэктов пересмотра рыболовной конвенции. Здесь

мы остановимся на более важных из них:

1. В вопросе о пределах рыболовства, японский проэкт за основание принял положения, изложенные в прежнем договоре, советский же проэкт значительно сокращал и ограничивал пределы по сравнению с прежним договором. Однако, в конце концов, советская сторона согласилась с требованиями японской стороны в этом вопросе.

2. В вопросе о рыбопромышленном праве, в общих чертах японский проэкт был составлен в том же духе, как и прежний договор. Но советский проэкт вносил значительные перемены в прежний договор, требуя преимущественных прав дла государственных рыбопромышленных организаций СССР и кооперативов, ибо это вытекало из самой сущности государственного строя СССР, который национализировал у себя всю промышленноть, а следовательно и рыбопромышленность. Японская сторона не могла признать этих требований и заинтересованные рыбопромышленники выражали не раз свои резкие протесты, не взирая на то что это вызывало разрыв переговоров. Вследствие этого вопрос о рыбопромышленном праве стал самым важным и самым трудным вопросом в переговорах о пересмотре японо-русской рыболовной конвенции из всех обсуждавшихся вопросов. Благодаря тому, что вопрос этот не мог легко разрешиться, заседания конференции не раз прерывались. В конце концов хотя и был заключен договор, этот вопрос оставался открытым некоторый период времени.

3. Не менее важным и трудным вопросом являлся вопрос о консервных заводах в районах рыбных промыслов, уже существующих или предполагаемых. Японский проэкт предусматривал свободное использование побережий, в районах расположения рыбных промыслов, следовательно и свободу сооружения построек, как это было в прежнем договоре. Советский проэкт соглашался с предоставлением свободы ловли на арендованных участках и обработки рыбопродуктов, но в отношении сооружения построек вносил слово „временных“. В отношении же консервных заводов уже существующих или предполагаемых предлагал заключение особых договоров на концессионных началах. Кроме того советской стороной выставлялось требование о признании распространения одного из пунктов советского законодательства, гласящего, что „эксплоатация заводов, которые имеют более 20 рабочих и машины не разрешается частным лицам“ также и на рыболовные промысла японских рыбопромышленников. Несмотря на то, что советская сторона сильно настаивала на признании своих требований, вопрос был разрешен в конце концов, так как хотела японская сторона, что явилось следствием ее непреклонной и твердой позиции в этом вопросе. Решения этого вопроса в кратких чертах представляются в следующем виде:

A. В отношении заводов, устроенных при арендованных на торгах рыбалках арендатору следует только подать соответствующее заявление советской стороне.

B. В случае когда японские рыбопромышленники пожелают продолжить эксплоатацию имеющихся у них зоводов при заключении договора, они принципиально должны заключить особый договор, если же они не пожелают заключать такового, им представляется право, в случае получения рыбалки на торгах, поступить так как указано в пункте A, т.е. подать соответствующее заявление советской стороне.

4. Вопрос о найме рабочих представил также не мало затруднений для своего разрешения. Сущность разногласий в этом вопросе заключалась в том что японский проэкт, как и в большинстве вопросов предусматривал оставление в силе Портсмутского

по визированию паспортов во главе с г. Гольцманом. Благодаря этому нашим рыбопромышленникам были открыты широко двери для занятия рыбным промыслом на русском Дальнем Востоке спокойно и беспрепятственно. Пользуясь, таким образом, особым расположением советских властей Союз Рорио Суйсан Кумиай послал в этом же году своих представителей для сведения счетов за самостоятельный выход на промысла в предыдущие годы. Делегация эта была командирована в октябре 1923 года и вела переговоры с г. Андриановым. В результате переговоров Рорио Суйсан Кумиай согласился принять на себя 2.755.000 золотых рублей, из каковой суммы 1.000.000 иен были переданы полномочному представителю г. Иоффе. В это же время было подписано временное соглашение о трехлетней аренде 234 рыболовных участков. Временное соглашение это было составлено в следующем духе:

1. Дальне-Восточное Правительство обещает сдать в аренду японским подданным рыболовные участки в течение трех лет с 1924 по 1926 г.

2. Срок аренды может быть продолжен, по желанию японских рыбопромышленников, независимо от того, будут ли взяты новые рыболовные участки или останутся прежние. Заявления о желании получить в аренду рыболовные участки от японских подданных должны быть подаваемы коллективно, по примеру 1923 года.

3. Плата за продолженную аренду может быть установлена по примеру 1923 года.

4. Для того, чтобы японские рыбопромышленники могли заниматься рыбной ловлей безпрепятственно, Дальне-Всточное Правительство может командировать своих чиновников по визированию паспортов, по примеру 1923 года.

5. Плата за визирование паспортов и деловых бумаг рабочих, которые будут заняты на рыбных промыслxx будет взиматься по примеру 1923 года.

6. 5% налог, взимаемый за разведение рыбы, будет включен в арендную плату.

Таким образом обществу Рорио Суйсан Кумиай в конце концов удалось успешно закончить переговоры и заключить временное соглашение, благодаря проявленному искренному стремлению и усердию в переговорах. Конечно успеху переговоров также не мало содействовало и Дальне-Восточное Правительство, которое внимательно и с полным пониманием отнеслось к желаниям японских рыбопромышленников и охотно пошло на некоторые уступки. Кроме того этому же содействовало и арендное соглашение 1923 года.

III. ПОДТВЕРЖДЕНИЕ РЫБОЛОВНЫХ ПРАВ ЯПОНСКИХ ПОДДАННЫХ ПЕКИНСКИМ ОСНОВНЫМ ЯПОНО-СОВЕТСКИМ ДОГОВОРОМ.

Так как 12-ти летний срок японо-русской рыболовной конвенции подходил к концу, назревала необходимость к его возобновлению. Но в тот момент разыгралась русская пролетарская революция, благодаря которой возобновление срока действия конвенции было отложено на неопределенное время. Вследствие того, что политическая обстановка СССР в то время не была вполне устойчивой и определенной, оба государства не нашли случая поднять вопрос о возобновлении срока рыболовной конвенции. Однако, колеблющееся положение власти, переходившей из рук в руки, на русском Дальнем Востоке, создавало большие затруднения в занятиях промыслом на русской территории японских рыбопромышленников. Эти затруднения усугублялись еще больше тем, что переговоры начинавшиеся между обоими правительствами обычно принимали затяжной характер и вслед затем оканчивались полной неудачей. 20 января 1925 года был заключен основной японо-советский договор и восстановлены дипломатические сношения-обоих государств. Этим договором был положен предел злополучиям японских рыбопромышленников, имеющих предприятия на русском Дальнем Востоке, так как вновь заключенный договор подтвердил права японских рыбопромышленников, приобретенных Портсмутским договором. Второй пункт этого договора гласит: „Советское Правительствт общает продолжить в полной силе Портсмутский договор, заключенный 5 сентября 1905 года,, и статья 3:“ ..... оба договаривающиеся правительства, в порядке осуществления сего договора, уславливаются. что, вследствие перемен, происшедших в общей обстановке после заключения рыболовной, конвенции 1907 года, означенная конвенция должна быть пересмотрена. Впредь до подписания пересмотренной конвенции, правительство СССР обязуется неизменно сохранить установленные в 1924 году способы осуществления сдачи в аренду рыболовных участков японским подданным“.

Таким образом, рыболовное право, которое получила Япония Портсмутским договором, право которое мы считаем правом нашего государства, было формально подверждено Пекинским договором, что явилось естественным результатом общего хода событий.

Вопрос о рыболовстве японских подданных в водах русского Дальнего Востока был самым важным и самым трудным вопросом в японо-советских отношениях. Если бы стороны в этом вопросе не достигли взаимного понимания, едвали конференция могла бы кончиться успешно. Тот факт что Советское Правительство, об'явившее анулирование долгов царской Росси иностранным государствам, признало Портсмутский договор, может считаться известным достижением нашей дипломатии.

Согласно вышеуказанным пунктам договора с 22 декабря 1925 года были открыты переговоры по пересмотру рыболовной конвенции в Москве, которые продолжались там в течение 2 лет и 1 месяца.

На эти переговоры Японское Правительство в качестве своего представителя отправило начальника департамента морской промышленности Министерства земледелия и лесопромышленности г. Мацуура, инженера Министерства земледелия и лесоустройства г. Косида и советника Иде. От рыбопромышленников (Рыбопромышленный Союз Рорио Суйсан Кумиай) на переговоры были командированы г. г. Накатани, Хасигучи и Синдо. Кроме перечисленных лиц на переговорах с японской стороны принимали ближайшее участие Японский посол в Москве г. Танака, чиновник особых поручений Ямазаки, секретари, г. г. Сакава и Ниси и переводчики г. г. Симада и Миякава. Со стороны СССР на переговорах присутствовали: Аралов (Полномочный Представитель СССР на переговорах), Лацис (заместитель полпреда) Лашкевич, Андрианов, Хапкин, Эргамышев, Казаков, Крышев, Читчев, Чербаев и Попов. Однако состав участвующих на переговорах до конца их не оставался неизменным и соответственно успеху или затруднениям в переговорах часто изменялся. Так например в августе 1926 года, по распоряжению Союза Рорио Суйсан Кумиай г. г. Хасигучи и Накатани возратились в Японию, 22 ноября того же года покинул переговоры г. Мацуура представитель Японского Правительства, отозванный в Токио по распоряжению Министерства земледелия и лесоустройства, и вместо него на переговоры выехал г. Охама. В составе советской делегации г. Аралов заменил г. Стомонякова и г. Карахан заменил г. Аралова. В продолжении переговоров т. е. с 22 декабря 1925 года по 23 января 1928 года созыва-

с постановлениями Рыболовной Конвенции были бы сданы в аренду местному крестьянскому и ловецкому населению без торгов, на основании постановлений статьи 19 Протокола „А“ то продолжительность аренд рыболовных участков установленная первой частью статьи 6 протокола „А“ само собою разумеется должна применяться к вышеупомянутой аренде.

Уполномоченные Японии согласился с этим.

4. Уполномоченные Японии и Союза Советских Социалистических Республик согласились, что первая часть декларации 2-го пункта 15-го параграфа, 1-го раздела Заключительного Протокола имеет в виду предотвращение недобросовестных надбавок во время торгов на рыбные участки и она ни коим образом не должна влиять на предусмотренные в разделе 1-ом пункта А, параграфа 1-го, части 1-ой Заключительного Протокола условия.

5) По случаю подписания Рыболовной Конвенции, Уполномоченные обоих Высоких Договаривающихся Сторон заявили, что каждое из двух Правительств готово оказать необходимые облегчения экспертам другой стороны, желающим производить официальные или частные, технические или научные исследования по вопросам, относящимся к рыболовству и, что, если в будущем, одно из Правительств признает это желательным, оно пригласит экспертов другого сотрудничать в таких исследованиях.

6. Уполномоченные Союза Советских Социалистических Республик заявили, что, признавая большое экономическое значение рыболовной промышленности Японских подданных в районах, на которые распространяется действие Рыболовной Конвенции, правительство Союза Советских Социалистических Республик готово при применении названной Конвенции считаться с законными и разумными интересами Японских подданных.

ОБЩИЙ ОЧЕРК О ЯПОНСКОЙ РЫБОПРОМЫШЛЕННОСТИ В ВОДАХ СОВЕТСКОГО ДАЛЬНЕГО ВОСТОКА.

I. ПРАВА РЫБОЛОВСТВА, КОТОРЫХ ДОБИЛАСЬ ЯПОНИЯ НА РУССКОМ ДАЛЬНЕМ ВОСТОКЕ.

Без сомнения, что экономически Япония и Союз ССР весьма тесно связаны друг с другом. Важнейшим же вопросом в этих отношениях является вопрос о правах рыболовства японских рыбопромышленников в водах территории советского Дальнего Востока, который имеет актуальное значение для всей экономики нашей страны.

Результаты переговоров, происходивших ранее в Москве между представителями Японии и Советского Правительства, занимали не только заинтересованную непосредственно в разрешении этого вопроса часть японских рыбопромышленников, не только японское общество, которое обычно к подобным вопросам относилось более или менее индеферентно, не только представителей правительства, которые вели переговоры, но и весь японский народ, так как результаты этих переговоров имели громадное значение для всей нации, ибо рыболовное право, приобретенное нами, есть право нашей Империи.

Рыбопромышленность в водах русского Дальнего Востока играет большую роль в нашей промышленной политике и в политике снабжения населения продовольствием, а также имеет глубокую связь с народным хозяйством страны.

Еще в первые годы Мейдзи наши пионеры обращали внимание на рыбный промысел в водах русского Дальнего Востока. Потом он стал носить вначале частный характер и вслед затем оффициальный. Законно право рыболовства было установлено мирным договором, заключенным между царской Россией и Японией в Портсмуте, давшим возможность японским подданным заниматься рыбным промыслом в водах русского Дальнего Востока на основе свободной конкуренции.

Таким образом права рыболовства были получены нами благодаря русско-японской войны, которая была для нас большой жертвой. Поэтому мы называем это право „правом нашего государства“. Оно стоило нам больших потерь, добыто кровью нескольких сот тысяч наших соотечественников и потому необходимо понять, как оно дорого нам.

С тех пор прошло 20 лет. С годами, благодаря стараниям и энергии, приложенным нашими рыбопромышленниками, рыбный промысел в водах русского Дальнего Востока развился до такой степени, что в последние годы он давал 40 и более миллионов иен дохода в год. Кроме того, он обогатил снабжение населения здоровою пищей, увеличил сумму вывоза, которая достигла в последнее время 30 миллионов иен. В связи с развитием промысла увеличился общий тоннаж судов для рыболовства, превышающий в в настоящее время 200.000 тонн, и число трудящихся занятых в этой отрасли промышленности до 20.000 человек.

Все эти цифры красноречиво говорят о том, что рыбный промысел в водах русского Дальнего Востока имеет громадное значение не только для ограниченного числа японских рыбопромышленников, имеющих свои предприятия на русской территории, но и для развития народного хозяйства Японии, которое в некоторой степени зависит от рыбных промыслов в водах русского Дальнего Востока.

II. ИСТОРИЯ ВРЕМЕННОГО СОГЛАШЕНИЯ О РЫБОЛОВСТВЕ В ВОДАХ РУССКОГО ДАЛЬНЕГО ВОСТОКА.

Когда русский Дальний Восток фактически и формально присоеденился к СССР в ноябре 1922 года, мы встретили этот факт с большой радостью. Особенно событие это было радостно встречено в кругах рыбопромышленников, так как в течение целого ряда лет японским рыбопромышленникам приходилось работать при постоянном сознании риска, благодаря тому что политическая обстановка на русском Дальнем Востоке была насыщена парами неуверенности и беспокойства. Общее неуверенное положение на Дальнем Востоке в 1921 и 1922 годах заставило наших рыбопромышленников выйти на промысла самостоятельно, без разрешения русских властей, так как были все основания опасаться, что выход на промысла под охраной слабых и неавторитетных антисоветских властей, может повлечь весьма нежелательные последствия в будущем.

Когда Дальний Восток фактически был возвращен под суверинитет СССР в 1926 году Рорио Суйсан Кумиай послал своих представителей г. г. Хасимото Цузума, Танакамару Юко и др, для ведения переговоров с Дальне-Восточным Управлением рыболовства и охоты, в результате которых был подписан договор на аренду 269 рыболовных участков и внесено в Управление 1.150.000 золотых рублей. Как раз в то время в Японии находился, по приглашению виконта Гото, полномочный представитель СССР г. Иоффе, который поняв всю искренность стремлений Союза Рорио Суйсан Кумиай, оказал содействие по откомандированию из Владивостока группы советских чиновников

Господину Токиши Танака
Уполномоченному Японии.

№ 3 Москва „23“ января 1928 г.

Господин Уполномоченный

Имею честь подтвердить получение от Вас, сего числа следующей ноты:

„Господин Уполномоченный

Имею честь заявить от имени моего Правительства что во время действия Рыболовной Конвенции Центросоюз Союза Советских Социалистических Республик не имеет намерение заниматься рыболовным промыслом в местностях определенных в статье 1 Конвенции“.

Имею честь констатировать в ответ, что я принимаю к сведению Ваше вышеупомянутое сообщение.

Пользуюсь этим случаем чтобы возобновить перед Вами Господин Уполномоченный уверения в самом высоком моем уважении.

Господину Льву Карахану
Уполномоченному Союза Советских Социалистических Республик. м. п.

№ 4 Москва „23“ января 1928 г.

Господин Уполномоченный,

Имею честь сообщить Вам от имени моего Правительства что Правительство Союза Советских Социалистических Республик соглашается условиться, что если одно из двух Правительств так предложит, в любое время после торгов 1928 года способ получения аренды рыболовных участков различными кооперативными обществами Союза Советских Социалистических Республик должен будет служить предметом переговоров между обоими Правительствами и с того времени должен быть подчинен решению принятому на таких переговорах. Что касается мер подлежащих принятию в случае если переговоры не смогут быть закончены заблаговременно до очередных торгов, то соответствующий модус-вивенди должен быть установлен обоими Правительствами.

Пользуюсь этим случаем что бы возобновить перед Вами, Господин Уполномоченный, уверения в самом высоком моем уважении.

Господину Токиши Танака м. п.
Уполномоченному Японии.

№ 4 Москва „23“ января 1927 г.

Господин Уполномоченный

Имею честь подтвердить получение от Вас сего числа следующей ноты:

„Господин Уполномоченный

Имею честь сообщить Вам от имени моего Правительства что Правительство Союза Советских Социалистических Республик соглашается условиться, что если одно их двух Правительств так предложит в любое время после торгов 1928 года—способ получения аренды рыболовных участков различными кооперативными обществами Союза Советских Социалистических Республик должен будет служить предметом переговоров между обоими Правительствами и с того времени должен быть подчинен решению принятому на таких переговорах. Что касается мер подлежащих принятию в случае если переговоры не смогут быть закончены заблаговременно до очередных торгов, то соответствующий модус вивенди должен быть установлен обоими Правительствами“.

От имени моего Правительства имею честь констатировать, что Японское Правительство всецело соглашается с этой нотой.

Пользуюсь этим случаем что бы возобновить перед Вами Господин Уполномоченный уверения в самом высоком моем уважении.

ПРОТОКОЛ ПЛЕНАРНОГО ЗАСЕДАНИЯ

На Пленарном Заседании от сего числа соответственные Уполномоченные Союза Советских Социалистических Республик и Японии совместно рассмотрели нижеследующие документы:

1. Рыболовную Конвенцию между Союзом Советских Социалистических Республик и Японией.
2. Три Протокола, а именно Протокол „А“ Протокол „Б“ и Протокол „Ц“.
3. Один заключительный Протокол с двумя к нему приложениями.
4. Четыре обмена нотами.

Достигнув соглашения по всем текстам и постановлениям в них заключенным Уполномоченные официально подписали и скрепили печатями соответствующие документы.

Приступая к подписанию вышеупомянутых документов, Уполномоченные сделали соответственно следующие пояснения:

1) Относительно постановлений статьи XV Рыболовной Конвенции, Уполномоченный Японии высказал следующую точку зрения:

если бы случилось, что переговоры о пересмотре Рыболовной Конвенции не смогли бы закончится в срок, придусмотренный этой статьей, то само собой разумеется оба Правительства условились бы о каком либо модус-вивенди.

Уполномоченные Союза Советских Социалистических Республик пояснили, что они придерживаются такой же точки зрения.

2) Относительно постановлений статьи 10 Протокола „А“ приложенного к Рыболовной Конвенции Уполномоченные Союза Советских Социалистических Республик дали следующий ответ на вопрос Уполномоченного Японии.

Фраза „исключая случай когда в отношении отдельного третьего государства или государств вообще, изменяется таможенное обложение товаров туда вывозимых“ помещенная в первом абзаце этой статьи, понимается как относящаяся к таким чрезвычайным случаям, при которых Правительство Союза Советских Социалистических Республик принуждено производить какое-либо изменение вывозного тарифа как например если бы Правительство Союза Советских Социалистических Республик вступило бы в таможенную войну с отдельным третьим государством или государствами.

3) Уполномоченные Союза Советских Социалистических Республик пояснили, что если бы какие либо рыболовные участки открытые для эксплоатации в соответствии

№ 1 Москва „23“ января 1928 г.

Господин Уполномоченный

Имею честь подтвердить получение от Вас сего числа следующей ноты:

Господин Уполномоченный

В соответствии с постановлениями статьи III Рыболовной Конвенции между Союзом Советских Социалистических Республик и Японией подписанной сего числа а также с постановлениями статьи 9 Протокола „А“ к ней приложенного имею честь заявить от имени моего Правительства нижеследующее:

В виду особенностей рыболовного промысла японских подданных в Далене-Восточных водах Союза Советских Социалистических Республик Правительство Союза Советских Социалистических Республик согласно, что бы промысловый налог совместно с налогами поименованными в параграфах 6 и 9 статьи 9 Протокола „А“ подлежащие уплате японскими подданными выплачивались в форме паушальной суммы равной 28 процентам платы за аренду их соответствующих рыболовных участков при чем уплата производиться в то же самое время и в таком же виде как и упомянутая выше арендная плата“.

От имени моего Правительства я имею честь констатировать, что Японское Правительство всецело соглашается с этой нотой.

Пользуюсь этим случаем что бы возобновить перед Вами Господин Уполномоченный уверения в самом высоком моем уважении.

Господину Льву Карахану

Уполномоченному Союза Советских Социалистических Республик

№ 2 Москва „23“ января 1928 г.

Господин Уполномоченный

По поводу постановлений Раздела „Б“ параграфа 1 Заключительного Протокола приложенного к Рыболовной Конвенции между Союзом Советских Социалистических Республик и Японией подписанной сего числа имею честь довести до Вашего сведения от имени моего Правительства что ввиду того, что эти постановления обеспечивают на время действия Рыболовной Конвенции государственные предприятия Союза Советских Социалистических Республик необходимыми им рыболовными участками, эти предприятия должны будут во время действия Рыболовной Конвенции воздерживаться не только от прямого или косвенного участия в торгах на рыболовные участки, но также и от эксплоатации рыболовных участков сданных в аренду с торгов частным лицам или предприятиям.

Пользуюсь этим случаем что бы возобновить перед Вами Господин Уполномоченный уверения в самом высоком моем уважении.

Господину Токиши Танака м. п.

Уполномоченному Японии.

№ 2 Москва „23“ января 1928 г.

Господин Уполномоченный

По поводу постановлений Раздела „Б“ параграфа 1 Заключительного Протокола приложенного к Рыболовной Конвенции между Союзом Советских Социалистических

Республик и Японией подписанной сего числа имею честь довести до Вашего сведения от имени моего Правительства что ввиду того, что эти постановления обеспечивают на время действия Рыболовной Конвенции государственные предприятия Союза Советских Социалистических Республик необходимыми им рыболовными участками, эти предприятия должны будут во время действия Рыболовной Конвенции воздерживаться не только от прямого или косвенного участия в торгах на рыболовные участки, но также и от эксполоатации рыболовных участков сданных в аренду с торгов частным лицам или предприятиям.

Пользуюсь этим случаем что бы возобновить перед Вами Господин Уполномоченный уверения в самом высоком моем уважении.

Господину Токиши Танака м. п.

Уполномоченному Японии

№ 2 Москва „23“ января 1928 г.

Господин Уполномоченный

Имею честь подтвердить получение от Вас сего числа следующей ноты:

Господин Уполномоченный

По поводу постановления Раздела „Б“ параграфа 1 Заключительного Протокола, приложенного к Рыболовной Конвенции между Союзом Советских Социалистических Республик и Японией подписанной сего числа, имею честь довести до Вашего сведения от имени моего Правительства, что ввиду того, что эти постановления обеспечивают на время действия Рыболовной Конвенции государственные предприятия Союза Советских Социалистическх Республик необходимыми им рыболовными участкам, эти предприятия должны будут во время действия Рыболовной Конвенции воздерживаться не только от прямого или косвенного участия в торгах на рыболовные участки, но также и от эксплоатации рыболовных участков сданных в аренду с торгов частным лицам или предприятиям:

Имею честь констатировать в ответ, что я принимаю к сведения Ваше вышепомянутое сообщение.

Пользуюсь этим случаем, чтобы возобновить перед Вами Господин Уполномоченный уверения в самом высоком моем уважении.

Господину Льву Карахану.

Уполномоченному Союза Советских Социалистических Республик. м. п.

№ 3 Москва „23“ января 1928 г.

Господин Уполномоченный

Имею честь заявить от имени моего Правительства что во время действия Рыболовной Конвенции Центросоюз Союза Советских Социалистических Республик не имеет намерений заниматься рыболовным промыслом в местностях определенных в статье 1 этой Конвенции.

Пользуюсь этим случаем что бы возобноввть перед Вами, Господин Уполномоченный, уверения в самом высоком моем уважении.

род и количество таких предметов, устанавливаются арендаторами рыболовных участков и утверждаются компетентными местными органами Народного Комиссариата Труда.

Статья 14.

Рабочим и служащим воспрещается: а) курить в местах в которых имеется надпись о воспрещении курения:

б) менять, когда в этом нет необходимости, один род работы на другой;

с) самовольно в нарушение установленных правил пользоваться машинами, инструментами и приспособлениями для работы,

д) играть на работе в карты, клясться и браниться,

е) находиться на работе в нетрезвом виде,

ф) без соответствующего разрешения администрации приготовлять рыбу для своего личного потребления, как в рабочие часы, так и во всякое иное время, а равно обращать на свои собственные надобности приготовленную рыбу.

Статья 15.

В необходимых местах предприятия, администрация должна устроить умывальные приспособления, снабженные мылом для мытья рук.

Статья 16.

Достаточное количество умывальников должно быть устроено вблизи жилищ а равно и в других подходящих местах, которые должны содержаться в чистоте и должном порядке.

Статья 17.

У мест работы а также при рабочих жилищах администрация обязана устроить достаточное количество уборных, которые должны содержаться в чистоте и должном порядке. Пользование всякими местами не отведенными для ~~этой~~ цели воспрещается.

Статья 18.

Администрация должна что бы места рыбной ловли содержались в чистоте и принимать все необходимые санитарные меры. Рабочие и служащие со своей стороны отвечают за чистоту мест где они работают.

Статья 19.

Рабочие и служащие должны в интересах своего собственного здоровья соблюдать все санитарные правила и все правила охраны труда, которые будут вывешены на видном месте.

Статья 20.

Работы связанные со стихийными бедствиями обязательны для всех рабочих и служащих предприятия и должны выполняться по первому требованию администрации, безотносительно времени в течение которого они должны быть произведены.

Статья 21.

Настоящие правила внутреннего распорядка могут быть дополнены по соглашению

между рабочими и служащими с одной стороны и администрацией с другой стороны, с обязательным утверждением таких дополнений или изменений компетентными органами Народного Комиссариата Труда.

Статья 22.

Настоящие правила внутреннего распорядка должны быть вывешены для общего сведения на русском и японском языках на видном месте.

КАРТЫ УСТАНАВЛИВАЮЩИЕ ГРАНИЦЫ

1) Бухты Мечигме
2) Бухты Кониам, бухты Аболешова (Калаган) и бухты Румалет
3) Бухты святого Павла
4) Порта Карага
5) Северной части залива Барона Корфа
6) Бухты Бечевинской
7) Бухт Милькачинской и Ямской
8) Бухты Аян
9) Залива Великого Князя Константина
10) Бухты Крестовой.

ОБМЕН НОТАМИ

№ 1 Москва „23“ января 1928 г.

Господин Уполномоченный

В соответствии с постановлениями статьи III Рыболовной Конвенции между Союзом Советских Социалистических Республик и Японией подписанной сего числа, а также с постановлениями статьи 6 протокола „А“ к ней приложенного имею честь заявить от имени моего Правительства нижеследующее:

В виду особенностей рыболовного промысла Японских подданных в Дальне-Восточных водах Союза Советских Социалистических Республик Правительство Союза Советских Социалистических Республик согласно что бы промысловый налог совместно с налогами и сборами поименованными в параграфах 7 и 9 статьи 9 Протокола „А“ подлежащие уплате японскими подданными выплачивались в форме паушальной суммы 28 процентам платы за аренду их соответствующих рыболовных участков, причем уплата должна производиться в то же самое время и в таком же виде как и упомянутая выше арендная плата.

Пользуюсь этим случаем что бы возобновить перед Вами Господин Уполномоченный уверения в самом высоком моем уважении.

Господину Токиши Танака м. п.
Уполномоченному Японии.

ЧАСТЬ II

Уполномоченные Союза Советских Социалистических Республик и Японии согласны в том, что со вступлением в силу Рыболовной Конвенции, подписанной сего числа, должны считаться окончательно выполненными постановления первого абзаца статьи III Пекинской Конвенции заключенной 20 января 1925 года, и что Рыболовная Конвенция 1907 г. не имеет больше силы или действия.

Подписано в городе Москве в двух экз. на английском языке сего „23“ января 1928 г.

м. п. м. п.

м. п.

Приложение № 1.

ТИПОВЫЕ ПРАВИЛА

ВНУТРЕННЕГО РАСПОРЯДКА ДЛЯ РЫБОЛОВНЫХ ПРЕДПРИЯТИЙ ЯПОНСКИХ ПОДДАННЫХ В МЕСТНОСТЯХ ОПРЕДЕЛЕННЫХ В СТАТЬЕ ПЕРВОЙ РЫБОЛОВНОЙ КОНВЕНЦИИ МЕЖДУ СОЮЗОМ СОВЕТСКИХ СОЦИАЛИСТИЧЕСКИХ РЕСПУБЛИК И ЯПОНИИ.

Статья 1.

Начало и конец нормального рабочего дня, а равно специального рабочего дня в каждом месте рыболовства, должны быть установлены по соглашению между арендатором места рыбной ловли и компетентными органами Народного Комиссариата Труда.

Статья 2.

Упомянутое выше начало и конец рабочего дня сообщаются рабочим и служащим колоколом, свистком или иным подобным способом.

Статья 3.

В отношении лиц отсутствующих на работе по истечении 15 минут с момента сигнала, а равно в отношении тех, которые оставляют работу до окончания рабочего дня, когда такое отсутствие не оправдывается уважительными причинами может иметь удержание заработной платы, „куичи“ и других видов вознаграждения за пропущенное время.

Статья 4.

Рабочие и служащие, которые вследствие уважительной причины не придут или опоздают на работу, или оставят таковую до окончания рабочего дня, должны уведомить о том, своего непосредственного начальника и получить его согласие.

Статья 5.

Рабочим и служащим представляются перерывы работы для приема пищи и отдыха.

Статья 6.

Рабочие и служащие должны выполнять все относящиеся к их обязанностям распоряжения администрации и должностных лиц.

Статья 7.

Распределение работы между рабочими и служащими производится администрацией.

Статья 8.

Рабочие и служащие по характеру своей работы пользующиеся машинами, инструментами и приспособлениями для работы должны обращаться с таковыми с должной заботой.

Статья 9.

Администрация должна следить за тем, что бы никакие машины, инструменты и приспособления для работы не представляли опасности для жизни и здоровья и должны снабжать их необходимыми предохранительными приспособлениями. Сверх того администрация должна ознакомить рабочих и служащих впервые приступающих к работе, или впервые получающих данные инструменты, приборы и т.п. с употреблением таковых, а в особенности с опасными частями инструментов, приборов и т.п., а также с опасными или вредными моментами производства.

Статья 10.

Робочие и служащие пользующиеся машинами, инструментами и приспособлениями для работы должны принимать все необходимые меры предосторожности и обращаться с ними с наибольшим вниманием.

Статья 11.

В случае повреждения или непригодности машин, инструментов и приспособлений для работы, а равно и средств обеспечивающих работу таковых рабочие и служащие должны немедленно сообщать о том своему высшему начальнику.

Статья 12.

При всяком несчастном случае с рабочим или служащим во время его работы, пострадавший должен немедленно уведомить о том своего непосредственного начальника, а сам направиться в лазарет для получения медицинской помощи. Если пострадавший не в состоянии сам поступить таким образом, его товарищи по работе должны немедленно уведомить администрацию, которая должна срочно доставить пострадавшего в лазарет, и в то же время принять всевозможные меры предосторожности в отношении специально той работы, при которой произошел несчастный случай.

Статья 13.

Рабочим и служащим должны выдаваться специальная одежда и обувь, а также предохранительные приспособления на тех работах, которые предусмотрены специальными постановлениями Народного Комиссариата Труда. Профессия на Д.В. рыболовных промыслах, при которых должны выдаваться указанные специальные предметы, а также

о котором идет речь открывается впервые); если все же японские подданные возбудили бы ходатайство об изменении установленной таким образом нормы улова и представили бы подробные к тому обоснования, то власти Союза Советских Социалистических Республик примут такое ходатайство в должное внимание и, если признают его обоснованным, примут меры к изменению этой нормы.

б) Что если в результате последней переборки невода перед заполнением положенной для данного участка нормы улова общее количество последнего превзойдет эту норму, то избыток улова будет рассматриваться как вполне законная добыча.

2) Что касается упомянутого во втором абзаце статьи 17 Протокола „А"—„тате-ами", то Уполномоченный Японии утверждает, что термин „тате-ами" обозначает не только обыкновенное „тате-ами" и „накануки-ами", но также и „кайрио-ами", в то время как Уполномоченные Союза Советских Социалистических Республик, не возражая в принципе против пояснения Уполномоченного Японии, заяляют, что употребление японскими подданными „кайрио-ами" будет разрешено им автоматически только тогда, —когда его употребление будет разрешено любому из государственных кооперативных или частных рыболовных предприятий Союза Советских Социалистических Республик.

15. К статье 19 Протокола „А".

1) Уполномоченные Союза Советских Социалистических Республик и Японии согласны в том, что сроки, установленные первым абзацем, статьи 19 Протокола „А", не относятся к тем рыболовным участкам, которые были переданы без торгов местному крестьянскому и ловецкому населению до вступления в действие Рыболовной Конвенции.

2) Относительно постановлений первого абзаца статьи 19 Протокола „А", Уполномоченные Союза Советских Социалистических Республик заявляют: „в соответствии с первым абзацем статьи 19 Протокола „А", рыбловные участки, не имевшие покупщика на торгах в течение более чем трех непрерывных лет, могут передаваться без торгов в аренду местному крестьянскому и ловецкому населению, однако, принимая во внимание, что оценка компетентными органами Союза Советских Социалистических Республик рыболовного участка к торгам на него, подлежит установлению исходя из экономической ценности участка и арендной платы, существующей в отношении такого участка (если он уже эксплоатировался) или арендной платы существующей в отношении соседних участков (если участок, о котором идет речь, открывается впервые), а также считая, что покупщики определяя свою цену на торгах принимают во внимание такие же соображения, Правительство Союза Советских Социалистических Республик оставляет за собою право считать участки или участок свободными для передачи в аренду без торгов местному крестьянскому и ловецкому населению, даже когда были на лицо действительные покупщики если предложенная ими на торгах цена значительно отличалась от оценки, установленной на упомянутых выше основаниях компетентными органами Союза Советских Социалистических Республик. Само собою разумеется, что настоящее заявление ни в коей степени не должно считаться ограничивающим право соответствующих властей Союза Советских Социалистических Республик устанавливать признаваемую ими справедливой оценку того или иного участка."

Уполномоченный Японии заявляет, что он не имеет возражений против вышеизложенного.

3) Уполномоченные Союза Советских Социалистических Республик заявляют, что постановления статьи 19 Протокола „А" не должны препятствовать местным крестьянам и рыбакам упомянутым в последнем абзаце этой статьи и занимающимся рыболовством лично или совместно с их семьями, пользоваться рабочими в числе не более двух человек.

Уполномоченный Японии заявляет, что он не имеет возражений против вышеизложенного.

16. К параграфу 2 Протокола „Б".

Уполномоченные Союза Советских Социалистических Республик заявляют, что наниматель может, если рабочий или служащий того пожелает, выплачивать в Японии заработную плату всех видов, а также дополнительную плату следуемую рабочему или служащему.

Уполномоченный Японии заявляет, что он не имеет возражений против вышеизложенного.

17. К параграфу 3 Протокола „Б".

Уполномоченные Союза Советских Социалистических Республик заявляют,

1) Что не будет препятствий к тому, что бы оплата дополнительной работы на рыболовных промыслах Японских подданных в нормальных условиях промысла в общем соответствовала бы 50% основной заработной платы за весь рыболовный сезон.

2) Что приведенное в этом параграфа выражение „местные органы Народного Комиссариата Труда" подразумевает органы находящиеся в Хабаровске и что Правительство Союза Советских Социалистических Республик дает этим органам необходимое указание согласовывать с Японскими рыболовными предприятиями упомянутые в этом параграфе вопросы, на условиях возможно более для них благоприятных.

Уполномоченный Японии, заявляет, что он не имеет возражений против вышеизложенного.

18. К параграфу 4 Протокола „Б".

Уполномоченные Союза Советских Социалистических Республик заявляют, что страховой взнос по всем трем видам страхования упомянутого в пункте д) этого параграфа составляет 8,3% причитающейся нанятым заработной платы и может быть изменен в будущем.

Уполномоченный Японии заявляет, что он не имеет возражений против вышеизложенного

19. К протоколу „Б".

Уполномоченные Союза Советских Социалистических Республик заявляют, что японские рыболовные предприятия в местностях определенных в статье Первой Рыболовной Конвенции могут, в качестве Правил Внутреннего Рапорядка этих предприятий, принять Типовые Правила прилагаемые к настоящему Заключительному Протоколу.

Уполномоченный Японии заявляет, что он не имеет возражений против вышеизложенного.

в связи с ввозом в Союз Советских Социалистических Республик предметов, упомянутых в третьем абзаце вышеупомянутой статьи, не будут носить характера мер, запрещающих или ограничивающих такой импорт, поскольку эти товары будут помещены в упомянутый в вышеуказанной статье список,

3) Формальности, которые могут потребоваться в связи с иным, чем упомянутый в параграфе 1 вывозом японскими подданными рыбы и продуктов моря, будут облегченного порядка.

4) Японские подданные, обладающие правами рыболовства, могут свободно покупать или продавать рыбу и продукты моря у японских подданных или японским подданным, обладающим правами рыболовства, а равно у граждан и различных предприятий Союза Советских Социалистических Республик или этим гражданам или предприятиям, если такая рыба и продукты моря предназначены для вывоза из Союза Советских Социалистических Республик,

5) Если японские подданные, обладающие правами рыболовства, пожелают продать их рыбу и продукты моря на внутреннем рынке Союза Советских Социалистических Республик путем массовых сделок, то они должны вступить в соглашение относительно такой продажи и ее размеров на каждый хозяйственный год с компетентными местными властями Союза Советских Социалистических Республик; такое соглашение не будет требоваться в отношении сделок на небольшие количества совершаемых единолично этими японскими подданными при продаже рыбы и продуктов моря местному населению.

Уполномоченный Японии заявляет, что он не имеет возражений против вышеизложенного.

7. К статьям IX и X Рыболовной Конвенции.

Уполномоченные Союза Советских Социалистических Республик заявляют, что постановления статей IX и X Рыболовной Конвенции разумеется ни в коей степени не освобождают японских подданных от применения к ним установленных в Союзе Советских Социалистических Республик правил о борьбе с контрабандой.

Уполномоченный Японии заявляет, что он придерживается такого-же мнения.

8. К статье XIII Рыболовной Конвенции.

Уполномоченные Союза Советских Социалистических Республик и Японии согласны, что постановления статьи XIII Рыболовной Конвенции и приложенного к ней Протокола „Б“, не применяются к лицам, упомянутым в статье 16 Протокола „А“, к которым должны быть полностью применены законы и постановления об охране и регулировании труда, изданные или могущие быть изданными впоследствии.

9. К статье 1 Протокола „А“.

Уполномоченные Союза Советских Социалистических Республик и Японии заявляют, что в целях избежания недоразумений в будущем относительно некоторых бухт, упомянутых в статье 1 Протокола „А“, они согласились приложить к настоящему Заключительному Протоколу карты, определяющие точные границы этих бухт.

10. К статье 3 Протокола „А“.

Уполномоченные Союза Советских Социалистических Республик и Японии заявляют,

что они согласились о нижеследующем:

1) Понятие „Амурский Лиман“ включает водное пространство, находящееся в пределах следующих границ:

на севере—прямая линия, проведенная от Петровской Косы к мысу Чауно;

на юге—прямая линия, проведенная от мыса Лазарева к мысу Погиби;

на западе—линия побережья Дальне-Восточного Края Союза Советских Социалистических Республик;

на востоке—линия побережья Северного Сахалина.

2) а) Само собою разумеется, что ограничения относительно национальности упомянутые в параграфе 2 статьи 3 Протокола „А“, не будут применяться к лицам, которые не подходят под категорию рабочих, как управлющие, надсмотрищики и т.д.

б) Японские подданные, которые приобретут в аренду рыболовные участки больше чем на один год могут получать на срок меньше одного года аренду земельных участков, подлежащих использованию для обработки рыбы в местностях расположенных не далее полуверсты от этих рыболовных участков. На этих земельных участках и на рыболовных участках, сданных в аренду меньше чем на один год, не должно быть установлено ограничений относительно национальности рабочих там применяемых и не занятых непосредственно рыбной ловлей.

11. К статье 8 Протокола „А“.

Уполномоченные Союза Советских Социалистических Республик заявляют, что само собою разумеется, постановление статьи 8 Протокола „А“ не должно относиться к случаям закрытия рыболовных участков, вызываемым стихийными причинами.

Уполномоченный Японии заявляет, что он не имеет возражений против вышеизложенного.

12. К статье 11 Протокла „А“.

Уполномоченные Союза Советских Социалистических Республик и Японии согласны, что из общего количества рыбы лососевой породы, пойманной японскими подданными не больше 60% может быть приготовлено по способу „бара“ и что тук из сельди может приготовляться на десяти рыболовных участках, могущих быть сданными в аренду японским подданным.

13. К статье 13 Протокола „А“.

Уполномоченные Союза Советских Социалистических Республик и Японии согласны, что рыболовные лодки, снабженные моторами не превышающими три лошадиные силы, причисляются к рыболовным лодкам поименованным в первой части статьи 13 Протокола „А“.

44. К статье 16 Протокола „А“.

1) Уполномоченные Союза Советских Социалистических Республик заявляют:

а) что норма улова, которая будет установлена для каждого рыболовного участка, определяется с принятием во внимание прежде всего действительного количества рыбы, пойманной в прошлом на этом рыболовном участке (в случае если он уже эксплоатировался), или на участке находящемся от него в ближайшем соседстве (если участок

2. К статье III Рыболовной Конвенции.

По поводу постановлений статьи III Рыболовной Конвенции Уполномоченные Союза Советских Социалистических Республик заявляют:

1) Если расположенная на суше часть рыболовного участка обрывиста, болотиста или слишком мала для устройства необходимых для рыболовного промысла оборудований, может быть возбуждена просьба об аренде соседней части побережья; власти Союза Советских Социалистических Республик будут принимать просьбу в должное внимание и будут удовлетворять таковую, если признают ее обоснованной.

2) Отбросы, получающиеся от рыболовных операций, могут быть выброшены в открытое море.

3) Власти Союза Советских Социалистических Республик не будут иметь возражений против удовлетворения просьб о получении из-за пределов рыболовного участка срубленного лела, дров, а также воды если это необходимо для рыболовного промысла; само собой разумеется, что заинтересованные лица должны будут оплачивать все связанные с этим издержки и сборы.

4) Постройки, склады, хижины и сушильни, возведенные согласно постановлениям статьи III Рыболовной Конвенции, должны быть увезены втечение года по окончании срока аренды соответствующего рыболовного участка, или переданы новому арендатору токового.

Уполномоченный Японии заявляет, что он не имеет возражений против вышеизложенного.

3. К статьям III и X Рыболовной Конвенции и к статье 9 Протокола „А".

Уполномоченные Союза Советских Социалистических Республик заявляют:

1) Определение „стоимости на местах рыбной ловли" рыбы и продуктов моря будет производиться путем вычета фрахта и других расходов, связанных с перевозкой, из средней цены соответствующих видов этого товара существующей на его главном рынке в Японии или любом третьем государстве.

Однако, промысловый налог со сделок на рыбу и продукты моря совершаемых между отдельными рыболовными участками будет взыскиваться, исходя из действительно выплаченной цены.

2) Консульский сбор за в'езд в Союз Советских Социалистических Республик и выезд из него японских подданных, упомянутых в первой части первого абзаца статьи X Рыболовной Конвенции, если они помещены в список, представляемый для наложения групповой визы, устанавливается в размере 55 копеек с каждого лица, а прописочный сбор за их проживание в Союзе Советских Социалистических Республик будет равен 10 копейкам с каждого лица.

3) Консульсикй сбор и прописочный сбор с японских подданных, исключая упомянутых в предшествующем параграфе и включая тех, которые упомянуты в статье 16 Протокола „А", должен будет уплачиваться в соответствии с общими правилами, применяемыми к иностранцам следующим на территорию Союза Советских Социалистических Республик.

4) Сбор за регистрацию договоров об аренде рыболовных участков не должен будет превышать трех процентов арендной платы за соответствующий участок,

5) Вопрос о наследовании рыболовных участков, а равно их оборудований и личной собственности на них остающейся, составит, поскольку умерший является японским подданным, предмет специального соглашения с японским правительством.

6) Постановления статьи 9 Протокола „А" не предопределяют невозможности изменения наименования любого упомянутого в ней налога, сбора или пошлины при условии, что налоги, сборы или пошлины коих это коснется, сохранят свой прежний характер.

7) Поскольку обязанность уплаты не будет падать исключительно на японских подданных, акцизы и таможенные пошлины, коими обложены товары, покупаемые в Союзе Советскхх Социалистических Республик, а равно налоги и сборы, взимаемые за действия, совершенные за пределами мест рыбной ловли, должны рассматриваться, как исключенные из сферы применения статьи III Рыболовной Конвенции, и подлежащие уплате японскими подданными в соответствии с общими правилами.

Уполномоченный Японии заявляет, что он не имеет возражений против вышеизложенного.

4. К статье VI Рыболовной Конвенции.

1) Уполномоченные Союза Советских Социплистических Республик заявляют, что термин „национальность", употребленный в статье VI Рыболовной Конвенции, должен пониматься, как соответствующий, „гражданству" и „подданству" на русском языке.

Уполномоченный Японии заявляет, что он не имеет возражений против вышеизложенного.

2) Уполномоченные Союза Советских Социалистических Республик и Японии заявляют, что они согласились о нижеследующем:

Принимая во внимание, что японские подданные, обладающие правами рыболовства, нанимать, насколько это возможно, и в разных условиях с японскими рабочими, рабочих-граждан Союза Советских Социалистических Республик, вопрос о найме определенного числа таких рабочих граждан, должен быть, как только обстоятельства того позволят, обсужден между обоими Правитéльствами.

5. К статье VIII Рыболовной Конвенции.

В ответ на вопрос Уполномоченного Японии, Уполномоченные Союза Советских Социалистических Республик заявляют, что само собой разумеется, японские суда и лодки будут пользоваться правом убежища в случае бедствия на море, в любом из пунктов побережья Союза Советских Социалистических Республик.

6. К статье IX Рыболовной Конвенции.

Уполномоченные Союза Советских Социалистических Республик заявляют:

1) Формальности, которые могут потребоваться в связи с экспортом в Японию рыбы и продуктов моря, пойманной или собранных японскими подданными в водах Союза Советских Социалистических Республик иные, чем экспортные лицензии, не будут носить характера мер запрещающих или ограничивающих такой экспорт.

2) Формальности, иные, чем экспортные лицензии, которые могут потребоваться

впервые открывается для эксплоатации, его оценка устанавливается с принятием в качестве образца пропорции между арендной платой и нормой улова, установленных для соседних рыболовных участков.

2) Что касается рыболовного участка, на который не оказалось на торгах окончательного покупщика, то оценка его публикуется немедленно после торгов и при постановке его на следующие торги должное внимание уделяется оценке, имея ввиду предоставить покупщикам лучшую возможность успеха.

Уполномоченный Японии заявляет, что он не имеет возражений против этого.

(Б) По поводу постановлений второго абзаца статьи II Рыболовной Конвенции Уполномоченные Союза Советских Социалистических Республик и Японии заявляют, что они согласились о нижеследующем:

1) Правительство Союза Советских Социалистических Республик предоставит без торгов и на сроки аренды предусмотренные в первой частьи 6 Протокола „А", приложенного к Рыболовной Конвенции втечение времени действия этой Конвенции аренду рыболовных участков, расположенных в местностях, определенных в статье I этой Конвенции, своим государственным предприятиям для их собственной эксплоатации. Устанавливается, что в случаях, относящихся к рыболовным участкам, предназначенным для ловли рыб лососевой породы, предоставление такой аренды должно быть ограничено такими участками, общая норма улова коих не превышает, в общем, двух милионов пудов, примерно соответствующих двадцати процентам общей нормы улова, получаемого во время вступления в силу этой Конвенции. В случае. относящемся к рыболовным участкам, предназначенным для ловли или собирания других рыб и продуктов моря, это предоставление должно быть ограничено такими участками, уловы и добычи коих в общем соответствуют двадцати процентам общих норм уловов и добыч соответствующей рыбы и продуктов моря.

2) Когда государственные предприятия сами полностью и дсйствительно возьмут в эксплоатацию все рыболовные участки с упомянутым выше лимитом, правительства должны, если правительство Союза Советских Социалистических Республик это предложит, войти в дальнейшие переговоры для увеличения нормы улова и числа рыболовных участков, подлежащих передаче этим предприятиям.

3) При определении рыболовных участков, подлежащих сдаче в аренду государственным предприятиям, правительство Союза Советских Социалистических Республик будет руководствоваться, насколько это возможно, принципом применения пропорции, упомянутой в предшествующем параграфе, к каждой из групп, по которым могут быть классифицированы рыболовные участки в соответствии с сортом и нормой уловов и добыч, обращая должное внимание на разумные пожелания, которые могут быть выдвинуты заинтересованными японскими подданными, а также на то обстоятельство, что в 1927 году, т. е. во время переговоров о заключении Рыболовной Конвенции, рыболовные участки, эксплоатируемые государственными предприятиями, не достигали двадцати процентов, тогда как эксплоатируемые японскими подданными превышали восемьдесят процентов всех рыболовных участков, сданных в аренду для эксплоатации, правительство Союза Советских Социалистических Республик будет советоваться с Японским правительством до принятия окончательных решений по такому определению.

4) Рыболовные участки, предназначенные к сдаче в аренду без торгов государственным предприятиям, но ими не эксплоатируемые, должны быть заблаговременно до рыболовного сезона соответствующего года поставлены на торги для аренды их на год или более, или же сданы в аренду без торгов местному крестьянскому и левецкому населению. Само собой разумеется, что сданные таким образом в аренду рыболовные участки не могут считаться эксплоатируемыми государственными предприятиями.

5) Поскольку то касается Рыболовной Конвенции и приложенных к ней Актов, выражение „государственные предприятия" должно пониматься, как включающее всякого рода предприятия, более половины капитала коих вложено органами Союза Советских Социалистических Республик, или входящей в его состав Республикой или более половины управляющего персонала коих назначено этими органами. Поскольку то касается всякого предприятия, которое не принадлежит к этой категории, в котором эти органы принимают участие в той или иной форме, или любых предприятий, в которых некоторые органы различных местных административных организаций Союза Советских Социалистических Республик принимают полное или частичное участие в какой бы это ни было форме, Правительство Союза Советских Социалистических Республик будет советоваться с Японским Правительством, дабы решить, должны ли предприятия, о которых идет речь, иметь возможность участвовать на торгах в целях получения рыболовных участков, или же быть включенными в категорию государственных предприятий, установленных настоящим Протоколом. Однако, устанавливается, что всякие предприятия, которые в порядке нормальных коммерческих сделок с органами Союза Советских Социалистическия Республик, или входящей в него Республикой или Республиками, или местными организациями, поставят себя в отношении последних в положение должника, или меньшая часть акций коих перейдет во временное распоряжение последних должны рассматриваться, как находящиеся вне действия вышеизложенных постановлений.

6) Несмотря на постановления Рыболовной Конвенции и предшествующих пунктов, Правительство Союза Советских Социалистических Республик может сдавать в аренду без торгов рыболовные участки, безотносительно их числа, которые открыты или будут открыты в Амурском Лимане, своим государственным предприятиям, различным кооперативным обществам, а также местному крестьянскому и ловецкому населению.

Кроме того, условлено, что если количество рыбы в Амурском Лимане явно увеличится настоящее постановление может быть изменено по соглашению между обоими Правительствами.

(Ц) По поводу постановлений последнего абзаца статьи II Рыболовной Конвенции Уполномоченные Союза Советских Социалистических Республик заявляют:

1) Правительство Союза Советских Социалистических Республик имеет ввиду издать в ближайшем будущем постановление, согласно коему японские подданные смогут получить лицензию, упомянутую в последнем абзаце статьи II Рыболовной Конвенции.

2) Правительство Союза Советских Социалистических Республик готово предоставить в аренду японским подданным, занимающимся рыболовным промыслом, земельные участки в количестве не свыше пяти в качестве базы для китобойного промысла.

Уполномоченный Японии заявляет, что он не имеет возражений против вышеизложенного.

истечения срока этих особых договоров, то оба правительства войдут в переговоры по этому вопросу либо по случаю переговоров о пересмотре Рыболовной Конвенции, либо за год этого истечения.

5) Японские подданные, которые пожелают заключить особые договоры, упомянутые в Разделе 4, должны быть рекомендованы Японским правительством компетентным властям Союза Советских Социалистических Республик.

6) Специальная плата (долевое отчисление) за деятельность консервных заводов должна быть исчислена в золотой валюте Союза Советских Социалистических Республик в следующих ставках, за действительное количестве рыбы и продуктов моря, обработанных на соответствующих консервных заводах:

1. Для красной рыбы—20 копеек с ящика;
2. Для кеты, кижуча и чавычи—16 копеек с ящика;
3. Для горбуши—9 копеек с ящика;
4. Для крабов—40 копеек с ящика.

В связи с этим устанавливается, что один ящик консервных товаров содержит 48 банок по одному фунту каждая, или 96 банок по полфунта каждая. Эта специальная плата, совместно с вытекающими из нее налогами, сборами и пошлинами, должна быть выплачена в декабре каждого года.

Вышеупомянутые ставки специальной платы могут быты изменены по взаимному соглашению, если рыночная цена соответствующего товара, ныне существующая, значительно изменится.

7) Что касается налогов, сборов и пошлин, то должны быть применяемы постановления статьи IV Рыболовной Конвенции, а также приложенных к ней Актов, причем в связи с этим устанавливается, что термин „плата", употребленный в этих Актах, должен пониматься как включающий плату за аренду рыболовных участков и специальную (долевое отчисление) за операции консервных заводов, предусмотренную в разделе (6).

8) В целях установления размера обыкновенной платы за рыболовные участки, сданные в аренду в соответствии с постановлениями раздела (3), должен быть принят следующий метод:

Каждые три года в качестве образца должны быть взяты рыболовные участки, в общем насколько возможно в количестве четырех, которые были сданы в аренду с торгов, расположены в непосредственной близости к рыболовным участкам, принадлежащим к консервным заводам, и на которых добываются те же сорта рыбы, как и на последних, и частное, полученное от деления общей суммы платы за их аренду, на общую сумму установленной для них нормы улова, будет считаться основной единицей: плата, о которой идет речь, будет выведена в золотой валюте Союза Советских Социалистических Республик путем помножения этой основной единицы на норму улова, установленную для соответствующих рыболовных участков.

9) Во всем, что касается операций консервных заводов, и рыболовных участков, о чем не упомянуто специально в настоящем Протоколе, должны применяться постановния Рыболовной Конвенции и приложенных к ней актов.

10) В целях заключения особых договоров, касающихся ныне существующих консервных заводов, заинтересованные японские подданные должны в возможной скорости,

обратиться к компетентным властям Союза Советских Социалистических Республик с просьбой об открытии переговоров и с ясным указанием рыболовных участков, которые они предполагают получить без торгов в соответствии с настоящим Протоколом.

11) Если эти переговоры не смогут быть закончены втечение условленного времени, заинтересованные японские подданные смогут продолжать эксплоатацию консервных заводов на соответствующих рыболовных участках, в соответствии с соглашением, которое должно быть установлено между обоим правительствами на основе постановления параграфа „Б" настоящего Протокола. Выше упомянутые переговоры должны быть закончены, по возможности, втечение шестимесячного срока после этого.

Если по какой-либо причине, какой либо особый договор относительно консервных заводов, принадлежащих японским подданным и действительно существующих во время заключения Рыболовной Конвенции не был бы заключен, или любой заключенный особый договор потерял бы свою силу, рыболовные участки, относящиеся к консервному заводу или заводам, о которых идет речь, само собой разумеется, будут поставлены на торги в целях обеспечения продолжения их эксплоатации.

Настоящий Протокол будет считаться ратифицированным фактом ратификации подписанной сего числа Рыболовной Конвенции, и будет иметь такую же продолжительность, как и Конвенция.

В удостоверение чего соответственные Уполномоченные подписали настоящий Протокол в двух экземплярах на английском языке и скрепили его своимн печатями.

Составлено в городе Москве 23 января 1928 г.

м. п.

м. п. м. п.

ЗАКЛЮЧИТЕЛЬНЫЙ ПРОТОКОЛ.

Приступая сего числа к подписанию Рыболовной Конвенции между Союзом Советских Социалистических Республик и Японией а равно приложенных к ней протоколов „А" и „Б", Уполномоченные Союза Советских Социалистических Республик и Японии сделали следующие заявления:

ЧАСТЬ I

I к статье I Рыболовной Конвенции.

(A) По поводу постановления первого абзаца статьи I Рыболовной Конвенции Уполномоченные Союза Советских Социалистических Республик заявляют нижеследующее:

1) При нормальных условиях оценка к торгам рыболовного участка который уже был в эксплоатации, устанавливается с принятием в качестве образца его оценки к последним торгам, причем разумеется, что если бы после последних торгов произошло какое либо изменение экономической ценности этого рыболовного участка, его оценка должна быть соответственно выправлена; в случае с рыболовным участком, который

помощи.

Наниматель должен быть освобожден от уплаты взносов, упомянутых в пунктах 1 и 2 параграфа „д“, если, в соответствии с утвержденными японскими властями постановлениями, меры вспомошествования, которые должны быть равные или более благоприятные для рабочего или служащего, сравнительно с мерами, установленными социальным страхованием Союза Советских Социалистических Республик, должны оказываться группой нанимателей или иными организациями.

5) В договоре найма может быть обусловлено, что если рабочий или служащий нарушит по своей собственной вине договор, он должен взять на себя издержки по переезду его от рыболовного участка в Японию, при чем устанавливается, что наниматель должен быть ответственен за от'езд в Японию этого рабочего или служащего.

Если наниматель уволит своего рабочего или служащего, находящегося в месте его рыболовства, он должен оплатить издержки по переезду такового в Японию.

Само собою разумеется, что в этот договор найма может быть включено условие о выплате возмещения, если наниматель или же рабочий или служащий нарушит без достаточной причины договор, до от'езда из Японии рабочего или служащего.

Постановления настоящего Протокола подлежат изменению или дополнению по взаимному соглашению, которое может последовать между обоими Правительствами.

Настоящий Протокол будет считаться ратифицированным, путем ратификации подписанной сего числа Рыболовной Конвенции; он будет иметь ту же продолжительность, как и означенная Конвенция.

В удостоверение чего соответственные Уполномоченные подписали настоящий Протокол в двух экземплярах на английском языке и скрепили его своими печатями.

Подписано в городе Москве сего „23“ января 1928 года.

м. п.

м. п. м. п.

ПРОТОКОЛ „Ц“

Приступая сего числа к подписанию Рыболовной Конвенции между Союзом Советских Социалистических Республик и Японией, Уполномоченные обоих Высоких Договаривающихся Сторон согласились в нижеследующем:

Постройка и эксплоатация японскими подданными, обладающими правами рыболовства, консервных заводов в местностях, определенных в статье 1 Рыболовной Конвенции, должна быть обусловлена нижеследующим, при чем устанавливается, что во всем относящемся к консервной промышленности японские подданные не должны быть поставлены в положение менее благоприятное, чем предоставленное частным лицам или предприятиям Союза Советских Социалистических Республик.

(А)

На рыболовных участках, сданных с торгов японским подданным, они могут сооружать и эксплоатировать консервные заводы втечение рыболовных сезонов срока их аренды, производя необходимые предварительные оповещения компетентных властей Союза Советских Социалистических Республик и подпадая под применение постановлений Разделов 1, 2, 6, 7 и 9 параграфа „Б“ настоящего протокола.

(Б)

Для эксплоатации консервных заводов, принадлежащих Японским подданным и действительно существующих во время заключения Рыболовной Конвенции, должны заключаться особые договоры между подлежащими властями Союза Советских Социалистических Республик и заинтересованными японскими подданными в соответствии с нижеследующими условиями:

1) Японские подданные могут свободно производить изменения размера и оборудования их консервных заводов, причем устанавливается, что при производстве таких изменений они должны доводить о том до сведения компетентных властей Союза Советских Социалистических Республик, в соответствии с формальностями, предписываемыми правилами, существующими в Союзе Советских Социалистических Республик. Кроме того, для них не должна быть воспрещена или ограничена как перевозка на эти консервные заводы рыбы и продуктов моря с рыболовных участков, сданных другим арендаторам, так и обработка таковых.

2) Все имущества, находящиеся на рыболовных участках, на которых производилась консервная деятельность, не принадлежащие правительству или гражданам Союза Советских Социалистических Республик могут после истечения сроков особых договоров, быть вывезены заинтересованными японскими подданными на другие рыболовные участки, или из пределов Союза Советских Социалистических Республик, или с разрешения правительства Союза Советских Социалистических Республик проданы в пределах территории Союза Советских Социалистических Республик; в случае, если с этими имуществами не будет поступлено, как указано выше втечение года со дня истечения особых договоров, они безвозмездно перейдут в собственность Правительства Союза Советских Социалистических Республик.

3) Для эксплоатации ныне существующих консервных заводов каждый завод должен быть снабжен рыболовным участком, на котором расположен, а равно и другим рыболовным участком, лежащим по близости; оба они подлежат сдаче в аренду без торгов в соответствии с постановлениями второго абзаца статьи второй Рыболовной Конвенции.

Если японские подданные обратятся к подлежащим властям Союза Советских Социалистических Республик с просьбой о предоставлении им, в целях устройства консервных заводов, аренды рыболовных участков в соответствии с постановлениями второго абзаца ‖ Рыболовной Конвенции, правительство Союза Советских Социалистических Республик будет согласно войти в переговоры с Японским правительством в целях предоставить эту аренду, насколько то позволят обстоятельства.

4) Срок обоих договоров, относящихся к консервным заводам, упомянутым в Разделе 3, должен быть десятилетний,

Что касается мер, имеющих быть принятыми в отношении консервных заводов после

как средством существования, без того, чтобы прибегать к помощи рабочих.

Статья 20.

Устанавливается, что выражение „рыба и продукты моря", употребляемое в Рыболовной Конценции и в приложенных к ней Актах, относится ко всем видам рыбы, животных, растений и других продуктов моря, за исключением котиков и морских бобров.

Статья 21.

Ностоящий Протокол будет считаться ратификованным путем ратификации, подписанной сего числа Рыболовной Конвенции и должен будет иметь ту же продолжительность, как и эта Конвенция.

В удостоверение чего, соответственные Уполномоченные подписали настоящий Протокол в двух экземплярах на английском языке и скрепили его своими печатями.

Подписано в гор. Москве сего 23 января 1928 года.

(м. п.) (м. п.)

(м. п) (м. п.)

ПРОТОКОЛ „Б"

Приступая сего числа к подписанию Рыболовной Конвенции между Союзом Советских Социалистических Республик и Японией, Уполномоченные обоих Высоких Договаривающихся Сторон согласились о нижеследующем:

Принимая во внимание постановление статьи XIII Рыболовной Конвенции, применение законов и правил об охране и регулировании труда к японским подданным, обладающим правами рыболовства и к их японским рабочим и служащим, будет обусловлено нижеследующим:

1) В отношении снабжения нанимателем его рабочих и служащих одеждой и другим необходимыми для их работы вещами, а равно в отношении жилиш, будут приняты в должное внимание национальные привычки и обычаи рабочих и служащих,

2) Основной размер заработной платы может быть исчислен в японской залюте и в соответствии с обычаем Дальне-Восточной Рыбопромышленности за весь рыболовный сезон; если рабочай или служащий того пожелает, часть этой основной заработной платы будет уплачиваться ему авансом. Эта основная заработная плата за весь сезон будет, однако, не меньше суммы, соответствующей пятнадцати иенам в месяц, даже и когда по договору найма наниматель берет на себя издержки по перевозке и продовольствию рабочих и служащих, и даже когда наниматель выдает своим рабочим и служащим дополнительную плату, соответствующую некоторой части уловов и добыч, в силу так называемого куичи или аналогичной практики.

Так как вышеприведенное постановление вынесено с принятием во внимание с одной стороны закона Союза Советских Социалистических Республик о минимуме заработной платы, а с другой стороны современных экономических и социальных условий Японии, то установлено, что когда это постановление перестанет соответствовать вышеизложенному, необходимое исправление может быть сдалано по соглашению

между обоими Правительствами, в целях согласования его с новыми обстоятельствами.

3) Число рабочих часов должно быть в местах рыболовства, как правило—восемь в день; однако, принимая во внимание особенности рыболовного промысла и в соответствии с законами Союза Советских Социалистических Республик об условиях труда на сезонных работах, наниматель может, с согласия своих рабочих и служащих, применить их труд на время превышающее восемь часов в день, при условии заключения соглашения с компетентными местными органами Народного Комиссариата Труда относительно часов работы, а также и оплаты труда, хотя бы вперед на весь рыболовный сезон.

Однако, поскольку то касается труда при рыболовных операциях, во всякое время сезона в случаях завала рыбы при сильном ее ходе, труд рабочих и служащих может, с их согласия, применяться во внеурочное время, в праздничные дни и в ночное время, при чем на это не требуется соглашения с упомянутыми выше органами Народного Комиссариата Труда.

Что касается труда при консервных операциях, вышеприведенный абзац применим только в случаях, когда вследствие чрезмерного накопления уловов из-за завала рыбы при сильном ее ходе, требуется экстренная работа дабы предупредить ухудшение качества продукции, с соблюдением того условия, что соответствующие наниматели будут информировать местные органы Народного Комиссариата Труда Союза Советских Республик об условиях соглашения, которое имело место между нанятыми и нанимателями относительно такой экстренной работы, по возможности как только такое соглашение состоялось и, во всяком случае, до окончания рыболовного сезона.

4) а) Если на нанимателе лежит обязанность уплачивать взносы социального страхования в соответствии с законами Союза Советских Социалистических Республик, то его рабочие и служащие даже после их возвращения в Японию, или их семьи в Японии, будут пользоваться теми же самыми правами, как и граждане Союза Советских Социалистических Республик или их семьи, проживающие в Союзе Советских Социалистических Республик.

б) Если социальное страхование причитается находящимся в Японии японским подданным или их семьям, оно должно быть выплачено таковым Правительством Союз Советских Социалистических Республик через его Консульских Представителей в Японии в течение четырех месяцев после того как взносы социального страхования будут выплачены за весь сезон.

ц) При всех расчетах и платежах, относящихся к социальному страхованию, соответствующие металлические курсы валют Союза Советских Социалистических Республик и Японии должны быть приняты в расчет, вместо существующих разменных курсов.

д) Обязанности нанимателя в отношении социального страхования должны быть ограничены следующими тремя видами последнего:

1) по временной нетрудоспособности рабочего или служащего;

2) по инвалидности или смерти рабочего или служащего, несчастного случая;

3) по медицинской помощи, необходимой рабочему и служащему.

е) Наниматель должен быть особожден от уплаты взноса, упомянутого в пункте 3 параграфа „д" если, по соглашению с местными органами Здравоохранения Союза Советских Социалистических Республик, он возьмет на себя оказание медицинской

Представителя Союза Советских Социалистических Республик в Японии; в этом случае —такие судна не будут обязаны заходить в какой-либо из упомянутых выше портов.

Статья 13.

Правительство Союза Советских Социалистических Республик не имеет возражений против отдельных рейсов японских рыболовных лодок между местами рыбной ловли, сданными в аренду различным японским подданным; в случае рейсов, снабженных моторами рыболовных лодок с буксируемыми лодками или без последних, разрешение должно быть получено от местных властей Союза Советских Социалистических Республик.

Статья 14.

Японские паровые суда, занимающиеся в водах Союза Советских Социалистических Республик рыболовством или его обслуживанием, должны иметь перевод вахтенного журнала на русский или английский язык; Японские мореходные моторные и парусные суда будут соблюдать это постановление по мере возможности.

Статья 15.

Правительство Союза Советских Социалистических Республик гарантирует, что при установлении и утверждении списка упомянутого в статье IX Рыболовной Конвенции, будут полностью приняты во внимание действительные потребности рыболовного промысла японских подданных.

Статья 16.

Японские подданные, квалифицированные для работы в любых отраслях рыболовной промышленности в числе в общем не превышающем 100 человек, будут иметь право зимовать на рыболовных участках, сданных в аренду японским подданным, при условии подчинения законам и правилам, относящимся ко в'езду в Союз Советских Социалистических Республик и пребыванию в нем. Необходимые на зиму сторожа этих рыболовных участков должны быть набраны из числа граждан Союза Советских Социалистических Республик.

Статья 17.

Для ловли и собирания рыбы и продуктов моря, которые могут нуждаться в покровительственных для их размножения мерах, норма, которой может быть ограничен такой улов и собирание, будет устанавливаться властями Союза Советских Социалистических Республик, с принятием во внимание в качестве основы, действительной тенденции их размножения в Дальне-Восточных реках и морях Союза Советских Социалистических Республик.

Употребление тате-ами будет разрешено на всех рыболовных участках, сданных в аренду японским подданным, за исключением тех участков которые расположены в ближайшем соседстве с устьем рек; кроме того условлено, что для этих последних рыболовных участьов употребление тате-ами должно быть разрешено в случае, если будет доказано, что рыбная ловля при помощи подвижных сетей не может быть там осуществима. Кроме того, ни на каком из рыболовных участков не должно быть

установлено ограничений в употреблении воротов эксалаторов, конвейеров, лебедок, блоков и других инструментов машин и обрудований, которые облегчают работы рыболовного промысла.

Статья 18.

Устанавливается, что выражения „граждане Союза Советских Социалистических Республик“ и „японские подданные‘, употребляемые в Рыболовной Конвенции и в приложенных к ней Актах, включают общественные и частные предприятия соответственно Союза Советских Социалистических Республик и Японии и что под выражением „граждане Союза Советских Социалистических Республик„ не подразумевается местное крестьянское и ловецкое население, пользующееся особым режимом. Далее устанавливается, что в отношении вопросов специально упомянутых в статье VI Рыболовной Конвенции, а также в статье 9 настоящего Протокола, государственные предприятия и кооперативные общества Союза Советских Социалистических Республик пользуются особым положением.

Статья 19.

В любое время после торгов на рыболовные участки, которые состоятся в первом году действия Рыболовной Конвенции, Правительство Союза Советских Социалистических Республик может предоставить без торгов, рыболовные участки расположенные в любой части местностей, определенных в статье 1-й Рыболовной Конвенции, в аренду местному крестьянскому и ловецкому населению, которое там проживает или может проживать впоследствии; такое предоставление может касаться только таких мест, к которым во время действия Рыболовной Конвенции статья 4 настоящего Протокола не применена в течение двух непрерывных лет, или таких рыболовных участков, которые до этого предоставления не имели покупщика на торгах в течение более чем трех непрерывных лет. Правительство Союза Советских Социалистических Республик примет необходимые меры для того, чтобы такой передачей не сократить район рыболовства в Дальне-Восточных водах, открытый для японских подданных и чтобы компетентные власти сообразовались с пожеланием японских подданных об открытии новых Рыболовных участков.

Правительство Союза Советских Социалистических Республик обязуется ставить на торги рыболовные участки, сданные таким образом в аренду местному крестьянскому и ловецкому населению, в случае, если они не эксплоатировались в течение двух непрерывных лет, а также воспретить переуступку арендных прав или передачу таких участков кому бы то ни было, не принадлежащему к крестьянскому и ловецкому населению.

Местное крестьянское и ловецкое население может свободно получать аренду рыболовных участков с торгов в соответствии с постановлениями статьи II-й Рыболовной Конвенции, но те, которые таким образом получат аренду рыболовных участков, не должны в то же время обладать рыболовными участками предоставленными, переарендованными или переданными, в силу постановлений настоящей статьи.

Условлено. что это положение местного крестьянского и ловецкого населения предоставляется только лицам и их семьям, персонально занимающимся рыболовством

Статья 7.

Права рыболовства, сроки которым еще не истекут ко дню окончания срока Рыболовной Конвенции, будут оставаться в силе в течение всего их срока, какового бы ни было решение принятое двумя Высокими Договаривающимися Сторонами, касательно самой Рыболовной Конвенции.

Статья 8

Рыболовные участки, существующие уже в местностях, определенных в статье I Рыболовной Конвенции, будут оставаться открытыми для эксплоатации в течение всего действия Рыболовной Конвенции.

Статья 9.

В соответствии с постановлениями параграфа 2 статьи IV Рыболовной Конвенции, нижеследующие пошлины, налоги и сборы могут быть взыскиваемы с японских подданных:

1) Местный налог с перевозочных средств (лошадей, автомобилей, велосипедов, мотоциклетов и не имеющих навигационных свидетельств моторных лодок).

2) Сбор за освидетельствование паровых котлов, приборов, действующих под давлением под'емников и под'емных механизмов.

3) Местный налог со строений, ныне взимаемый в городах, если такой налог будет применяться в местностях, в которых находятся места рыбной ловли.

4) Гербовый Сбор, натариальный сбор, судебные пошлины и другие подобные налоги, сборы и пошлины, установленные центральными властями Союза Советских Социалистических Республик и имеющие косвенное отношение к рыболовным участкам и оборудованию мест рыболовства но как и устанавливаемый местными властями местный налог со сделок совершаемых или регистрируемых на бирже.

5) Консульский сбор и прописочный сбор, относящиеся к в'езду в Союз Советских Социалистических Республик, пребыванию в нем и выезду из него.

6) Консульский и иные официальные сборы за выдачу или засвидетельствование документов.

7) Сбор за регистрацию договоров об аренде рыболовных участков.

8) Сбор с отпускаемой из лесных дач древесины.

9) Подоходный налог с прибылей, получаемых от продажи рыбы и продуктов моря для потребления в Союзе Советских Социалистических Республик, а также налог, касающийся перевозки таковых.

Статья 10.

Правительство Союза Советских Социалистических Республик обязуется сохранить на время действия Рыболовной Конвенции существующие ныне правила, освобождающие от пошлин рыбу и продукты моря, экспортируемые из Дальне-Востояного Края Союза Советских Социалистических Республик—за исключением случая, когда в отношении отдельного третьего государства или государств, изменяется обложение товаров вообще туда вывозимых.

Что касается рыбы и продуктов моря, реимпортируемых в Союз Советских Социалистических Республик без обработки в Японии, то Правительство Союза Советских Социалистических Республик также обязуется сохранить на время действия Рыболовной Конвенции существующие ныне правила, освобождающие от пошлин реимпортируемые произведения почвы и промышленности Союза Советских Социалистических Республик.

Статья 11.

Правительство Союза Советских Социалистических Республик не имеет возражений против выделки японскими подданными тука из сельдей и из других видов рыбы меньшей ценности, а также из отбросов, получающихся при обработке рыбы и продуктов моря. Правительство Союза Советских Социалистических Республик также не имеет каких либо возражений против обработки и посола японскими подданными рыбы лососевой породы согласно японским способам.

Статья 12.

Навигационное свидетельство, упомянутое в первом абзаце статьи VII Рыболовной Конвенции, будет выдаваться Консульским Представителем Союза Советских Социалистических Республик по пред'явлении:

1) Документов, удостоверяющих аренду рыболовного участка или участков, к которым намерено отправиться судно.

2) заверенного списка находящихся на судне лиц, с приложением документов, удостоверяющих их личности.

3) документов, удостоверяющих, что груз судна состоит исключительно из предметов, поименованных в 3-м абзаце статьи IX Рыболовной Конвенции; в таких документах должно быть указано также количество груза.

В навигационном свидетельстве должно быть указано нижеследующее:

1) название судна и порта, к которому оно приписано;

2) имя и фамилия арендатора или арендаторов рыболовного участка или участков;

3) точное указание рыболовного участка или участков, куда намерено отправиться судно;

4) род и количество груза;

5) имена и фамилия экипажа судна.

Судам, снабженным упомянутым выше свидетельством и патентом о здравии, разрешается заходить только в те пункты побережья Союза Советских Социалистических Республик, которые упомянуты в навигационном свидетельстве, и останавливаться в них. Само собою разумеется, что порты, в которых имеется таможня, всегда доступны для таких судов.

Японские суда, направляющиеся в Дальне-Восточные воды Союза Советских Социалистических Республик в силу последнего абзаца статьи II-й Рыболовной Конвенции, должны прежде всего зайти в один из специально указанных портов Союза Советских Социалистических Республик, где подлежащие власти Союза Советских Социалистических Республик выдадут им специальную лицензию на ловлю, собирание и обработку рыбы и продуктов моря; эта лицензия будет заменять в то же время и навигационное свидетельство. Лицензия может быть также получена через Консульского

22) Залив Святого Николая, до прямой, линии, проведенной от мыса Ламздорфа до мыса Гроте.

23) Залив Счастья.

24) Залив Байкал до прямой линии, проведенной от мыса Чауно до мыса Витовтова.

25) Залив Ныйский.

26) Залив Набильский.

27) Бухта Крестовая.

28) Бухта Старка.

29) Бухта Ванина до прямой линии, проведенной от мыса Веселого до мыса Бурного.

30) Советская Гавань до прямой линии, проведенной от мыса Милютина до мыса Путятина.

31) Бухта Терней до меридиана мыса Страшного.

32) Бухта Святого Владимира до прямой линии, проведенной от мыса Валюзек до мыса Ватовского.

33) Маленький „инлет", расположенный в северо-восточной части бухты Преображение до меридиана мыса Матвеева.

Само собою разумеется, что исключение, о котором идет речь, не будет применяться к открытому морю.

Что касается северного побережья Охотского моря от устья реки Подкагерной и до бухты Аян, за исключением залива Пенжинского (№ 17), бухты Милькачинской (№ 18), бухты Ямской (№ 19) и бухты Аян (№ 20), то бухты, долженствующие быть предметом выше упомянутого исключения, будут определены согласно следующему признаку:

Бухты—проникающие в материк на расстояние (считая вдоль наиболее глубокого фарватера), которое превышает более чем в три раза ширину входа.

Рыболовство должно быть, кроме того, запрещено японским подданным, как и другим иностранцам, в следующих бухтах, само собой разумеется, не включая открытое море.

1) Бухта Де-Кастри с бухтой Фредерикса, до прямой линии, проведенной от мыса Кастри до мыса Клостер-Камп. и до прямой линии, проведенной от мыса Клостер-Капм. до мыса Острого.

2) Бухта Святой Ольги до прямой линии, проведенной от мыса Маневского до мыса Шкотта.

3) Залив Петра Великого, от мыса Поворотного до мыса Гамова, включая острова, расположенные в этом заливе.

4) Бухта Посьет, от мыса Гамова до мыса Бутакова.

Статья 2.

В отношении границ рек применительно к морю, оба Правительства будут сообразовываться с принципами международного права.

Статья 3.

Права рыбной ловли, предоставленные японским подданным в Амурском Лимане, в силу Рыболовной Конвенции, обуславливаются следующими специальными положениями:

1) Японские подданные могут получить в этой местности рыболовные участки с публичных торгов, на равных основаниях с гражданами Союза Советских Социалистических Республик.

2) Японские подданные, которые приобрели рыболовные участки, подчиняются во всех отношениях, поскольку то касается рыболовного промысла, тем же самым законам, постановлениям и административным распоряжениям, которые изданы или могут быть изданы впоследствии относительно речного рыболовства в бассейне Амура, как и граждане Союза Советских Социалистических Республик, которые явились на торгах окончательными покупщиками рыболовных участков и, в частности, постановлениям, которые запрещают арендаторам рыболовных участков в этой местности пользоваться иностранными рабочими.

Статья 4.

Японские подданные могут, на основании заявлений о том, получать в аренду, согласно постановлениям статьи II Рыболовной Конвенции, рыболовные участки в любой части местностей, определенных в статье I этой Конвенции, подчиняясь законам, постановлениям и административным распоряжениям, которые изданы, или могут быть изданы впоследствии в Союзе Советских Социалистических Республик, для разведения и охраны рыбы, вытекающего отсюда контроля над промыслом и всего другого относящегося к рыболовству в вышеупомянутых местностях.

В случае если в договоре об аренде рыболовных участков не обозначены виды рыб, которые могут быть пойманы, Союз Советских Социалистических Республик не должен будет налагать каких-либо ограничений на виды рыб, могущих быть выловленными за исключением ограничений необходимых для охраны рыбы лососевой породы.

Статья 5.

Что касается передачи прав рыболовства между японскими подданными, а также между гражданами Союза Советских Социалистических Республик и японскими подданными, то разрешения должны быть выданы по заявлению о том, с соблюдением формальностей, предписываемых законами Союза Советских Социалистических Республик.

Статья 6.

Продолжительность аренды рыболовных участков устанавливается следующая:

один год, в случае относящемся к участкам, которые уже открыты, но еще не эксплоатировались со вступления в силу Рыболовной Конвенции, или для участков, которые будут открыты впервые после того,

три года, в случае относящемся к участкам, которые уже эксплоатировались не менее одного года;

пять лет, в случае относящемся к участкам, которые уже эксплоатировались не меньше чем три года.

Условлено, что вышеупомянутые сроки могут быть изменены в случае относящемся к рыболовным участкам, которые могут быть сданы в специальную аренду, в силу постановления второго абзаца статьи второй Рыболовной Конвенции и приложенных к ней актов.

ствии и применяемы ко всем иностранцам в Союзе Советских Социалистических Республик.

Статья XII

Японское Правительство, принимая во внимание права рыболовства дарованные Союзом Советских Социалистических Республик японским подданным в силу настоящей Конвенции, обязуются не налагать никаких импортных сборов на рыбу и продукты моря, пойманную или собранные в Дальне-Восточных водах Союза Советских Социалистических Республик, независимо от того, были ли такие-рыбы и продукты моря, подвергнуты процессу выработки или нет.

Статья XIII

Признавая, что японские рабочие и служащие имеют место своего жительства в Японии, там нанимаются и туда возвращаются по окончании работы на сезонном рыболовном промысле; что их привычки и обычаи, характерны для лиц японской национальности; что им предоставляется бесплатный проезд между Японией и местами рыболовства и бесплатное питание втечение всего срока найма; что им выдается в дополнение к регулярной заработной плате часть уловов и добыч и что для них предусмотрены бесплатные — медицинская помощь и иные вспомоществования,

Союз Советских Социалистических Республик соглашается сообразовываться с вышеупомянутыми обстоятельствами при применении его законов и постановлений об охране и регулировании труда, которые изданы или могут быть изданы впоследствии, к труду японских рабочих и служащих мест рыболовства, сданных в аренду японским подданным в соответствии с постановлениями настоящей Конвенции.

Статья XIII

Что касается вопросов, специально не упомянутых в настоящей Конвенции, но имеющих отношение к рыболовному промыслу в местностях определенных в статье I настоящей Конвенции, то японские подданные будут пользоваться тем же режимом, как и предоставленный гражданам Союза Советских Социалистических Республик, которые получили права рыболовства в этих местностях.

Статья XV

Настоящая Конвенция будет оставаться в силе втечение 8 лет и будет изменена или возобновлена в конце этого срока; вслед же за тем Конвенция должна будет изменяться или возобновляться в конце каждых 12 лет.

Каждая из Высоких Договаривающихся Сторон может сообщить другой стороне о своем желании пересмотреть настоящую Конвенцию за 12 месяцев до истечения срока Конвенции. Переговоры по пересмотру должны будут закончиться втечение этих 12 месяцев.

Если ни одна из Высоких Договаривающихся Сторон не сообщит о желании такового пересмотра, настоящая Конвенция будет оставлена в силе на следующий 12-тилетний период.

Статья XV

Настоящая Конвенция должна быть ратификована и обмен ее ратификации должен быть произведен в Токио в возможно ближайший срок и, во всяком случае не позднее 4 месяцев после ее подписания.

Конвенция вступит в силу на пятый день следующий за днем обмена ее ратификаций.

В удостоверение сего соответственные Уполномоченные подписали настоящую Конвенцию в двух экземплярах на английском языке и скрепили ее своими печатями,

---

ПРОТОКОЛ „А“

Приступая сего числа к подписанию Рыболовной Конвенции между Союзом Советских Социалистических Республик и Японией, Уполномоченные обоих Высоких Договаривающихся Сторон согласились о нижеследующем:

Статья 1.

Бухты, которые являются предметом исключения упомянутого в статье первой Рыболовной Конвенции — суть следующие:

1) Бухта Святого Лаврентия, до прямой линии, проведенной от мыса Пнаугун до мыса Харлигах.
2) Бухта Мечигме.
3) Бухта Кониам (Пенкегней), до прямой линии, проведенной от мыса Нечхонон до Граб-Пик.
4) Бухта Аболешева (Калаган).
5) Бухта Румилет.
6) Бухта Провидения, до прямой линии, проведенной от мыса Лисовского до Лысой Головы.
7) Бухта Святого Креста до параллели мыса Мечкен.
8) Бухта Анадырь до прямой линии, проведенной от мыса Святого Василия до мыса Гека.
9) Бухта Святого Павла.
10) Шлюпочная Гавань.
11) Озеро Тюленье.
12) Озеро Шестифутовое.
13) Северная часть залива барона Корфа.
14) Порт Карага.
15) Бухта Бечевинская.
16) Бухта Авачинская до прямой линии, проведенной от мыса Безымянного до мыса Дальнего.
17) Залив Пенжинский, до параллели мыса Мамет.
18) Бухта Макильчинская.
19) Бухта Ямская.
20) Бухта Аян.
21) Залив Великого Князя Константина.

Статья VI

Не будет установлено ограничения относительно национальности рабочих и служащих японских подданных, занятых ловлей, собиранием и обработкой рыбы и продуктов моря, в местностях, определенных в статье I настоящей Конвенции.

Статья VII

Поскольку то касается способов обработки рыбы и продуктов моря, Союз Советских Социалистических Республик обязуется не налагать на японских подданных, которые получили права рыболовства в местностях, определенных в статье I настоящей Конвенции, никаких ограничений, от которых граждане Союза Советских Социалистических Республик, которые получили права рыболовства в этих местностях, были бы освобождены.

Статья VIII

Японские подданные, которые получили права рыболовства, могут пользоваться мореходными судами, снабженными навигационным свидетельством, выданным в Японии подлежащим Консульским Представителем Союза Советских Социалистических Республик, а также патентом о здравии, выданным японскими властями, для прямого плавания из Японии к местам их рыболовства, от одного из мест их рыболовства к другому, а также от мест их рыболовства в Японию; эти суда могут также следовать от мест рыболовства прямо в третью страну при условии, что они подчиняются формальностям, требуемым для вывоза в эту страну, находящихся на борту рыбы и продуктов моря, пойманной или собранных в Дальне Восточных водах Союза Советских Социалистических Республик.

Вышеупомянутым судам должно быть предоставлено перевозить, без уплаты налогов и сборов, лиц и предметы необходимые для рыболовного промысла, а также уловы и добычи.

Японские подданные, которые получили права рыболовства, могут без уплаты налогов и сборов перевозить по суше вдоль берега или по морю на борту своих рыболовных лодок, вышеупомянутых лиц, а равно вышеупомянутые предметы, уловы и добычи, между их собственными рыболовными участками или судами, снабженными лицензией, упомянутой в последнем абзаце статьи II настоящей Конвенции.

Постановления настоящей статьи равным образом будут применяться к случаю, кагда соответствующие обладатели отдельных рыболовных участков или лицензий совместно пользуются судном или лодкой.

Постановления настоящей статьи будут применяться к перевозке оставшихся имуществ рыболовных участков, срок аренды которых окончился, на другие рыболовные участки или в Японию.

Во всех других отношениях, вышеупомянутые суда и лодки обязаны подчиняться законам Союза Советских Социалистических Республик относительно каботажа, которые изданы или могут быть изданы впоследствии.

Статья IX

Японские подданные, которые получили права рыболовства, могут свободно вывозить в Японию рыбу и продукты моря, пойманную или собранные Японскими подданными, без какой-либо экспортной лицензии; они могут также вывозить такую рыбу и продукты моря в третье государство, подчиняясь формальностям, требуемым при таком вывозе.

При вывозе рыбы и продуктов моря, приобретенных у государственных или иных предприятий, а также у граждан Союза Советских Социалистических Республик, эти Японские подданные будут подчиняться формальностям, требуемым при таком вывозе.

Эти Японские подданные могут свободно ввозить все необходимое, исключительно предназначенное для их рыболовного промысла, а также для них самих или для их рабочих и служащих, без какой либо импортной лицензии,

При ввозе вышеупомянутых товаров не должно будет взиматься ввозных пошлин или сборов; эти товары, а равно их количества, будут установлены списком. который должен будет ежегодно заблаговременно составляться подлежащими местными властями и утверждаться центральными властями Союза Советских Социалистических Республик.

Статья X

В отношении в'езда, пребывания, передвижения и выезда Японских подданных, которые получили права рыболовства, а равно их рабочих и служащих, которые не являются гражданами Союза Советских Социалистических Республик, должны быть применяемы в местностях определенных в статье 1 настоящей Конвенции, упрощенные правила, которые изданы или могут быть изданы впоследствии властями Союза Советских Социалистических Республик; во всех других отношениях, Японские подданные будут подчиняться законам и правилам, которые изданы или могут быть изданы впоследствии, о в'езде в Союз Советских Социалистических Республик, пребывании в нем и выезде из него, иностранцев.

Граждане Союза Советских Социалистических Республик и Японские подданные, которые получили права рыболовства в упомянутых выше местностях, должны быть поставлены в равноправное положение в отношении законов и административных распоряжений, которые изданы или могут быть изданы впоследствии, касательно рыбоводства и охраны рыбы и продуктов моря, вытекающего отсюда контроля промыслов и всего иного относящегося к рыболовству.

Информация о вновь изданных законах и постановлениях, применяемых к рыболовному промыслу в Дальне-Восточных водах Союза Советских Социалистических Республик, должна будет даваться Японскому Правительству не позднее чем за 3 месяца до вступления таковых в силу; информация об административных распоряжениях такого же рода, вновь изданных местными властями Союза Советских Социалистических Республик, должна будет даваться Японскому Консульскому Представителю в Хабаровске не позднее чем за 2 месяца до вступления таковых в силу.

Статья XI

Японские подданные могут свободно заниматься обработкой рыбы и продуктов моря на земельных участках, сданных им в аренду вне границ местностей, определенных в статье I настоящей Конвенции, подчиняясь по всем законам, постановлениям и административным распоряжениям, которые изданы или могут быть изданы впослед-